

山梨県中巨摩郡甲西町

大師東丹保遺跡Ⅳ区

一般国道52号(甲西道路)改築工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
中部横断自動車道建設工事

1997・3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局

山梨県中巨摩郡甲西町

大師東丹保遺跡Ⅳ区

一般国道52号(甲西道路)改築工事
中部横断自動車道建設工事 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997・3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局



1. 大師東丹保古墳を西上空から望む



2. SR03出土土器



3. SR04出土土器



4. SZ01出土壺形埴輪

序

本書は、1993(平成5)年度と1994(平成6)年度に実施した、中巨摩郡甲西町に所在する大師東丹保遺跡の発掘調査報告書であります。この調査は、建設省甲府工事事務所が行う一般国道52号(甲西道路)改築工事と日本道路公団が行う中部横断自動車道建設工事に伴うもので、富士川右岸地域で行った大規模な発掘調査の一つであります。この事業にかかわり現在までに10箇所の調査が行われましたが、本遺跡はそのうちの最も下流域に位置する低位の遺跡であります。

本遺跡は長さ400mに及ぶことからⅠ～Ⅳ区の4区画に分け、調査を進めました。それぞれの地区に個性はあるものの鎌倉時代の祭祀場を伴う居住域(Ⅱ区)とその周囲に展開する水田域(Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区)を加えた中世を中心とした遺跡であることがわかりました。今回、それぞれの地区の報告書が刊行されますが、本書は大師東丹保遺跡の中では最も北端に位置する地域のⅣ区に関する報告書であります。

Ⅳ区ではⅠ～Ⅲ区同様に水田跡や水路・それに杭で補強された護岸施設などが調査され、かわらけ、鍋などの土器片、中国製磁器(青磁・白磁)をはじめとして、漆塗りの碗・下駄・草履などの木製の日常生活品、人形・畜串といった祭祀具などが数多く出土し、生々しい中世世界が攪り起こされました。この地域はかつて洪水常習地として知られていましたが、歴史的にも水とのかかわりの深い土地であったことがわかります。

この鎌倉時代の面の下にも、古墳時代と弥生時代の生活面が確認されました。古墳時代では古墳が発見され、年代的にも、また低湿地に築かれているという立地からも、今後新たな問題を提起するものと思われれます。弥生時代後期では、明確な遺構は発見することはできませんでしたが、Ⅰ～Ⅲ区では地震に伴う噴砂が調査され、貴重な資料が確認されております。

甲府盆地における低湿地遺跡の一例として、また、本県における鎌倉時代を中心とした集落や生産地遺跡の事例として、隣接するⅠ～Ⅲ区の成果とともに御活用いただければ幸いです。

末筆ながら調査にあたって御指導・御協力を賜った関係機関各位、並びに調査・整理に従事された方々に厚く御礼申し上げます。

1997年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

例 言

1. 本書は、1994(平成6年度)に実施した山梨県中巨摩郡甲西町大師字東丹保から同町清水字川原田にかけて所在する大師東丹保遺跡の発掘調査報告書である。遺跡はⅠ区～Ⅳ区に分けられるが、本書はⅣ区を対象とした報告書である。
2. 調査は、一般国道52号(甲西道路)改築工事・中部横断自動車道建設に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会が建設省および日本道路公団より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施したものである。
3. 発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターが行い、保坂和博、松七一志が担当した。
4. 本書の執筆・編集は保坂が担当し、第Ⅴ章3については大木丈夫が執筆した。また第Ⅳ章1・2ではパリーノ・サーヴェイ株式会社、第Ⅳ章3では株式会社シン技術コンサルによる分析結果を掲載した。さらに、第Ⅳ章4では森勇一氏(愛知県立明和高等学校)により、第Ⅳ章5では西本豊弘氏(国立歴史民俗博物館)により玉稿を賜った。
5. 発掘調査および整理作業において以下の調査・業務を各機関・各位に委託した。
珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析・動植物遺体同定 パリーノ・サーヴェイ株式会社
地質探査・航空写真測量 株式会社シン技術コンサル
木製品保存処理 (財)山梨文化財研究所
6. 本報告書にかかる出土品及び記録図面、写真等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
7. 発掘調査から報告書作成にいたる過程で、下記の方々に、ご指導、ご教示を賜った。記して謝意を表す次第である。(敬称略)
広瀬和宏(甲西町教育委員会) 西本豊弘氏(国立歴史民俗博物館) 森勇一氏(愛知県立明和高等学校)
(財)山梨文化財研究所 パリーノ・サーヴェイ株式会社 株式会社シン技術コンサル

凡 例

1. 掲載した図面の縮尺は、原則として次のとおりである。
<遺構>基本土層図:1/100 遺構全体図:1/400 遺構分割図:1/80 土坑:1/40 古墳:1/200
土器集中区:1/20 埴輪出土状況図:1/20 木器集中区:1/50 杭列断面図:1/40 1/60
1/80 水田(畦畔)・水路:1/20・1/80 溝状遺構・暗渠断面図:1/20 遺物分布図:1/800
<遺物>土器実測図:1/3 土器拓影図:1/2 埴輪実測図:1/3、1/6 埴輪拓影図:1/2 木製品
実測図:1/3(矢板・杭:1/9)、石製品実測図:1/6(五輪塔・石臼)、1/3(磨石・砥石)、
2/3(剥片・石核などの小型類) 銭貨:2/3 金属製品:1/2
2. 遺物挿入中の表記は次のとおりである。
a. 拓影図で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。
b. 遺物図版中以下のようにスクリーントーンを使用した。
須恵器:  灰釉陶器:  黒色漆:  赤色漆: 
- c. 磨石などの磨面は斜線で示している。
3. 遺構図版中の表記は次のとおりである。
a. 遺構全体図におけるX・Y数値は、平面直角座標第Ⅲ系に基づく各座標数値である。各遺構平面図中の北を示す方位は、全て座標北を示す。
b. 遺構挿入中以下のようにスクリーントーンを使用した。
地山  葎石 
4. 遺物分布図中に使用したドットマークは各図中に示したとおりである。
5. 遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

目 次

序	
例言・凡例	
I 調査の概要	1
1 経緯	1
2 概要	2
3 組織	3
II 遺跡の環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 調査の成果	6
1 基本層序	6
2 遺構	6
(1) 概観	6
(2) A期の遺構	7
(3) B期の遺構	7
(4) C期の遺構	9
(5) D期の遺構	10
3 遺物	10
(1) A期の遺物	10
(2) B期の遺物	10
(3) C期の遺物	11
(4) D期の遺物	11
IV 自然科学分析	12
1 大師東丹保遺跡IV区における古環境変遷	12
2 大師東丹保遺跡IV区から出土した木材および種実の種類	27
3 大師東丹保遺跡IV区における地質探査報告	33
4 大師東丹保遺跡から産出した昆虫化石と古環境	38
5 大師東丹保遺跡IV区における動物遺体分析	43
V まとめ	45
1 調査の成果と課題	45
2 山梨県における埴輪の出現と展開	46
3 中世の大師東丹保遺跡周辺	50
別表	53
I 周辺遺跡一覧表	
II 遺構一覧表	
III 遺物一覧表	
IV 遺物分布図	
V 杭計測表	

挿図・表目次

I-1	調査進行表	1
I-2	調査の流れ	2
II-1	遺跡周辺の地形	4
III-1	遺構面別検出遺構一覧表	6
IV-1	各地点の模式柱状図および分析層位	13
IV-2	珪藻分析結果(1)	15
IV-3	珪藻分析結果(2)	16
IV-4	珪藻分析結果(3)	17
IV-5	珪藻分析結果(4)	18
IV-6	1地点の主要珪藻化石群集の変遷	19
IV-7	4・5地点の主要珪藻化石群集の変遷	19
IV-8	花粉分析結果	20
IV-9	1地点の主要花粉化石群集の変遷	21
IV-10	4・5地点の主要花粉化石群集の変遷	21
IV-11	植物珪酸体分析結果	22
IV-12	1地点の植物珪酸体群衆の変遷	23
IV-13	2地点の植物珪酸体群衆の変遷	23
IV-14	3地点の植物珪酸体群衆の変遷	24
IV-15	4・5地点の植物珪酸体群衆の変遷	24
IV-16	樹種同定結果	29
IV-17	種実同定結果	29
IV-18	時代別出土種実一覧	31
IV-19	大師東丹保遺跡の調査区と探査位置	33
IV-20	地下レーダー探査数量表	33
IV-21	探査測線とグリッド配置図	34
IV-22	地下レーダー記録解析図	36
IV-23	パターンプロット図	37
IV-24	トレースプロット図	37
IV-25	大師東丹保遺跡から産出した昆虫化石	42
IV-26	大師東丹保遺跡Ⅳ区出土動物遺体①	43
IV-27	大師東丹保遺跡Ⅳ区出土動物遺体②	44
IV-28	X-84グリッド内出土ウマ歯計測値	45
V-1	大師東丹保遺跡周辺の環境	52

別表

I	周辺遺跡一覧表	53
II	遺構一覧表	55
III	遺物一覧表	56
IV	遺物分布図	68
V	杭計測表	76

図版目次

1	山梨県地形区分図 山梨県地質図 甲西町地質図
2	峡西地域の遺跡分布図(1/50000)
3	大師東丹保遺跡周辺の遺跡分布図(1/25000)
4	大師東丹保遺跡発掘区(1/2500)
5	基本層序(1/100)
6	第1面全体図(1/400)
7	第1面遺構図1(1/80)
8	第1面遺構図2(1/80)
9	第1面遺構図3(1/80)
10	第1面遺構図4(1/80)
11	第1面遺構図5(1/80)
12	第2・3面全体図(1/400)
13	第2・3面遺構図1(1/80)
14	第2・3面遺構図2(1/80)
15	第2・3面遺構図3(1/80)
16	第2・3面遺構図4(1/80)
17	第2・3面遺構図5(1/80)
18	土坑SK01(1/40)
19	大師東丹保古墳SZ01 墳丘測量図(1/200)
20	大師東丹保古墳SZ01 墳丘断面図(1/100)
21	大師東丹保古墳SZ01 葺石実測図1(1/40)
22	大師東丹保古墳SZ01 葺石実測図2(1/40)
23	大師東丹保古墳SZ01 葺石実測図3(1/40)
24	大師東丹保古墳SZ01 壺形埴輪地点別出土状況1(1/200)
25	大師東丹保古墳SZ01 壺形埴輪地点別出土状況2(1/200)
26	大師東丹保古墳SZ01 壺形埴輪B・E地点出土状況
27	土器集中区SR01・02(1/20)
28	土器集中区SR03(1/20)
29	土器集中区SR04(1/20・1/40)
30	木器集中区 01-03
31	第1面検出遺構断面図ポイント設置位置図1(1/500)
32	杭列SA02・03・09・10・13
33	水田(畦畔)ST01・02 水路SX01・02 溝SD01・02・03 暗渠01・02・04・06・07
34	第1面検出遺構断面図ポイント設定位置図2(1/500) 埋没旧河道SR01 堤防状遺構01

遺物実測図

- 35 土坑SK01 土器集中区SR01・02
 36 土器集中区SR03
 37 土器集中区SR04
 38 大師東丹保古墳SZ01 A・B・C・D地点出土壺形埴輪
 39 大師東丹保古墳SZ01 A地点出土壺形埴輪
 40 大師東丹保古墳SZ01 B・C・D・E地点出土壺形埴輪
 41 大師東丹保古墳SZ01 E地点出土壺形埴輪
 42 大師東丹保古墳SZ01 E・F地点出土壺形埴輪
 43 大師東丹保古墳SZ01 G・H地点出土壺形埴輪
 44 大師東丹保古墳SZ01 I・J・K地点出土壺形埴輪
 45 大師東丹保古墳SZ01 K・L地点出土壺形埴輪
 46 大師東丹保古墳SZ01 L地点出土壺形埴輪
 47 大師東丹保古墳SZ01 L・M地点出土壺形埴輪
 48 大師東丹保古墳SZ01 N地点出土壺形埴輪
 49 大師東丹保古墳SZ01 N・O地点出土壺形埴輪
 50 大師東丹保古墳SZ01 O地点出土壺形埴輪
 51 第2面遺構外出土壺形埴輪1
 52 第2面遺構外出土壺形埴輪2
 53 第2面遺構外出土壺形埴輪3
 54 第2面遺構外出土壺形埴輪4
 55 大師東丹保古墳SZ01 墳丘部出土土器1
 56 大師東丹保古墳SZ01 墳丘部出土土器2
 57 第1面遺構外出土土器1 遺物包含層出土土器1
 第2面遺構外出土土器1
 58 第2面遺構外出土土器2 遺物包含層出土土器2
 59 遺物包含層出土土器3 第2面遺構外出土土器3
 60 須恵器1 灰釉陶器 船載陶磁器1 (青磁・白磁)
 61 船載陶磁器2 (青磁・白磁) 国産陶器1 (猿投・常滑)
 62 国産陶器2 (常滑・産地不明)
 63 須恵器2 国産陶器3 (常滑)
 64 鎌倉時代 土師質土器 瓦器
 65 近世～近代 陶磁器
 66 石製品1
 67 石製品2
 68 石製品3 銭貨
 69 木製品1 (飲食器 調理具)
 70 木製品2 (容器1)

- 71 木製品3 (容器2)
 72 木製品4 (容器3 装身具 履物 織具 漆工具 運搬具 形代)
 73 木製品5 (呪術具1:斎串)
 74 木製品6 (呪術具2:斎串)
 75 木製品7 (部材1:矢板)
 76 木製品8 (部材2:杭)
 77 木製品9 (部材3:杭)
 78 木製品10 (部材4:杭)
 79 木製品11 (部材5:杭)
 80 木製品12 (用途不明具1:棒状類)
 81 木製品13 (用途不明具2:板材類)
 82 木製品14 (用途不明具3:板材・角材類)
 83 木製品15 (炭化材1)
 84 木製品16 (炭化材2)
 85 木製品17 (部材6:杭) 金属製品

遺構写真

- 86 第1面 遺跡全景
 1:遺跡全景(南から)2:同上(上が北方向)
 87 第2面 検出遺構
 3:調査区東側(北から)4:調査区西側(北から)5:1号木器集中区(上面)(東から)6:1号木器集中区(下面)(東から)7:1号木器集中区出土漆塗塼8:2号木器集中区(上面)(北から)9:2号木器集中区(下面)(北から)10:3号器集中区(北から)
 88 第1面 検出遺構
 11:SA01断面(南東から)12:SA02断面(西から)13:SA02断面(西から)14:SA02断面(西から)15:SA02断面(北から)16:SA08断面(東から)17:SA10断面(西から)18:SA10断面(西から)
 89 第1面 検出遺構
 19:SA11・12(南東から)20: SX01(北東から)21: SX01(東から)22: SX01(東から)23: SX01(西から)24: SX01(北から)25: SX01(南から)26:堤防状遺構(南から)
 90 第1面 検出遺構
 27:調査区中央部埋没旧河道(北から)28:調査区中央部埋没旧河道(西から)29:SD01・暗渠01-04-05(北から)30:SD03-04・暗渠01-02・

- 06 (北から) 31: SD01・暗渠01 32: 暗渠04断面 (西から) 33: SD02-03 (北から) 34: 馬骨検 状況W-84グリッド)
- 91 第1面・第3面 出土遺物
35: 第1面五輪塔(水輪) 36: 第1面土師質土 器37: 第1面陶器38: 第1面柱状高台39: 第1 面漆塗椀40: 第1面形代41: 第1面獣骨42: 第 3面獣骨
- 92 第2面 遺跡全景
43: 遺跡全景(南から) 44: 同上(上が北方向)
- 93 第2面 検出遺構
45: SK01 (南から) 46: SZ01 47: SZ01 (北西 から) 48: SZ01 (南から) 49: SZ01北側墳丘 断面(西から) 50: SZ01西墳丘断面(南から)
51: SZ01葺石検出状況(北から) 52: SZ01壺形 埴輪出土状況
- 94 第2面 検出遺構
53: B地点壺形埴輪出土状況(北西から) 54: E 地点壺形埴輪出土状況(南から) 55: SR01 (東 から) 56: SR03 (東から) 57: SR03 (東から)
58: SR03 (西から) 59: SR03 (東から) 60: SR04 (北から)
- 95 第2面 出土遺物(土師器)
- 96 第1面・第2面 出土遺物(壺形埴輪・S字 甕・灰彩陶器・船載陶磁器・国産陶器)
- 97 第1面 出土遺物(国産陶器・須恵器・土師質 土器)
- 98 第1面 出土遺物(陶器・陶磁器・石製品)
- 99 第1面・第2面 出土遺物(石製品・銭貨・金 属製品・木製品)
- 100 第1面 出土遺物(木製品)
- 自然科学分析
- 101 珪藻化石(1)
- 102 珪藻化石(2)
- 103 花粉分析
- 104 植物珪酸体
- 105 木材(1)
- 106 木材(2)
- 107 木材(3)
- 108 木材(4)
- 109 種実(1)
- 110 種実(2)
- 111 大師東丹保遺跡から産出した昆虫化石の顕微鏡 写真(1)
- 112 大師東丹保遺跡から産出した昆虫化石の顕微鏡 写真(2)

I 調査の概要

1 経緯

本遺跡は甲府盆地の西端の富士川右岸流域に位置するが、この一帯は建設省が行う国道52号（甲西バイパス）および日本道路公団が行う中部横断自動車道の建設計画地に該当している。このことから山梨県教育委員会と建設省甲府工事事務所では計画地内における埋蔵文化財の保護についての協議に入り、平成元年度（1989）から山梨県埋蔵文化財センターによる工事区域内の遺跡所在確認調査が始められた。その結果第1期工事区間にあたる南巨摩郡増穂町大柵～中巨摩郡白根町在家塚の8km間に10箇所の遺跡が所在することが確認できた（PL-2・3）。

本遺跡は平成3年度（1991）の試掘調査により発見されたもので、同時に確認された甲西町内の遺跡としては、中川田遺跡、宮沢中村遺跡がある。この一帯の東側は富士川の後背湿地に繋がる水田が広がっており、古くから水田下より杭が発見されたり、地割が整っていたりすることから田島条里と呼ばれていたが、集落遺跡については殆ど知られていなかったところである。但し、山に繋がる西側には湧水の多い微高地が続いており、住古遺跡や清水遺跡をはじめとして弥生時代から古墳・平安を経て中世にいたる集落遺跡が多いことから、調査前は水田跡などの遺跡が埋没していることは予測されていた。ところが試掘調査を始めてみると、地表下1m位の深さから木製品や杭列が出土し始め、やがて青磁やかかわりけ等の土器類、刀子、古銭、馬の歯、斎串などが発見され、大規模な中世集落であることが推測されるに至った。さらに厚い砂礫層を挟んで下層にも生活面は続くことが確認され、花粉分析によりプラントオパールも検出されたことから、水田跡も埋没していることも予測できた。

そこで山梨県教育委員会と建設省甲府工事事務所では改めて協議を行い、平成5年度から本格的な発掘調査を実施することとなった。遺跡の範囲は幅40m、長さ450mにおよぶことから、調査区をⅠ～Ⅳ区の4区画に区分し、2年にわたり調査を行うことで了解された。遺跡は大字大師小字東丹保地区と大字清水小字川原田の両地区を含むものの、最初に調査を行った大師地区を代表として「大師東丹保遺跡」と命名した。

本報告書はこの内のⅣ区にかかわるものであり、発掘調査は平成6年5月18日から同年12月27日まで実施し、報告書作成は8年度に行った。

【文化財保護法に基づく手続き】

平成6年（1994）4月11日遺跡発掘通知、文化庁長官に提出

平成7年（1995）1月9日埋蔵文化財発見届を小笠原警察署長に提出

工程	93			94			95			96			97			担当調査員							
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	1
調 査	I	■			■												新津 田口 小林 小泉 小林 小泉 保坂 松土						
	II	■			■																		
	III	■			■																		
	IV	■			■																		
整 理	基礎整理	■			■			■									I：新津、田口 II：小林 III：保坂 IV：松土						
	図録作成	■			■			■			■			■									

I-1 調査進行表

2 概要

大師東丹保遺跡の調査は、遺跡の範囲が400mにおよぶことから、調査区をⅠ～Ⅳの4区画に区分し、平成5年5月から12月にⅠ・Ⅱ区の調査区、平成6年5月から12月にⅢ・Ⅳ区の調査区において調査を実施した。このうちⅣ区は最北端に位置し、Ⅲ区の北側に隣接する幅約40m、長さ約100mの範囲である。この地域は滝沢川および坪川の氾濫によって形成された砂礫層が現地表下に幾重にも堆積している。

調査は、まず出水が激しいことや安全面を考慮して調査区の周囲に鋼矢板を打ち込み、内側には法面の崩落防止の為に、約45°の勾配を付けた排水路を設定し、釜場をコーナー部分の要所に設け集水効果を高め、ポンプによる排水対策を行った。

調査方法は重機により表土剥ぎを行った後、遺構確認面直上から人力による掘り下げを行い、遺構確認に努めた。その後、遺構内の精査を進めた。グリッドの設定は5mメッシュを設定し、東西方向にアルファベットの英文字を、南北方向に算用数字の記号を付けた(PL-4)。

遺物の記録・取り上げは、光波測量機・コンピュータを導入し、遺構内・外および遺物包含層の全点を3次元的に登録して取り上げた。

今回の調査で確認された遺構・遺物は、弥生時代(A期)、古墳時代(B期)、鎌倉時代(C期)、明治時代(D期)の4時期に大別することができる。以下、各時期別の概要をまとめてみたい。

弥生時代(A期)は、氾濫の影響で文化層が不安定な堆積状況を呈しており、遺構は検出されず、僅かに土器片および動・植物遺存体が出土しているだけである。

古墳時代(B期)は、氾濫による厚い砂礫層により埋没した古墳が1基発見され、墳丘部下段斜面より多量に有段口縁壺(壺形埴輪)が出土している。また墳丘裾部周辺からは土器集中地点が4箇所確認され、小型丸底壺、高環、大型甕などが出土している。

鎌倉時代(C期)は、水田経営に関わる水路、杭列などの生産域や氾濫からこれらの生産域を守るための護岸補強用杭列などが確認されており、中世における水との関わりに生きた人々の暮らしぶりが窺えられる。遺物は曲物、漆塗りの椀、盆などの生活用具をはじめとする木製品やかかわらけ、鍋などの土器片、中国製磁器(青磁・白磁)、銭貨などが出土している。



調査前



検出作業



航空写真測量



現地説明会
I-2 調査の流れ

明治時代後半（D期）は、暗渠が多数検出され、水との関いの歴史の長さが感じられる。

3 組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 IV区 保坂和博（山梨県埋蔵文化財センター文化財主事）

松土一志（山梨県埋蔵文化財センター文化財主事）

作業員・整理員 秋山欣三、浅野美代子、厚芝成美、有泉登茂子、石川和江、石川百枝、石川幸子、石川恭子、内池直子、大久保武志、大森権蔵、大塚次雄、小田切ちよみ、小野節子、小野嘉子、河西幸子、河西孝子、河西好恵、川住好恵、菊池富士子、河野なみ江、斉藤増子、斉藤幸子、桜林文雄、塩沢智津恵、志村福男、神宮寺正義、杉本政子、山本テルヨ、田中虎雄、千野正雄、戸田恒子、中込芳則、名取明子、西海元子、根岸由起子、原田ちづる、松野充延、松野なを美、松本しま子、望月栄、望月泰子、矢崎孝子

協力者・機関 井上栄一 小川和茂 広瀬和宏（甲西町教育委員会） 西本豊宏（国立歴史民俗博物館）

森 勇一（愛知県立明和高等学校） 甲西町役場（財）山梨文化財研究所 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社シン技術コンサル

II 遺跡の環境

1 地理的環境

本遺跡は富士川右岸の標高245～250mを測る沖積地に位置する（PL-2）。この地域の西方には赤石山地（南アルプス）の南麓である巨摩山地が連なっており、遺跡の正面には標高2000mを超える櫛形山がその山容を誇っている。この山々のさらに前面には、市之瀬台地などの断層により形成された標高400m前後のなだらかな丘陵が続いており、甲府盆地をはさみ曾根丘陵と対峙するかのようになり、縄文時代から古墳時代の遺跡の密集する高台の地が広がっている。この南東地域一帯には巨摩山地や丘陵地域から流れ出る坪川（市之瀬川）や滝沢川などにより形成された複合扇状地が発達しており、ここにも鍔物師屋遺跡に代表される縄文時代や平安時代の集落が発達している。さらにその扇端部は湧水豊富な微高地状の地域が展開しており、住居遺跡や清水遺跡のような弥生時代から古墳・平安を経て中世にいたる集落遺跡が数多く立地する地形が発達している。

大師東丹保遺跡はこの複合扇状地扇端部に位置するが、発掘により確認された3面の生活面のそれぞれの間層には洪水堆積物が厚くみられることから、遺跡部分にも河川による礫の搬入が盛んに行われ、複合扇状地における堆積作用の影響を強く受けていることがわかる。

本遺跡の古地理および古環境については第4章第1節「大師東丹保遺跡IV区における古環境変遷」を参照されたい。

2 歴史的環境

本遺跡の所在する峡西地域は前節で述べたとおり、巨摩山地、市之瀬台地、御勅使川や滝沢川などの扇状地、釜無川の氾濫原（沖積低地）と連続した地形変化が見られる。こうした地形的特徴をもつ本地域の遺跡は、近年遺跡詳細分布調査が行われると同時に国道改良・中部横断道関係の一連の調査を通して、かなり詳細な遺跡

の分布状況が把握されるようになった。ここでは、峡西地域における遺跡立地の時代変化を捉えてみたい。

旧石器時代は市之瀬台地上のみに立地し（台地型）、六科丘遺跡（208）、長田口遺跡（203）、長田A遺跡（204）からナイフ形石器が発見され、遺物および遺構の検出状況等から曾根丘陵などの甲府盆地内の遺跡同様、キャンプ的な遺跡であったと思われる。

縄文時代になると山地内の河川に臨んだ平坦地（山地型）や市之瀬台地（台地型）、これらの台地と扇状地との境界にある緩斜面（緩斜面型）に多く分布し、長田口遺跡（203）、上の平遺跡（322）、曾根遺跡（195）、昼喰場遺跡（296）、大明神遺跡（325）などの集落遺跡がある。こうした遺跡の立地は自然環境を多角的に利用する狩猟や植物採集をする生業形態との関わりが考えられよう。一方、近年では市之瀬台地下（台地裾部）の漆川扇状地に中期土器と土偶が国の重要文化財に指定された鉤物師屋遺跡（248）や御勅使川扇状地の扇央部から扇端部の産線上に晩期終末の浮線文系土器を出土した八田村大塚遺跡、石橋北屋敷遺跡などが確認され、扇状地（扇端型）への進出傾向も捉えられる。また、釜無川流域における晩期遺跡の存在は次期、弥生文化の波及ルートを示唆するものと思われる。

弥生時代では遺跡数が急増し、六科丘遺跡（208）、長田口遺跡（203）、大明神遺跡（325）、平野遺跡など、縄文時代以来の山地型、台地型、緩斜面型の集落遺跡や十五所遺跡（108）、村前東遺跡（95）、新居道下遺跡（51）、二本柳遺跡（71）などの御勅使川扇状地扇央部から扇端部にかけての集落遺跡が見られる。縄文時代と異なるのは、御勅使川扇状地端部の湧水により解析された標高250m前後の微高地の住吉遺跡（308）、清水遺跡（307）などの集落遺跡やこれより低位の沖積地上（滝沢川などの複合扇状地上）の本遺跡をはじめ、向河原遺跡（302）、中川田遺跡（304）、油田遺跡（303）などの生産遺跡（水田など）が新たに扇端型として展開することであろう。該期における扇状地端部から沖積低地への進出は稲作の開始と連動した遺跡の動態を顕著に示しているといえよう。

古墳時代では遺跡数の増加とともに、扇端型の比率が高くなり、ほとんどの遺跡が御勅使川扇状地上と滝沢川の複合扇状地上に分布する状況がみられる。該期の遺跡としては村前東遺跡（95）において100軒を超える住居址や東海系を主体とする土器群が検出され、本地域における拠点集落の様相が捉えられた。

本地域の古墳については、これまで白根町内に2基、甲西町内に14基、薊形町内に10基、増徳町内に9基の存在が明かにされ、薊形町六科丘古墳（209）、物見塚古墳（260）、鉤物師屋古墳、甲西町上村古墳（293）、狐塚古墳（321）、熊野神社古墳（313）、法華塚古墳（319）など台地上や白根町おつき穴古墳（2）の御勅使川扇状地扇端部での立地が知られていた。今回の大師東丹保遺跡の調査で確認された沖積地（より低位な複合扇状地の微高地）に埋没した円墳が新たに発見され、壺形埴輪の樹立と合わせ注目される。これらの内、時



Ⅱ-1 遺跡周辺の地形

期が比定される古墳として、前期古墳では大師東丹保遺跡の古墳が4世紀末葉から5世紀初頭、物見塚古墳が5世紀初頭、法華塚古墳が5世紀中頃、六科丘古墳が5世紀末、後期古墳では熊野神社古墳が6世紀後半、おつき穴古墳が6世紀後半となるほか、甲西町塚原や増穂町春米などに集中する古墳群が後期と推定されている。奈良時代については確認された遺跡が少なく、近年調査された新居道下遺跡(51)での住居址24軒の発見は、該期集落の様相を捉える上で貴重な情報が得られた。遺跡分布はいずれも御勅使川扇状地扇端部を中心とする鏡中条周辺に集中する傾向がある。

平安時代になると再び遺跡数が増加し、鉾物師屋遺跡(248)、メ木遺跡(247)などの市之瀬台地裾部の濠川扇状地上や十五所遺跡(108)、村前東遺跡(95)、新居道下遺跡(51)、二本柳遺跡(71)などの御勅使川扇状地扇央部から扇端部に立地する集落遺跡に加え、滝沢川の複合扇状地の微高地上や低地にみられる遺跡の割合が大きくなり、本遺跡や中川田遺跡では水田址が検出されている。本地域は『和名類聚抄』に所載されている「大井郷」に比定され、甲西町田島地区一带には条理遺構が埋没しているとされており、近年行われたこれらの遺跡の調査により、該期の社会様相が明らかになりつつある。

平安末期以降、本地域は加々美荘、奈胡荘、原小笠原荘、大井荘に分割支配され、加賀美遠光をはじめとする甲斐源氏の土着化の基盤となった場所である。鎌倉時代の遺跡としては沖積地に立地する本遺跡があり、建物址や水辺の祭祀跡、水田址などが確認されている。戦国期では法善寺の寺院の一つである福寿院跡が二本柳遺跡(71)から発見されている。

これまで峡西地域では、市之瀬台地上や富士川にそそぎ込むいくつかの小河川の扇状地扇頂部を除いては、ほとんど遺跡の実態が不明な地域であった。しかし、中部横断自動車道関連の一連の調査によって御勅使川や滝沢川の扇状地扇央部から沖積低地にかけての地形の形成過程や歴史的要容が徐々に解明されようとしている。

<参考文献>

- 甘利亀雄 1973 「地形と地質」『甲西町誌』
甲西町教育委員会 1981 『住吉遺跡』
櫛形町教育委員会 1983 『物見塚』
櫛形町教育委員会 1985 『六科丘遺跡』
櫛形町教育委員会 1990 『町内異性詳細分布調査報告書』
保坂康夫 1990 「第Ⅲ編 第1章 原始・古代の遺跡」『若草町誌』
山梨県教育委員会ほか 1991 『七ッ打C遺跡』
山梨県教育委員会ほか 1992 『二本柳遺跡』
山梨県教育委員会ほか 1993 『中川田遺跡』
山梨県教育委員会ほか 1993 『長田口遺跡』
山梨県教育委員会ほか 1993 『平野遺跡』
山梨県教育委員会ほか 1994 『大師東丹保遺跡概報1』
山梨県教育委員会ほか 1995 『大師東丹保遺跡概報2』
山梨県教育委員会ほか 1994 『油田遺跡概報』
山梨県教育委員会ほか 1994 『向河原遺跡概報』
山梨県教育委員会ほか 1994 『新居道下遺跡概報』
山梨県教育委員会ほか 1994 『村前東A遺跡概報1』
山梨県教育委員会ほか 1995 『村前東A遺跡概報2』
山梨県教育委員会ほか 1996 『村前東A遺跡概報3』
山梨県教育委員会ほか 1995 『十五所遺跡概報Ⅰ』
山梨県教育委員会ほか 1996 『十五所遺跡概報Ⅱ』

Ⅲ 調査の成果

1 基本層序

大師東丹保遺跡は滝沢川と釜無川の支流である御勅使川により形成された複合扇状地の扇端から氾濫原にかけて位置する。Ⅰ～Ⅳの調査区はこの扇状地のほぼ横断面に相当する南北方向（全長約400m）にトレンチを設定した状況になり、扇状地の表層で発生する網状流による堆積物、土石流（泥流）堆積物、氾濫原堆積物などが確認され、調査区間での層位は必ずしも一定しておらず、様相が微妙に異なっている。

発掘調査では、Ⅰ・Ⅳ区で3面、Ⅱ・Ⅲ区で2面にわたる生活面が確認され、それぞれに伴う遺構が発見された。Ⅳ区では基本土層を29層に分層して、調査を進め13、15、28層の各層において遺構を検出した。ここではⅣ区の各層序について概観する。

1層：暗褐色～褐色の細粒砂・シルトからなる。この一帯は水田として利用されており、この耕作土ならびに床土が地表を覆っている。

2～9層：表土を剥すと調査区ほぼ全域を覆う土石流（泥流）堆積物（2～9層）が現れ、Ⅳ区では厚さ1.3m前後堆積している。この土石流の堆積により、調査区すべて扇状地上に立地することになる。

10～12層：砂層（10層）、砂礫層（11層）、暗灰色シルト層（12層）からなる土石流（泥流）堆積物。

13層：良好な黒褐色粘質土層からなり、鎌倉時代の遺構・遺物が検出される（第1調査面）。

15層：黒褐色粘質土層からなり、古墳・鎌倉時代の遺物包含層が検出される。

17層：砂・礫を含むシルト～粘土からなり、古墳時代の遺構・遺物が検出される（第2調査面）。

18～26層：青灰色のシルトを主とする堆積物からなり、墳丘堆積物層となる。墳丘北・西端は削平されている。

27層：淘汰の悪い砂礫からなり、調査区全域に比較的厚く堆積する。調査区南東部では本層の上位に古墳が構築されている。

28層：黒色粘土～シルトからなり、腐植が集積しており、弥生時代後期の遺物を包含する（第3調査面）。

29層：最下位の砂礫層である。弥生時代以前の段階で発生した泥流堆積物であり、南側に傾斜している。

なお、層序番号とその地層観察の結果を表としてセクション図に付した（PL-5）。

2 遺構

(1) 概観

大師東丹保遺跡Ⅳ区は、平成6年に発掘調査が行われている。今回の調査で検出された遺構・遺物は、弥生時代から近代に至るまで多岐にわたるが、概ね以下の4期に区分することができる。

Ⅲ-1 遺構面別検出遺構一覧表

遺構面	時 期	検出遺構	備 考
第1面	明治時代(D期)	暗渠01～10	小礫以外に石臼・竹の使用も見られる。
		埋没日河道NR01 堤防状遺構01 溝状遺構SD01～06	各遺構とも出土遺物がなく、正確な時期は不明である。
第2面	鎌倉時代(C期)	木器集中区01～03 水田(畦畔)ST01～02 杭列SA01～15 水路01 墓坑01	氾濫による影響のため遺存状況は悪いが、馬を埋葬したと考えられる墓坑がX-84地点より1基検出された。
		土坑SK01 古墳SZ01 土器集中区SR01～04	土器集中区は古墳の周辺より検出され、墓前祭祀に伴うと考えられる。
第3面	弥生時代(A期)		I区で弥生時代の溝状遺構等が確認された文化面と同一と考えられるが、Ⅳ区では遺構の検出にはいならず、Z-86地点よりシカの頭蓋骨1点が出土したのみである。

時期区分

- A期 弥生時代
- B期 古墳時代
- C期 鎌倉時代
- D期 明治時代

主要遺構

A期は、氾濫の影響で文化層が不安定な堆積状況を呈しており、遺構は検出されず、僅かに土器片および動物・植物遺存体が出土しているだけである。

B期は、氾濫による厚い砂礫層により埋没した古墳が1基発見され、墳丘部下段斜面より多量に有段口縁壺（壺形埴輪）が出土している。また墳丘上に土坑が1基確認されている。さらに墳丘裾部周辺からは土器集中地点が4箇所確認され、小型丸底壺、高坏、大型甕などが出土している。

C期は、水田経営に関わる水路、杭列などの生産域や氾濫からこれらの生産域を守るための護岸補強用杭列などが確認されており、中世における水との関いに生きた人々の暮らしが窺えられる。遺物は曲物、漆塗りの碗、盆などの生活用具をはじめとする木製品やかかわらけ、鍋などの土器片、中国製磁器（青磁・白磁）、銅銭などが出土している。

D期は、暗渠が多数検出され、水との関いの歴史の長さが感じられる。

(2) A期の遺構（第3面）

概要

A期の遺構面（第3面）は、現地表下2.5mに平均10cm前後と不安定な堆積状況を呈しており、遺構は検出されず、僅かに土器片および動物・植物遺存体が出土しているだけである。

(3) B期の遺構（第2面）

概要

B期の遺構面（第2面）は、現地表下約2mに平均10cmと扇状地における土石流（泥流）堆積物の影響を受け、不安定な堆積状況で確認されている。遺構は土坑1基、古墳1基と墳丘裾部周辺に土器集中区4ヶ所が確認されている。

土坑SK01（PL-18）

X-79・80グリッドに位置する。規模は長軸2.04m、短軸1.66m、深さ70cmを測る。土坑内からは壺の頸部と台付甕の脚部などが出土している。土器集中区出土遺物よりも古相を示している。

古墳SZ01（PL-19）

<形状・規模>

墳丘の東側が調査区へ展開しているため、明確な規模・形状は不明であるが、調査区内の遺存状況および地中探査の結果より円墳になる可能性が強いと思われる。規模は残存部での最大径が約33m、高さ1mを測る。墳頂部および墳丘部北側と西側は氾濫により激しく削平され、北側は葦石が崩れ落ち裾部周辺に散乱し、西側は裾部のみ遺存している。

<内部主体>

主体部は確認することはできなかったが、調査区域外に存在する可能性も残している。

<墳丘構造>

遺存部における墳丘の構築は版築によるものではなく、地山を利用していることが墳丘の断面観察より捉え

られる（PL-20）。すなわち、低湿地の中の比較的高い場所（微高地）を利用して構築されたと考えられる。また、墳丘部の削平が著しいため明確ではないが、墳端部から60cm前後の高さにテラスが存在した可能性が遺存する葺石の状況から示唆される（PL-21～23）。

<外部施設>

外部施設として葺石、埴輪が確認されている。

葺石は汎濫の影響を免れた墳丘最下端部のみに残存している。10～20cm大の河原石が多用されているが、葺方には規則性はみられない。

埴輪はほぼ同一規格となる壺形埴輪が遺存した葺石の間から多量に出土している。埴輪出土A～O地点における出土状況からは上方から転落して、墳丘裾部周縁に散存した状況が捉えられる（PL-24）。また、埴輪出土E地点からの出土が確認されており、葺石の検出状況と合わせ、このレベルにテラスが存在し、埴輪が配置されていた可能性も示唆される。

周溝については検出されていない。

<築造年代>

①壺形埴輪については、甲斐鏡子塚古墳例では、4世紀後葉頃に推定されており、本墳出土のものは規模・形態などにより、時期が下ると考えられる。

②墳丘部出土遺物（PL-55・56）として、S字口縁台付甕が出土しており、これは4世紀後半～5世紀前半の年代が与えられるものである。

③土器集中区（SR03・04）出土遺物は、5世紀前半の年代が考えられる。

以上の点から、本古墳は4世紀末から5世紀初頭ごろの年代が想定される。

土器集中区（SR01～04）（PL-12）

墳丘裾部周辺より4ヶ所の土器集中区が確認されている。

1号土器集中区SR01（PL-27）

墳丘の南側裾部より南へ6mの地点（X-76グリッド）に存在し、掘り込みなどは確認されず、フラットな面に壺が1個体、押し潰れたような状況で検出されている。

2号土器集中区SR02（PL-27）

墳丘の南側裾部より南西へ12mの地点（Z-76グリッド）に存在し、掘り込みなどは確認されず、フラットな面に壺の胴部下半～底部にかけての破片がまとめて検出されている。

3号土器集中区SR03（PL-28）

墳丘の南側裾部より南西へ10mの地点（Z-77グリッド）に存在し、掘り込みなどは確認されず、フラットな面に小型丸底壺1、小型壺1、高坏3、大型甕1など合わせて6個体と刀子と思われる鉄製品1点が検出されている。出土状況は個体ごとにまとまりがあり、その場に遺棄されたものと考えられる。本遺構の年代の拠り所とした高坏は大型なもので、坏部が大きく外方に開き、下半及び中央部に稜を有し、脚部は柱状及び朝顔状に反するものであり、内外面にナデ後ミガキの調整がみられる。

4号土器集中区SR04（PL-29）

墳丘の北西裾部付近（Y-83・84グリッド）に存在し、小型壺1、高坏7など合わせて8個体程が検出されている。埋没旧河道の影響ため遺物の遺存状況は悪く、各個体が散見される状況である。高坏はSR03出土とほぼ同時期と考えられる。

(3) C期の遺構 (第1面)

概要

C期の遺構面は現地表下約1.5mに存在し、氾濫による砂礫層に厚く覆われているが、平均40cmと比較的安定した堆積を呈している。遺構は木器集中区3基、畦畔2条、水路1条、杭列15列、溝状遺構6条などが確認され、調査区西側半分の微高地上を中心に展開している。また墳頂部を氾濫により削平された古墳墳丘部(半円形に巡る葺石)が50cm程の高さで遺存している。

木器集中区01～03 (PL-30)

調査区北側を中心に漆塗椀をはじめとする多量の木器類が集中して出土する地点が3ヶ所検出されている。

1号木器集中区

Z-91グリッドを中心に長軸5.5m、短軸2.9mの楕円形の範囲に集中して、木器類が出土している。この部分は窪地状になっており、埋没旧河道に伴う氾濫により調査区北側から流れ込み、この場所に堆積したものである。木器類は幅約10cm、長さ約50cm、厚さ3mm程のヒノキ属の板材を中心に2面にわたり重なる状態で出土している。板材などはⅡ区で検出された網代になる可能性もある。下面からは漆塗椀や機織部材の一部と思われる木器類などが出土している。

2号木器集中区

1号木器集中区の3m南側のZ-91グリッドに位置し、長軸5.5m、短軸2.9mの楕円形の範囲に集中して、木器類を検出した。1号木器集中区同様に窪地になっているところへ流れ込んだ状況である。木器類はやはりヒノキ属の板材を中心に重なるように出土しており網代になる可能性がある。また、下面からは割物の漆塗椀などが出土している。

3号木器集中区

W-90グリッドを中心に長軸2.2m、短軸2.0mの円形の範囲に集中して、曲物や矢板などが出土している。遺構の性格は不明である。

水田跡(畦畔)ST01・02(PL-6)

調査区南部に埋没旧河道の影響で遺存の悪い畦畔が東西方向に向かって2条検出されている。Ⅰ・Ⅱ区の検出状況より、一片が15m程の区画の大きな水田とみられるが、全体に水田面に凹凸があり、水口および足跡等は確認できなかった。

杭列SA01～15(PL-32)

杭列には水路に伴うSA15・16と氾濫から生産域・居住域を守るための護岸補強用に構築されたSA02・03などがある(特にSA03は調査区中央部を北から南に流下する旧河道から生産域を守る状況が捉えられる)。後者には一定間隔に杭を打ち込み、SA02のしがらみ(松の小枝)やSA10の幅約10cm、厚み3mm程の板材を2段以上に積み上げたものがみられる。杭材にはヒノキ属が多く使用されている。また、ほぞ孔などの加工が施されている例も多く確認され、杭材として二次利用されている。水を治め、水を利するために大きな労力が費やされていたことが窺われる。こうした水との宿命的な関いの過程で河川処理の技術は発展し、後の武田信玄による釜無川、御物使川の氾濫に対する治水策(護岸水制)へと受け継がれていったのであろう。

なお、各杭列の長さや幅の計測では概ね90cmを境に大小二つに区分されるというⅠ区の計測値と同様な傾向が認められた。(別表V杭計測表)

水路S X01 (PL-33)

調査区の北側に位置し、東西方向に走り、長さ19m、幅約1m、深さ20cm余りを測る。両壁には杭が打たれている。

溝状遺構SD01-06 (PL-33)

調査区西側を中心に6条の溝状遺構が確認されている。SD01-03は南北方向、SD04-06は東西方向に走っている。用途については不明であるが、いずれも幅40cm前後で、深さ20cm程度の規模であり、暗渠の溝部になる可能性が考えられる。

(4) D期の遺構 (第1面)

概要

D期の遺構としては明治時代後半に構築された暗渠が10条検出されている。また時期は不明であるが、堤防状の遺構と埋没旧河道についてここで取り上げておきたい。

暗渠01-10 (PL-33)

第1面の鎌倉時代と同一面から確認されている。南北方向に走る01-02は基幹となり、そこから枝幹として東西方向へ走る03-09が検出されている。構造はまず50cm幅の溝が掘られ、次いで側石を両側に立て水路とし、その上に蓋石をのせ、さらに周辺部を拳大の礫で覆っているものである。蓋石には石臼(580)、溝部には竹などが用いられているものもある。後世の氾濫等により遺存状況は悪いが、使用時はかなり細かく巡らされていたと思われる。

堤防状遺構 (PL-34)

調査区北東部に位置し、南北方向に走る、長さ約50m、幅2m前後、高さ約1mの堤防状の高まりが検出されている。南端部は古墳の墳丘部へと連続している。上面が硬化し、側縁部にはウメなどの立木が並んでいることから、鎌倉時代から明治時代までのある時期に道として利用されてきたものと思われる。

埋没旧河道 (PL-34)

第1面の調査区中央部を北から南に流下する旧河道が検出されている。この旧河道の複雑な水成堆積の影響により第1面における土器・陶磁器類をはじめ、木製品、動・植物遺存体等の遺物の分布が偏在するあり方を示している(別表Ⅳ遺物分布図1-8)。

3 遺物

(1) A期の遺物

弥生時代の第3面は現地地表下約2.5mに存在し、氾濫による影響のため僅か10cm程の厚さの不安定な堆積状況を呈している。調査は第2面(古墳時代)の調査が終了した調査区北部で行われた(PL-12)遺構は検出されず、砂礫層に混入している土器片および動・植物遺存体が僅かに出土しているだけである。

土器は弥生時代後期の小破片が数点出土しているが摩耗が激しく器形等は不明である。動・植物遺存体についてはオニグルミ3点、トチノキ3点、シカの頭蓋骨1点などが検出されている。

(2) B期の遺物

①壺形埴輪 (PL-38-54)

古墳からは形態および大きさのほとんど変わらない壺形埴輪が墳丘裾部に配列されたような状況で出土しており、円筒埴輪と同様の機能を持つものと考えられる。また底部には焼成前に開けられた円孔がみられる。こ

これは葬送用の仮器化を意図したものであり、壺形埴輪の特徴といえよう。形態はやや張りのある胴部に有段口縁を持ち、外面は刷毛目調整がほぼ全面にみられる。口縁部から肩部にかけて赤彩が施されたものもある。口縁の凸部は製作方法によって2種類に分けられる。壺形埴輪については今後、詳細な分析を行い、継続的な位置づけ等を行ってきたい。

②土師器（PL-35-37・55-58）

土師器は第1・2面の遺構内外、および遺物包含層から出土している。これらの資料は時間幅が見られ、洪水等により流され、原位置を保っている可能性は少ないが、第2面の土器集中区からは良好な資料が得られている。

集中区出土土器は5世紀初頭の時期が考えられ、特にSR03は刀子の出土と合わせ古墳に伴う墓前祭祀に伴うものと思われる。

③金属製品（PL-85）

刀子（857）がSR03より出土している。

④動・植物遺存体

モモ122点が検出され、中型（C類）・小型（E類）が多く認められる（別表Ⅳ遺物分布図8）。

（3）C期の遺物

1）土器類（PL-60-64）

土器類は地元生産品のかわりけや土鍋等のほか、他地域からの搬入品として平安時代後期の猿投・美濃の灰釉陶器（碗・皿類）をはじめ、鎌倉時代初頭の瀬美・常滑（大壺・広口壺）、鎌倉時代中期以降（13世紀中葉から後半）の常滑（大壺・広口壺・片口鉢）などの東海地方の諸窯で生産された陶器類、龍泉窯系の青磁・白磁（碗・皿類）の舶載陶磁器類、等の存在が確認されている。

2）木製品（PL-69-85）

木製品は下駄、曲物、漆塗りの碗等の生活用具や齋串などの祭祀用具及び建築用部材が出土し、荷札と思われる木簡も1点出土している。中でも多量の齋串の存在が特徴的であり、本遺跡の性格を示唆するものと思われる。また、炭化材の出土も多く、注目される。

4）石製品（PL-66-68）

石製品は20点（混入品も含む）出土し、その内訳は使用痕のある剥片1点、加工痕のある剥片3点、石核7点、磨石2点、砥石2点、石筆1点、五輪塔4点（火輪・水輪各1点、地輪2点）が出土している。水輪の四周には、「バ・パー・バン・バク」が彫出され、上面にはこれらの種字に添う形で「東南西北」の墨書がみられる

5）金属製品（PL-85）

金属製品は刀子2点、紡錘車1点、釘2点、火打ち金具1点、用途不明具6点などが出土している。

6）銭貨（PL-68）

銭貨は13点出土している。初鋳年では621年（開元通寶）から1636年（寛永通寶）におよぶ資料が出土している。

7）動・植物遺体

モモ389点、スモモ6点、トチノキ3点、ウリ3点等が出土しており、詳細は第Ⅳ章2を参照されたい。

モモは古墳時代同様に中型（C類）・小型（E類）が多く認められる（別表Ⅳ遺物分布図8）。

（4）D期の遺物

D期の遺物には肥前系陶器類、石臼1点などが出土している。肥前系陶器類は多量に出土しているが小破片のため図示し得るものはなかった。

IV 自然科学分析

1 大師東丹保遺跡IV区における古環境変遷

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

東丹保遺跡（山梨県中巨摩郡甲西町所在）は、甲府盆地の西南部、滝沢川と釜無川の支流である御勅使川により形成された複合扇状地の扇端から氾濫原低地にかけて位置する。本地域には油田遺跡・向河原遺跡など多数の遺跡が分布しており、今回のIV区の発掘調査でも、弥生時代後期の獣骨、古墳時代の円墳、鎌倉時代の自然流路・土器など、本地域の低地における人間活動を捉える上で多くの成果が得られている。このように本地域は、河川の氾濫の影響など、どちらかと言えば不安定な場所であったと考えられることから、本地域における古環境の変遷を捉えることは、低地における人間の活動状況を捉える上で重要な課題とされている。そこで、今回の調査では自然科学分析を応用した古環境復元調査を実施する。調査内容は、堆積環境および堆積物の植生や土地利用状況に関する情報を得ることを目的として、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を実施する。

1. 層序と試料

調査地点は、IV区東壁断面に5ヵ所の地点を設定した。調査地点の層序を図IV-1に示す。本断面の堆積層は発掘調査時に29層に分層されている。堆積層の層序に関する概要を下位層準より順に述べる。

最下部の29層は砂礫からなり、南側に傾斜している。28層は黒土粘土～シルトからなり、腐植が集積しており、弥生時代後期の遺物を包含する（第3調査面）。27層は淘汰の悪い砂礫からなり、調査区全域に比較的厚く堆積する。調査区南東部では本層の上位に古墳が構築されている。その墳丘堆積物の18～26層は青灰色のシルトを主とする堆積物からなる。墳丘北・西端は削平されている。一方、墳丘の北側と南側と27層の上位にはシルトを主体とする堆積物が堆積する。このシルト下部の17層は、砂・礫を含むシルト～粘土からなり、古墳時代の遺構・遺物が検出される（第2調査面）。また、15層は古墳・鎌倉時代の遺物包含層、13層は鎌倉時代の遺構・遺物が検出される（第1調査面）。この上位の堆積層は、砂や砂礫を主とした粗粒堆積物からなる。

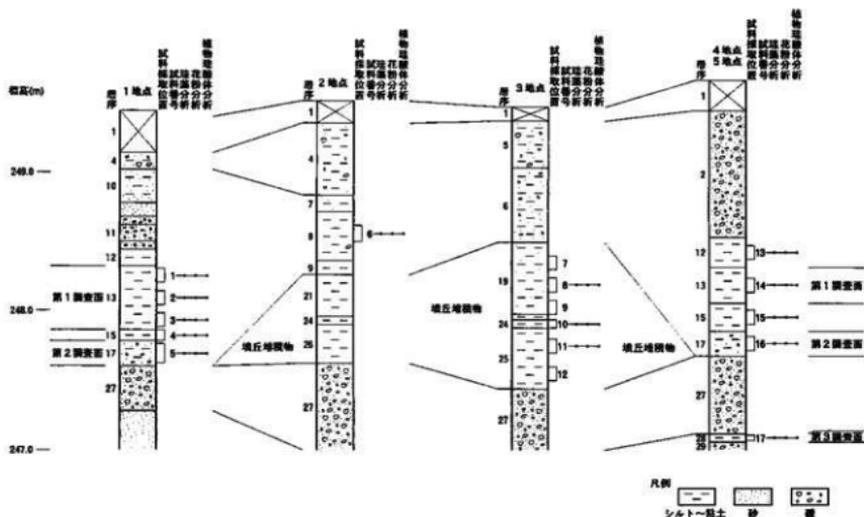
試料は、遺物・遺構が検出された層準を中心に各地点より層位試料として17点の試料（試料番号1～17）が採取されている。分析層準は、目的を考慮しながら図IV-1に示す層準を選択した。

2. 分析方法

(1) 珪藻分析

各試料を湿重で約6g秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法、傾斜法の順に物理化学処理を施して珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度に希釈した後、適量計り取りカバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュワラックスで封入して、プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K.Krammer and Lange-Bertalot (1986・1988・1991a・1991b)、K.Krammer (1992) などを用いる。

同定結果は、産出種をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、珪藻の生態性の解説を表IV-2～IV-5に示す。また、産出した化石が現地性の化石か他の場所から運搬・堆積した異地性の化石かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮した。堆積環境の解析にあたり、塩分濃度に対する適応性から産出種を海水生種、海水～汽水生種、淡水生種に分類し、淡水生種については更に塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応性に基づいて生態区分する。そして、主要な分類群について主要珪藻化石群集変遷



IV-1 各地点の模式柱状図および分析層位

図を作成する。堆積環境の解析にあたっては、安藤(1990)の環境指標種、伊藤・堀内(1991)を参考とする。

(2) 花粉分析

花粉・胞子化石は、湿重約10gの試料について水酸化カルウム処理、重液分離(臭化亜鉛、比重2.3)、フッ化水素酸処理、アセトリス処理(無水酢酸:濃硫酸=9:1)の順に物理・化学的な処理を施して、試料から分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら、出現する種類について同定・計数を行う。また、検出されるイネ科花粉について、ノマルスキー微分干渉装置を用いて花粉外膜の表面微細構造、発芽孔の肥厚状況、粒径などを考慮してイネ属同定を行う。

分析結果は同定・計数結果の一覧表および主要花粉化石群集の変遷図で示す。図中の出現率は、本本花粉が本本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総花粉・胞子数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出する。なお、図表中で複数の種類をハイフン(-)で結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

(3) 植物珪酸体分析

植物珪酸体は、湿重約7g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W、250KHz、1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、試料から分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、同定・計数結果の一覧表および植物珪酸体群集の層位的分布図として表示する。図中の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数として百分率で算出する。なお、計測数が短細胞珪酸体では200個未満、機動細胞珪酸体では100個未満の試料については組成を歪曲して評価する恐れがあるため、植物珪酸体組成を求めず出現した種類を+で示すにとどめる。

3. 微化石の産状

(1) 珪藻化石

結果を表Ⅳ-2~Ⅳ-5、図Ⅳ-6・Ⅳ-7に示す。以下に各地点毎に結果を示す。

<1地点>

珪藻化石は、全層準から多産する。産出分類群数は23属113種であり、ほとんどが淡水生種からなる。完形殻の出現率は、試料番号3が深が約40%以下と低いが、それ以外が約70%と高い。淡水生種の生態性(塩分、水素イオン濃度、流水のそれぞれに対する適応度合い)の特徴は、貧塩-不定性種、真・好アルカリ性種、流水不定性種が優占する。以下に化石群集の特徴を述べる。

試料番号5・4は、流水不定性の*Synedra ulna*, *Amphora valis* var. *affinis*、好流水性で中~下流性河川指標種群の*Meridion circulae* var. *constrictum*、好流水性で中~下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*、好止水性の*Aulacoseira crenulata*、*Gomphonema truncatum*などが10%前後産出する。

試料番号3~1は、陸上の好気的環境にも水域にも産出する陸生珪藻B群の*Navicula confervacea*が30%と多産し、耐乾性の高いA群の*Hantzschia amphioxys*、好流水性で中~下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*、*Gomphonema parvulum*、流水不定性の*Nitzschia amphibia*、*Rhopalodia gibberula*などが随伴して産出する。また、試料番号2・1からは、本来汽水域に生育する*Nitzschia levidensis* (変種も含む)が産出する。

<2地点>

珪藻化石はほとんど検出されない。わずかに産出する珪藻化石の種類は、耐乾性の強い陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia borealis*などである。

<3地点>

珪藻化石はほとんど検出されない。わずかに産出する珪藻化石の種類は、耐乾性の強い陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*、未区分陸生珪藻の*Pinnularia schroederii*など、陸生珪藻が多い。

<4・5地点>

珪藻化石は全層準で多産する。産出分類群数は26属125種類であり、ほとんどが淡水生種からなる。完形殻の出現率は、試料番号15が約30%と低いが、それ以外が70%以上と高い。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩-不定性種、真・好アルカリ性種、流水不定性種が優占する。なお、試料番号14・13では流水性種も比較的高率に産出する。以下に珪藻化石群集の特徴を述べる。

試料番号17は、流水不定性で好塩性の*Rhopalodia gibberula*、流水不定性で沼沢湿地指標種群の*Navicula elginensis*、流水不定性の*Gomphonema angustatum*、それに陸生珪藻A群の*Amphora normanii*などが10~15%産出する。

試料番号16・15は、流水不定性の*Amphora ovalis* var. *affinis*、*Gomphonema angustatum*、*Synedra ulna*、*Navicula confervacea*などが比較的多く産出する。

試料番号14・13は、好流水性の*Navicula elginensis* var. *neglecta*が増加し約10%産出する。また、流水不定性の*Amphora ovalis* var. *affinis*、*Cymbella silesiaca*、*Gomphonema parvulum*、*Navicula kotschyi*、*N. trivialis*、*N. confervacea*などが10%前後産出する。

(2) 花粉化石

結果を表Ⅳ-8、図Ⅳ-9・Ⅳ-10に示す。以下に各地点毎に結果を示す。

<1地点>

花粉化石は、全体的に保存状態が悪い。特に試料番号5~3では、検出個体数も少ない。試料番号2・1ではツガ属・マツ属が多産し、モミ属・スギ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属などを伴う。草本花粉では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科・アカザ科・ナデシコ科・ヨモギ属などを伴う。

<2地点>

IV-2 珪藻分析結果(1)

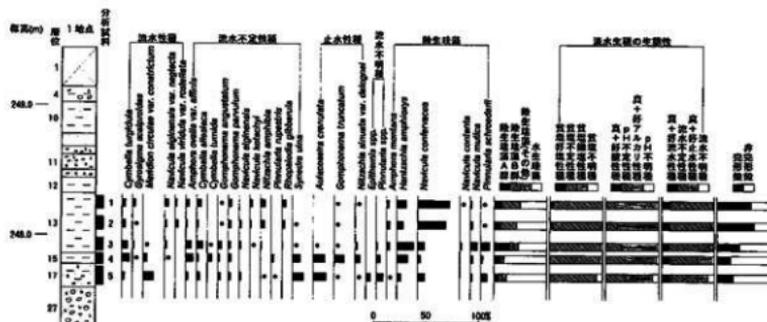
種 類	生 態 性			環境 採集種	1地点		2地点		3地点		4・5地点							
	塩分	pH	深 水		1	2	3	4	5	6	8	10	11	13	14	15	16	17
Nitzschia sp.	Euh-Meh				1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis pseudovalis Hustedt	Meh				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Nitzschia calida Grunow	Meh			E1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia levidensis (W.Smith)Grunow	Meh				-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia levidensis var. salinarum Grunow	Meh				2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia levidensis var. victorise (Grun.)Cholnoky	Meh				2	1	-	-	-	-	-	-	2	2	1	-	-	-
Nitzschia lorenziana Grunow	Meh				-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	1	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	U	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	2	2	3	-	-	-	-	-	5	4	-	-	1	9
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	6	7	6	-	1	-	-	-	3	2	-	-	-	2
Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	23
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	7	3	11	7	2	-	-	-	10	13	14	11	7	-
Anomoeoneis sphaerophora (Kuetz.)Pfitzer	Ogh-hil	al-bi	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
Aulacoseira crenulata (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	U	-	-	1	12	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Bacillaria paradoxa Gmelin	Ogh-hil	al-bi	l-ph	U	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	2	1	1	1
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1	-	-
Caloneis schumanniana var. biconstricta Grunow	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	2	-	-	-	-	-	2	1	4	9	3	-
Caloneis silicula var. intermedia Mayer	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
Caloneis sp.-1	Ogh-unk	unk	unk	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
Craticula ambigua (Ehr.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
Craticula cuspidata (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Craticula halophila (Gram. ex V.Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cymbella minuta Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella naviculiformis Auerwald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	2	1	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	10	4	12	2	3	-	-	-	30	10	2	-	-	1
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	1
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	5	-	-	-	-	-	2	-	5	1	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	8	7	11	8	3	1	-	-	-	6	16	5	1	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzov	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	2	2	3	-
Diploneis parva Cleve	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	1	4	-
Epithemis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O, T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria capucina var. gracilis (Oestr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Fragilaria capucina var. mesolepta (Rabh.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

IV-3 硅藻分析結果(2)

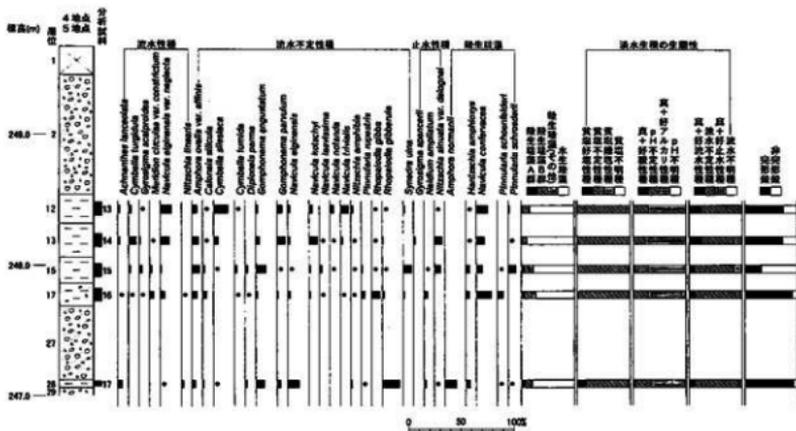
種 類	生 態 性		環 境	採 集 地 點																
	塩分	pH		1地点	2地点	3地点	4地点	5地点	6地点	7地点	8地点	9地点	10地点	11地点	12地点	13地点	14地点	15地点	16地点	17地点
Fragilaria capucina var. rumpens (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
Fragilaria leptostauron (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria parasitica (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Fragilaria virescens Ralfs	Ogh-ind	ac-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Prustulia vulgaris (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	2	3	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	2	8	2	3	-	-	-	-	-	5	8	20	4	17	-
Gomphonema angustatum var. linearis Hustedt	Ogh-ind	ac-il	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Gomphonema augur Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Gomphonema augur var. turris (Ehr.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema clavatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	7	6	4	3	2	-	-	-	1	10	16	2	3	7	-	-
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing) Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema pseudosphaerophorum H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Gomphonema pumilum (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	1	1	10	1	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
Gyrosigma scalpoides (Rabh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	7	1	3	1	-	-	-	-	-	2	3	6	2	-	-	-
Gyrosigma spencerii (W. Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	20	13	32	11	4	2	1	18	12	2	2	8	9	9	-	-
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	1	2	-	1	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	-	1	4	10	-	-	-	-	1	4	9	-	-	-	-
Navicula angusta Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Navicula bacillum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula capitatoradiata Germain	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
Navicula cohnii (Hilse) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula confervaceae (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	68	56	13	3	7	1	-	-	-	24	16	12	31	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	4	2	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1
Navicula decussata Gestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	-	5	4	-	2	-	-	-	-	4	5	1	8	22	-	-
Navicula elginensis var. cuneata H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	9	5	5	1	-	-	-	-	-	23	19	3	10	1	-	-
Navicula exilis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Navicula gregaria Donkin	Ogh-hil	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula hasta Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula hasta var. gracilis Skvortzow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula ignota var. palustris (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula kotachyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	5	3	1	-	-	-	-	-	-	8	18	3	4	-	-	-
Navicula laevissima Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	1	5	1	-	-	-
Navicula lapidosa Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula menisculus Schumann	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

IV-4 硅藻分析結果(3)

種 類	生 態 性			環 境 採集種	1地点		2地点		3地点			4・5地点						
	塩分	pH	深 水		1	2	3	4	5	6	8	10	11	13	14	15	16	17
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	4	5	14	3	2	-	-	-	-	-	-	1	3	1
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-
Navicula notanda Pantocsek	Ogh-ind	al-il	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	8	1	1	-	-	-
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	1	4	1	-	1	-	-	-	4	4	2	2	-	-
Navicula pupula var. capitata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RI, U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula tokyoensis H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	1-ph	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula trivialis Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	ind	-	2	-	-	-	-	-	-	17	5	-	-	1	-
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-hil	al-il	ind	U	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula viridula var. linearis Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	4	6	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-inc	ind	1-ph	ind	-	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-	2	8	5
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	1-bi	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Neidium productum (W. Smith)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	10	8	2	-	1	-	-	-	5	2	1	2	3	-
Nitzschia angustata (W. Smith)Cleve	Ogh-ind	al-il	1-bi	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia hantzschiana Rabenhorst	Ogh-ind	al-bi	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Nitzschia linearis W. Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
Nitzschia obtusa var. scalpelliformis Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	S	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia palea (Kuetz.)W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia peloclea Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia pelustris Hustedt	Ogh-ind	ind	unk	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia romana Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Nitzschia sinuata var. delognei (Grun.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	1-ph	U	1	-	5	5	1	-	-	-	1	16	12	-	-	1
Nitzschia umbonata (Ehr.)Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Pinnularia acrosphaeria W. Smith	Ogh-ind	al-il	1-ph	O	-	1	-	1	-	-	-	-	1	2	1	2	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	1	-	2	1	-	4	-	-	-	-	-	-
Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia divergens var. elliptica (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
Pinnularia gibba var. dissimilis H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	1-ph	O	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	ind	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	3	8	2	-
Pinnularia schoenfelderii Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	2	12	1	-
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	1	17	2	6	-	3	7	17	3	1	15	-	2
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	1-ph	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia streptorhapha Cleve	Ogh-hob	ac-il	1-ph	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1



IV-6 1地点の主要陸地化石群集の変遷
海水・汽水・淡水生産種比率・各産出率・完形産出率は全体基準、淡水生産の生態性の比率は淡水生産の合計を基準として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。
なお、●は1%未満、+は100個体未満の試料について検出した個数を示す。



IV-7 4・5地点の主要陸地化石群集の変遷
海水・汽水・淡水生産種比率・各産出率・完形産出率は全体基準、淡水生産の生態性の比率は淡水生産の合計を基準として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。
なお、●は1%未満、+は100個体未満の試料について検出した個数を示す。

花粉化石は保存状態が悪く、化石数が少ない。

< 3地点 >

3試料とも花粉化石の保存状態が悪く、化石数が少ない。

< 4・5地点 >

花粉化石は全般に保存状態が悪く、試料番号17では化石数が少ない。木本花粉では、ツガ属・スギ属が多産し、モミ属・マツ属・コナラ亜属・アカガシ亜属などを伴う。このうちスギ属が上位に向かい減少し、マツ属が増加する。草本花粉の出現傾向は著しい変化が認められず、イネ科が多産する。その他、オモダカ属・カヤツリグサ科・ミズアオイ属・サナエタデ節・ウナギツカミ節・ナデシコ科・ヨモギ属などを伴う。

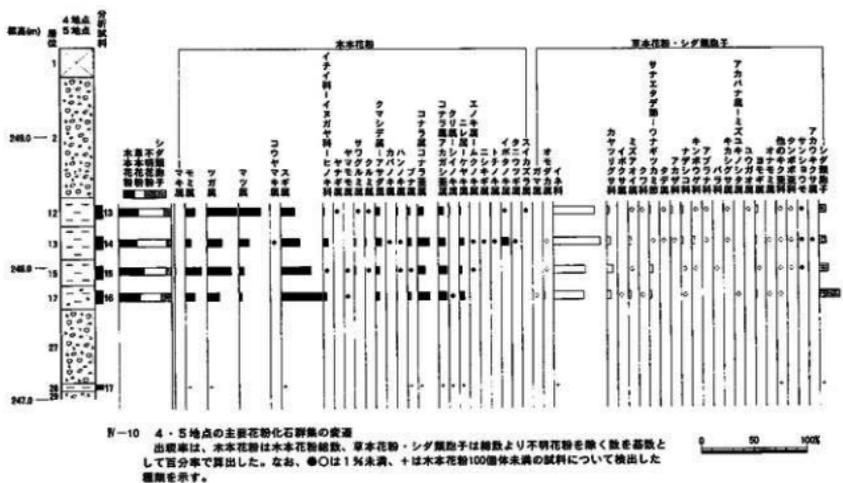
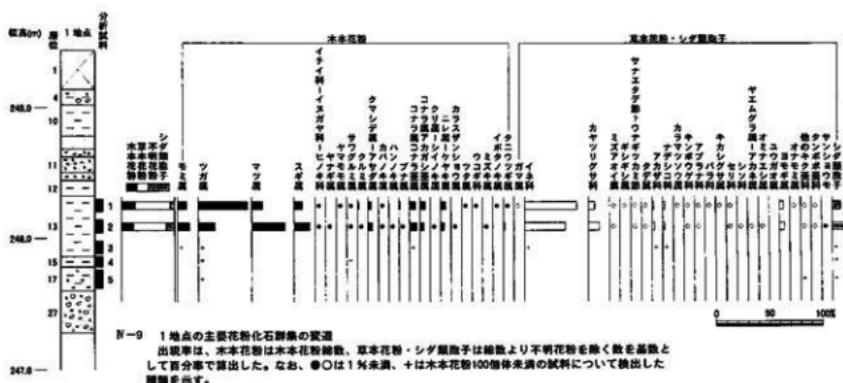
(3) 植物珪酸体

結果を表IV-11、図IV-12～IV-15に示す。以下に各地点毎に結果を示す。

< 1地点 >

IV-8 花粉分析結果

種 類	試料番号	1地点					2地点		3地点			4-5地点				
		1	2	3	4	5	6	8	10	11	13	14	15	16	17	
木本花粉																
マキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
モミ属	19	23	2	-	-	-	-	-	-	-	19	14	33	16	8	
ツグ属	100	32	1	1	1	3	-	-	-	-	60	37	50	22	1	
マツ属	23	64	-	-	-	4	-	-	-	-	44	26	11	5	-	
コウヤマキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
スギ属	17	30	-	-	-	-	-	-	-	-	29	47	62	73	6	
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	14	1	6	-	
ヤナギ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
ヤマモモ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	
サウダルミ属	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	4	3	-	-	
クルミ属	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	2	-	-	
クマシデ属-アサダ属	7	8	-	-	-	-	-	-	-	-	9	15	9	7	-	
カバノキ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
ハンノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	2	-	
ブナ属	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	11	1	7	1	
コナラ属コナラ亜属	13	14	1	-	-	-	-	-	-	-	12	30	16	22	3	
コナラ属アカガシ亜属	11	8	-	-	-	-	-	-	-	-	11	18	18	15	1	
クリ属-シノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	2	
ニレ属-ケヤキ属	10	7	-	-	-	2	-	-	-	-	4	12	5	10	3	
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	
カラスザンショウ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ニシキギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
ツタ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ウコギ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ミズキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イボタノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	19	-	-	-	
タニウツギ属	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
草本花粉																
ガマ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
オモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	
イネ科	416	336	2	-	-	2	-	-	-	-	200	324	133	132	4	
カヤツリグサ科	53	89	-	-	-	-	-	-	-	-	11	25	24	15	-	
イボクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
ミズアオイ属	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	21	3	10	-	
クワ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	
ギシギシ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サナエタデ属-ウナギツカミ属	8	7	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1	15	9	-	
タデ属	6	8	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	
アカザ科	13	20	1	-	-	-	-	-	-	-	9	2	-	-	-	
ナデシコ科	14	14	1	-	-	-	-	-	-	-	9	11	2	2	-	
カラマツソウ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
キンボウガ科	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	19	1	-	-	
アブラナ科	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	
バラ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
キカシグサ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	
アカバナ属-ミズユキノシタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
セリ科	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シソ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤエムグラ属-アカネ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
オミナエシ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ユウガオ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
ヨモギ属	34	42	-	-	-	-	-	-	-	-	12	10	4	5	-	
オナモミ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	
他のキク亜科	2	1	-	1	-	-	-	-	-	2	4	1	2	1	2	
タンポポ科	4	8	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	1	-	-	
不明花粉	16	17	-	-	-	-	-	-	-	-	42	14	7	4	-	
シダ類胞子																
サンショウモ	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	
アカウキサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
シダ類胞子	68	130	8	6	6	2	-	2	1	34	51	39	90	2	-	
合 計																
木本花粉	216	201	4	2	1	9	0	0	0	210	258	217	187	25	-	
草本花粉	563	536	4	0	1	2	0	2	0	270	425	187	186	6	-	
不明花粉	16	17	0	0	0	0	0	0	0	42	14	7	4	0		
シダ類胞子	68	133	8	6	6	2	0	2	1	35	54	40	90	2		
総計 (不明を除く)	847	872	16	8	8	13	0	4	1	515	737	444	463	33		



植物珪酸体は各試料から検出されるものの、保存状態は悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）の認められる。各試料からは、タケ亜科やヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科、栽培植物のイネ属などが検出される。これらの種類は、層的な変化が認められる。試料番号5・4では、ヨシ属やウシクサ族の割合が高い。しかし、試料番号3からヨシ属が減少し、試料番号2・1ではイネ属が優占する。また、稲初に形成されるイネ属顆粒珪酸体も多産する。

< 2地点 >

試料番号6では、イネ属・タケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族などの植物珪酸体が検出される。ただし、機動細胞珪酸体の検出個数が少なく、保存状態も悪い。短細胞珪酸体では、タケ亜科の割合が高い。

< 3地点 >

各試料からは、植物珪酸体が検出されるが、検出個数は少なく、保存状態も悪い。各試料ともヨシ属の産出が目立ち、タケ亜科、ウシクサ族なども認められる。また、わずかにイネ属も検出される。

IV-11 植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	1地点					2地点		3地点			4-5地点			
		1	2	3	4	5	6	8	10	11	13	14	15	16	17
イネ科葉部短細胞珪酸体															
イネ族イネ属	177	106	29	13	10	15	-	1	1	111	79	10	4	-	-
キビ族チゴザサ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族	5	5	1	2	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-
タケ亜科	14	10	12	19	18	62	2	7	1	11	1	7	7	4	
ヨシ属	37	26	48	122	104	34	22	90	22	43	44	86	182	87	
ウシクサ族コブナグサ属	10	5	8	15	5	7	6	4	2	5	2	12	11	2	
ウシクサ族ススキ属	45	36	31	33	44	30	16	41	11	30	27	28	32	5	
イチゴツナギ亜科	45	33	28	9	8	22	7	49	2	22	27	17	4	-	
不明キビ型	49	25	41	49	39	24	7	37	17	38	17	29	34	4	
不明ヒゲシバ型	27	20	16	48	43	22	9	18	8	23	5	27	30	12	
不明ダンチク型	29	28	20	36	16	10	3	14	4	17	12	25	13	2	
イネ科葉身機動細胞珪酸体															
イネ族イネ属	51	53	40	34	18	10	8	6	3	32	61	41	27	2	
キビ族	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
タケ亜科	1	5	8	8	13	7	2	3	2	3	2	3	7	-	
ヨシ属	1	6	3	13	21	7	5	16	12	3	9	25	55	4	
ウシクサ族	28	25	25	17	24	6	4	9	5	9	15	15	14	2	
シバ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
不明	22	31	43	44	37	3	11	9	16	12	17	22	14	4	
合 計															
イネ科葉部短細胞珪酸体	438	294	234	346	287	227	72	261	68	302	216	241	317	116	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	104	121	119	117	114	33	30	43	38	59	105	106	117	12	
総 計	542	415	353	463	401	260	102	304	106	361	321	347	434	128	
組 織 片															
イネ属珪酸体	24	29	9	-	-	4	-	-	-	17	32	2	-	-	
イネ属短細胞列	24	16	8	1	1	1	-	-	-	24	23	-	-	-	
イネ属機動細胞列	1	1	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
ウシクサ族機動細胞列	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明組織片	55	40	11	8	8	-	-	-	-	17	16	2	-	50	

< 4・5地点 >

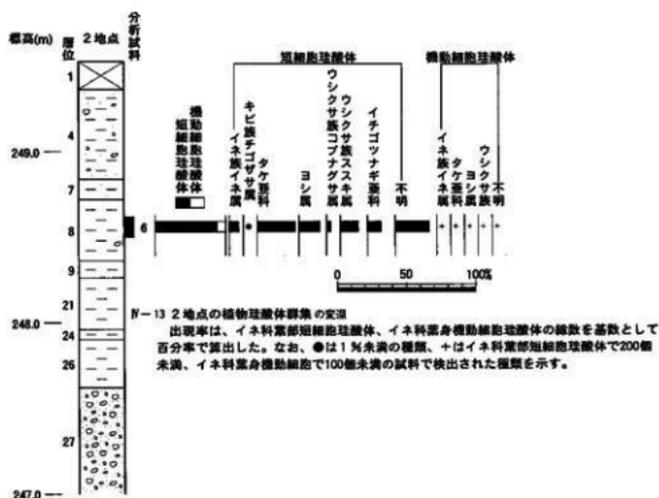
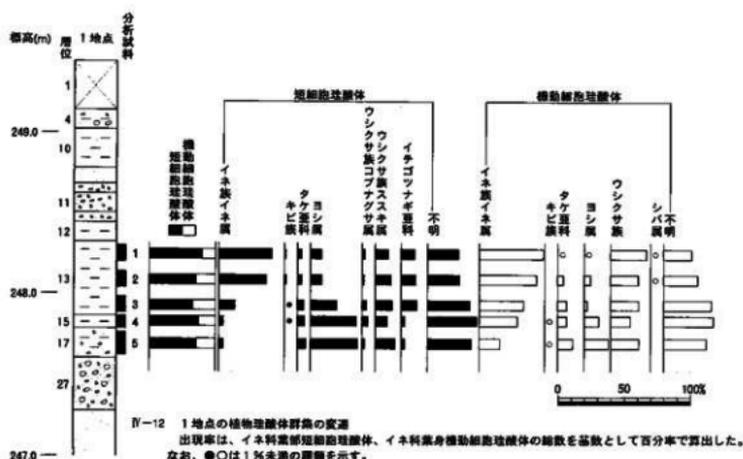
各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪い。また、試料番号17では、イネ属・タケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族などが検出されるが、検出個数が少ない。

試料番号16～13では、イネ属、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが検出される。試料番号16ではヨシ属の割合が高いが、上位に向かうにつれて次第に減少し、これに応じるようにイネ属が増加し、試料番号13ではイネ属が優占する。また、イネ属珪酸体も多産する。

4. 低地の環境

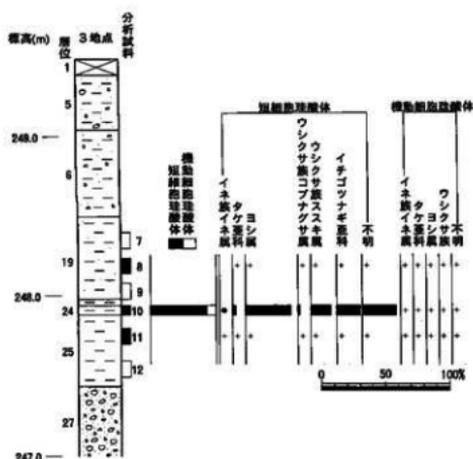
弥生時代後期の遺物包含層の28層の珪酸化石群集は、沼沢地付着生種群を含む流水不定性の種群の占める割合が高く、流水性種や陸生珪藻などの種群が比較的産した。この特徴から、本層は、流水の影響を受ける沼沢地～湿地のような状況下で堆積したことが推定される。本層は腐植の集積から、土壌化している可能性があり、陸生珪藻の種群の産出を考慮すると堆積後には乾燥する時期が存在した可能性がある。このような陸生珪藻が繁茂する好気的環境下では、花粉などは分解消失することが知られている。本層中の花粉化石は保存状態が悪かったことも本地点が好気的な場所となったとすると調和的な傾向とみなせる。また、花粉化石や保存状態の悪かった植物珪酸体で検出された種類は、当時の堆積域ないしその周辺に生育していた母植物に由来すると考えられる。その中には栽培種のイネ属が認められることから、本時期には堆積域において栽培種のイネ属が存在したことになり、稲作が行われていた可能性がある。

その後、調査区全域を覆う砂礫が堆積するが、この堆積により堆積域の環境を一変したものと想定される。砂礫堆積後には、調査区南東部に円墳が構築された。この墳丘堆積物は堆積構造から人為的な搬入土である可能性が高い。本堆積物中の植物珪酸体組成はヨシ属が多産する特徴を示し、珪酸化石は少ないものの陸生珪藻



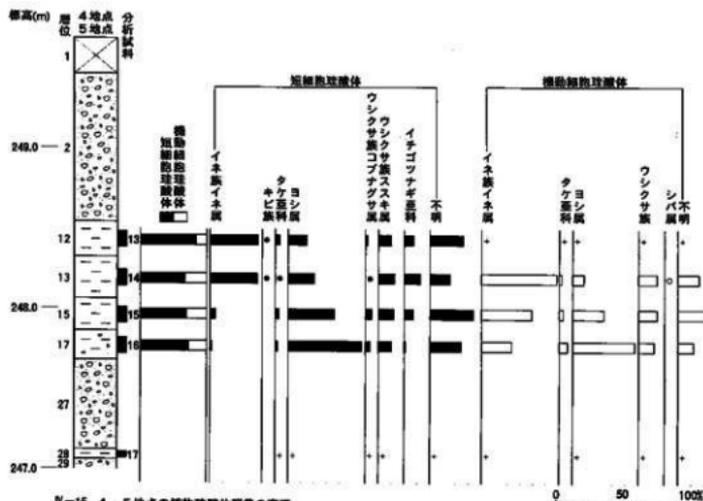
の産出が目立ち、花粉化石は保存状態が悪くほとんど出現しないという産状を示した。このような産状は、墳丘北側の調査1地点の古墳時代の包含層の特徴と類似することから、調査地点近辺の堆積物を利用している可能性がある。

古墳時代の遺物包含層とその直上の古墳・鎌倉時代の遺物包含層の珪藻化石群集は、調査地点によって産出する種群の構成は異なるものの、流水性種・止水性種・流水不定性種がそれぞれほぼ同様の割合で産出するという特徴を示した。このような様々な環境を指標する種群が混在する群集の特徴は、完形殻の出現率が低いことを考慮すると、流れ込みや河川の氾濫堆積物、さらに擾乱の影響を受けた堆積物などで認められる傾向である。今回の場合も、このような状況下での堆積が推定される。また、植物珪酸体では水湿地に多いヨシ属や、



IV-14 3地点の植物球状体群集の成層

出現率は、イネ科葉部楕円細胞球状体、イネ科葉身楕円細胞球状体の総数を基数として百分率で算出した。
 なお、●は1%未満の頻度、+はイネ科葉部短細胞球状体で200個未満、イネ科葉身楕円細胞で100個未満の
 試料で検出された種類を示す。



IV-15 4・5地点の植物球状体群集の成層

出現率は、イネ科葉部楕円細胞球状体、イネ科葉身楕円細胞球状体の総数を基数として百分率で算出した。
 なお、●は1%未満の頻度、+はイネ科葉部短細胞球状体で200個未満、イネ科葉身楕円細胞で100個未満
 の試料で検出された種類を示す。

乾いた場所に分布するウシクサ族（ススキ属を含む）が多産した。花粉化石ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科・サナエタデ節・ウナギツカミ節・ヨモギ属や水生植物のオモダカ属・ミズアオイ属などが検出された。これらの種類が堆積域ないしその周辺に生育していたものと考えられ、調査地域は開けた場所であったことが

推定される。また、栽培種のイネ属の植物珪酸体が機動細胞珪酸体で約16%の出現率を示した。現在の水田耕土（イナワラ堆肥連用8年間、500 kg/10 a/年）におけるイネ属機動細胞珪酸体の出現率は16%を示したとの調査例（近藤、1988）がある。この値と比較して今回の結果はほぼ同じ出現率であり、当時の調査地点付近では稲作が行われていたことが推定される。

鎌倉時代の遺物包含層の珪藻化石群集は、墳丘北側と南側の地点で異なっていた。墳丘北側の4・5地点では流水指標種が多産するのに対して、南側の1地点では陸生珪藻B群の*Navicula confervacea*が優占した。本種は、有機汚濁の進んだ富栄養水域にも特徴的に産出する好汚濁性種（Asai, K. & Watanabe, T., 1995）でもあり、その他の陸生珪藻の産出が少なかったことを考えると、陸上に生育していたとするよりも水域に生育していたと考えられる。したがって、本時期の調査区北側は流水の影響を受ける場所であったが、調査区南側は比較的富栄養な水域で堆積したと考えられる。また、植物珪酸体では両地点とも、下位層で多産していたヨシ属が減少し、栽培種のイネ属が増加・優占するようになる。このことは、調査区内で稲作が行われるようになったことを示している可能性が高い。本層では、杭列や溝など水田を示唆するような遺構が確認されており、今回の結果はそのような状況と調和的とみせる。

墳丘堆積物の上位の12層では、各微化石ともほとんど検出されなかったため、遺跡周辺の環境について検討することは困難である。

5. 遺跡周辺の森林植生

本遺跡の花粉化石群集は、モミ属・ツガ属・マツ属・スギ属が多産し、クマシデ属-アサダ属・コナラ亜属・アカガシ亜属・ニレ属-ケヤキ属を伴う。これらの種類が当時の森林構成要素として存在していたと考えられる。モミ属・ツガ属は、暖温帯常緑広葉樹林の主要構成要素のアカガシ亜属が認められることから、暖温帯-冷温帯の移行帯で森林を形成するモミ・ツガに由来する可能性が高い。したがって、当時はモミ・ツガ・スギなどの温帯性針葉樹と落葉広葉樹から構成される暖温帯から冷温帯にかけての気候帯に属する植生が後背山地などに存在していたと考えられる。ここで得られた花粉化石群集は、油田遺跡・二本柳遺跡・向河原遺跡などで実施した花粉分析結果（未公表資料）と類似している。したがって、このような植生は、本盆地内部でも比較的広い範囲に成立していた可能性がある。

関東平野などでは古墳時代の頃に丘陵などを中心にモミ属・ツガ属が増加する現象が認められている（例えば、楡井、1990；バリノ・サーヴェイ株式会社、1993など）。この時期は、いわゆる「弥生の小海退」とよばれ、気候的には冷涼、多雨であったといわれている（那須、1989）。このようなことを考慮すると、周辺で温帯性針葉樹が分布していた背景には、このような気候的な要因が関係している可能性がある。また、盆地の縁辺部では扇状地が発達していることから、土地の条件が不安定な場所でも林分を形成できるツガなどが分布域を広げた可能性もあり、今後の課題として残される。

<引用文献>

- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, p. 35-47.
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *東北地理*, 42, p. 73-88.
- Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra Nach dem Material der Deutschen limnologischen Sunda-Expedition. Teil I ~ III, Band. 15, p. 131-506, Band. 16, p. 1-155, 274-394.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. *珪藻学会誌*, 6, p. 23-45.

- 近藤鍊三（1988）十二遺跡の植物珪酸体分析。銚師屋遺跡群十二遺跡一長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書，p. 377-383，御代田町教育委員会。
- 近藤鍊三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用。第四紀研究，25，p. 31-64。
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA, DIATOMOLOGICA, BAND 26, p. 1-353, BERLIN-STUTTGART.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae.
Band 2 / 1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876 p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae.
Band 2 / 2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536 p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3. Centrales.
Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2 / 3 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230 p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen
zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2 / 4 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248 p., Gustav Fischer Verlag.
- Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. 334 p. In Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670 / 4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res.
Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 那須孝梯（1989）活動の舞台：概論、永井昌文・那須孝梯・金関忍・佐原 眞編，「弥生文化の研究1 弥生人とその環境」，p. 119-130，雄山閣。
- 楡井 尊（1990）花粉化石が語る昔の森林，「鶴ヶ島町史自然編 I 鶴ヶ島の地質」，p. 34-46，鶴ヶ島町史編さん室。
- バリノ・サーヴェイ株式会社（1993）中耕遺跡出土遺物の自然科学分析報告。「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集 中耕遺跡IV本文編（第1分冊）」，p. 320-365，埼玉県埋蔵文化財調査事業団。

2 大師東丹保遺跡Ⅳ区から出土した木材および種実の種類

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本遺跡では、これまでにⅠ区～Ⅲ区で出土した流木や木製品の樹種同定から、古植生や木材利用に関する検討が行われている（バリノ・サーヴェイ株式会社、未公表）。その結果では、鎌倉時代の柱・杭・斎串・曲物等にヒノキ属が多く見られた。一方、弥生時代中期の建築材にはヤナギ属・クヌギ節・コナラ節・エノキ属等の広葉樹やモミ属・ヒノキ属等の針葉樹が見られ、多種類の木材が使用されていたことがうかがえる。また流木には、ヤナギ属・クリ・ケヤキ・エノキ属・イヌエンジュ属・コナラ属アカガシ亜属等が認められ、これらの種類が遺跡周辺に生育していたことが指摘されている。

今回調査が行われたⅣ区においても、大量の木材や種実が検出されている。本報告では、これらの木材や種実の種類を明らかにし、用材選択や食用への利用状況について検討する。

1. 出土した木材の樹種

(1) 試料

試料は、鎌倉時代の各遺構から検出された木製品・立木・流木など74点（試料番号1～74）である。各試料の詳細については、樹種同定結果とともに表Ⅳ-16に記した。

(2) 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。切片は、ガム・クロラル（抱水クロラル・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとした。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 結果

樹種同定結果を表Ⅳ-16に示す。試料には劣化などの理由により木材組織の観察が充分行えなかったものがあつた。それらの試料については、観察できた範囲で木材組織の形態などを記した。その他の試料には、針葉樹4種類（カラマツ・マツ属複維管束亜属・モミ属・ヒノキ属）、広葉樹6種類（ヤナギ属・クリ・シノキ属・ウメ・ヌルデ・ニワトコ）とイネ科タケ亜科が認められた。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・カラマツ (*Larix kaempferi* (Lamb.) Carriere) マツ科カラマツ属

早材部から晩材部への移行はきわめて急。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射柔細胞の細胞壁は滑らかで、じゅう状末端壁が認められる。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で3～5個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon* sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は、単列、1～15細胞高。

・モミ属 (*Abies* sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は薄い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅう状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix* sp.) ヤナギ科

散孔材で、道管は年輪全体にほぼ一様に分布するが年輪界付近でやや管径を減少させる。管壁厚は中庸で、

横断面では楕円形～やや角張った楕円形、単独および2～3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で孔部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。

・シノキ属 (*Castanopsis* sp.) ブナ科

環孔材～放射孔材で孔部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管の単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。

・ウメ (*Prunus mume* (Sieb.) Sieb et Zucc.)バラ科サクラ属

環孔性を帯びた散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が接線方向に並び、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管壁の厚さは中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2～8個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～5細胞幅、1～50細胞高。

・ヌルデ (*Rhus javanica* L.) ウルシ科ウルシ属

環孔材で孔部は2～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。大道管は管壁は薄く、横断面では楕円形、単独、小道管は管壁厚は中庸、横断面では楕円形～やや角張り、2～3個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、1～5細胞幅、1～40細胞高で、時に上下に連結する。

・ニワトコ (*Sambucus sieboldiana*) スイカズラ科ニワトコ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、2～5(10)個が複合または単独で、接線方向に配列することがある。道管は単穿孔を有し、壁孔は大型で交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～(Ⅱ)型、1～4(6)細胞幅、1～30細胞高。

(4) 考察

枕列にはヒノキ属が多く認められ、本遺跡のⅠ区～Ⅲ区までの結果と調和的である。枕材は、これまで各地で行われた樹種同定結果で多くの種類が確認されており、特定の樹種がないこと、各地域の植生を反映していると考えられること等から、遺跡周辺で入手可能な木材を適当に使用していたと考えられる。本遺跡では、これまでの調査で枕材以外にも多くの製品でヒノキ属が確認され、本調査区でも同様である。このことから、遺跡内においてヒノキ属の加工が行われ、余った枝などが枕に利用された可能性がある。

立木には、ニワトコ・ウメ・ヤナギ属・ヌルデ・モミ属が確認された。このうち、ヤナギ属とウメはⅢ区においても確認されている。これらの樹種のうち、ウメは古くに大陸から渡来した栽培種であり、これまでも各地で核の検出例が知られている。本遺跡では、これまでにⅢ区とⅣ区を合わせて12本のウメの立木を確認している。このことから、花の観賞や果実の生産を目的として、ある程度まとまった本数のウメが遺跡内で栽培されていたと考えられる。なお、今回調査したウメには樹皮の付いている試料があった。このうち試料番号38では、最外部年輪が夏材部の形成途中であることが観察できる。このことから、夏季に伐採や枯死などの理由で樹木の生長が停止したことが推定される。

ウメ以外の立木では、ニワトコも果実を利用する種類であり、本遺跡においても果実の利用を目的として栽培されていた可能性がある。ヤナギ属は本遺跡の他の地区でも立木に認められている。また、二本柳遺跡では畦畔上に植栽され、イネを干すための立樹稲架の可能性が指摘されている(中山, 1993)。ヤナギ属には挿し木で根がつきやすい種類が多く、また地下水位が高い土地にあった樹木として様々な目的で植栽していたことが推定される。ヌルデやモミ属は、果実などを利用するよりは木材の利用を目的として植えられていた可能性がある。本遺跡では、このほかⅡ区・Ⅲ区からカキノキの立木も確認されており、木材の利用や果実の生産などを目的として、様々な樹木が植えられていたことがうかがえる。

表IV-16 樹種同定結果

番号	遺物番号	出土地点	品種	時代	樹種名
1	5574	2号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
2	6176	3号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
3	4879	3号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
4	5976	7号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
5	5986	7号杭列	杭	鎌倉時代	ヌルデ
6	5971	7号杭列	杭	鎌倉時代	モミ属
7	6810	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
8	6811	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
9	6821	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
10	6860	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
11	6852	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
12	6847	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
13	6812	8号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
14	7378	10号杭列	杭	鎌倉時代	ヌルデ
15	7446	10号杭列	杭	鎌倉時代	ヌルデ
16	7380	10号杭列	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
17	5316	W-88	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
18	4955	V-89	杭	鎌倉時代	カラマツ
19	4999	W-88	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
20	5602	A-79	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
21	5019	Z-77	杭	鎌倉時代	クリ
22	6555	1号水路	杭	鎌倉時代	モミ属
23	6474	1号水路	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
24	6514	1号水路	杭	鎌倉時代	モミ属
25	5842	1号水路	杭	鎌倉時代	広葉樹(散孔材)
26	5849	1号水路	杭	鎌倉時代	広葉樹(散孔材)
27	6627	1号水路	杭	鎌倉時代	モミ属
28	6372	1号水路	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
29	5834	1号水路	杭	鎌倉時代	広葉樹(散孔材)
30	5826	1号水路	杭	鎌倉時代	広葉樹(環孔材)
31	6607	1号水路	杭	鎌倉時代	モミ属
32	6570	1号水路	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
33	一括	3号杭列	そだ木	鎌倉時代	マツ属(推定)菅束属
34	4633	W-84	立木	鎌倉時代	ニワトコ
35	4634	W-85	立木	鎌倉時代	ニワトコ
36	4635	W-85	立木	鎌倉時代	ウメ
37	4636	W-85	立木	鎌倉時代	ウメ
38	4637	W-85	立木	鎌倉時代	ウメ
39	4638	W-86	立木	鎌倉時代	ウメ
40	4639	W-86	立木	鎌倉時代	ウメ
41	4640	W-86	立木	鎌倉時代	広葉樹(散孔材)
42	4641	W-86	立木	鎌倉時代	ウメ
43	4728	W-89	立木	鎌倉時代	ヤナギ属
44	4729	W-89	立木	鎌倉時代	ヤナギ属
45	4730	X-89	立木	鎌倉時代	ヤナギ属
46	一括	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
47	6286	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
48	6291	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
49	6309	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
50	6353	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
51	6417	1号本集中区	枝	鎌倉時代	ヌルデ
52	6420	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
53	6530	1号本集中区	杭	鎌倉時代	シノキ属
54	6688	1号本集中区	板材	鎌倉時代	イネ科タケ亜科
55	6904	1号本集中区	板材	鎌倉時代	カラマツ
56	一括	1号本集中区	立木	鎌倉時代	ヌルデ
57	一括	1号本集中区	板材	鎌倉時代	イネ科タケ亜科
58	6306	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
59	6645	2号本集中区	立木	鎌倉時代	モミ属
60	6647	2号本集中区	杭	鎌倉時代	ヒノキ属
61	6702	2号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属

番号	遺物番号	出土地点	品種	時代	樹種名
62	6752	2号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
63	一括	2号本集中区	立木	鎌倉時代	ヤナギ属
64	6636	3号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
65	6637	3号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
66	6640	3号本集中区	板材	鎌倉時代	クリ
67	6641	3号本集中区	杭	鎌倉時代	モミ属
68	6916	1号本集中区	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
69	6926	W-87	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
70	6931	W-87	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
71	6938	W-87	杭	鎌倉時代	クリ
72	7383	10号杭列	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
73	6622	1号水路	板材	鎌倉時代	ヒノキ属
74	5028	W-89	板材	鎌倉時代	ヒノキ属

表IV-17 種実同定結果

番号	遺物番号	出土地点	樹種	備考	種類・部位(個数)
1	23	Y-86	13	鎌倉時代	モモ核(1)
2	4399	W-	13	鎌倉時代	モモ核(1)
3	4206	A-79	13	鎌倉時代	ヒメグミミ核(1)
4	96	Z-89	13	鎌倉時代	ヒメグミミ核(1)
5	3021	V-91	13	鎌倉時代	ヒメグミミ核(1)
6	4426	W-88	13	鎌倉時代	ヒメグミミ核(1)
7	2471	W-91	13	鎌倉時代	オニグルミ核(1)
8	3062	W-91	13	鎌倉時代	ヒメグミミ核(1)、ノブドウ種子(7)、ナリ科果実(2)、メロン類種子(12)、ヒョウタン類種子(1)、ヌズナリ近縁類種子(1)、不明種FA(10)、不明種FB(6)
9	5459	X-77	13	鎌倉時代	メロン類種子(1)
10	580	X-77	13	鎌倉時代	不明種子A(1)
11	1988	Y-91	13	鎌倉時代	トチノキ効果(1)
12	3982	Y-90	13	鎌倉時代	スモモ核(1)
13	4316	W-86	13	鎌倉時代	スモモ核(1)
14	2825	W-86	13	鎌倉時代	トチノキ種皮(1)
15	4155	Y-90	13	鎌倉時代	ノブドウ種子(1)
16	6914	2号本集中区	13	鎌倉時代	不明種子(1)
17	5698	W-90	15	鎌倉時代	モモ核(1)
18	7766	W-85	15	鎌倉時代	モモ核(1)
19	5336	W-91	15	鎌倉時代	ヒメグミミ核(1)
20	7736	W-85	15	鎌倉時代	モモ核(1)
21	8841	W-86	15	鎌倉時代	スモモ核
22	8555	W-86	15	鎌倉時代	オニグルミ核(1)、モモ核(2)
23	8830	W-86	15	鎌倉時代	ヒョウタン類種子(4)
24	30227	X-86	17	古墳時代	モモ核(1)
25	13268	W-84	17	古墳時代	モモ核(1)
26	8660	B-7	28	弥生時代	オニグルミ核(1)
27	30224	W-86	28	弥生時代	トチノキ種皮(1)
28	8658	Z-87	28	弥生時代	トチノキ効果(1)
29	8659	B-87	28	弥生時代	同定不能(1)
30	6706	2号本集中区	13	鎌倉時代	イネ類(5)
31	2333	W-85	13	鎌倉時代	ヒルシロ属果実(20)、オキワグサ科果実(2)、ナデシコ科種子(2)、アザミ科・ヒメ科種子(1)
32	584	X-77	13	鎌倉時代	同定不能(1)
33	520	X-77	13	鎌倉時代	イネ類(5)
34	3063	W-91	13	鎌倉時代	不明種子B(1)
35	2655	A-80	13	鎌倉時代	イネ類(1)
36	5962	W-89	15	鎌倉時代	イネ類(炭化)(1)、イオクサ種子(1)、不明種子(1)
37	-	-	-	?	イネ類(炭化)(1)

2. 出土した種実の種類

(1) 試料

試料は、弥生時代～鎌倉時代の各層から採取された37試料計240点である。試料の出土層位・出土地点などは表Ⅳ-17に示す。

(2) 方法

肉眼または双眼実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種類を同定した。同定後は試料の状態に応じ、乾燥あるいはほう酸水溶液中に液浸して保存した。

(3) 結果

同定結果を表Ⅳ-17・Ⅳ-18に示す。以下に形態的特徴について記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属
核が検出された。灰褐色で大きさは3cm程度。側面の両側に縫合線が発達する。球形～楕円形で下端は丸く上端はやや尖る。表面には縦方向にしわ状の溝がある。内部には子葉が入る2つの大きなくぼみがある。

・ヒザ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* var. *cordiformis* (Makino) Kitamura) クルミ科クルミ属
核が検出された。灰褐色で長さ2～3cm、幅1.7～2.2cm。オニグルミよりも偏平な楕円形で、下端が丸く上端は永長く尖る。面の中央に溝があるほかは平滑。

・モモ (*Prunus persica* Batsch)バラ科サクランボ属

核(内果皮)が検出された。褐色で長さ1.7～2.8cm、幅1.3～2.3cmの楕円形。小型で丸みの強いものと大型で偏平なものがある。基部には丸く大きなへそがありへこんでおり、先端部はやや尖る。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあいしわ状に見える。

・スモモ (*Prunus salicina* Lindl.)バラ科サクランボ属

核(内果皮)が検出された。黒褐色で大きさは1cm程度。偏平な楕円形。基部には、丸く大きなへそがあり、上端は丸い。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は浅いくぼみが不規則にみられる。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

種子および種皮が検出された。種子は未熟で直径1cm程度、黒色、ややつぶれた球形。上半分は光沢があり、下半分はざらざらしている。種皮は堅い。

・ノブドウ (*Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv.) ブドウ科ノブドウ属

種子が検出された。黒色で光沢がある。ほぼ球形で大きさは3mm程度。腹面には左右にさじ状の細いくぼみがある。

・ヒルムシロ属 (*Potamogeton* sp.) ヒルムシロ科

果実が検出された。大きさは約3mm程度。偏平な卵円形で短い翼がある。表面には縦方向の横線が配列する。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

穎と胚乳が検出された。穎は大きさ7mm程度。表面には縦方向に微細な突起が配列している。炭化して固まっているものもある。胚乳の大きさは4mm程度。表面には縦に平行な筋が数本認められる。

・カヤツリグサ科 (*Cyperaceae* sp.)

果実が検出された。黒色で大きさ1mm未満。側面観は狭倒卵形で三稜がある。表面は小突起が密に配列している。

・イボクサ (*Aneilema keisak* Hassk.) ツユクサ科イボクサ属

種子が検出された。ほぼ楕円形で長さ2.5mm、幅2mm。種皮は薄く、柔らかい。中央に一字状のへそがあり、側面にくぼんだ発芽孔がある。

・タデ科 (*Polygonaceae* sp.)

果実が検出された。茶褐色で大きさは約1.5mm。側面観は紡錘形。基部には花被が残る。果皮には細かい凹凸がある。

周囲の河道沿いに生育していたことが推定される。いずれも果実が重要な食料となる種類であることから、果実が食用に採取されていたと考えられる。ただし、今回検出されたトチノキは直径1cm前後の未熟果なので、採取したのではなく自然堆積したのと考えられる。

古墳時代の17層からは、モモの核が検出された。モモは、中国から渡来した栽培植物とされる。遺跡からの出土例も各地で知られる。本地域では、二本柳遺跡において平安時代の畦畔にモモが植えられていたことが樹種同定結果より明らかとなっている。今回の結果から、古墳時代には本遺跡周辺で栽培されていたことが明らかとなった。

鎌倉時代の15層・13層では、検出される種実の種類も数も多く、有用植物と雑草類の両方の種実が含まれている。

有用植物では、イネ、スモモ、モモ、ヒョウタン類、メロン類、オニグルミ、ヒメグルミ、トチノキ、ノブドウが検出された。このうち、イネ、スモモ、モモ、ヒョウタン類、メロン類は栽培植物であり、これらは食用のために栽培されていたと推定される。また、ヒョウタン類には容器としての用途もある。また、オニグルミ、トチノキ、ヒメグルミ、ノブドウはいずれも可食植物であり、周囲から果実などを食用のために採取してきたことが推定される。

いわゆる雑草類では、湿地や水路などの水辺に生育する種類にヒルムシロ属、カヤツリグサ科、イボクサ、タデ科が検出された。また、人里近くの開けた場所などに多いものにアカザ科ーヒユ科、スズメウリが検出された。これらの雑草類は、遺跡の集落周辺や水田・水路等に生育していたものが自然堆積したと考えられる。

<引用文献>

- 藤下典之(1980) 本邦各地の遺跡から出土したウリ科栽培植物の遺体について一特に遺跡の編年とCucumis meloの種子の大きさ一, 『考古学・美術史の自然科学的研究』, p.223 - 233, 日本学術振興会。
- 中山誠二(1993) 山梨県における稲作関連遺跡調査の現状, 山梨縣考古学協会誌, 6 .p.18 - 31.

3 大師東丹保遺跡（Ⅳ区）における地質探査報告書

シン技術コンサル

1. はじめに

一般国道52号線の通称甲西バイパスの建設に伴い、工事区域内における遺跡の所在確認が行われた。発掘調査の結果直径36mの円墳と思われる半円形の遺構が確認された。しかし、調査区域外の東側を発掘していないので、明確な規模形状は不明である。今回地球物理機器を使った非破壊方法による地質探査を東側敷地で試み、遺跡の内容を推定するものである。

2. 遺跡の名称と位置

大師東丹保遺跡

山梨県中巨摩郡甲西町清水字川原田 Ⅳ区 東側敷地



図Ⅳ-19 大師東丹保遺跡の調査区と探査位置

3. 土質概要

先に行われた発掘調査報告書によると、付近の地質は、地表面下3m以降に、氾濫原砂礫層が厚く堆積している。遺跡はこの基盤上に堆積した自然の微高地を利用した墳丘構造で、墳丘は礫質粘土、墳丘斜面には10～20cmの玉石による葺石が施されている。周囲の地質は砂礫層からなり、墳丘上にも薄く堆積している。表層には水田の耕作土が20～30cm堆積している。地表面は休耕中なので水気がなく乾いた状態であるが、畑地の境界ごとに表土の含水量は異なっている。地形は北から南に低い約1%の勾配になっている。

4. 探査方法と使用物理機器

電磁探査 地下レーダー 送信周波数 200・100 MHz
pulseEKKO 400v
電気探査 2極法 RM15 50v

5. 探査数量

電磁探査 地下レーダー
電気探査 720m² 2,880測点

測線番号	測線長(m)	周波数(MHz)
R 1	38.0	200
R 2	37.4	200
R 3	37.5	200
R3B	37.2	100
R 4	19.4	200
R 5	20.6	200
R5B	19.8	100
R 6	20.3	200
R 7	37.4	200
R7B	43.8	100
10測線	311.4m	

表Ⅳ-20 地下レーダー探査数量表

6. 探査期間

1995年1月31日～2月2日

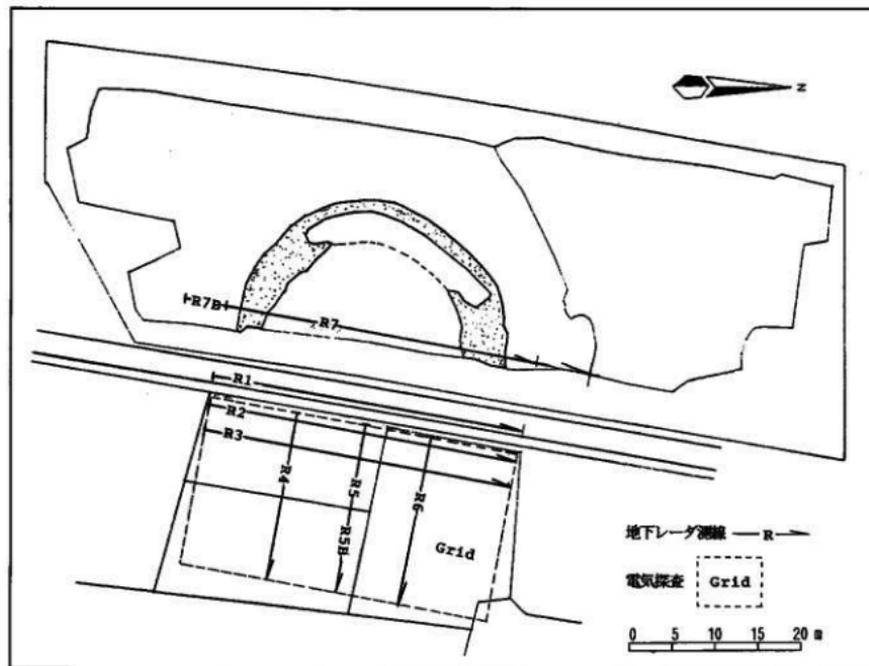
7. 探査実施技術者

保坂和博 山梨県埋蔵文化財センター (055)266-3881

佐藤武彦・田中保士

株式会社シン技術コンサル (0426)77-5480

8. 探査測線とグリッド配置



図IV-21 探査測線とグリッド配置図

9. 地下レーダ記録解析図

地中における電磁波の反射・屈折・透過などの物理的現象を利用して地下構造を探索した。送信アンテナから地下に放射された電磁波パルスは、地層境界や地下水面などの電気的性質の異なる境界面で反射、屈折しつつ地表の受信アンテナに到達する。得られた記録は空中、地中の直接波、地下の地層境界面からの反射波などさまざまな種類の波が表れて複雑なパターンを呈した。探査対象は墳丘である。玉石による葺石層、墳丘粘土層、汙濘原砂礫層の各層境界面を捕らえるために、コンピュータ処理によるノイズを除去し、反射波を抽出解析した。全測線 200MHz の周波数で測定、R3B R5B R7B は 100 MHz で比較探査した測線である。とくに R7 R7B 測線は、発掘調査後埋め立てられたところで、探査結果を検証する測線として注目される。記録解析図を

図Ⅳ-21に示す。

地下レーダ記録図の反射映像の、リアルラインとパターン（楕円垂状の反射映像）から次のような判読ができる。

- R1 5～34 mに玉石群を想定するパターンが見られる。
- R2 6～28 mにかけて窪んだ部分のリアルラインと、20 m付近に玉石と思われる顕著なパターンが見られる。
- R3 8～24 mに墳丘と推定されるパターンが明瞭に反映している。その両側には窪んだ周濠を想定させるリアルラインが見える。
- R3B 明瞭なパターンや遺構を想定させるリアルラインが見えない。地層の境界面は明瞭に反映している。
- R4 不明瞭であるが、斜面の玉石パターンが見られる。
- R5 玉石と思われるパターンが見える。また16 mを中心にマウンドを想定する明瞭なリアルラインが見える。
- R5B 一層明瞭にマウンド型のリアルラインが見える。
- R6 ここにも深部に半円形のリアルラインが見える。
- R7 円墳を発掘調査した後埋戻しが行われた。検証目的で行った。鋭敏なパターンの点在が見られる。玉石の反射と思われる。6～32 mに渡って遺構のリアルラインが見られる。
- R7B 周波数の低いアンテナでは、マウンドの形が明瞭に反映している。20 m付近にかなり強い異常映像が見られる。これは玉石や地層の境界のパターンやリアルラインと異なり、興味のあるところである。

10. 電気探査記録解析図

二極法比抵抗マッピングは、地下遺構の平面を捕らえるもっとも簡単で効率のよい工法である。データはドット図で表し、地下の様子を絵画的イメージにより視覚的に推定することができる。しかし、土質の物理的特性に敏感に反応するため、目的の遺構の存在を推定する情報は、遺構の物理的特性を十分に把握しておかないと得ることはできない。

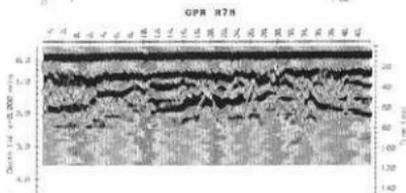
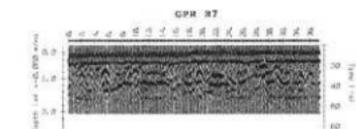
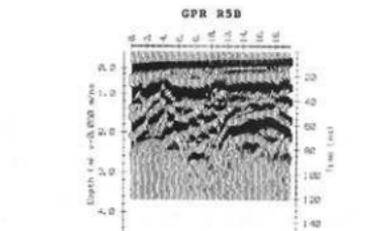
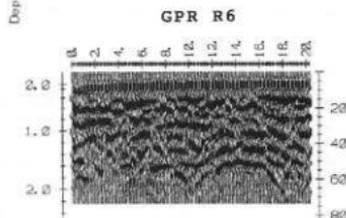
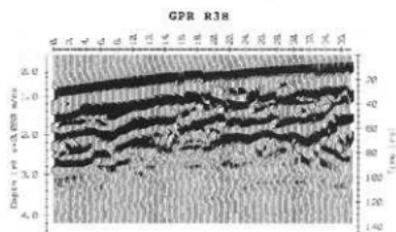
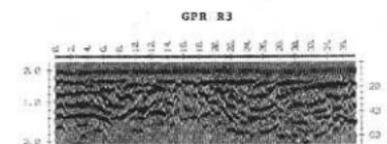
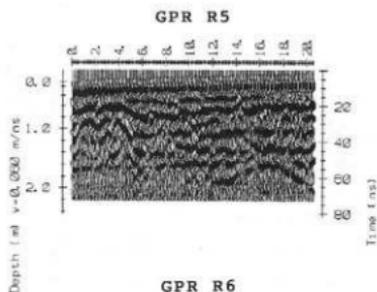
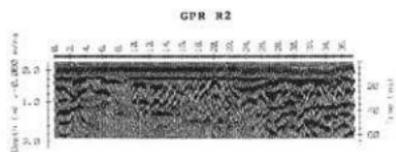
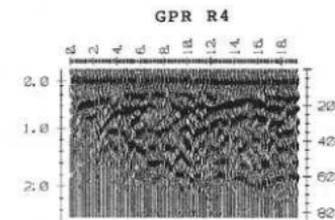
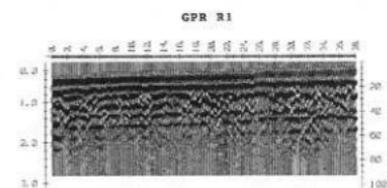
今回の測定機器は、電極間隔0.5 mであるから可探深度は0.5 m前後である。測定グリッドは、中央に畑境があり、畑ごとに耕作管理が異なり、含水量も変化している。また、耕作地は表土を移動させたり乱したりするので、測定の結果の解釈には注意を要する。測定結果解析図は、パターンプロットを図Ⅳ-22に、トレースプロットを図Ⅳ-23に示す。パターンプロットは、比抵抗値の高いほど濃黒に、低いほど淡泊に表示している。トレースプロットの波形は、比抵抗値の高低を表している。

記録図には、想定する円形の遺構は表示されていないが、比抵抗値の高い部分は、砂礫層の分布を示し、白い部分は粘性土の分布を示して、地表面下0.5 m前後の平面的土質分類が明瞭に把握できる。北側の一部と畑境に顕著な高比抵抗部分が見える。空中写真に発見されるソイルマークあるいはクロックマークと同じ位置である。

11. おわりに

考古学遺跡の物理探査を行った結果、東側半分の円墳の存在は、地下レーダの映像から、不明瞭ながら確認される。さらにグリッド内北東に小規模のマウンド型の異物が発見された。それは電気探査の結果からも照合できる。発掘後の検証探査では、明確に円墳の断面を捕えており、そのうえ、円墳の中央深部に異物を見付けた。地下レーダの放射電磁波パルスを、2種類の周波数を使って行い、確認することが重要である。

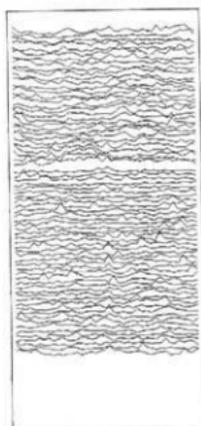
電気探査は、可探深度を増加させた方法を取れば、いっそう明確な平面探査結果が得られるであろう。検証探査は、今後の墳丘遺跡探査のモデル資料となり、重要なデータとなった。



図IV-22 地下レーダー記録解析図



図IV-23 パターンプロット図



図IV-24 トレースプロット図



探査風景（電磁探査）



探査風景（電気探査）

4 大師東丹保遺跡から産出した昆虫化石と古環境

愛知県立明和高等学校 / 森 勇 一

1. はじめに

昆虫の外骨格はキチン質で構成されており、死後土中に埋もれてからも腐ることなく保存される。また、昆虫は移動・跳躍に適した3対の脚と飛翔用の2対のはねを有し、環境変化に対する応答性がきわめて鋭敏な生物化石といえる。遺跡をめぐる古環境の復元にあって、昆虫化石が重要であるのはこのような理由による。先史～歴史時代における人間活動により、自然界に生息する生物の組成や個体数などが大きく変化したことが知られるようになり(森, 1997)、これらの消長をもとに環境変遷史を編むことが可能になりつつある。

小論では、山梨県中巨摩郡甲西町に位置する大師東丹保遺跡(I区)の遺物包含層中より得られた昆虫化石の分析結果に、珪藻分析の結果をふまえ、同遺跡周辺における古環境について述べる。

2. 試料および分析方法

昆虫分析を実施したのは、大師東丹保遺跡の弥生時代中期後半(山梨県埋蔵文化財センター, 1997)と考えられる第三面内の堆積物(試料1)、中世(13世紀後半～14世紀初頭)の第一面内の堆積物(試料2)、15世紀代の遺物を挟む土坑内堆積物(試料3)から得られた計3試料である。昆虫化石の抽出は、山梨県埋蔵文化財センターの現地スタッフにより、室内において主に水洗浮遊選別法によって実施されたものである。

昆虫化石の分析は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ同定し計数した。なお、ここに記した昆虫化石の点数はいずれも節片ないし破片数であり、生息していた昆虫の個体数ではない。したがって今回示した昆虫化石中には、種によって同一個体を重複計数している可能性も考えられる。検出された主な部位は、上翅・前胸背板・頭部・腹部腹板などであった。

3. 昆虫化石群集

産出した昆虫化石は、試料1が40点、試料2が63点、試料3が54点の計157点であった(表IV-24)。なお、出現化石のうち主なものについては、その顕微鏡写真を掲げた(PL-111・112)。

昆虫化石群集は、食植性昆虫(44.6%)を中心に、雑食性・食肉性および食糞性の地表性歩行虫(計29.3%)と、水生昆虫(22.9%)をまじえる昆虫組成であるといえる。なお、地表性歩行虫の中には、食糞性昆虫(8.9%)や、主に屍体・腐食物などに集まる食屍性昆虫(4.5%)が含有される。

種組成では、全試料を通じ食植性に主に果樹や畑作物・二次林の樹葉などを食するヒメコガネ *Anomala rufocuprea* を産出した。とくに、試料3では本分類群が12点認められ、試料全体の22.2%を占めた。また、同様の植物を侵害することが多いサクラコガネ属 *Anomala* sp. が3試料ともに確認され、ほかにスジコガネ亜科 *Rutelinae* も比較的多く認められた。

試料別にみると、試料1ではゲンゴロウ科 *Dytiscidae* (6点)、ゲンゴロウ *Cybister japonicus* (3点)、ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (4点)、コガムシ *Hydrochara libera* (2点)、セマルガムシ *Coelostoma stultum* (2点) など、水田をはじめ水深の浅い止水域に生息する水生昆虫が多く確認され、また、ヒメコガネやサクラコガネ属、コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda*、ハムシ科 *Chrysomelidae*、コメツキムシ科 *Elaterridae* などの食植性昆虫も多産した。なかでも山地の樹林に生活しコナラ・ヒサカキ・ツバキなどに多い(友国ほか, 1993) アカスジキンカメムシ *Poecilocolis lewisi* (3点)、山地のハルニレ・シラカンバ・ミズナラなどに認められる(友国ほか, 1993) ツノアオカメムシ *Pentatoma japonica* (1点) など、カメムシ目 *Hemiptera* が計6点産出したことが特筆される。

試料2では、試料1同様、ゲンゴロウ科(4点)、ガムシ科 *Hydrophillidae* (5点)、セマルガムシ(3点)

などの水生昆虫に加え、ゴミムシ科 Harpalidae (2点)、ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp. (4点)、アオゴミムシ属 *Chlaenius* sp. (3点)、アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger* (5点) などの地表性歩行虫の出現率が高い。これらにスジコガネ亜科 (5点)、サクラコガネ属 (5点)、ヒメコガネ (6点)、ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (4点) などの食葉性の食植性昆虫が随伴した。

試料3では、水生昆虫はまったく産出せず、人畜の獣糞に集まるエンマコガネ属 *Onthopagus* sp. (6点)、マグソコガネ *Aphodius rectus* (5点)、マグソコガネ属 *Aphodius* sp. (2点) などの食糞性昆虫を多産し、糞便や各種生活ゴミに集まる双翅目 *Diptera* の圃蝨が4点検出された。これに、地表性歩行虫やヒメコガネなどの食植性昆虫を随伴する群集組成であった。また、本試料には、アカマツ林に多いクロコガネ *Holotrichia kitoensis* が5点認められた。

4. 昆虫相から推定される古環境

昆虫化石の産出点数が少なく、その組成から大師東丹保遺跡周辺の古環境に関する正確な情報を引き出すことは困難であるが、分析試料中より見いだされた昆虫組成をもとに、弥生時代中期 (試料1)、中世 (13世紀後半～14世紀初頭; 試料2)、同じく中世 (15世紀) の土坑内堆積物 (試料3) より得られた分析結果をもとに、その古環境について述べる。

第1期 (弥生時代中期頃)

この時期の試料 (試料1) では、ゲンゴロウ・ガムシ・コガムシ・セマルガムシなどの水生昆虫が多産した。これらは、いずれも近現代の水田内に多数生息している水田指標昆虫であり、遺跡産では群馬県萩原団地遺跡 (森、1993)、静岡県池ヶ谷遺跡 (森ほか、1993)、同川合遺跡 (森、1995) などの弥生時代～江戸時代の水田層中より確認されている。その結果、弥生時代中期の頃、大師東丹保遺跡周辺に水田が存在したことが考えられる。このことは、主に鱗翅目の幼虫を捕食する食肉性のヤマトトクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* が、第三面中より検出されたことによっても示される。本種は、日本各地の水田層中より産出が確認され (森ほか、1993; 森、1995)、前述の水生昆虫同様、水田指標昆虫として知られる (森、1996a)。

なお、本層準にはヒメコガネ・スジコガネ亜科・サクラコガネ属などの二次林の樹葉や、果樹・畑作物などを加害する食植性昆虫が多数認められた。これらの種群の出現は、水田の畦畔付近にこのような植物が存在したか、水田近傍に人家などがありその周囲に畑作物が植栽されていたことが示すものと理解されるが、同時に産出したアカスジキンカメシヤツノアオカメシヤなどの山地性のカメシヤ目、同じく山地性のホソアカガネオサムシ *Carabus vanvolxemi* の存在を考慮すると、これらの食植性昆虫の大部分は強い水流によって水田内に搬入された「異地性化石」であると考えられる。

珪藻化石では、昆虫化石を産出した同一試料より、*Synedra ulna*, *Stauroneis phoenicenteron*, *Neidium iridis*, *Eunotia pectinaria*, *E. praerupta*, *Pinnularia microstauron* など、今日の水田内に生息する水田指標珪藻が優占するものの、異地性化石の可能性が高い破壊した珪藻殻片が多数検出され、昆虫化石群集によって示された結果を支持している。なお、弥生時代中期後半の頃、日本各地で河床の水位低下と河川の氾濫があったことが知られており (森、1996bほか)、大師東丹保遺跡で認められた水田指標昆虫に山地性の昆虫が随伴する混合群集は、このような時代背景を反映していることも考えられる。

第2期 (中世; 13世紀後半～14世紀初頭)

本層準においても、ガムシ科・ゲンゴロウ科などの食植性ないし食肉性の水生昆虫の産出点数が多く、これにアトボシアオゴミムシ・アオゴミムシ属などの地表性歩行虫が伴われた。前者は水田層の存在を強く示唆する昆虫であり、後者は人家周辺の攪乱地表面ないしは畑作地などに多い昆虫として知られる。両者の産出からは、大師東丹保遺跡周辺では自然改変の進行した水田地帯が想定され、周囲に人家や畑作地などが立地してい

たことが考えられる。随伴した食性昆虫は、第1期同様、後背地より出水などによって運搬されたことも考えられるが、産出昆虫に山地性のものが認められず、むしろ人里周辺に普遍的に生息する種群のみで構成されることから、産出昆虫の大半は遺跡付近に生息していたものであると考えられる。

大師東丹保遺跡より発見されたヒメコガネ・サクラコガネ属・ドウガネブイブイなどの食性の食性昆虫は、中世の頃より盛んになる山林開発と、これに伴って人間の居住域周辺に畑作物・果樹などが植栽されるようになったのを契機に大増殖したことが知られており（森、1994 a, 1996 c, 1997）、本遺跡から得られた昆虫群集もこの傾向を反映したものと考えられる。

第3期（中世の土坑内堆積物）

中世（15世紀）の土坑内の埋土とされる試料から、マグソコガネ・コマグソコガネなど複数種の食性昆虫、多数の食肉ないし雑食性の地表性歩行虫、およびヒメコガネ・サクラコガネ属をはじめ人里環境を特徴づける昆虫群集が見いだされた。

食性昆虫や雑食性ないし食肉性のゴミムシ類、および汚物や生活ゴミなどに集まるイエバエ科・クロバエ科などの双翅目は、これまで弥生時代では人口集中度の高い大集落の環濠や溝堆積物中（森、1994 b, 1996 d）、奈良・平安時代ではやはり人口密度が高かったと推定される官衙的な遺跡の井戸内堆積物（森、1994 c, 1995）より多産している。また、ヒメコガネなどの食性昆虫は日本各地の中世以降の地層中で顕著に増加することが知られている（森、1996 c, 1997）。このため、大師東丹保遺跡の土坑内より見いだされた昆虫群集は、人間の居住に伴う周辺地域の人為的攪乱の影響を反映したものと考えられる。なお、分析試料中より産出したヒメコガネやサクラコガネ属などの食性昆虫からは、遺跡周辺に人間が植栽したマメ科植物や、ブドウ・カキ・クリなどの果樹等が生育していたことを推定させる。また、クロコガネの産出からは、遺跡の周囲にアカマツ林が繁茂していたことが考えられる。

そして、エンマコガネ属・マグソコガネ・コマグソコガネ *Aphodius pusilus* などの食性昆虫やアトシヤオゴミムシ・ゴミムシ科など、今日の人家周辺に普通に認められる食性ないし雑食性の地表性歩行虫が発見されたことから、15世紀（室町時代）の頃、大師東丹保遺跡周辺では近現代の農村地帯に見るような人家と農耕地（畑作地？）が混在する人里生態系が成立していたものと考えられる。砂地をはじめ乾燥した地表面を好むハンミョウ *Cicindela chinensis japonica* の出現からは、大師東丹保遺跡付近では、森林伐採の進行した裸地的な景観が展開していたことが推定される。なお、昆虫分析にもとづくこのような推定は、ゴミムシ類や食性昆虫など人里昆虫を多産した同一土坑内より、*Pinnularia subcapitata*, *P. borearis*, *Gomphonema parvulum*, *Navicula pupula* などの人為度の高い攪乱環境を特徴づける陸生珪藻や汚濁性珪藻を多産することによっても示される。

5. まとめ

山梨県大師東丹保遺跡の先史～歴史時代の計3試料について昆虫化石を同定・分析し、その群集組成から当時の古環境を復元した。

弥生時代中期の分析試料では、ゲンゴロウ・ガムシ・セマルガムシなどの水生昆虫を多産し、周辺地域に水田が存在したことが考えられる。ツノアオカメムシ・アサジキカメムシなど山地性の食性昆虫の出現からは、大師東丹保遺跡の後背地にコナラ・ミズナラ・シラカンバなどからなる落葉広葉樹林が繁茂していたことが推定される。

中世では、水生昆虫のほか、人里周辺に生息する地表性歩行虫を多産し、水田地帯とその周囲に人為度の高い人里空間が存在したことが考えられる。やや時代が下った15世紀代とされる土坑内堆積物からは、複数種の食性昆虫、多数の食肉ないし雑食性の地表性歩行虫、およびヒメコガネ・サクラコガネ属をはじめ人里環境を特徴づける食性昆虫が見いだされた。この結果、遺跡の周りには近現代の農村地帯に見られるような人家と農耕地が混在する人里空間が展開し、環境汚染が進行していたと考えられる。

謝 辞

昆虫分析試料採取にあたり、以下の皆さんにお世話になった。記してお礼申しあげる。
保坂和博（山梨県埋蔵文化財センター）・新津 健（同）・田口明子（同）・小林健二（同）。

文 献

- 森 勇一（1993）：萩原団地遺跡から産した昆虫化石群集，萩原団地遺跡報告書—萩原団地造成工事に伴う高崎市萩原町字伊勢・字出慶寺地区の埋蔵文化財発掘調査報告書，山武考古学研究所，118—128。
- 森 勇一・木下智章・橋真美子・前田弘子・山田由美子（1993）：窪窪および昆虫化石群集から得られた静岡県・池ヶ谷遺跡の古環境変遷，静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書（第46集）池ヶ谷遺跡Ⅱ（自然科学編），静岡県埋蔵文化財調査研究所，133—200。
- 森 勇一（1994a）：昆虫化石による先史—歴史時代における古環境の変遷の復元，第四紀研究，33（5），331—349。
- 森 勇一（1994b）：都市型昆虫の起源—愛知県朝日遺跡における昆虫群集について—。特集・考古遺跡の昆虫遺体、昆虫と自然，29（8），ニューサイエンス社，4—12。
- 森 勇一（1994c）：石川県金沢市戸水C遺跡の井戸中から産した昆虫群集について，石川県立埋蔵文化財センター年報，14，石川県立埋蔵文化財センター，106—111。
- 森 勇一（1995）：静岡県川合遺跡（八反田地区）より得られた昆虫群集について，静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書（第63集）川合遺跡（八反田地区Ⅱ），静岡県埋蔵文化財調査研究所，327—329。
- 森 勇一（1996a）：稲作農耕と昆虫，季刊考古学第56号、特集・稲作の伝播と長江文明、雄山閣，59—63。
- 森 勇一（1996b）：昆虫および窪窪分析から得られた浜松市角江遺跡の古環境，静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書（第69集）角江遺跡，静岡県埋蔵文化財調査研究所，147—155。
- 森 勇一（1996c）：愛知県一宮市大毛沖遺跡から得られた昆虫群集について，愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第66集）大毛沖遺跡，愛知県埋蔵文化財センター，188—194。
- 森 勇一（1996d）：名古屋西志賀遺跡より得られた昆虫群集について，西志賀遺跡—発掘調査の概要—，名古屋見晴考古資料館，22—27。
- 森 勇一（1997）：虫が語る日本史—昆虫考古学の現場から，インセクトリウム，34（1）・34（2），18—23，10—17。
- 友国雅章・安永友秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫（1993）：日本原色カメムシ図鑑，全国農村教育協会，380p。
- 山梨県埋蔵文化財センター（1997）：山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第131集，大師東丹保遺跡Ⅰ区，77p。

表IV-25 大師東丹保遺跡から産出した昆虫化石

	和名	学名	試料1	試料2	試料3	計
水生	ゲンゴロウ科	Dytiscidae	6	4		10
	ゲンゴロウ	CybisterjaponicusSharp	3	1		4
	ガムシ科	Hydrophilidae	1	5		6
	ガムシ	HydrophilusacuminatusMotschulsky	4	2		6
	コガムシ	Hydrocharalibera (Sharp)	2	2		4
	ヒメガムシ	Sternolophusrufipes (Fabricius)	1			1
	セマルガムシ	Coelostomastultum (Walker)	2	3		5
地表性	ゴミムシ科	Harpalidae		2	5	7
	ツヤヒラタゴミムシ属	Synuchuspp.		4		4
	ヤマトトックリゴミムシ	LachnocrepisjaponicaBates	1	1		2
	アオゴミムシ属	Chlaeniusssp.		3		3
	アトボシアオゴミムシ	ChlaeniusnaevigerMorawitz		5	1	6
	ハンミョウ	CicindelachinensisjaponicaThunberg			3	3
	ホソアカガネオサムシ	CarabusvanvoixemiPutzeys	1			1
	ハネカクシ科	Staphylinidae	1	2	1	4
エンマムシ科	Histeridae			3	3	
食糞性	エンマコガネ属	Onthophaguspp.		1	5	6
	マグソコガネ属	Aphodiuspp.			2	2
	マグソコガネ	Ahpodiusrectus (Motschulsky)			5	5
	コマグソコガネ	Aphodiuspusilus (Herbst)			1	1
食植性	コガネムシ科	Scarabaeidae			3	3
	スジコガネ亜科	Rutelinae	2	5		7
	サクラコガネ属	Anomalasp.	2	5	2	9
	ヒメコガネ	AnomalarufocupreaMotschulsky	2	6	12	20
	ドウガネブイブイ	AnomaraacupreaHope		4		4
	コアオハナムグリ	Oxycetonajucunda (Faldermann)	2			2
	クロコガネ	HolotrichiakitoensisBrenske			5	5
	ハムシ科	Chrysomelidae	2	2	1	5
	コメツキムシ科	Elateridae	2	3		5
	ゾウムシ科	Curculionidae			1	1
	カメムシ目	Hemiptera	2	3		5
ツノアオカメムシ	PentatomajaponicaDistant	1			1	
アカスジキンカメムシ	PoecilocorislewisiiDistant	3			3	
その他	双翅目	Diptera			2	2
	イエバエ科	Muscidae			1	1
	クロバエ科	Calliphoridae			1	1
	計		40	63	54	157

5 大師東丹保遺跡Ⅳ区出土動物遺体

西本豊弘/姉崎智子

大師東丹保遺跡Ⅳ区からは、6種の哺乳類遺体が検出された。それらは、弥生時代と中世に属するものである。以下、時期ごとに簡単に説明を行なう。

1. 弥生時代

Z-86地点から、シカの頭蓋骨が1点出土した。

表Ⅳ-26 大師東丹保遺跡Ⅳ区出土動物遺体①

出土地点	種	部 位	左右	残存部位	数量	歯種	年齢	備考
4号木造墓中区	ウマ	椎骨		椎体	1			
4号木造墓中区	不明			骨片	1			
A-75	ヒト	遊離歯	R	下顎	1	M2	成人	
A-75	陸獣			骨片	1			
A-77	ウマ	中肋骨			1			
A-77	不明			骨片	2			
A-80	ウマ	遊離歯	R	上顎	1	P3		
B-80	ウマ	遊離歯	L	下顎	1	M2	成獣	
V-86	ウシ	頭蓋骨	R	後頭顆、関節結節	1			
W-84	ウシ	頭蓋骨		破片	1			
W-84	ウマ	基節骨			1			cut 噴痕
W-84	ウマ	遊離歯	R	下顎	1	M2		
W-84	ウマ	肋骨		破片	1			
W-84	シカ/イノシシ類	上腕骨	R	骨幹部破片	1			
W-84	不明			骨片	3			
W-84	陸獣			骨片	2			
W-85	イヌ	頭蓋骨		頭頂骨破片	1			
W-85	ウシ	寛骨	R	坐骨部・寛骨白部	1			
W-85	ウシ	遊離歯	L	上顎	1	P4	未萌出	
W-85	ウシ/ウマ	椎骨		破片	1			
W-85	ウマ	遊離歯		破片	1			
W-85	陸獣	頸椎		破片	1			
W-85	陸獣	椎骨		破片	1			
W-85	陸獣			骨片	1			
W-85	陸獣			骨片	1			
W-86	イヌ	寛骨	R	腸・坐骨部	1			
W-86	ウシ	頸椎		完存	1			
W-86	ウシ	頸椎		破片	1			
W-86	ウシ	大腿骨	L	骨幹部	1			cut
W-86	ウシ	中足骨	L	近位部-骨幹部	1			cut
W-86	ウシ	頭蓋骨	R	関節結節	1			
W-86	ウシ	遊離歯	L	下顎	1	M1	K-1成獣	
W-86	ウシ	遊離歯	L	上顎	1	P4	萌出開始	
W-86	ウシ	遊離歯	L	上顎	1	P3	萌出開始	
W-86	ウシ/ウマ	肋骨		骨幹部破片	1			cut
W-86	ウマ	肋骨	R	骨幹部-遠位部	1			
W-86	シカ?	横骨	R	近位部破片	1			
W-86	不明			骨片	1			焼
W-86	不明			骨片	1			
W-86	陸獣	寛骨		破片	1			
W-86	陸獣	椎骨		破片	1			
W-86	陸獣	椎骨		椎体	1			
W-86	陸獣	頭蓋骨		破片	2			
W-86	陸獣	肋骨		破片	1			
W-86	陸獣			骨片	1			
W-86	陸獣			骨片	1			
W-86	陸獣			骨片	1			
W-86	陸獣			骨片	1			
W-86	陸獣			骨片	2			
W-86	陸獣			骨片	1			
W-86	陸獣			骨片	4			
W-87	ウシ	中手・中足骨		遠位部	1			
W-87	ウシ/ウマ			骨片	1			

表Ⅳ-27 大師東丹保遺跡Ⅳ区出土動物遺体②

出土地点	種	部位	左右	残存部位	数量	歯種	年齢	備考
W-87	ウマ	末節骨			1			
W-87	ウマ	肋骨		破片	1			
W-87	陸獣	椎骨		破片	1			
W-87	陸獣	肋骨		破片	1			
W-90	ウマ	上腕骨	R	遠位部	1			
W-90	不明			骨片	1			
W-90	不明			骨片	1			
W-90	陸獣			骨片	1			
W-91	ウシ	頸椎		破片	1			
W-91	不明			骨片	2			
W-91	不明			骨片	1			
W-92	陸獣	肋骨		破片	2			
X-78	イヌ	中手・中足骨		骨幹部破片	1			
X-83	不明			骨片	2			
X-84	イノシシ類	遊離歯	R	上顎	1	M3		若獣
X-84	ウマ	基節骨			1			
X-84	ウマ	基節骨		破片	1			
X-84	ウマ	距骨	R		1			
X-84	ウマ	手根骨		破片	1			
X-84	ウマ	上腕骨		遠位部破片	1			
X-84	ウマ	大腿骨	L	近位部骨	1			
X-84	ウマ	大腿骨		骨幹部破片	1			
X-84	ウマ	中手・中足骨		遠位部破片	1			
X-84	ウマ	中手・中足骨		遠位部破片	1			
X-84	ウマ	中手・中足骨		骨幹部破片	1			
X-84	ウマ	中節骨			1			
X-84	ウマ	遊離歯	LR	上顎	1	L:I123P234M123 R:I123P23		成獣
X-84	ウマ	遊離歯	LR	下顎	1	L:I123P234M123 R:I123P234M123		成獣
X-84	陸獣			骨片	1			
X-89	ウマ	肩甲骨	L		1			
X-89	ウマ	中手骨	L	近位部一遠位部	1			cut
X-89	不明			骨片	2			
Y-77	陸獣			骨片	2			噛痕
Z-79	ウマ	大腿骨	R	骨幹部	1			
Z-80	ウシ/ウマ	大腿骨		骨幹部破片	1			
Z-80	ウマ	遊離歯	L	上顎	1	M2		成獣
Z-80	不明			骨片	1			
Z-82	ウマ	遊離歯	L	上顎	1	P4		成獣
Z-86	シカ	頭蓋骨		頭頂骨、角座、角	1			若?
Z-88	陸獣			骨片	1			
Z-89	不明			骨片	1			

* 歯種P:前臼歯、M:後臼歯、数字は歯の番号を示す

表Ⅳ-28 X-84地点出土ウマ歯計測値 (mm)

上顎 LR			L (I123P234M123) R (I123P23)			下顎 LR			L (I123P234M123) R (I123P234M123)		
	左	長	中央幅		左	長	前幅		左	長	前幅
	第2前臼歯	35.77	22.40		第2前臼歯	30.93	13.94		第2前臼歯	30.93	13.94
	第3前臼歯	27.20	25.25		第3前臼歯	26.87	15.44		第3前臼歯	26.87	15.44
	第4前臼歯	26.57	24.81		第4前臼歯	25.26	15.36		第4前臼歯	25.26	15.36
	第1後臼歯	23.46	23.40		第1後臼歯	23.11	14.10		第1後臼歯	23.11	14.10
	第2後臼歯	22.44	23.18		第2後臼歯	24.37	13.25		第2後臼歯	24.37	13.25
	第3後臼歯	28.53	21.16		第3後臼歯	30.31	12.36		第3後臼歯	30.31	12.36

2. 中世

鎌倉時代に帰属する層から、総数 107 点の動物遺体が検出され、そのうち 51 点を測定することができた。出土した動物遺体の大半は、家畜によって占められており、なかでもウマが最も多く、破片数にして 30 点、最小個体数にして 2 体分が検出された。X-84 地点からは、牡年のウマの上顎・下顎の遊離歯 1 体分がまとめて出土しており、一部、四肢骨をとまなうこから、一括して廃棄あるいは埋葬されたものであると考えられる。歯の大きさからすると、このウマは小型馬である。雌雄は不明である。

ウシは、破片数にして 14 点、最小個体数にして 2 体が出土した。若獣と成獣、各 1 体である。頭蓋骨破片および、遊離歯の出土が目立った。

この他には、イヌが 3 点（1 体）、イノシシ類の上顎右第 3 後臼歯が 1 点、およびヒトの下顎左第 2 臼歯破片が 1 点検出されたのみである。イヌに関しては、断片的な資料であったため、形質的特徴は把握できなかった。

IV まとめ

今回の調査によって確認された遺構と遺物は、大きく A 期～D 期の 4 時期に分類することができた。A 期は弥生時代後期、B 期は古墳時代前期末葉から中期初頭、C 期は鎌倉時代、そして D 期は明治時代を中心とした時期であり、低湿地における人々の様々な人々の営みが浮き彫りにされた。

1 調査の成果と課題

1) A 期の成果

弥生時代についてはⅣ区では遺構を検出することはできず、僅かな弥生時代後期の土器片と動・植物遺存体が出土したのみであった。土器は摩耗が激しく詳細は不明であり、動・植物遺体についてはシカの頭蓋骨 1 点とオニグルミやトチノキなどの種実がみられた。種実はいずれも果実が重要な食料となる種類であることから、当時の人々によって果実が食用に採取されていたと考えられよう。

2) B 期の成果

古墳時代については、予想もしなかった多大な成果を上げることができた。それは、甲府盆地の最低地である富士川右岸の沖積地の砂礫層下に埋没していた古墳が発見された点にある。これまで本地域の古墳としては台地上に立地する物見塚古墳などが知られており、これらの古墳との関わりをはじめ、甲府盆地における古墳時代の政治過程の解明に新たな問題を提起することとなった。また、古墳からは壺形埴輪が出土しており、県内で壺形埴輪をもつ甲斐箕子塚古墳などと合わせ、初現期の埴輪のあり方を探るデータを得ることができた。

3) C 期の成果

鎌倉時代ではⅡ区で確認された居住城（掘立柱建物跡・井戸跡など）とは相対的に生産城（水田跡・水路跡など）が検出され、低湿地での安定した生活を送るために水との宿命的な関わりを繰り広げた人々の生々しい生活ぶりが明らかにされた。また周辺地域に比して豊富な舶載陶磁器類や国産陶器類が出土しており、これらの様相からは上層階級が存在が荘厳させられる。今後はこの地が甲斐源氏一統の居館を定めた地域であることも考慮し、本遺跡の性格を検討していくと共に、本遺跡がどのような形で中世陶磁器における消費経済との関わりを持っていたのかを探っていきたい。さらに他の遺跡では鉄や木などの製品が朽ちてしまうことが多いのに対して本遺跡では低湿地という地理的条件により、中世の人々の息吹を伝えてくれる貴重な資料が数多く得られ、中世の民衆生活の営みはより具体的に解明されていくと思われる。

4) D期の成果

明治時代では暗渠が多数検出された。水との開いの歴史の長さが感じられる。

以上、今回の大師東丹保遺跡の発掘調査によって得られた成果を述べてきた。今後、これらの成果をもとに調査・研究を進め、具体化していきたい。

2 山梨県における埴輪の出現と展開

今回の大師東丹保遺跡の調査では、県内では3例目となる壺形埴輪を伴う古墳が確認された。ここでは、本県における大師東丹保古墳の位置づけを行うための、準備作業の一步として県内における埴輪の出現と展開を捉えてみたい。

埴輪編年の研究は、昭和53(1978)年、川西宏幸の論文が発表されるに及んで、今日的研究の指針が示された(川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号)。このような状況の中で、昭和55(1980)年、橋本博文により本県の円筒埴輪の大綱が提示された(橋本博文 1978 「甲斐の円筒埴輪」『丘陵』第8号)。この橋本の研究を受け、坂本美夫によっても検討が試みられている(坂本美夫 1981 「山梨県における五世紀後半代の埴輪」『甲斐考古』18-2)。

1) 埴輪の出現以前

埴輪出現以前の古墳としては笛吹川に沿う曾根丘陵上の小平沢古墳及び大丸山古墳があり、本県の出現期の古墳である。

小平沢古墳は県内唯一の前方後方墳で、全長約45mを測る。内部主体は木棺直葬か粘土槨と推定され、竪穴式石室が採用されていない点が注目される。葬送祭祀の形態は、後方部の墳頂よりS字状口縁台付甕の破片が検出されたのみで不明である。副葬品には勾玉の他、舶載斜縁二神二獣鏡1面があり、前方後方墳へのこの種の鏡の副葬は長野県弘法山古墳などの半円形獣鏡の副葬とあわせて前方後円墳体制に先行する現象ととらえられている。弘法山古墳とは埴輪を出土しない点でも共通する。

大丸山古墳は全長120m(ないし99m)の前方後円墳である。上部に竪穴式石室、下部に組合わせ式石棺をもつ内部主体の構造や三角縁神獣鏡をはじめとする副葬品などから畿内大和政権との強い結びつきがうかがえるが、埴輪は確認されていない。

これらの築造年代は、内部主体の構造および副葬品から小平沢古墳は4世紀中葉、大丸山古墳は4世紀後半と想定されている。

本県の出現期古墳が埴輪を樹立していないことは、甲府盆地南東部を形成する曾根丘陵上に分布し、この地に弥生時代終末に甲府盆地内で最も有力化した地域集団が形成したと考えられる上の平方形周溝墓群が存在し、これを在地の弥生時代から古墳時代にかけての社会発展の現象として評価されていることとは無関係ではないように思われる。

2) 初現期の埴輪

初現期の埴輪を出土する古墳は笛吹川水系の鏡子塚古墳、岡・鏡子塚古墳、丸山塚古墳、そして今回発見された富士川水系の大師東丹保古墳が挙げられる。

鏡子塚古墳は本県で最初に埴輪を樹立した古墳でかつ全長169mを測る最大規模の前方後円墳である。内部主体は後円部中央に竪穴式石室があり、後円部が3段築成、前方部が2段築成の墳丘には葺石が施され、段築テラス上に埴輪が樹立されていたと考えられている。埴輪は器台形円筒埴輪、普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、壺形埴輪、甕形埴輪がある。円筒埴輪の外周調整は2次タテハケを基調とし、A種ヨコハケが僅かに認められ

る。突帯は総て張りつけで、M字状ないし台形の突出度の大きいものと小さいものを基調に、断面が三角形気味で先端が尖る突出度の大きいもの、突出面に刻み目の施されたものも見られる。透孔は巴形、三角形、方形などがあり、一段に3孔以上配置するらしいが、その組み合わせは明確でない。壺形埴輪は、二重口縁壺の形態であり、外面調整は2次タテハケを基調とし、肩部にヨコハケも見られる。透孔は三巴が口縁部に4、円ないし巴形が胴上部に2、小型の巴形が胴下部に1箇所それぞれ見られる。圓形埴輪は調整等は円筒埴輪と同じである。これらの埴輪は黒斑をもつ破片の存在から野焼による焼成といえる。

岡・鏡子塚古墳は全長92mの前方後円墳である。内部主体は後円部墳頂に粘土塚があり、2段築成の墳丘には葺石が施され、周溝も確認されている。埴輪は器台形円筒埴輪、普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、壺形埴輪、器財埴輪がある。円筒埴輪は墳丘及び墳頂に、器財埴輪は後円部墳丘上に樹立されていたものと思われる。円筒埴輪は外面調整は2次タテハケを基調とし、僅かに縦方向のナデやA種ヨコハケが見られる。突帯は断面M字状を呈する突出度の比較的高いものを基調に、断面が台形を呈するものも僅かに見られる。透孔は巴形、長方形、それに三角形と思われるものが存在する。一段の孔数は明確ではないが、配列の組み合わせは、巴形のものも明確ではないが、長方形はそれだけの配列ではないかと思われる。朝顔形円筒埴輪は外面調整はナデだが部分的にハケメ痕が認められる。内面は綾線を境に上がヨコハケ、下が指頭によるナデがある。

器財埴輪はいずれも形態不明だが、断面三角形を呈する突帯を貼り付けたものや2本の突帯間に三角形と思われる沈線を描いたものがある。壺形埴輪は外面調整をヨコハケ、内面調整を指頭によるナデやオサエで部分的にヨコハケが見られる。透孔は巴形である。これらの埴輪は黒斑が見られ、野焼による焼成といえる。

丸山塚古墳は径72mの2段築成の円墳である。内部主体は墳頂部に竪穴式石室があり、一重する周溝が確認されているが、葺石は見られない。埴輪は器台形円筒埴輪、普通円筒埴輪、壺形埴輪がある。円筒埴輪の外面調整は2次タテハケを基調とし、内面調整はナデ・ヨコハケなどが見られる。突帯は断面M字状を呈する突出度の比較的高いものと断面台形を呈する突出度の比較的小さいものがある。透孔は巴形、三角形、方形などがあり、1段に3孔から4孔以上穿たれる。その組み合わせは同一種類のみが多いようである。器財埴輪は蓋と思われるものや凸帯を八の字状に貼り付けた形態の不明なものがある。これらの埴輪は黒斑が見られ、野焼による焼成といえる。

今回調査された本古墳については、前述してきたとおりであり、径約33mの円墳と思われる。内部主体は墳丘のほとんどを富士川の支流の滝沢川の氾濫により削平されたため確認されていない。墳頂部に僅かに遺存する葺石がみられるが周溝は確認されていない。埴輪は壺形埴輪があり、墳丘裾部をめぐっていたと考えられる。壺形埴輪は、二重口縁壺の形態で、外面ハケ、内面ナデによる調整が施されている。底部には焼成前の穿孔があり、すべて同一規格の壺形を呈している。

これらの築造年代は、副葬品などから鏡子塚古墳、岡・鏡子塚古墳は4世紀後半、丸山塚古墳、大師東丹保古墳は5世紀初頭と想定されている。

以上のように、本県の初現期の埴輪は、4世紀後半から5世紀初頭にかけて主要水系単位に出現している。その形態的、技法的特徴は、円筒埴輪ではおよそ西暦年Ⅱ期に認定され、全国的に見ても古式の部類に入る様相を残している。すなわち、鏡子塚古墳、岡・鏡子塚古墳などの器台形円筒埴輪にみられる巴形、方形の透孔、外面2次調整タテハケ、突出度の強い断面M字形の突帯及び黒斑が認められる等の諸要素をもっていることである。これらと系譜的連繋をもつ群馬県朝子塚古墳や静岡県磐田市松林山古墳を含め、墳形、副葬品、埴輪等から東日本の古式古墳としては畿内的色彩の濃いと考えられるこれらの古墳へ、いち早く埴輪を樹立する背景には、畿内大和政権の大王権確立・伸長期の東海・中部・北関東への東国経営のための拠点確保政策の一端を察することもできよう。また、鏡子塚古墳と岡・鏡子塚古墳の酷似する円筒埴輪の樹立は、両被葬者の連合、及び畿内との関連を盆地内部に表示する上で有効な手だてであろうと考えられている。さらに、丸山古墳の円筒埴輪も、鏡子塚古墳との主・従関係の中で樹立を認められたことと考えられている。壺形埴輪のみを配する例に関しては、大師東丹保古墳以後、継続性は認められず、5世紀初頭のこの時期のみに看取される

古式な特徴としてとらえられる。この埴輪受容期において、円筒埴輪を主体とする埴輪祭祀と壺形埴輪を主体とする埴輪祭祀の相違が何を反映するかが問題となるが、おそらくは首長の系譜あるいは畿内中核部との関係における格差の反映ではないかと思われる。

3) 5世紀代(竈窯焼成技法の導入期)

本県においては川西編年Ⅲ期に認定される埴輪を樹立する古墳はいまだ知られていない。金川扇状地の扇端で、笛吹川左岸の自然堤防上に立地する亀甲塚古墳が5世紀前半に位置づけられるが、埴輪は存在していない。甲府盆地ではこの時期に一旦埴輪祭祀の途切れる現象があったことが指摘されている。これは首長墓の規模の縮小化とも合わせて、甲府盆地中核の在地支配の危機感を露呈するものと考えられている。

5世紀中葉のブランクを経て、再び本県において埴輪が生産されるのは、この地に竈窯焼成の技術がもたらされる川西編年Ⅳ期段階である。この5世紀後半代の埴輪をもつ古墳としては、狐塚古墳、大塚古墳、王塚古墳、表門神社古墳が知られる。

狐塚古墳は、全長26mの帆立貝式古墳で、内部主体は明かではない。埴輪は普通円筒埴輪と形象埴輪と思われる破片がある。普通円筒埴輪は直径20～30cmのずん胴気味のもので、くずれ気味ではあるが概して台形に近く突出度の低い突帯と円形の透孔をもつものである。外面調整は一次タテハケ後、二次B種ヨコハケを施すものが多く認められる。焼成は良好であり、黒斑は認められない。形象埴輪は存在が推定されるだけで、形状は不明である。

大塚古墳は、全長約60mの帆立貝式古墳で、内部主体は後円部及び前方部に竪穴式石室があり、外部施設として葺石、埴輪が確認されている。埴輪は普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、形象埴輪が確認されている。円筒埴輪は、外面調整が一次ナメハケないしタテハケ後、二次B種ヨコハケを施している。内面調整はナデが多用される。突帯は突出度の低い断面三角形気味のもので多く、台形のものもはだれている。透孔は円孔もしくは楕円形であり、黒斑は確認されていない。形象埴輪には人物埴輪、器形埴輪が確認されているが、その形状を明らかにするまでには至っていない。

王塚古墳は、全長61.2mの帆立貝式古墳で、内部主体は竪穴式石室であり、県内唯一の合掌形石室である。埴輪は後円部墳丘上に樹立され、普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、形象埴輪が確認されている。円筒埴輪は、外面調整が一次タテハケが主体を占め、僅かに二次B種ヨコハケが施されるものが認められる。また、一次ヘラナデもみられる。内面調整はタテハケないしハケが多用され、ヘラナデも見られる。突帯は断面三角形と台形があり、透孔は円孔もしくは楕円形である。焼成は良好で、黒斑は確認されていない。形象埴輪には人物埴輪、馬形埴輪が確認されているが、現存せず形状等は明らかになっていない。

表門神社古墳は、全長62mの帆立貝式古墳で、内部主体は竪穴式石室である。葺石、周溝については確認されていない。埴輪は普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、形象埴輪が確認されている。円筒埴輪は、外面調整が一次タテハケのみで二次B種ヨコハケは見られない。また一次ヘラナデも確認されている。内面調整はナデが主体で、ハケも部分的にみられる。突帯は突出度の低い台形に近いものであり、透孔は円孔と推定される。形象埴輪は蓋形埴輪、盾形埴輪、家形埴輪などが確認され、県内において最も豊富な種類をもつものである。

これらの古墳の年代は石室の形態、副葬品、埴輪等から5世紀後半から6世紀初頭に想定されている。この時期は本県における初期首長墓が形成された中道地域のほか、盆地縁辺部のほぼ全域に古墳の築造が拡散し、4世紀前葉から続いた中道首長層の地位が丸山塚古墳被葬者を最後に低下し、ここに大きな政治的変動がみられる。

川西編年Ⅲ期の埴輪をみない本県のⅣ期の埴輪の出現は、竈窯焼成という技術の受容とが期を一にしたことを示している。これは円筒埴輪の外面調整における二次B種ヨコハケ技法の採用が畿内の埴輪工人の関与をうかがわせ、人物埴輪、馬形埴輪等の形象埴輪の出現など、新たな埴輪祭祀を外から受け入れた状況と対応するものである。本県では、この新来のB種ヨコハケの技法は狐塚古墳、大塚古墳、王塚古墳の3例を数えるに

過ぎず、5世紀末から6世紀初頭に位置づけられる表門神社古墳では認められなくなり、広く普及することなく短命に終わり、6世紀以降では全く認められなく状況である。

4) 6世紀代(埴輪樹立の普及)

この時期の埴輪を樹立する古墳は、莊塚古墳、秋山熊野神社古墳、オエン塚古墳、加牟塚古墳、稲荷塚古墳が挙げられる。

莊塚古墳は、墳形、規模等は不明であり、内部主体は横穴式石室と推定される。埴輪は、普通円筒埴輪がみられる。外面調整は一次タテハケのみであり、二次調整を欠いている。突帯は低い台形であり、透孔は円形である。

秋山熊野神社古墳は、墳形等は不明である。埴輪は、普通円筒埴輪が見られる。外面調整は一次タテハケのみであり、二次調整を欠いている。突帯は低い台形であり、透孔は円形である。

オエン塚古墳は円墳である。本古墳出土と伝えられる埴輪として普通円筒埴輪がある。この埴輪の外面調整は一次タテハケを施し、突帯は断面台形がだれて三角形に近いもので、透孔は不明である。

加牟塚古墳は、径40mの大型の円墳で、内部主体は横穴式石室である。石室規模は純塚古墳について本県2位の規模を誇る。墳丘は2段築成で、外部施設として葺石が認められ、埴輪の樹立が明かとなっている。埴輪は普通円筒埴輪、形象埴輪が確認されている。円筒埴輪は外面調整が一次タテハケを施し、突帯は断面台形を呈し、透孔は不明である。形象埴輪は大刀形埴輪、盾形埴輪、馬形埴輪等が確認されている。

これらの古墳の築造年代は、副葬品、埴輪等により莊塚古墳、秋山熊野神社古墳、オエン塚古墳は6世紀前半に、加牟塚古墳は6世紀後半と想定されている。

6世紀前半から中葉にかけては、初期横穴式石室が採用され、莊塚古墳、さらに加牟塚古墳、など新たな首長層が台頭し、埴輪もこれらの古墳に受容されていった。

以上のように、本県における6世紀代の埴輪には円筒埴輪と形象埴輪が確認されている。全体の形態のわかるものがなく、断片的な資料からの情報ではあるが、主な特徴としては、円形の透孔が主体となり、突帯は明確な二次調整が省略され、密窯焼成によることがとらえられる。

5) 埴輪の消滅

本県における埴輪の終末は、6世紀末葉頃に位置づけられる。この終末期の埴輪の類例としては稲荷塚古墳があげられる。稲荷塚古墳は径20mほどの円墳で、内部主体は横穴式石室である。埴輪は形象埴輪が確認されているが、円筒埴輪は明かではない。形象埴輪は、人物埴輪の天冠部、顔面部、胸部、手部や鞍形埴輪などが見られる。これらの形象埴輪の造形は、東国のものとの類似性が指摘されている。6世紀中葉に埴輪祭祀が衰退した畿内の状況からも埴輪祭祀の変容が示唆される。

以上、埴輪の出現と展開について、おおまかに捉えてみた。今後は壺形埴輪を配する古墳の意義を追求し、位置づけを明確にする中で本県における古墳時代の政治過程の解明を行ってきたい。

3 中世の大師東丹保遺跡周辺

大師東丹保遺跡は甲西町に所在することは今までも触れてきた。本遺跡周辺は、平安時代より大井荘と呼ばれる荘園に属していた。大井荘とは、甲西町～増穂町最勝寺～鯉沢町～市川大門町黒沢を囲むようにあったとされる(注1)。古代においては、大井荘は「倭名類聚抄」に出てくる巨麻郡大井郷の地に発達した荘園である。大井荘の成立は不明であるが、史料上の初見は藤原宗忠の日記「中右記」元永2年(1119)2月23日条で、「荘名大井 本名布施」とある。秋山敬氏によると、大井荘は元永2年をそれほど溯らない時期に布施荘から分離、成立したとされる(注2)。この時代の荘園領主は源基俊だった。

また、身延山久遠寺に現在所蔵されている洪鐘には、弘安6年(1283)8月の日付が入っており、そこには「甲斐国大井庄最勝寺之洪鐘」(注3)とある。銘にある最勝寺は南巨摩郡増穂町に現存している。この鐘は最初、最勝寺に所蔵されていたが、戦国時代、織田信長が甲州を攻める際に、陣鐘として使用したために久遠寺にあるという(注4)。ちょうど、鐘自体は大師東丹保遺跡が営まれていた時期のものである。

次に大井荘が史料上に現れるのは、大月市花井寺所蔵の「平塚岡大般若經典書」である。「奉造立畢、檀那益子四郎左衛門入道行仏聖定阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、於但甲斐国大井庄南条内黒沢村内久治名造之學、徳治二年太才丁未正月廿七日」(注5)と記載されている。書かれている「黒沢村」は現在の西八代郡市川大門町黒沢に比定されている。黒沢は大井荘と接していた市川荘と境を示す地名だといわれる(注6)。つまり、市川大門町黒沢までが、大井荘だったとすることができる。

大井荘が史料上最後に出てくるのは、永禄8年(1565)の南明寺所蔵の古文書であり、当寺は増穂町小林に所在している。そこには「甲州大井庄内補陀山南明之事」(注7)と書かれている。永禄年間といえば、武田信玄の絶頂期であり、荘園制は崩れたとされている時代においても、「大井庄」と出てくることは興味深い。一つの地域として大井荘が残っていて記載されたのか、それとも、地域のまとまりはなくなっているのにもかかわらず、昔から伝統的に呼ばれていたために書かれたのかは検討を要するであろう。また、「甲斐国寺記」には、天正11年(1583)の徳川家康南明寺宛書翰安堵状には「大窪内六貫文、内田分吞貫文、南条内四貫文、市川新所三貫文、田嶋内容貫文等」とあり、内田はどこのことかよくわからないが、その他の地名はすべては大井荘内の地名である。だから、戦国時代になっても大井荘のつながりはすべて切れた訳ではなかったといえよう。

では、大井荘はだれが支配をしていたかということになると、前述のように『中右記』の記載から大井荘の荘園領主は源基俊だったことはわかる。そして、藤原宗忠の四男宗重の女房に譲与された(注8)。これ以降は、文献史料に出て来ないので、荘園領主がだれであったかは不明である。荘園領主は都におり、実際の支配は在地領主に任されていた。西郡地域で在地領主といえば、甲斐源氏の一族であった。たとえば、若草町加賀美にある法善寺は加賀美遠光の居館跡と伝えられ、櫛形町小笠原は小笠原氏発祥の地との伝承がある(注9)。大井荘は地域的にみて、加賀美遠光の支配下にあったと推測され、大井荘は北条・南条にわかれており、北条は甲西町に当たり、それより南を南条としたといわれる(注10)。また、建治2年(1276)の日蓮書状に「大井荘司入道」の名があり、橋大井氏と考えられている(注11)。橋大井氏は、鯉沢町にある蓮華寺が居館跡であり、居館が大井荘南部に存在することから、大井氏は南条についての支配権があったとされる(注12)。

さて、大師東丹保遺跡のある大師周辺について考えていくことにする。『甲斐国志』の江原村の浅間明神の項に「本村ヨリ以北ハ原七郷トテ絶エテ水気ナキ所ナリ、亦タ此レヨリ以南ノ地モ灌溉ノ水ニ乏シクシテ此ノ池水ヲ持ツモノ七八村アリ、宮沢・清水・古市場・大師・戸田・田島等楚レナリ、昔時ハ此等ノ諸村ノ鎮守ナリシガ今ハ江原・鮎沢二村ノ産神トス、祭祀ノ時ハ下流ノ諸村皆ナ初穂ヲ獻ジテ来リ拜ス」(注13)とある。ここから、昔は大師を含む村々は水不足に悩んでおり、江原にある浅間明神の池の水を灌溉用水として利用していた。そして、これらの村は、浅間明神が鎮守であったという。『甲斐国志』の成立した江戸時代後期には、江原の浅間明神を産土神とするのは江原村・鮎沢村の二村になったが、江戸時代になっても大師を含む村々は浅間明神の祭礼のときには初穂を献上しているという。

では、江原浅間明神が大師などの村の鎮守であったのはいつ頃のことであつたらうか。『甲斐国志』の古市場の若宮明神には、「本村及び荊沢・大師・清水・戸田・宮沢・和泉七村ノ鎮守ナリト云フ」(注14)とあることから、当時、大師村などが若宮明神を鎮守として仰いでいたということがわかる。両神社を鎮守とされていた村々を比べると、後者に荊沢が加わり、田島と和泉が入り替わっている。和泉村は水が豊富にあることが、村名の由来となっている(注15)。つまり、和泉村は江原浅間明神を鎮守とする必要がなかったといえる。一方、大師村は元来南北大師に別れており、荊沢は戦国時代末期、もともと北大師の一部であり、北大師の今市場が古市場から独立したものだという(注16)。そして、大師村にあたる地域は南大師と呼ばれていた。荊沢という地名は、戦国時代末期になってから現れ、江戸時代宿場となって栄えたのである。荊沢が江原浅間明神を鎮守としている村に入っていないということは、戦国時代以降に、若宮明神が周辺の村の鎮守となっていたのではなからうか。つまり、大師村が若宮明神を鎮守としたのは、戦国時代より後だとはいえる。また、平山優氏によると、「鎌倉末期から南北朝期に形成され、(中略)戦国期に全盛期を迎える郷村において、荘園制的枠組みの名残は、郷鎮守の祭祀形態の中に痕跡をとどめ、むしろ毎年実施される祭祀によって、それが根強く残る役割を果たしていた」(注17)という。江原浅間明神が大師村の鎮守であったのは、鎌倉時代までは測れるというよいのではないか。そうすると、大師を含む甲西町北部の地域の中世は水が出ない土地柄であったことになる。

一方、本遺跡Ⅳ区からは、大量の畜串・モモなどの種子・獣骨などが出土し、本遺跡Ⅱ区からは水辺祭祀遺構が検出されている。そこから、大量の畜串・モモなどの種子・獣骨など雨乞の祭祀に使用された遺物が出土しており、雨乞いの儀式が行われたという。文献からすると、中世には本遺跡周辺は水が不足する地域であった(注18)。だから、雨乞いの儀式に関する遺構が検出されてもおかしくない。大師東丹保遺跡の調査結果と文献に書かれていることが符合してくる。

もう一度整理すると、中世、大師周辺地域は、水不足に悩まされており、水田経営をするには、江原にある浅間明神の水を使用し、そして雨乞いの儀式をやらねばならないような地域であったといえる。

(注)

- (1) 秋山敬「大井荘について」(『甲斐路』37、1980)
- (2) 注(1)論文
- (3) 『甲西町誌』1973、203頁
- (4) 『増穂町誌』1977、316～317頁
- (5) 『増穂町誌』311頁
- (6) 注(1)論文
- (7) 『新編甲州古文書』1539号文書
- (8) 注(1)論文
- (9) 秋山敬「小笠原牧と小笠原荘」(『甲斐路』42、1981)
- (10) 注(1)論文
- (11) 『増穂町誌』299～300頁
- (12) 注(1)論文
- (13) 『大日本地誌体系 甲斐国志』第3巻(雄山閣、1967)117頁
- (14) 同上119頁
- (15) 『角川日本地名大辞典 19 山梨』(角川書店、1984)125～126頁
- (16) 同上674頁
- (17) 平山優「中世荘園と郷村祭祀」(『戦国大名領国の基礎構造』校倉書房、1999)347頁
- (18) 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第86集『大師東丹保』1994

別表 I 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代
1	金山塚古墳	古墳
2	おつき穴古墳	古墳
3	古壘敷遺跡	平安
4	八幡第1遺跡	古墳・奈良・平安
5	八幡第2遺跡	平安
6	村北第1遺跡	古墳・平安
7	今井前第1遺跡	平安
8	今井前第2遺跡	平安
9	今井前第3遺跡	平安
10	今井前第5遺跡	古墳・平安
11	村北第2遺跡	古墳・平安
12	村北第3遺跡	古墳・奈良・平安
13	八幡下遺跡	古墳・平安
14	上ノ切第1遺跡	平安
15	上ノ切第2遺跡	平安
16	上ノ切第3遺跡	古墳・平安
17	中ノ切遺跡	平安
18	今井前第4遺跡	弥生・古墳・平安
19	今井前第6遺跡	古墳
20	寺部村第3遺跡	平安
21	寺部村第2遺跡	弥生・古墳
22	寺部村第7遺跡	平安
23	寺部村第1遺跡	平安
24	下ノ切第1遺跡	平安
25	中西第1遺跡	弥生・平安
26	下ノ切第2遺跡	奈良・平安
27	反田第1遺跡	平安
28	中西第2遺跡	弥生・古墳・平安
29	村附第9遺跡	平安
30	村附第6遺跡	古墳・平安
31	村附第5遺跡	古墳
32	村附第4遺跡	古墳
33	村附第12遺跡	弥生・古墳・平安
34	村附第11遺跡	弥生・古墳
35	村附第13遺跡	古墳
36	村附第8遺跡	平安
37	中西第3遺跡	古墳・平安
38	反田第2遺跡	平安
39	反田第3遺跡	平安
40	御崎遺跡	平安
41	南前第1遺跡	平安
42	南前第5遺跡	平安
43	寺部村第10遺跡	弥生・古墳・平安
44	角力場第1遺跡	平安
45	角力場第2遺跡	古墳・平安
46	角力場第4遺跡	弥生・古墳・平安
47	角力場第3遺跡	平安
48	林間第2遺跡	古墳・平安
49	林間第3遺跡	弥生・古墳
50	新居道ノ上遺跡	平安
51	新居道ノ下遺跡	古墳・奈良・平安
52	宮前遺跡	平安
53	伊勢前遺跡	平安
54	南前第2遺跡	古墳・平安
55	南前第3遺跡	弥生・平安
56	南前第4遺跡	古墳・平安
57	八丁第1遺跡	平安
58	八丁第2遺跡	平安

番号	遺跡名	時代
59	古河原遺跡	平安
60	大津麦第1遺跡	平安
61	倉中第1遺跡	平安
62	大津麦第2遺跡	平安
63	大津麦第3遺跡	平安
64	倉中第2遺跡	平安
65	倉中第3遺跡	平安
66	倉中第4遺跡	平安
67	蔵ノ西遺跡	平安
68	鎮守遺跡	平安
69	西前田遺跡	平安
70	流間遺跡	平安
71	二本柳遺跡	弥生・古墳・中世・近世
72	前田道下遺跡	平安
73	向第1遺跡	平安
74	向第2遺跡	平安
75	清住遺跡	弥生・古墳
76	満呂木道下遺跡	平安
77	満呂木道下第4遺跡	平安
78	河原添遺跡	平安
79	満呂木道下第2遺跡	平安
80	満呂木道下第3遺跡	平安
81	満呂木道下第5遺跡	平安
82	北林第1遺跡	古墳
83	北林第2遺跡	平安
84	北林第3遺跡	平安
85	満呂木道下第7遺跡	古墳
86	新田遺跡	古墳
87	前原B遺跡	平安・中世
88	前原A遺跡	中世
89	前原C遺跡	中世
90	前原D遺跡	中世
91	前原E遺跡	中世
92	吉田中畑E遺跡	中世
93	前原H遺跡	奈良・平安・中世
94	前原G遺跡	中世
95	村前東A遺跡	弥生・古墳・平安・近世
96	村前東C遺跡	平安
97	村東D遺跡	中世・近世
98	村東C遺跡	奈良・平安・中世
99	吉田中畑D遺跡	奈良・平安・中世
100	吉田中畑C遺跡	弥生・古墳・平安・中世
101	吉田中畑B遺跡	奈良・平安・中世
102	吉田中畑A遺跡	奈良・平安・中世
103	北原B遺跡	縄文・平安
104	北原A遺跡	縄文・近世
105	大草A遺跡	縄文・中世
106	大草B遺跡	縄文・奈良・平安
107	豊小學校遺跡	弥生・古墳
108	十五所遺跡	弥生・平安
109	十五所古壘敷遺跡	中世・近世
110	西原A遺跡	中世・近世
111	西原B遺跡	中世・近世
112	七ッ打D遺跡	中世・近世
113	赤面C遺跡	中世・近世
114	七ッ打C遺跡	近世
115	七ッ打B遺跡	中世・近世
116	七ッ打A遺跡	中世

番号	遺跡名	時代
117	水面B遺跡	中世
118	桑原遺跡	古墳・近世
119	赤面B遺跡	中世・近世
120	赤面A遺跡	中世・近世
121	水面A遺跡	奈良・平安・中世
122	飯作A遺跡	中世・近世
123	飯作B遺跡	中世
124	宮原遺跡	弥生・平安
125	東畑A遺跡	中世
126	東畑B遺跡	平安
127	東畑D遺跡	中世・近世
128	東畑C遺跡	平安・中世・近世
129	下新井A遺跡	中世・近世
130	下新井B遺跡	平安
131	下新井F遺跡	平安・中世
132	下新井E遺跡	中世
133	下新井C遺跡	平安・中世・近世
134	下新井D遺跡	中世・近世
135	八反畑遺跡	平安・中世
136	雨ヶ久保遺跡	近世
137	往還東A遺跡	弥生
138	往還東B遺跡	近世
139	往還東C遺跡	中世
140	八田畑遺跡	近世
141	藤原遺跡	近世
142	西原遺跡	近世
143	北原A遺跡	縄文・平安・中世
144	北原B遺跡	縄文・中世
145	曲輪田遺跡	縄文・平安・中世・近世
146	北原C遺跡	縄文
147	井誌A遺跡	奈良・平安
148	井誌B遺跡	平安
149	井誌C遺跡	平安・中世
150	井誌D遺跡	平安・中世
151	桃園井誌遺跡	中世
152	西田A遺跡	平安・中世
153	西田B遺跡	平安・中世
154	西田C遺跡	平安・中世
155	西田D遺跡	平安
156	西田E遺跡	平安・中世
157	西田F遺跡	縄文・弥生・平安・中世
158	八増A遺跡	平安・中世
159	八増B遺跡	平安・中世
160	八増C遺跡	平安・中世
161	上の山A遺跡	縄文
162	上手河原A遺跡	平安
163	上手河原B遺跡	中世
164	上手河原C遺跡	平安・中世
165	上手河原D遺跡	中世
166	上手河原E遺跡	弥生・平安
167	上手河原F遺跡	平安
168	神明B遺跡	平安・中世
169	葛澤沢A遺跡	平安
170	葛澤沢B遺跡	弥生
171	北峯A遺跡	縄文・弥生
172	北峯B遺跡	縄文・平安・近世
173	北峯C遺跡	弥生・平安・中世・近世
174	神明A遺跡	縄文・平安・中世・近世

別表 I 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代
175	神明C遺跡	縄文・弥生・平安・中世
176	丸山A遺跡	弥生
177	丸山B遺跡	縄文・弥生
178	丸山C遺跡	弥生
179	丸山D遺跡	弥生・奈良・平安
180	丸山E遺跡	中世
181	北新居A遺跡	縄文・弥生
182	北新居B遺跡	縄文・弥生・中世
183	上の山B遺跡	奈良・平安
184	無名墳	古墳
185	御崎古墳	古墳
186	御崎神社横遺跡	縄文・中世
187	無名墳	古墳
188	田頭A遺跡	縄文・平安・中世
199	田頭B遺跡	縄文・平安
190	伝脚院原A遺跡	古墳・平安・中世
191	伝脚院原B遺跡	縄文・平安・中世・近世
192	留坪遺跡	縄文・平安・中世・近世
193	打起遺跡	中世・近世
194	掘尻遺跡	近世
195	曾根遺跡	縄文・弥生・古墳
196	小清水遺跡	古墳・中世・近世
197	平岡農村公園遺跡	平安・中世
198	御手作遺跡	縄文・弥生・古墳・中世
199	前田遺跡	縄文・弥生・近世
200	久保田遺跡	縄文・古墳・中世
201	中畑遺跡	縄文・古墳・平安・中世
202	東原A遺跡	縄文・古墳・平安・中世
203	長田口遺跡	縄文・古墳・平安・中世
204	長田A遺跡	縄文・古墳・平安・中世
205	新居田A遺跡	縄文・弥生・中世
206	東原B遺跡	縄文・弥生・中世
207	長田B遺跡	古墳・奈良・平安・近世
208	六科丘遺跡	弥生・古墳
209	六科丘古墳	古墳
210	新居田B遺跡	縄文・平安
211	石原田遺跡	縄文
212	清水A遺跡	縄文・弥生・中世
213	清水B遺跡	縄文・弥生
214	清水C遺跡	弥生・平安
215	一の出し提	近世
216	一の出し遺跡	平安・中世
217	柿平A遺跡	縄文・弥生・平安・中世
218	柿平B遺跡	縄文・弥生・平安・中世
219	柿平D遺跡	平安・中世・近世
220	柿平C遺跡	平安
221	柿平E遺跡	近世
222	善徳院横遺跡	古墳・平安
223	辻遺跡	縄文・弥生・古墳・平安
224	坂下遺跡	縄文・古墳・平安
225	御所庭西A遺跡	中世
226	御所庭西B遺跡	平安・中世
227	水上遺跡	平安
228	東村遺跡	平安・中世
229	東出口遺跡	縄文・平安・近世
230	山寺西畑遺跡	平安・中世
231	八幡壠遺跡	平安
232	宝伝遺跡	平安・中世

番号	遺跡名	時代
233	下南田B遺跡	弥生・平安
234	下南田A遺跡	平安・中世
235	宝珠寺西遺跡	縄文・弥生・中世
236	下南田C遺跡	近世
237	下屋敷遺跡	平安
238	狐塚古墳	古墳
239	狐塚A遺跡	縄文・中世
240	富士塚古墳	古墳
241	久保遺跡	中世
242	狐塚B遺跡	縄文・平安・中世
243	狐塚C遺跡	平安
244	鉾師屋古墳	古墳
245	横道F遺跡	平安
246	川上道下遺跡	縄文・平安・中世
247	ヅ木遺跡	縄文・奈良・平安
248	鉾師屋遺跡	縄文
249	川上道下遺跡	縄文・平安
250	横道D遺跡	縄文・弥生
251	横道下B遺跡	平安
252	横道C遺跡	中世
253	横道A遺跡	縄文・弥生・中世
254	横道B遺跡	縄文・弥生
255	下市之善大畑遺跡	縄文・中世
256	下市之善大畑C遺跡	中世
257	下市之善大畑B遺跡	縄文
258	下市之善大畑遺跡	縄文・弥生・中世
259	内久根遺跡	弥生
260	物見塚古墳	古墳
261	上野山遺跡	縄文・弥生
262	榊城跡	中世
263	上野大畑A遺跡	弥生・中世
264	西畑E遺跡	縄文・平安・中世
265	西畑D遺跡	縄文・平安・中世
266	西畑B遺跡	平安・中世・近世
267	西畑A遺跡	中世・近世
268	山道添C遺跡	縄文・中世・近世
269	西畑C遺跡	中世
270	桑木原B遺跡	平安・中世
271	蔵木原C遺跡	中世
272	西畑F遺跡	縄文・中世・近世
273	上野大畑B遺跡	弥生・中世
274	かに原遺跡	縄文・弥生・中世
275	東久保遺跡	平安
276	古屋敷遺跡	縄文・弥生・古墳・平安
277	東田遺跡	平安・中世
278	桑木原D遺跡	平安・中世
279	桑木原A遺跡	縄文・平安・中世
280	山道添B遺跡	平安・中世
281	山道添A遺跡	中世・近世
282	山道添D遺跡	中世・近世
283	下杉本C遺跡	奈良・平安・近世
284	下杉本B遺跡	平安
285	下杉本A遺跡	縄文・弥生・中世
286	上杉本B遺跡	縄文・中世
287	上杉本A遺跡	縄文・弥生・平安
288	中河原遺跡	平安
289	上ノ原遺跡	縄文・弥生
290	御前山遺跡	弥生

番号	遺跡名	時代
291	住村古墳	古墳
292	住村遺跡	弥生
293	上村古墳	古墳
294	坂上遺跡	弥生・古墳
295	後田遺跡	弥生・古墳
296	昼喰場遺跡	縄文・弥生・古墳
297	御崎前古墳	古墳
298	御崎古墳群	古墳
299	下宮地遺跡	弥生・古墳
300	久保沢遺跡	弥生・古墳
301	點沢遺跡	古墳
302	向河原遺跡	弥生・中世・近世
303	油田遺跡	弥生・古墳・平安
304	中川田遺跡	平安・中世・近世
305	大師東丹保遺跡	縄文・弥生・中世
306	宮沢中村遺跡	中世・近世
307	清水遺跡	弥生・中世
308	吉古遺跡	弥生
309	上ノ東遺跡	弥生
310	上ノ東古墳	古墳
311	丸山塚古墳	古墳
312	北沢遺跡	縄文・弥生
313	熊野神社遺跡	縄文
314	角屋敷遺跡	縄文・弥生
315	大明神塚古墳	古墳
316	竹重遺跡	弥生・古墳
317	北原遺跡	縄文・古墳
318	北山遺跡	縄文・古墳
319	法華塚古墳	古墳
320	藤塚古墳	古墳
321	狐塚古墳	古墳
322	上平遺跡	縄文・弥生・古墳
323	二十三夜塚古墳	古墳
324	塚穴古墳	古墳
325	大明神遺跡	縄文・古墳
326	安清の池遺跡	弥生・古墳
327	長沢平池遺跡	弥生・古墳
328	長沢長池遺跡	弥生・古墳
329	大町遺跡	弥生・古墳
330	青柳遺跡	弥生・古墳
331	町屋口遺跡	中世・近世
332	藤田池遺跡	中世・近世
333	平林大平遺跡	縄文・平安
334	中尾田遺跡	縄文・弥生
335	広見遺跡	弥生・古墳
336	西の入遺跡	縄文・弥生・古墳
337	大畑田遺跡	縄文・弥生・古墳
338	鎌塚古墳	古墳
339	塚穴古墳	古墳
340	無名墳	古墳
341	大塚古墳	古墳
342	無名墳	古墳
343	馬門古墳	古墳
344	大法師A遺跡	中世・近世
345	天戸瓦窯跡	近世
346	鎌沢河岸跡	近世・近代

■土坑 (SK)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SK01	2.04	1.66	70	古墳	

■古墳 (SZ)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SZ01	33.3	(16.5)	90	古墳	

■土器集中区 (SR)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SR01	2.0	1.5	—	古墳	
SR02	0.7	0.6	—	古墳	
SR03	2.7	1.4	—	古墳	
SR04	7.2	3.4	—	古墳	

■木器集中区

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
01	5.5	2.9	—	鎌倉	
02	3.9	2.4	—	鎌倉	
03	2.2	2.0	—	鎌倉	

■杭列 (SA)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SA01	(8.0)	—	—	鎌倉	
SA02	(19.9)	—	—	鎌倉	
SA03	(26.0)	—	—	鎌倉	そだ木を伴う
SA04	(3.5)	—	—	鎌倉	
SA05	(3.5)	—	—	鎌倉	
SA06	(5.0)	—	—	鎌倉	
SA07	(9.0)	—	—	鎌倉	
SA08	26.6	—	—	鎌倉	
SA09	(14.0)	—	—	鎌倉	
SA10	(6.2)	—	—	鎌倉	
SA11	(32.0)	—	—	鎌倉	
SA12	(19.6)	—	—	鎌倉	
SA13	10.0	—	—	鎌倉	1号水路に伴う
SA14	(7.6)	—	—	鎌倉	1号水路に伴う
SA15	(8.4)	—	—	鎌倉	1号水路に伴う

■水路 (SX)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
01	(19.0)	1.0	18	鎌倉	杭列13・14・15号に伴う

■水田 (ST)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
ST01	10	—	16	鎌倉	畦畔の一部が残存する
ST02	9	—	24	鎌倉	畦畔の一部が残存する

■溝状遺構 (SD)

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SD01	(83.0)	0.3	20	鎌倉	
SD02	(34.4)	0.4	10	鎌倉	
SD03	(27.0)	0.2	13	鎌倉	
SD04	(6.5)	0.6	20	鎌倉	
SD05	(4.0)	0.4	15	鎌倉	
SD06	(5.2)	0.4	18	鎌倉	

■暗渠

遺構	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
01	(35.0)	0.4	8	明治	石白が使用されている
02	(30.0)	0.6	17	明治	
03	(1.6)	0.4	—	明治	
04	(4.0)	0.5	6	明治	
05	(5.0)	0.4	5	明治	
06	(2.8)	0.5	15	明治	
07	(5.2)	0.5	10	明治	
08	(2.4)	0.7	—	明治	竹が使用されている
09	(13.2)	1.0	—	明治	
10	(1.2)	0.3	—	明治	

別表Ⅲ 遺物一覽表【土器・陶磁器】

図版番号	時期	種別	法量(cm)			出土地点		登録番号	備考	
			口径	底径	器高	層位	遺構			
1	古墳	土師器蓋				19	SK01	14793		
2	古墳	土師器台付甕				19	SK01	14792		
3	古墳	土師器蓋		8.5		17	SR01	10742	他	
4	古墳	土師器蓋		(7.4)		17	SR02	11418	他	
5	古墳	土師器蓋	18.6	10.9	34.8	17	SR03	10669	他	
6	古墳	土師器小型甕	11.3	3.6	14.3	17	SR03	10851	他	
7	古墳	土師器小型甕	8.9		11.2	17	SR03	11204	他	
8	古墳	土師器高坏	15.8	8.2	11.0	17	SR03	10817	他	
9	古墳	土師器高坏	22.0	14.8	17.0	17	SR03	30035	他	
10	古墳	土師器高坏	19.8	14.4	16.3	17	SR03	30002	他	
11	古墳	土師器小型甕	11.2			17	SR03	11572	他	
12	古墳	土師器高坏	20.2	13.8	14.6	17-18	SR04	15532	他	
13	古墳	土師器高坏	19.6	14.4	12.0	17-18	SR04	11702	他	
14	古墳	土師器高坏	17.9	13.4	12.8	17-18	SR04	11541	他	
15	古墳	土師器高坏	17.4	14.6	13.2	17-18	SR04	11363	他	
16	古墳	土師器高坏	18.3			17-18	SR04	11270	他	
17	古墳	土師器高坏	16.4	13.6	11.7	17-18	SR04	12736	他	
18	古墳	土師器高坏	16.0	14.0	12.4	17	SR04	11564	他	
259	古墳	土師器S字埴輪	(16.6)			6	古墳埴輪部	(X-79)	3173他	
260	古墳	土師器S字埴輪	(18.4)			6	古墳埴輪部	(X-79)	3095	
261	古墳	土師器埴輪	(14.6)			6	古墳埴輪部	(W-87)	3571他	
262	古墳	土師器埴輪	(17.4)			6	古墳埴輪部	(Y-80)	3552	
263	古墳	土師器台付甕				8	古墳埴輪部	(X-80)	30237	
264	古墳	土師器台付甕				6	古墳埴輪部	(W-82)	3971	
265	古墳	土師器台付甕				6	古墳埴輪部	(Y-80)	3439	
266	古墳	土師器高坏				6	古墳埴輪部	(Y-80)	14893	
267	古墳	土師器高坏				6	古墳埴輪部	(W-81)	3633	
268	古墳	土師器高坏		(6.2)		6	古墳埴輪部	(W-81)	3424	
269	古墳	土師器高坏				18	古墳埴輪部	(W-84)	30136	
270	古墳	土師器高坏				18	古墳埴輪部	(X-83)	14237	
271	古墳	土師器蓋	(10.1)			19	古墳埴輪部	(X-80)	14794	
272	古墳	土師器蓋		(5.0)		19	古墳埴輪部	(X-82)	14832	
273	古墳	土師器台付甕		(10.0)		19	古墳埴輪部	(X-80)	14803	
274	古墳	土師器蓋		(7.0)		19	古墳埴輪部	(X-82)	14833	
275	古墳	土師器蓋		(6.2)		19	古墳埴輪部	(W-83)	14836	
276	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(X-79)	3730	
277	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-82)	14883	
278	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-81)	3134	
279	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(Y-80)	3307	
280	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-81)	3136	
281	古墳	土師器蓋				19	古墳埴輪部	(V-83)	14882	
282	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-82)	3588	
283	古墳	土師器蓋				19	古墳埴輪部	(W-81)	14839	
284	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-81)	3121	
285	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-81)	14241	
286	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(X-79)	710	
287	古墳	土師器蓋				18	古墳埴輪部	(Y-78)	10279	
288	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(X-81)	3560	
289	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(X-81)	3142	
290	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(X-81)	3562	
291	古墳	土師器蓋				6	古墳埴輪部	(W-80)	3221	
292	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(W-82)	3521	
293	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-79)	3170	
294	古墳	土師器S字埴輪				19	古墳埴輪部	(X-80)	14806	
295	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3308	
296	古墳	土師器S字埴輪				19	古墳埴輪部	(X-80)	14804	
297	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-79)	3208	
298	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(W-82)	3570	
299	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3216	
300	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3392	
301	古墳	土師器S字埴輪				18	古墳埴輪部	(Y-83)	13329	
302	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3389	
303	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3391	
304	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-79)	3098	
305	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-79)	3097	
306	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-79)	6145	
307	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(Y-80)	3443	
308	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3232	
309	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3452	
310	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3391	
311	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	14797	
312	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-80)	3328	
313	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(X-79)	9401	
314	古墳	土師器S字埴輪				19	古墳埴輪部	(X-82)	14834	
315	古墳	土師器S字埴輪				6	古墳埴輪部	(W-82)	3528	
316	古墳	土師器蓋	(22.2)			13	第1面遺構外	(Z-90)	2062	他
317	古墳	土師器蓋				13	第1面遺構外	(B-79)	860	他
318	古墳	土師器台付甕		(8.8)		13	第1面遺構外	(Z-81)	449	
319	古墳	土師器台付甕		(8.8)		13	第1面遺構外	(W-85)	2312	
320	古墳	土師器台付甕				13	第1面遺構外	(A-86)	144	他

別表Ⅲ 遺物一覧表【土器・陶磁器】

図版番号	時期	種別	法 量 (cm)			出土地点		登録番号	備考	
			口径	底径	高さ	層位	遺構			
321	平安	土師青土器				13	第1面遺構外	Z-81	2190	内面黒色処理
322	平安	土師青土器		10.2		13	第1面遺構外	Z-81	392	
323	古墳	土師青土器	(12.1)			15	遺物包含層	Z-86	5467	
324	古墳	土師青土器	(15.4)			15	遺物包含層	X-85	8866他	
325	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-76	9389	
326	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-86	8826他	
327	古墳	土師青土器		(7.0)		15	遺物包含層	A-78	8761	
328	古墳	土師青土器		(11.2)		15	遺物包含層	Y-89	5814	
329	古墳	土師青土器	(19.2)			15	遺物包含層	A-74	5094	
330	古墳	土師青土器		6.7		15	遺物包含層	C-75	9153	
331	古墳	土師青土器		4.4		15	遺物包含層	Y-86	6025	
332	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Z-79	一括	
333	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-86	8849	
334	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-86	8843	
335	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-91	5922他	
336	古墳	土師青土器		(6.8)		15	遺物包含層	X-76	9116他	
337	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Z-78	8964	
338	古墳	土師青土器		(13.6)		15	遺物包含層	Z-78	5234	
339	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	A-86	5628	
340	古墳	土師青土器	(16.6)			17	第2面遺構外	Z-84	12697	
341	古墳	土師青土器	(18.8)			17	第2面遺構外	W-86	12699他	
342	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-84	12717	
343	古墳	土師青土器	(17.8)			17	第2面遺構外	Z-84	12695他	
344	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-81	一括	
345	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-81	一括	
346	古墳	土師青土器		6.0		17	第2面遺構外	A-84	13099	
347	古墳	土師青土器		(7.2)		17	第2面遺構外	Y-84	11707	
348	古墳	土師青土器		(7.6)		17	第2面遺構外	W-86	12554他	
349	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-79	13403他	
350	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Y-81	6068	
351	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-83	30157	
352	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-77	一括	
353	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-91	5920	
354	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-88	5321他	
355	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-90	2783他	
356	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Z-84	285	
357	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-89	4485他	
358	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	5813	
359	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	5799	
360	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-77	657	
361	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	5806	
362	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	5791	
363	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	5798他	
364	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Z-85	13092	
365	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	1759	
366	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-77	一括	
367	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-76	15022	
368	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-89	5778	
369	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-76	9372	
370	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	B-75	1349	
371	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-87	2844他	
372	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-87	2843	
373	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Y-81	14642	
374	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-86	2810	
375	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	W-77	一括	
376	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	Z-78	14586	
377	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	X-77	9331	
378	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	X-81	4166	
379	古墳	土師青土器				15	遺物包含層	X-81	723	
380	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	B-82	12918	
381	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-81	一括	
382	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	B-74	1436	
383	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-81	一括	
384	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-80	14418	
385	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-80	12830	
386	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-83	13075	
387	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	X-85	11904	
388	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	W-86	8449	
389	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Z-81	一括	
390	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	X-77	5054	
391	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	W-86	12569	
392	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-83	13045	
393	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	B-82	12906	
394	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-82	12449	
395	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	B-82	12906他	
396	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	Y-84	11705	
397	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-79	13405	
398	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	B-82	12885	
399	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	A-79	13408	
400	古墳	土師青土器				17	第2面遺構外	W-86	4537	

別表Ⅲ 遺物一覽表【土器・陶磁器】

図版番号	時期	種別	法量 (cm)			層位	出土地点	登録番号	備考
			口径	底径	高さ				
401	古墳	土師器 埴輪 文字瓦				17	第2面遺構外 (A-79)	13438	
402	古墳	土師器 埴輪 文字瓦				17	第2面遺構外 (A-83)	12497	
403	古墳	土師器 埴輪 文字瓦				17	第2面遺構外 (B-82)	12982	
404	古墳	土師器 埴輪 文字瓦				17	第2面遺構外 (B-81)	5388他	
405	古墳	土師器 埴輪 文字瓦				17	第2面遺構外 (A-79)	13413	
406	古代	須恵系 埴輪	(7.8)			13	第1面遺構外 (Y-91)	1905	
407	古代	須恵系 埴輪	(10.8)			13	第1面遺構外 (Z-84)	283	
408	古代	須恵系 埴輪	(8.6)			17	第2面遺構外 (A-82)	12465他	
409	古代	須恵系 埴輪	(14.7)			13	第1面遺構外 (Y-86)	28	
410	古代	須恵系 埴輪	(6.4)			13	第1面遺構外 (X-86)	118	
411	古代	須恵系 埴輪	(4.8)			13	第1面遺構外 (Z-87)	137	
412	古代	須恵系 埴輪	(5.4)			13	第1面遺構外 (W-87)	98	
413	古代	須恵系 埴輪	(7.2)			13	第1面遺構外 (W-82)	474	
414	古代	須恵系 埴輪	(10.0)			13	第1面遺構外 (X-90)	1819	
415	古代	須恵系 埴輪	(11.2)			13	第1面遺構外 (B-77)	1137	
416	古代	須恵系 埴輪	(6.4)			13	第1面遺構外 (X-77)	647	
417	古代	須恵系 埴輪	(10.0)			15	遺物包含層 (Z-81)	10592	
418	古代	須恵系 埴輪	(11.0)			15	遺物包含層 (W-85)	8202	
419	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (A-76)	8663	
420	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (W-85)	7759	
421	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (W-83)	一括	
422	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (X-85)	8142	
423	古代	須恵系 埴輪	(7.8)			15	遺物包含層 (W-86)	8833	
424	古代	須恵系 埴輪	(5.0)			15	遺物包含層 (X-85)	8149	
425	古代	須恵系 埴輪	(16.0)			15	遺物包含層 (X-W-85)	8124他	
426	古代	須恵系 埴輪	(14.0)			15	遺物包含層 (Z-82)	9541	
427	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (Y-79)	10465	
428	古代	須恵系 埴輪	(6.0)			15	遺物包含層 (X-77)	9419	
429	古代	須恵系 埴輪	(5.0)			15	遺物包含層 (Z-78)	5201	
430	古代	須恵系 埴輪	(8.0)			15	遺物包含層 (Z-82)	9570	
431	古代	須恵系 埴輪	(5.0)			15	遺物包含層 (Z-78)	5233他	
432	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (W-86)	8833	
433	古代	須恵系 埴輪				15	遺物包含層 (Z-82)	9554	
434	古代	須恵系 埴輪	(10.4)	5.2	1.7	15	遺物包含層 (W-90)	5736	
435	鎌倉	磁器 青磁 碗	(15.6)			13	第1面遺構外 (C-75)	3246	
436	鎌倉	磁器 青磁 碗	(15.4)			13	第1面遺構外 (A-86)	210	
437	鎌倉	磁器 青磁 碗	(16.6)			13	第1面遺構外 (Z-84)	2036	
438	鎌倉	磁器 青磁 碗	(13.0)			13	第1面遺構外 (Z-91)	1984	
439	鎌倉	磁器 青磁 碗				13	第1面遺構外 (Z-77)	1742	
440	鎌倉	磁器 青磁 碗				13	第1面遺構外 (A-80)	2194	
441	鎌倉	磁器 青磁 碗	3.8			13	第1面遺構外 (Z-87)	120他	
442	鎌倉	磁器 青磁 碗	6.2			13	第1面遺構外 (W-88)	4569	
443	鎌倉	磁器 青磁 碗	(5.0)			13	第1面遺構外 (W-90)	4820	
444	鎌倉	磁器 青磁 碗	(18.0)			15	遺物包含層 (B-81)	5391	
445	鎌倉	磁器 青磁 碗	(15.2)			15	遺物包含層 (X-78)	8531	
446	鎌倉	磁器 青磁 碗	(14.6)			15	遺物包含層 (W-91)	5662	
447	鎌倉	磁器 青磁 碗	(17.0)			15	遺物包含層 (A-86)	5443	
448	鎌倉	磁器 青磁 碗	(16.0)			15	遺物包含層 (W-86)	8287	
449	鎌倉	磁器 青磁 碗	(15.0)			15	遺物包含層 (Y-86)	6023	
450	鎌倉	磁器 青磁 碗	(9.6)			15	遺物包含層 (A-80)	5270	
451	鎌倉	磁器 青磁 碗	(6.0)			15	遺物包含層 (Y-86)	6027	
452	鎌倉	磁器 青磁 碗	(8.6)			15	遺物包含層 (A-75)	5155	
453	鎌倉	磁器 青磁 碗	(16.0)			15	遺物包含層 (W-86)	7702	
454	鎌倉	磁器 青磁 碗	(4.4)			15	遺物包含層 (Z-79)	5261	
455	鎌倉	磁器 青磁 碗				13	第1面遺構外 (B-80)	2011	損傷
456	鎌倉	磁器 青磁 碗				15	遺物包含層 (W-91)	5677	損傷
457	鎌倉	磁器 青磁 碗	(8.4)			15	遺物包含層 (A-80)	5447	損傷
458	鎌倉	磁器 青磁 碗				13	第1面遺構外 (W-W-90)	5291他	損傷
459	鎌倉	磁器 青磁 碗				15	遺物包含層 (X-W-85)	8143他	損傷
460	鎌倉	磁器 青磁 碗				13	第1面遺構外 (W-85)	4274	常清
461	鎌倉	磁器 青磁 碗	(34.0)			13	第1面遺構外 (A-83)	2677他	常清
462	鎌倉	磁器 青磁 碗				13	第1面遺構外 (B-75)	1266	常清
463	鎌倉	磁器 青磁 碗	(19.8)			13	第1面遺構外 (Z-89)	2777	常清
464	鎌倉	磁器 青磁 碗	(25.6)			13	第1面遺構外 (A-85-A)	1971他	常清
465	鎌倉	磁器 青磁 碗	(31.6)			13	第1面遺構外 (Z-82)	2162	常清
466	鎌倉	磁器 青磁 碗	(10.6)			15	遺物包含層 (Y-77)	7113	常清
467	鎌倉	磁器 青磁 碗				15	遺物包含層 (Y-85-X)	8559他	常清
468	鎌倉	磁器 青磁 碗	(38.6)			15	遺物包含層 (Z-82)	9569	常清
469	鎌倉	磁器 青磁 碗	(34.2)			15	遺物包含層 (A-78)	7502	常清
470	鎌倉	磁器 青磁 碗				15	遺物包含層 (A-80)	5439	常清
471	鎌倉	磁器 青磁 碗	(18.0)			15	遺物包含層 (A-76)	9393	常清
472	鎌倉	磁器 青磁 碗	(25.4)	(14.4)	10.2	15	遺物包含層 (Z-77)	5182	常清
473	鎌倉	磁器 青磁 碗				15	遺物包含層 (Z-77)	5172	常清
474	鎌倉	磁器 青磁 碗	(18.0)			15	遺物包含層 (X-86)	6361他	産地不明
475	古代	須恵系 埴輪				13	第1面遺構外 (Z-83)	150	
476	古代	須恵系 埴輪				13	第1面遺構外 (Y-85)	3988	
477	古代	須恵系 埴輪				13	第1面遺構外 (A-81)	1064	
478	古代	須恵系 埴輪				13	第1面遺構外 (B-81)	1316	
479	古代	須恵系 埴輪				13	第1面遺構外 (Z-79)	4229	
480	古代	須恵系 埴輪				13	第1面遺構外 (W-86)	1896	

別表Ⅲ 遺物一覽表【土器・陶磁器】

図版番号	時期	種別	流量 (cm)			層位	出土地点	登録番号	備考
			口径	底径	器高				
481	古代	須臾器				13	第1面遺構外 (A-75)	1684	
482	古代	須臾器				15	遺物包含層 (W-86)	8313	柄
483	古代	須臾器				13	第1面遺構外 (X-88)	37	
484	古代	須臾器				15	遺物包含層 (A-77)	7643	
485	古代	須臾器				15	遺物包含層 (X-84)	11681	
486	古代	須臾器				15	遺物包含層 (Y-86)	8236	
487	古代	須臾器				15	遺物包含層 (W-91)	5666	船
488	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (Y-79)	6088	常滑
489	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (A-80)	4004	常滑
490	鎌倉	須臾器				15	遺物包含層 (Y-78)	7218	常滑
491	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (W-89)	1861	常滑
492	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (Y-76)	2414	常滑
493	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (W-89)	1862	常滑
494	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (W-89)	1864	常滑
495	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (Z-75)	527	常滑
496	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (W-85)	4273	常滑
497	鎌倉	須臾器				15	遺物包含層 (Z-76)	7337	常滑
498	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (Z-91)	4808	常滑
499	鎌倉	須臾器				13	第1面遺構外 (Z-89)	133	常滑
500	鎌倉	土師器	(22.4)			13	第1面遺構外 (V-88)	15	
501	鎌倉	土師器				13	第1面遺構外 (A-81)	2657	
502	鎌倉	土師器				13	第1面遺構外 (A-81)	452	
503	鎌倉	土師器				13	第1面遺構外 (A-75)	1581	
504	鎌倉	土師器				13	合1面遺構外 (A-80)	2195	
505	鎌倉	土師器	(5.0)			13	第1面遺構外 (X-85)	3673	
506	鎌倉	土師器	4.6			13	第1面遺構外 (X-78)	943	
507	鎌倉	土師器	6.0			13	第1面遺構外 (A-81)	1048	
508	鎌倉	土師器	(26.2)			15	遺物包含層 (W-90)	5737	
509	鎌倉	土師器				15	遺物包含層 (Y-77)	7121	
510	鎌倉	土師器	(8.4)	(5.6)	2.6	15	遺物包含層 (W-86)	6789	
511	鎌倉	土師器	8.4	5.6	1.7	15	遺物包含層 (B-81)	12871	
512	鎌倉	土師器	(13.8)	(6.4)	4.2	15	遺物包含層 (W-77)	一括	
513	鎌倉	土師器	(10.7)			15	遺物包含層 (Y-78)	7045	
514	鎌倉	土師器	(9.8)	(6.0)	2.1	15	遺物包含層 (A-78)	5216	柄
515	鎌倉	土師器		(6.4)		15	遺物包含層 (W-91)	5895	
516	鎌倉	土師器		(7.4)		15	遺物包含層 (W-84)	8011	
517	鎌倉	土師器		(9.0)		15	遺物包含層 (W-84)	7928	
518	鎌倉	土師器		4.6		15	遺物包含層 (Z-86)	5499	
519	鎌倉	土師器		(6.2)		15	遺物包含層 (X-86)	8014	
520	鎌倉	土師器		(4.4)		15	遺物包含層 (X-86)	5968	
521	鎌倉	土師器		(4.6)		15	遺物包含層 (X-85)	8138	
522	鎌倉	土師器		(6.0)		15	遺物包含層 (W-85)	7847	
523	鎌倉	土師器		8.6		15	遺物包含層 (W-77)	一括	
524	鎌倉	土師器				15	遺物包含層 (W-85)	6780	
524	鎌倉	土師器		(5.9)		15	遺物包含層 (W-84)	8650	
525	鎌倉	土師器		(5.1)		15	遺物包含層 (Y-85)	8627	
526	鎌倉	土師器				15	遺物包含層 (W-84)	13160	
527	鎌倉	土師器				15	遺物包含層 (Y-86)	8335	
528	鎌倉	土師器				15	遺物包含層 (W-84)	13340	
529	鎌倉	土師器		(5.6)		15	遺物包含層 (Z-78)	5248	
530	鎌倉	土師器				13	第1面遺構外 (W-86)	1919	實瀬戸
531	近世	陶磁器	(17.8)			13	第1面遺構外 (W-91)	3043	實瀬戸
532	近世	陶磁器	(11.6)			13	第1面遺構外 (Z-87)	2714	實瀬戸
533	近世	陶磁器		(10.0)		13	第1面遺構外 (W-86)	1918	實瀬戸
534	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (W-89)	2426	實瀬戸
535	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (Z-83)	310	實瀬戸
536	近世	陶磁器		(5.2)		13	第1面遺構外 (A-80)	806	實瀬戸
537	近世	陶磁器		(5.0)		13	第1面遺構外 (Z-97)	1708	實瀬戸
538	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (X-90)	1816	實瀬戸
539	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (A-79)	911	實瀬戸
540	近世	陶磁器		(9.8)		15	遺物包含層 (W-90)	5732	瀬戸
541	近世	陶磁器		(7.4)		15	遺物包含層 (X-77)	9353	瀬戸
542	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (Z-87)	3862	瀬戸
543	近世	陶磁器	(31.0)			13	第1面遺構外 (1号跡裏)	5712	瀬戸
544	近世	陶磁器	(13.8)			13	第1面遺構外 (Z-87)	121	瀬戸
545	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (Z-77)	1630	瀬戸
546	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (W-89)	256	瀬戸
547	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (A-79)	846	
548	近世	陶磁器	(11.4)			13	第1面遺構外 (A-84)	294	
549	近世	陶磁器	(12.0)			13	第1面遺構外 (A-80)	1159	
550	近世	陶磁器				13	第1面遺構外 (Z-77)	1741	
551	近世	陶磁器		3.7		13	第1面遺構外 (Z-85)	245	
552	近世	陶磁器	(25.2)			13	第1面遺構外 (A-77)	1710	本業
553	近世	陶磁器	(7.6)			13	第1面遺構外 (Z-85)	250	肥前
554	近世	陶磁器		4.0		13	第1面遺構外 (W-87)	1894	肥前
555	近世	陶磁器		(8.4)		13	第1面遺構外 (Z-86)	232	産地不明
556	近世	陶磁器		(7.6)		13	第1面遺構外 (B-80)	1268	産地不明
557	近世	陶磁器		(9.5)		13	第1面遺構外 (A-81)	443	産地不明
558	近世	陶磁器		(33.3)		13	第1面遺構外 (Y-78)	2970	

別表Ⅲ 遺物一覧表【壺形埴輪】

図版番号	部位				法 量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
	口	頸	胴	底	口径	底径	器高	層位	遺構		
19	○	○	○	○	(31.4)	8.8	(54.0)	17	A地点	9881他	
20	○	○	○	○		10.6		17	B地点	10046他	
21	○	○	○	○	(33.6)	11.8	(54.6)	17	C地点	10176他	
22	○	○	○	○		11.0		15-17	D地点	9494他	
23	○	○	○	○				15	A地点	8520	
24	○	○	○	○				17	A地点	6087	
25	○	○	○	○				18	A地点	W-77-Ⅷ	
26	○	○	○	○				18	A地点	7370	
27	○	○	○	○				18	A地点	W-77-Ⅷ	
28	○	○	○	○				17	A地点	9869	
29	○	○	○	○				18	A地点	W-77-Ⅷ	
30	○	○	○	○				15	A地点	9328	
31	○	○	○	○				17	A地点	9857	
32	○	○	○	○				17	A地点	9886	
33	○	○	○	○				18	A地点	9409	
34	○	○	○	○				17	A地点	W-77-Ⅷ	
35	○	○	○	○				17	A地点	W-77-Ⅷ	
36	○	○	○	○				15	A地点	5053	
37	○	○	○	○				17	A地点	W-77-Ⅷ	
38	○	○	○	○				17	A地点	W-77-Ⅷ	
39	○	○	○	○				15	A地点	8518	
40	○	○	○	○				15	A地点	7257	
41	○	○	○	○				17	A地点	15055	
42	○	○	○	○				15	A地点	7230	
43	○	○	○	○				15	A地点	8436	
44	○	○	○	○				18	B地点	7017	
45	○	○	○	○				18	B地点	7040	
46	○	○	○	○				18	B地点	10286	
47	○	○	○	○				18	B地点	9462	
48	○	○	○	○				15	B地点	7158	
49	○	○	○	○				18	B地点	7018	
50	○	○	○	○				18	B地点	10275	
51	○	○	○	○				15	C地点	7340	
52	○	○	○	○				15	C地点	8436	
53	○	○	○	○				17	C地点	14716	
54	○	○	○	○				17	C地点	10218	
55	○	○	○	○				17	D地点	10412	
56	○	○	○	○				18	D地点	6979他	
57	○	○	○	○				18	E地点	14395他	
58	○	○	○	○	(28.8)			15	E地点	7408	
59	○	○	○	○	(32.0)			18	E地点	1083他	
60	○	○	○	○				18	E地点	3883他	
61	○	○	○	○				18	E地点	6974他	
62	○	○	○	○				18	E地点	9452	
63	○	○	○	○				18	E地点	10469	
64	○	○	○	○				18	E地点	9449	
65	○	○	○	○				18	E地点	6961	
66	○	○	○	○				15	E地点	7393	
67	○	○	○	○				18	E地点	6982他	
68	○	○	○	○				15	E地点	7399	
69	○	○	○	○				18	E地点	3904	
70	○	○	○	○				18	E地点	9454	
71	○	○	○	○				15	E地点	7472	
72	○	○	○	○				18	E地点	6951	
73	○	○	○	○				18	E地点	3909他	
74	○	○	○	○				18	E地点	15332他	
75	○	○	○	○			12.5	15	F地点	9536	
76	○	○	○	○				18	F地点	14073	
77	○	○	○	○				15	F地点	7653	
78	○	○	○	○				15	F地点	Z-79-Ⅷ	
79	○	○	○	○				17	F地点	13994	
80	○	○	○	○				17	F地点	10435	
81	○	○	○	○				18	F地点	4228	
82	○	○	○	○				15	F地点	7351	
83	○	○	○	○				18	F地点	14035	
84	○	○	○	○				18	G地点	2242	
85	○	○	○	○				18	G地点	10478	
86	○	○	○	○				18	G地点	14163	
87	○	○	○	○				18	G地点	10485	
88	○	○	○	○				18	G地点	10495	
89	○	○	○	○				18	G地点	10509他	
90	○	○	○	○				18	G地点	14177	
91	○	○	○	○				17	G地点	14221	
92	○	○	○	○				18	G地点	14169他	
93	○	○	○	○				18	G地点	14208	
94	○	○	○	○				15	H地点	5419	
95	○	○	○	○				17	H地点	14403	
96	○	○	○	○				18	H地点	10626他	
97	○	○	○	○				18	H地点	10629	
98	○	○	○	○				18	H地点	385	

別表Ⅲ 遺物一覽表【壘形埴輪】

図版番号	部位			法量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
	口	頸	底	口徑	底径	器高	層位	遺構		
99	○						15	H地点	Z-81 埴	
100	○						18	H地点	10582	
101	○						18	H地点	10520	
102	○		○				18	H地点	10603	
103	○						17	H地点	13446他	
104	○						18	H地点	13444他	
105	○						17	H地点	10983	
106	○						15	H地点	9575	
107	○						17	H地点	10960	
108	○						18	H地点	8620他	
109	○						17	H地点	10971	
110	○						17	H地点	10950	
111	○		○				17	H地点	10920他	
112	○						17	H地点	11090	
113	○						17	H地点	11089	
114	○						17	H地点	11117	
115	○						18	H地点	9633他	
116	○						13	H地点	317	
117	○						17	K地点	12749	
118	○						18	K地点	12956	
119	○						18	K地点	14303	
120	○						18	K地点	11383	
121	○						18	K地点	11460	
122	○						18	K地点	14302他	
123	○						17	K地点	11771	
124	○						18	K地点	11491	
125	○						18	K地点	14294	
126	○						18	K地点	14301	
127	○		○				18	K地点	14282	
128	○					(9.0)	18	K地点	11440	
129	○					(11.0)	18	K地点	14315	
130	○						18	L地点	3404他	
131	○						18	L地点	3646	
132	○						18	L地点	12778	
133	○						18	L地点	3409他	
134	○						18	L地点	3493	
135	○						18	L地点	14238他	
136	○						18	L地点	14330他	
137	○						18	L地点	3344他	
138	○						18	L地点	12757他	
139	○						18	L地点	3643	
140	○						18	L地点	3575	
141	○						18	L地点	14322他	
142	○						18	L地点	14340	
143	○						18	L地点	14325	
144	○						18	L地点	12765他	
145	○					(10.7)	18	L地点	14324	
146	○					(9.6)	18	L地点	12782	
147	○						18	L地点	14235	
148	○						18	L地点	14337	
149	○						18	M地点	11844他	
150	○						17	M地点	11631他	
151	○						18	M地点	11687	
152	○						18	M地点	11680	
153	○						18	M地点	11682	
154	○						18	M地点	3418	
155	○						18	M地点	11831	
156	○						15	M地点	8098	
157	○						18	M地点	11688他	
158	○						13	M地点	2337	
159	○						13	M地点	360	
160	○		○				18	M地点	11824	
161	○						18	N地点	8368他	
162	○						18	N地点	13876	
163	○						18	N地点	3739他	
164	○						18	N地点	3159	
165	○						18	N地点	748	
166	○						18	N地点	3696	
167	○						18	N地点	14122	
168	○						18	N地点	14139	
169	○						18	N地点	13879	
170	○						18	N地点	3724	
171	○						18	N地点	3848	
172	○						18	N地点	14140	
173	○						18	N地点	737	
174	○						18	N地点	13357他	
175	○		○				18	N地点	13330	
176	○						15	O地点	8056	
177	○						15	O地点	13686	
178	○						15	O地点	7891	

別表Ⅲ 遺物一覽表【壺形埴輪】

図版番号	部位			法量 (cm)			層位	出土地点	登録番号	備考
	口	肩	底	口径	底径	器高				
179	○						18	O地点	13658	
180	○						18	O地点	7967	
181	○						18	O地点	4556	
182	○						18	O地点	4780	
183	○						18	O地点	13640	
184	○						15	O地点	7961	
185	○						18	O地点	13652備	
186	○	○					18	O地点	13891備	
187	○	○					18	O地点	13882備	
188	○	○					15	O地点	7990	
189	○	○					15	O地点	798	
190	○	○					18	O地点	13331	
191	○	○					18	O地点	13644	
192	○	○					17	O地点	13271備	
193	○	○	○				17	O地点	13225	
194	○	○	○				17	O地点	7991	
195	○	○					17	第2面遺構外(W-83)	一括	
196	○	○					17	第2面遺構外(W-83)	一括	
197	○	○					17	第2面遺構外(W-83)	一括	
198	○	○					17	第2面遺構外(A-76)	8669	
199	○	○					17	第2面遺構外(A-77)	8679	
200	○	○					17	第2面遺構外(Z-77)	14949	
201	○	○					17	第2面遺構外(Z-78)	5203	
202	○	○					17	第2面遺構外(W-78)	6143	
203	○	○					17	第2面遺構外(W-78)	3731	
204	○	○					17	第2面遺構外(A-79)	13407	
205	○	○					17	第2面遺構外(X-79)	7079	
206	○	○					17	第2面遺構外(B-80)	12841	
207	○	○					17	第2面遺構外(X-80)	3218	
208	○	○					17	第2面遺構外(Y-82)	12374	
209	○	○					17	第2面遺構外(Y-82)	14274	
210	○	○					17	第2面遺構外(A-83)	12495	
211	○	○					17	第2面遺構外(X-85)	8146	
212	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	11954	
213	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	8775	
214	○	○					17	第2面遺構外(V-85)	2914	
215	○	○					17	第2面遺構外(V-85)	一括	
216	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	7808	
217	○	○					17	第2面遺構外(W-83)	一括	
218	○	○					17	第2面遺構外(Z-78)	5246	
219	○	○					17	第2面遺構外(W-78)	30203備	
220	○	○					17	第2面遺構外(W-78)	2956	
221	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	4403	
222	○	○					17	第2面遺構外(B-81)	12844	
223	○	○					17	第2面遺構外(Y-82)	12872	
224	○	○					17	第2面遺構外(Z-84)	2718	
225	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	7842	
226	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	8570	
227	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	7770	
228	○	○					17	第2面遺構外(W-86)	8269	
229	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
230	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
231	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
232	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
233	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
234	○	○					17	第2面遺構外(Z-77)	5185	
235	○	○					17	第2面遺構外(V-76)	7096	
236	○	○					17	第2面遺構外(A-78)	7605	
237	○	○					17	第2面遺構外(Z-78)	6202	
238	○	○					17	第2面遺構外(V-80)	3546備	
239	○	○					17	第2面遺構外(Y-82)	12888	
240	○	○					17	第2面遺構外(Y-82)	14272	
241	○	○					17	第2面遺構外(W-83)	一括	
242	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
243	○	○					17	第2面遺構外(Z-78)	5207	
244	○	○					17	第2面遺構外(Z-78)	7598	
245	○	○					17	第2面遺構外(Z-77)	14950備	
246	○	○					17	第2面遺構外(Z-77)	8980	
247	○	○					17	第2面遺構外(B-81-前)	7070備	
248	○	○					17	第2面遺構外(Z-77)	10802	
249	○	○					17	第2面遺構外(W-85)	6785	
250	○	○					17	第2面遺構外(A-76)	9395	
251	○	○					17	第2面遺構外(V-76)	13590	
252	○	○					17	第2面遺構外(A-77)	7653	
253	○	○					17	第2面遺構外(Z-78)	8953	
254	○	○					17	第2面遺構外(Z-85)	13091備	
255	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
256	○	○					17	第2面遺構外(A-80)	一括	
257	○	○					17	第2面遺構外(V-82)	336	
258	○	○					17	第2面遺構外(B-82)	12880	

【石製品】

別表Ⅲ 遺物一覽表

図版番号	器種	石材	法量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
			最大軸	最大幅	最大厚	重量 (g)	層位 遺構		
560	使用痕のある剥片	黒曜石	2.1	1.0	0.3	0.51	13 Z-91	1937	
561	加工痕のある剥片	黒曜石	2.2	1.8	0.65	2.24	13 B-80	1161	
562	加工痕のある剥片	黒曜石	1.5	2.53	0.5	1.30	13 B-80	3754	
563	加工痕のある剥片	水晶	2.4	1.6	0.4	1.71	15 A-77	5174	
564	石核	水晶	1.33	1.63	1.05	3.12	13 A-84	2688	
565	石核	水晶	1.37	2.03	1.0	3.26	13 A-83	2005	
566	石核	水晶	1.2	1.35	0.9	2.04	15 Y-78	7321	
567	石核	水晶	1.57	1.5	1.5	4.31	13 A-80	2651	
568	石核	水晶	2.13	1.27	1.0	2.58	13 Z-77	1712	
569	石核	チャート	2.45	3.05	1.6	16.40	18 Y-78	7058	
570	石核	チャート	5.3	2.5	1.5	12.98	15 Y-86	8234	
571	磨石	砂岩	9.8	7.2	6.6	645.00	13 W-90	4765	
572	磨石	砂岩	6.9	6.5	3.3	(181.00)	13 A-84	296	
573	砥石		3.3	(5.1)	1.4	(35.24)	15 X-86	6010	
574	砥石		4.9	3.55	0.35	13.02	15 A-87	5427	
575	石筆		(2.6)	0.6	0.55	(1.40)	13 W-90	2475	
576	五輪塔(水輪)	焼酎デイト	27.3	27.6	19.2	17.5kg	13 W-91	5665	
577	五輪塔(地輪)	焼酎デイト	27.3	28.8	26.4	30.5kg	13 V-89	5709	
578	五輪塔(地輪)	焼酎デイト	(24.6)	(24.6)	(24.3)	14.6kg	13 V-89	5710	
579	五輪塔(地輪)	焼酎デイト	(27)	(26.4)	(26.4)	29.8kg	13 V-89	5711	
580	石臼		36	(18.6)	(8.4)	10kg	13 1号暗渠	5706	

【銭貨】

図版番号	銭名	初鋳年	書体	法量 (cm)			重量 (g)	出土地点		登録番号	備考
				直径	孔径	厚さ		層位	遺構		
581	開元通寶	621		2.4	0.6×0.65	0.10	3.0	15 A-87	5437		
582	寧道元寶	995	真書	2.4	0.6×0.6	0.08	3.0	15 Z-78	5254		
583	咸平元寶	998		2.4	0.5×0.6	0.13	3.5	15 X-85	8152		
584	大聖元寶	1023		2.5	0.7×0.7	0.10	(3.0)	15 A-78	5240		
585	大聖元寶	1023	篆書	2.5	0.7×0.75	0.10	3.6	17 Z-82	11000		
586	皇宋通寶	1038	篆書		0.6×0.7		(1.7)	15 A-75	5114		
587	嘉祐元寶	1056	篆書	2.3	0.6×0.7	0.10	3.6	13 A-81	1113		
588	熙寧元寶	1068	真書	2.4	0.6×0.6	0.12	4.0	13 A-78	4180		
589	熙寧元寶	1068	篆書	2.4	0.7×0.7	0.09	4.5	13 X-89	1898		
590	紹聖元寶	1094	篆書	2.3	0.6×0.7	0.20	3.5	15 A-78	5239		
591	政和通寶	1111	篆書	2.4	0.6×0.65	0.10	3.4	13 Z-81	2277		
592	慶元通寶	1195		2.3	0.6×0.7	0.12	2.8	15 A-78	5241		
593	寛永通寶	1636		2.8	0.6×0.65	0.13	5.7	13 Z-83	2216		

【木製品】

図版番号	時期	種別	法量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
			長さ	幅	厚さ	層位	遺構		
594	鎌倉	飲食器 漆碗	口径(14.0)		器高(3.5)	13	1号木器集中区	6714	
595	鎌倉	飲食器 漆碗	口径(12.5)		器高(4.4)	13	第1面遺構外(W-89)	4642	
596	鎌倉	飲食器 漆碗		口径7.0		13	第1面遺構外(W-87)	4438	
597	鎌倉	飲食器 漆碗				15	遺物包含層(A-76)	4852	
598	鎌倉	飲食器 漆皿				13	1号木器集中区	6735	
599	鎌倉	飲食器 箸	18.6	0.5	0.3	13	1号木器集中区	6686	
600	鎌倉	飲食器 箸	19.7	0.8	0.4	13	第1面遺構外(X-77)	2563	
601	鎌倉	飲食器 箸	15.6	0.6	0.4	13	第1面遺構外(A-76)	1466	
602	鎌倉	飲食器 箸	15.6	0.8	0.3	13	第1面遺構外(W-87)	2401	
603	鎌倉	飲食器 箸	12.9	0.5	0.3	13	第1面遺構外(X-77)	548	
604	鎌倉	飲食器 箸	10.6	0.6	0.4	13	第1面遺構外(X-77)	536	
605	鎌倉	飲食器 箸	8.0	0.5	0.4	13	第1面遺構外(W-85)	2316	
606	鎌倉	飲食器 箸	9.5	0.7	0.4	15	遺物包含層(X-89)	5338-1	
607	鎌倉	飲食器 箸	5.6	0.6	0.5	15	遺物包含層(X-89)	5338-2	
608	鎌倉	飲食器 箸	7.4	0.5	0.3	15	遺物包含層(A-77)	7640	
609	鎌倉	飲食器 箸	13.0	0.6	0.4	15	遺物包含層(Z-77)	5143	
610	鎌倉	調理具 搗粉木	23.5	2.4	1.8	15	遺物包含層(W-86)	8322	
611	鎌倉	調理具 搗粉木	25.2	2.0	1.5	15	遺物包含層(W-85)	6775	
612	鎌倉	容器 刺物	口径(25.0)	口径(23.0)	器高(7.0)	13	2号木器集中区	6903	
613	鎌倉	容器 曲物	46.3	9.4	1.1	13	3号木器集中区	6637	
614	鎌倉	容器 曲物	41.0	13.3	1.1	13	3号木器集中区	6639	
615	鎌倉	容器 曲物	22.4	3.5	1.3	15	遺物包含層(Y-85)	8211	

別表Ⅲ 遺物一覽表【木製品】

図版番号	時期	種別	法量 (cm)			層位	出土地点	登録番号	備考
			長さ	幅	厚さ				
615	鎌倉	容器 曲物	22.4	3.5	1.3	15	遺物包含層 (Y-85)	8211	
616	鎌倉	容器 曲物	24.0	3.0	0.7	15	遺物包含層 (V-90)	5279	
617	鎌倉	容器 曲物	9.1	4.5	0.3	15	遺物包含層 (A-74)	5095	
618	鎌倉	容器 曲物	12.0	4.0	0.9	17	第2面遺構外 (W-86)	12666	
619	鎌倉	容器 曲物	13.1	8.6	0.8	13	第1面遺構外 (V-91)	5282	
620	鎌倉	容器 曲物	13.6	5.7	0.7	15	遺物包含層 (X-84)	8131	
621	鎌倉	容器 曲物	16.8	5.5	0.4	13	第1面遺構外 (W-85)	4546	
622	鎌倉	装身具 扇子	13.4	2.7	0.6	13	第1面遺構外 (V-90)	162	
623	鎌倉	履物 下駄	4.4	幅なし	幅なし	15	遺物包含層 (A-76)	5124	
624	鎌倉	履物 下駄	6.4	幅なし	幅なし	13	第1面遺構外 (W-89)	5029	
625	鎌倉	履物 下駄	7.7	幅なし	幅なし	13	第1面遺構外 (V-90)	4965	
626	鎌倉	織具 機織部材	6.5	2.0	1.0	13	第1面遺構外 (X-88)	3695	
627	鎌倉	織具 機織部材	14.0	3.4	1.2	13	1号木筒集中区	6733	
628	鎌倉	漆工具 篋	12.1	3.0	0.3	15	遺物包含層 (W-84)	7858	
629	鎌倉	軍備具 蓑札	7.4	2.1	0.3	13	第1面遺構外 (W-89)	一括	
630	鎌倉	形代	22.0	3.3	0.3	13	第1面遺構外 (W-89)	一括	
631	鎌倉	呪術具 箸串	23.0	0.9	1.4	13	1号水路	6642	
632	鎌倉	呪術具 箸串	27.0	1.2	0.8	13	第1面遺構外 (W-90)	4834	
633	鎌倉	呪術具 箸串	23.1	1.2	1.0	13	第1面遺構外 (W-89)	3040	
634	鎌倉	呪術具 箸串	21.5	1.0	1.1	13	第1面遺構外 (B-76)	1078	
635	鎌倉	呪術具 箸串	21.2	1.2	0.8	13	第1面遺構外 (W-89)	2509	
636	鎌倉	呪術具 箸串	21.0	1.0	0.7	13	第1面遺構外 (W-90)	5284	
637	鎌倉	呪術具 箸串	21.1	1.0	0.7	13	第1面遺構外 (W-85)	2310	
638	鎌倉	呪術具 箸串	19.8	1.2	1.3	13	第1面遺構外 (W-87)	4516	
639	鎌倉	呪術具 箸串	17.7	0.6	0.4	13	第1面遺構外 (Z-76)	1654	
640	鎌倉	呪術具 箸串	16.3	1.5	0.5	13	第1面遺構外 (W-87)	4371	
641	鎌倉	呪術具 箸串	15.9	1.1	1.0	13	第1面遺構外 (V-85)	2906	
642	鎌倉	呪術具 箸串	15.5	1.1	1.0	13	2号木筒集中区	6900	
643	鎌倉	呪術具 箸串	16.3	0.9	0.6	13	第1面遺構外 (A-75)	2124	
644	鎌倉	呪術具 箸串	14.9	1.2	1.2	13	第1面遺構外 (W-87)	2836	
645	鎌倉	呪術具 箸串	14.4	0.9	0.4	13	第1面遺構外 (W-90)	4742	
646	鎌倉	呪術具 箸串	12.4	1.0	0.5	13	第1面遺構外 (W-90)	4833	
647	鎌倉	呪術具 箸串	12.1	1.6	1.2	13	第1面遺構外 (V-78)	7061	
648	鎌倉	呪術具 箸串	10.7	1.2	0.8	13	第1面遺構外 (A-85)	3917	
649	鎌倉	呪術具 箸串	23.9	1.8	1.0	15	遺物包含層 (B-81)	5425	
650	鎌倉	呪術具 箸串	24.0	1.5	0.6	15	遺物包含層 (X-86)	6012-1	
651	鎌倉	呪術具 箸串	24.7	1.7	1.5	15	遺物包含層 (W-91)	5664	
652	鎌倉	呪術具 箸串	28.0	2.3	1.0	15	遺物包含層 (W-91)	5644	
653	鎌倉	呪術具 箸串	28.2	1.5	1.5	15	遺物包含層 (X-86)	5993	
654	鎌倉	呪術具 箸串	30.1	1.3	0.8	15	遺物包含層 (X-86)	6007	
655	鎌倉	呪術具 箸串	35.4	1.8	1.1	15	遺物包含層 (A-86)	5441	
656	鎌倉	呪術具 箸串	24.3	1.1	1.3	15	遺物包含層 (B-81)	12874	
657	鎌倉	呪術具 箸串	24.5	1.4	0.7	15	遺物包含層 (W-91)	5649	
658	鎌倉	呪術具 箸串	20.0	1.4	0.8	15	遺物包含層 (A-86)	5442	
659	鎌倉	呪術具 箸串	19.5	1.1	0.7	15	遺物包含層 (W-86)	8308	
660	鎌倉	呪術具 箸串	19.7	1.0	0.6	15	遺物包含層 (W-86)	8271	
661	鎌倉	呪術具 箸串	16.7	1.0	0.8	15	遺物包含層 (W-84)	7859	
662	鎌倉	呪術具 箸串	17.1	0.8	0.7	15	遺物包含層 (W-91)	5639	
663	鎌倉	呪術具 箸串	17.1	1.0	0.5	15	遺物包含層 (Z-78)	5206-1	
664	鎌倉	呪術具 箸串	16.2	1.0	0.5	15	遺物包含層 (Z-78)	5206-2	
665	鎌倉	呪術具 箸串	15.9	1.6	0.7	15	遺物包含層 (X-85)	8157	
666	鎌倉	呪術具 箸串	13.5	1.0	0.8	15	遺物包含層 (W-86)	8280	
667	鎌倉	呪術具 箸串	13.1	0.8	0.8	15	遺物包含層 (W-85)	7809	
668	鎌倉	呪術具 箸串	13.5	1.3	0.7	15	遺物包含層 (W-84)	8070	
669	鎌倉	呪術具 箸串	14.2	1.2	0.7	15	遺物包含層 (W-84)	7992	
670	鎌倉	呪術具 箸串	12.4	1.1	0.3	15	遺物包含層 (W-84)	7958	
671	鎌倉	呪術具 箸串	12.2	0.9	1.1	15	遺物包含層 (X-77)	658	
672	鎌倉	呪術具 箸串	12.5	1.0	0.5	15	遺物包含層 (W-85)	7829	
673	鎌倉	呪術具 箸串	12.0	0.8	0.7	15	遺物包含層 (Y-86)	8248	
674	鎌倉	呪術具 箸串	11.1	0.7	0.6	15	遺物包含層 (W-84)	13315	
675	鎌倉	呪術具 箸串	11.6	0.8	0.4	15	遺物包含層 (Y-86)	8227	
676	鎌倉	呪術具 箸串	10.9	0.8	0.6	15	遺物包含層 (W-85)	7771	
677	鎌倉	呪術具 箸串	11.2	0.8	0.6	15	遺物包含層 (W-85)	8187	
678	鎌倉	呪術具 箸串	9.2	1.0	3.0	15	遺物包含層 (W-85)	7751	
679	鎌倉	呪術具 箸串	8.3	1.0	0.8	15	遺物包含層 (W-86)	7710	
680	鎌倉	呪術具 箸串	8.1	0.9	0.5	15	遺物包含層 (W-86)	7726	

別表Ⅲ 遺物一覧表【木製品】

図版番号	時期	種別	法量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
			長さ	幅	厚さ	層位	通稱		
681	鎌倉	呪術具 斎串	6.3	0.8	0.5	15	遺物包含層 (V-85)	8561	
682	鎌倉	部材 矢板	131.9	18.9	2.1	13	1号水路	6622	
683	鎌倉	部材 矢板	55.2	10.5	0.6	13	1号木器集中区	6420	
684	鎌倉	部材 矢板	58.6	13.0	2.7	13	3号木器集中区	6640	
685	鎌倉	部材 矢板	69.8	26.1	2.0	13	遺物包含層 (W-89)	5028	
686	鎌倉	部材 杭	60.3	5.4	2.6	13	2号杭列	8930	
687	鎌倉	部材 杭	(44.7)	5.6	1.8	13	2号杭列	5523	
688	鎌倉	部材 杭	46.5	3.0	3.0	13	2号杭列	5574	
689	鎌倉	部材 杭	84.9	8.1	5.4	13	3号杭列	6176	
690	鎌倉	部材 杭	(69.9)	9.3	7.2	13	3号杭列	4879	
691	鎌倉	部材 杭	(85.5)	6.0	4.5	13	3号杭列	6201	
692	鎌倉	部材 杭	79.2	5.1	4.5	13	3号杭列	6196	
693	鎌倉	部材 杭	(62.4)	5.4	3.3	13	3号杭列	6167	
694	鎌倉	部材 杭	121.1	8.1	7.5	13	3号杭列	6261	
695	鎌倉	部材 杭	78.0	7.2	4.2	13	3号杭列	6229	
696	鎌倉	部材 杭	115.8	5.7	3.3	13	5号杭列	5624	
697	鎌倉	部材 杭	(72.6)	6.3	4.2	13	6号杭列	5836	
698	鎌倉	部材 杭	(71.4)	6.6	6.0	13	7号杭列	5976	
699	鎌倉	部材 杭	(59.4)	2.4	2.1	13	7号杭列	5971	
700	鎌倉	部材 杭	113.4	5.7	2.4	13	8号杭列	6861	
701	鎌倉	部材 杭	98.1	5.4	4.2	13	8号杭列	6808	
702	鎌倉	部材 杭	(93.0)	4.8	5.6	13	8号杭列	6804	
703	鎌倉	部材 杭	91.7	5.4	2.4	13	8号杭列	6870	
704	鎌倉	部材 杭	82.5	6.9	3.9	13	8号杭列	6806	
705	鎌倉	部材 杭	84.6	6.3	2.7	13	8号杭列	6825	
706	鎌倉	部材 杭	76.5	3.0	2.1	13	8号杭列	6860	
707	鎌倉	部材 杭	75.0	4.2	3.0	13	8号杭列	6809	
708	鎌倉	部材 杭	69.0	5.7	3.3	13	8号杭列	6855	
709	鎌倉	部材 杭	(62.4)	5.1	4.2	13	8号杭列	6863	
710	鎌倉	部材 杭	(67.7)	5.1	4.2	13	8号杭列	6810	
711	鎌倉	部材 杭	(55.2)	4.8	4.1	13	8号杭列	6847	
712	鎌倉	部材 杭	(44.1)	5.6	3.0	13	8号杭列	6821	
713	鎌倉	部材 杭	(50.1)	6.6	3.6	13	8号杭列	6812	
714	鎌倉	部材 杭	(45.3)	5.7	2.7	13	8号杭列	6822	
715	鎌倉	部材 杭	(39.6)	6.3	3.9	13	8号杭列	6811	
716	鎌倉	部材 杭	(35.4)	4.4	3.0	13	8号杭列	6852	
717	鎌倉	部材 杭	75.3	6.9	3.6	13	9号杭列	6264	
718	鎌倉	部材 杭	51.0	4.8	3.6	13	9号杭列	8882	
719	鎌倉	部材 杭	(34.5)	5.4	3.3	13	9号杭列	8891	
720	鎌倉	部材 杭	(65.7)	8.4	1.4	13	10号杭列	7380	
721	鎌倉	部材 杭	(52.2)	3.2	2.3	13	10号杭列	7374	
722	鎌倉	部材 杭	(46.1)	3.2	2.7	13	10号杭列	7377	
723	鎌倉	部材 杭	(51.2)	3.6	1.5	13	10号杭列	7375	
724	鎌倉	部材 杭	22.2	2.1	2.1	13	1号水路	5826	
725	鎌倉	部材 杭	33.3	2.4	1.2	13	1号水路	6607	
726	鎌倉	部材 杭	133.5	7.2	5.1	13	1号水路	5751	
727	鎌倉	部材 杭	105.6	4.2	3.3	13	1号水路	6503	
728	鎌倉	部材 杭	(118.8)	7.2	4.5	13	1号水路	6595	
729	鎌倉	部材 杭	(118.8)	5.7	5.1	13	1号水路	6561	
730	鎌倉	部材 杭	(129.3)	6.6	3.9	13	1号水路	6479	
731	鎌倉	部材 杭	(114.9)	5.7	4.5	13	1号水路	6579	
732	鎌倉	部材 杭	130.8	6.3	3.6	13	1号水路	6366	
733	鎌倉	部材 杭	115.8	5.1	4.8	13	1号水路	6511	
734	鎌倉	部材 杭	104.4	5.4	4.8	13	1号水路	6494	
735	鎌倉	部材 杭	98.7	4.5	4.5	13	1号水路	6514	
736	鎌倉	部材 杭	(99.2)	5.1	4.2	13	1号水路	6570-1	
737	鎌倉	部材 杭	(98.7)	5.1	4.2	13	1号水路	6570-2	
738	鎌倉	部材 杭	97.2	5.7	4.5	13	1号水路	6576	
739	鎌倉	部材 杭	(91.5)	6.9	2.9	13	1号水路	6554	
740	鎌倉	部材 杭	(91.2)	5.1	4.2	13	1号水路	6506	
741	鎌倉	部材 杭	(56.4)	7.8	2.1	13	1号水路	6627	
742	鎌倉	部材 杭	(59.7)	7.2	3.3	13	1号水路	6555	
743	鎌倉	部材 杭	(65.4)	5.4	4.2	13	1号水路	6495	
744	鎌倉	部材 杭	(69.9)	4.7	3.9	13	1号水路	6519	
745	鎌倉	部材 杭	(69.9)	9.6	6.3	13	1号水路	6474	
746	鎌倉	部材 杭	86.1	4.2	2.1	13	1号水路	6372	

別表Ⅲ 遺物一覽表〔木製品〕

図版番号	時期	種別	法量 (cm)			層位	出土地点 遺構	登録番号	備考
			長さ (78.9)	幅	厚さ				
747	鎌倉	部材 杭 (榿状態)	9.3	3.9	1.3	13	1号水路	6464	
748	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	132.4	4.2	1.2	13	1号木器集中区	6340	
749	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	86.4	5.1	1.5	13	2号木器集中区	6752	
750	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	67.0	3.2	0.9	13	1号木器集中区	6309	
751	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	19.6	1.4	0.6	13	第1面遺構外 (Z-86)	3351	
752	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	16.4	1.2	0.7	13	第1面遺構外 (A-74)	1672	
753	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	16.7	0.9	0.6	13	第1面遺構外 (X-76)	2512	
754	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	16.5	1.2	0.5	13	第1面遺構外 (X-84)	11700	
755	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	12.0	0.9	0.6	13	第1面遺構外 (X-77)	2550	
756	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	13.7	1.2	0.5	13	第1面遺構外 (C-74)	1438	
757	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	14.1	1.2	0.6	13	第1面遺構外 (Y-91)	3008	
758	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	15.9	1.0	0.8	13	第1面遺構外 (W-86)	2815	
759	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	11.8	1.0	0.4	13	第1面遺構外 (A-78)	1136	
760	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	10.8	0.8	0.5	13	第1面遺構外 (A-74)	1313	
761	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	9.1	0.6	3.0	13	第1面遺構外 (X-77)	2570	
762	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	9.9	1.1	0.3	13	第1面遺構外 (W-85)	2919	
763	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	11.5	0.9	0.4	13	第1面遺構外 (Y-85)	269	
764	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	17.3	1.4	0.6	15	遺物包含層 (W-84)	7971	
765	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	18.3	1.2	0.8	15	遺物包含層 (W-85)	8201	
766	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	17.5	0.9	0.4	15	遺物包含層 (X-86)	6012-1	
767	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	16.4	1.2	1.0	15	遺物包含層 (W-85)	817-2	
768	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	14.4	1.0	0.5	15	遺物包含層 (X-85)	8132	
769	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	12.6	1.0	0.6	15	遺物包含層 (W-84)	7957	
770	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	11.2	0.9	0.7	15	遺物包含層 (W-84)	7889	
771	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	6.4	2.0	0.2	15	遺物包含層 (Z-82)	9582	
772	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	6.2	2.8	0.4	15	遺物包含層 (W-84)	7933	
773	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	8.0	3.4	0.5	15	遺物包含層 (A-77)	8685	
774	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	18.0	3.8	1.0	15	遺物包含層 (W-85)	8187-2	
775	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	11.1	2.9	0.8	15	遺物包含層 (V-86)	8329	
776	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	12.1	2.0	0.3	15	遺物包含層 (W-85)	7761	
777	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	11.1	1.8	0.4	13	第1面遺構外 (W-87)	4443-2	
778	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	16.4	4.5	1.1	13	第1面遺構外 (W-85)	4267	
779	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	21.0	9.3	1.0	13	第1面遺構外 (A-80)	459	
780	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	28.5	6.7	0.9	13	1号木器集中区	6286	
781	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	23.8	6.7	0.9	13	第1面遺構外 (Y-89)	1755	
782	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	7.9	7.6	1.4	15	遺物包含層 (W-86)	8328	
783	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	8.5	4.0	0.9	13	第1面遺構外 (W-89)	2589	
784	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	6.2	2.7	0.8	13	第1面遺構外 (Y-75)	4194	
785	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	5.1	3.3	0.6	15	遺物包含層 (W-85)	7774-1	
786	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	4.3	3.5	0.6	15	遺物包含層 (W-85)	7774-2	
787	鎌倉	用途不明具 (榿状態)	8.5	3.8	1.7	15	遺物包含層 (X-78)	5082	
788	鎌倉	用途不明具 (角材筋)	36.0	5.2	4.4	13	2号木器集中区	6648	
789	鎌倉	用途不明具 (角材筋)	14.7	4.9	1.7	13	第1面遺構外 (V-90)	3026	
790	鎌倉	用途不明具 (角材筋)	4.9	4.3	1.9	15	遺物包含層 (X-78)	7238	
791	鎌倉	用途不明具 (角材筋)	5.6	7.0	3.1	13	第1面遺構外 (W-87)	4430	
792	鎌倉	用途不明具 (角材筋)	5.1	6.7	6.3	15	遺物包含層 (X-77)	8510	
793	鎌倉	炭化材	19.4	3.3	1.4	13	第1面遺構外 (W-88)	4494	
794	鎌倉	炭化材	18.3	3.4	1.3	13	第1面遺構外 (W-91)	3048	
795	鎌倉	炭化材	19.5	2.2	1.4	13	第1面遺構外 (W-90)	4741	
796	鎌倉	炭化材	14.9	1.8	0.5	13	第1面遺構外 (V-84)	3934	
797	鎌倉	炭化材	15.5	3.1	1.0	13	第1面遺構外 (W-87)	4443-1	
798	鎌倉	炭化材	13.9	2.1	1.4	13	第1面遺構外 (W-89)	3511	
799	鎌倉	炭化材	14.0	2.2	0.5	13	第1面遺構外 (X-77)	7542	
800	鎌倉	炭化材	15.8	1.3	0.7	13	第1面遺構外 (A-81)	1063	
801	鎌倉	炭化材	15.6	1.7	1.1	13	第1面遺構外 (W-84)	4676	
802	鎌倉	炭化材	15.8	0.8	0.4	13	第1面遺構外 (W-88)	4596	
803	鎌倉	炭化材	14.1	1.5	0.9	13	第1面遺構外 (W-85)	2923	
804	鎌倉	炭化材	12.6	2.2	1.1	13	第1面遺構外 (W-84)	4671	
805	鎌倉	炭化材	13.2	1.5	0.6	13	第1面遺構外 (W-87)	4359	
806	鎌倉	炭化材	10.8	1.5	0.9	13	第1面遺構外 (W-91)	2789	
807	鎌倉	炭化材	9.9	2.1	1.1	13	第1面遺構外 (W-84)	4784	
808	鎌倉	炭化材	9.9	1.5	0.8	13	第1面遺構外 (B-75)	1415	
809	鎌倉	炭化材	7.4	2.5	0.8	13	第1面遺構外 (X-84)	2335	
810	鎌倉	炭化材	8.6	1.2	0.9	13	第1面遺構外 (A-75)	1681	
811	鎌倉	炭化材	8.4	1.2	0.9	13	第1面遺構外 (X-88)	3694	
812	鎌倉	炭化材	7.3	1.0	0.9	13	第1面遺構外 (Y-86)	1967	

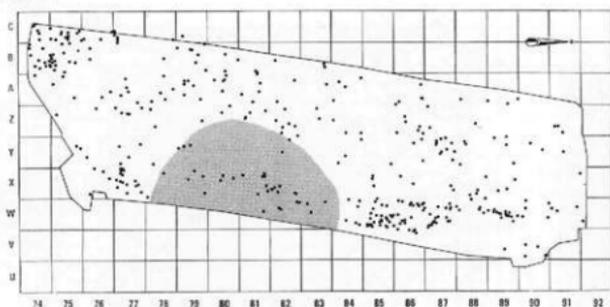
別表Ⅲ 遺物一覧表【木製品】

図版番号	時期	種別	法量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
			長さ	幅	厚さ	層位	遺構		
813	鎌倉	炭化材	8.0	1.6	0.8	13	第1面遺構外 (W-90)	3055	
814	鎌倉	炭化材	7.7	1.4	0.6	13	第1面遺構外 (W-87)	4339	
815	鎌倉	炭化材	8.0	0.9	0.6	13	第1面遺構外 (Y-88)	1882	
816	鎌倉	炭化材	6.9	0.6	0.4	13	第1面遺構外 (A-76)	1512	
817	鎌倉	炭化材	6.6	1.0	0.7	13	第1面遺構外 (Y-77)	539	
818	鎌倉	炭化材	5.8	1.4	0.4	13	第1面遺構外 (W-89)	3513	
819	鎌倉	炭化材	6.3	1.1	0.5	13	第1面遺構外 (W-85)	2917	
820	鎌倉	炭化材	6.6	1.5	0.9	13	第1面遺構外 (W-84)	4677	
821	鎌倉	炭化材	5.3	2.3	0.4	13	第1面遺構外 (W-85)	2988	
822	鎌倉	炭化材	5.2	1.2	1.1	13	第1面遺構外 (Y-86)	1961	
823	鎌倉	炭化材	4.4	2.1	0.4	13	第1面遺構外 (A-76)	1644	
824	鎌倉	炭化材	4.1	0.6	0.5	13	第1面遺構外 (W-86)	4311	
825	鎌倉	炭化材	9.5	2.8	1.8	13	第1面遺構外 (W-85)	一括	
826	鎌倉	炭化材	9.9	2.7	1.5	13	第1面遺構外 (W-85)	一括	
827	鎌倉	炭化材	9.2	3.0	0.9	13	第1面遺構外 (X-78)	2874	
828	鎌倉	炭化材	6.9	2.7	1.4	13	第1面遺構外 (V-91)	3009	
829	鎌倉	炭化材	15.4	3.9	1.1	15	遺物包含層 (W-84)	8070	
830	鎌倉	炭化材	10.3	5.7	1.2	15	遺物包含層 (W-90)	5286	
831	鎌倉	炭化材	8.4	4.5	1.3	2	古墳墳丘部 (W-84)	3997	
832	鎌倉	炭化材	10.5	10.7	0.8	15	遺物包含層 (A-76)	5125	
833	鎌倉	炭化材	17.7	2.0	1.4	15	遺物包含層 (W-85)	7805	
834	鎌倉	炭化材	17.7	1.7	1.5	15	遺物包含層 (Z-78)	5224	
835	鎌倉	炭化材	14.4	1.9	1.5	15	遺物包含層 (X-86)	5991	
836	鎌倉	炭化材	12.9	1.6	1.3	15	遺物包含層 (W-84)	13317	
837	鎌倉	炭化材	12.1	1.4	0.9	15	遺物包含層 (W-84)	8361	
838	鎌倉	炭化材	11.3	2.0	0.8	15	遺物包含層 (A-76)	8675	
839	鎌倉	炭化材	11.5	1.8	1.1	15	遺物包含層 (W-84)	7947	
840	鎌倉	炭化材	10.2	1.4	0.4	15	遺物包含層 (W-85)	7754	
841	鎌倉	炭化材	9.3	1.9	0.7	15	遺物包含層 (W-86)	8262	
842	鎌倉	炭化材	8.7	1.6	0.7	15	遺物包含層 (W-84)	8004	
843	鎌倉	炭化材	8.1	1.7	0.8	15	遺物包含層 (W-85)	7800	
844	鎌倉	炭化材	9.0	2.0	1.2	15	遺物包含層 (Y-77)	7173	
845	鎌倉	炭化材	9.6	1.2	0.5	15	遺物包含層 (X-78)	7255	
846	鎌倉	炭化材	7.5	1.6	1.0	15	遺物包含層 (W-84)	13318	
847	鎌倉	炭化材	8.0	1.3	1.1	15	遺物包含層 (X-78)	6132	
848	鎌倉	炭化材	8.7	1.3	0.7	15	遺物包含層 (X-84)	8118	
849	鎌倉	炭化材	8.0	1.1	0.9	15	遺物包含層 (W-84)	7984	
850	鎌倉	炭化材	5.8	2.4	0.8	15	遺物包含層 (X-77)	8452	
851	鎌倉	炭化材	4.6	2.0	0.6	15	遺物包含層 (Z-77)	5172	
852	鎌倉	部材 杭	168.8	8.0	6.6	13	1号木器集中区	6306	
853	鎌倉	部材 杭	44.4	3.6	3.0	13	2号木器集中区	6647	
854	鎌倉	部材 杭	(41.1)	5.4	3.9	13	3号木器集中区	6641	
855	鎌倉	部材 杭	55.2	3.8	3.3	13	2号木器集中区	6645	
856	鎌倉	部材 杭	(135.0)	9.9	6.3	13	第1面遺構外 (V-89)	4955	

【金属製品】

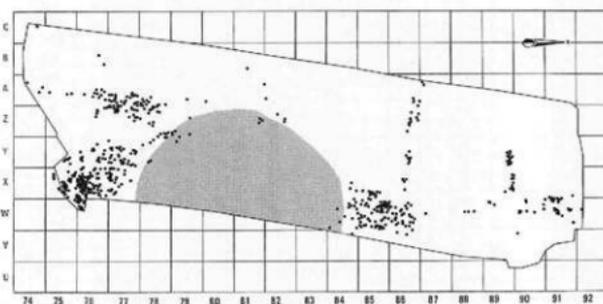
図版番号	種別	法量 (cm)			出土地点		登録番号	備考
		最大長	最大幅	最大厚	層位	遺構		
857	刀子	(8.5)	(1.5)	0.3	17	1号土器集中区	30119	
858	刀子	(17.7)	(1.9)	0.35	18	X-84	16677	
859	紡錘車の軸	(13.5)	0.6	0.5	15	W-84	8012	
860	用途不明	(8.8)	(1.0)	0.6	17	X-84	11676	
861	用途不明	(4.8)	0.3	0.3	15	Z-79	5260	
862	用途不明	(5.1)	0.6	0.4	15	Y-77	7118	
863	釘	(5.5)	0.3	0.2	15	A-77	8684	
864	釘	(7.6)	0.3	0.5	15	Y-78	7587	
865	火打ち金具	(8.0)	(2.6)	0.4	15	W-86	7716	
866	用途不明	(6.3)	(1.4)	0.2	15	Z-78	5231	
867	用途不明	(3.7)	(3.9)	0.4	18	W-83	3995	
868	用途不明	(9.3)	(3.0)	0.3	13	W-84	4793	
869	用途不明	(8.0)	(1.6)	0.2	15	W-84	7970	

別表IV 遺物分布図1



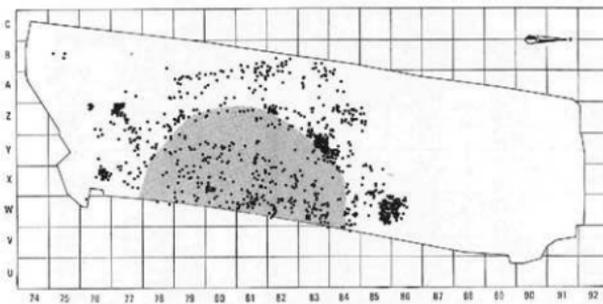
・第1面(13層)

土師器 (1)



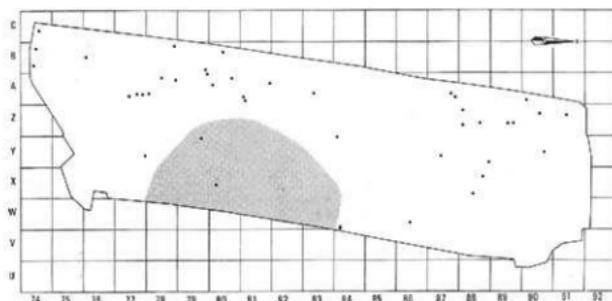
・遺物包含層(15層)

土師器 (2)



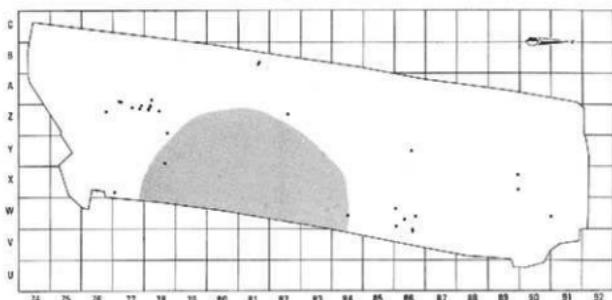
・第2面(17層)

土師器 (3)



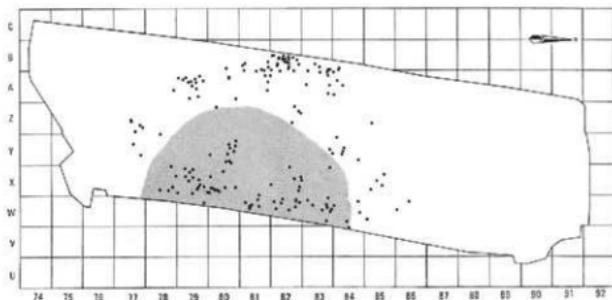
・第1面(13層)

S字状口縁台付甕 (1)



・遺物包含層(15層)

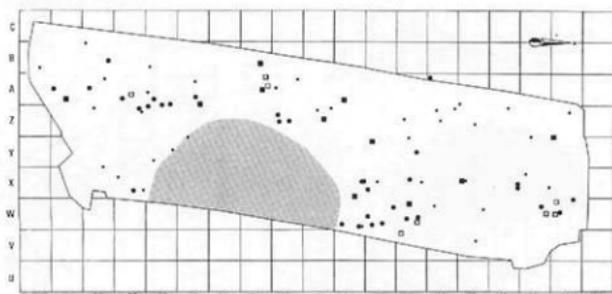
S字状口縁台付甕 (2)



・第2面(17層)

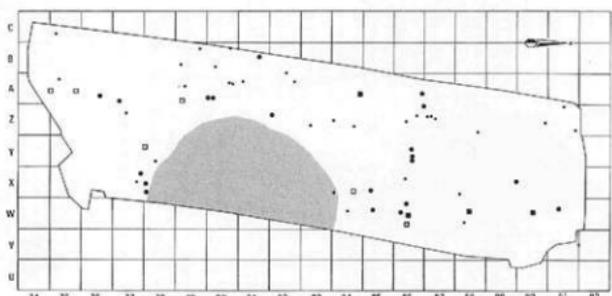
S字状口縁台付甕 (3)

別表IV 遺物分布図3



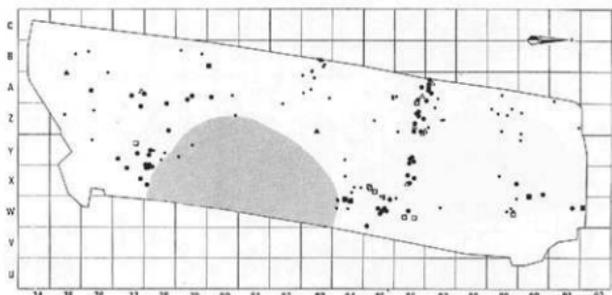
灰釉陶器 須恵器

- ・灰釉陶器 (第1面: 13層)
- 灰釉陶器 (遺物包含層: 15層)
- 須恵器 (第1面: 13層)
- 須恵器 (遺物包含層: 15層)



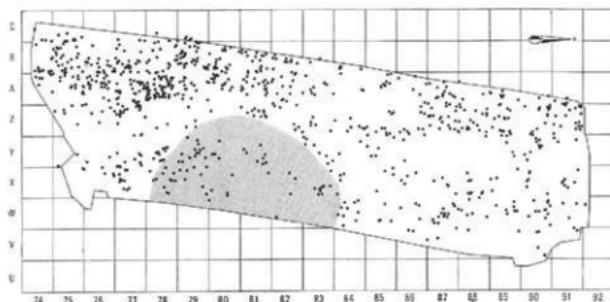
舶載陶磁器

- ・青磁 (第1面: 13層)
- 青磁 (遺物包含層: 15層)
- 白磁 (第1面: 13層)
- 白磁 (遺物包含層: 15層)



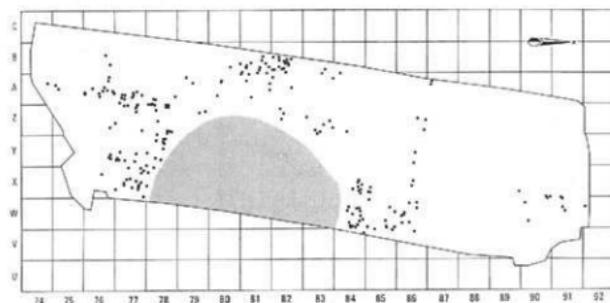
国産陶器 (鎌倉期)

- ・常滑 (第1面: 13層)
- 常滑 (遺物包含層: 15層)
- 旅枝 (第1面: 13層)
- 旅枝 (遺物包含層: 15層)
- ▲濠洲 (第1面: 13層)
- △濠洲 (遺物包含層: 15層)



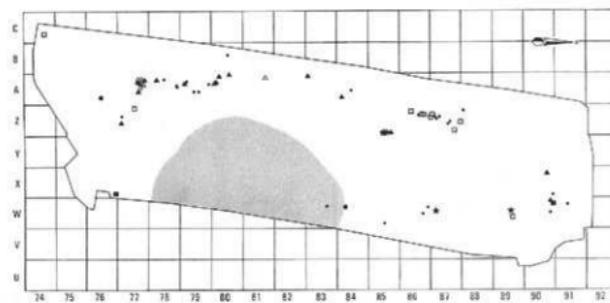
・第1面(13層)

土師質土器 (1)



・土師質土器(遺物包含層:15層)
■瓦器(遺物包含層:15層)

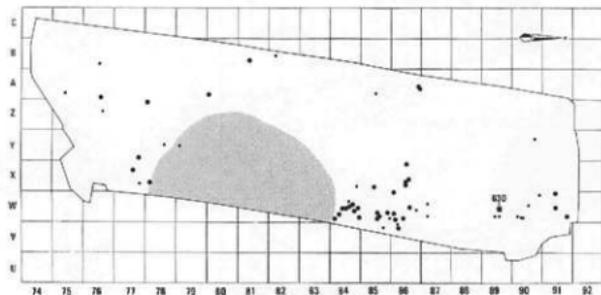
土師質土器 (2) 瓦器



●土師
●土師
■土師系
□土師(摺鉢)
▲おろ茶碗
△本國
★肥前

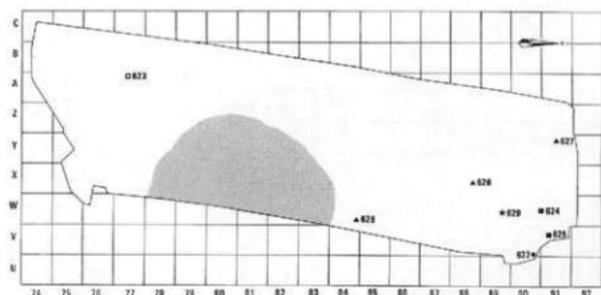
国産陶器 (近世期)

別表IV 遺物分布図5



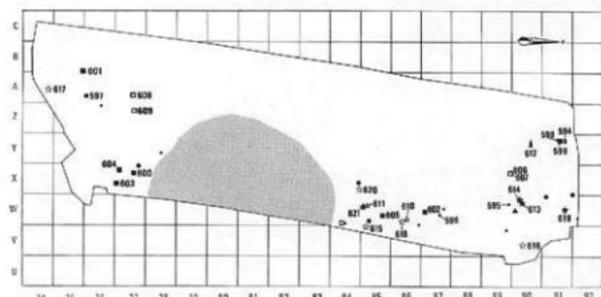
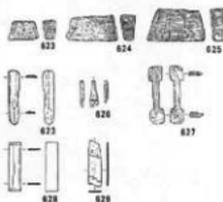
木製品 (呪術具)

- 奈串 (第1面: 13層)
- 奈串 (遺物包含層: 15層)
- 形代 (第1面: 13層)



木製品 (装身具 履物 漆工具 織具 運搬具)

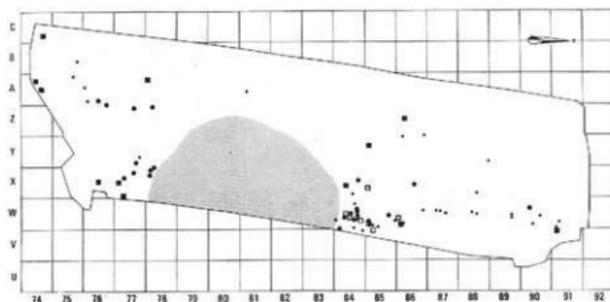
- 扇子 (第1面: 13層)
- 下駄 (第1面: 13層)
- 下駄 (遺物包含層: 15層)
- ▲ 漆工具・織具 (第1面: 13層)
- ★ 荷札 (第1面: 13層)



木製品 (飲食器 調理・炊事具 容器)

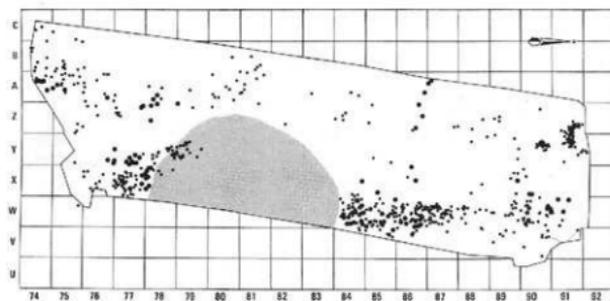
- 漆椀皿 (第1面: 13層)
- 漆碗 (遺物包含層: 15層)
- 漆鉢 (第1面: 13層)
- 漆 (遺物包含層: 15層)
- ▲ 漆椀木 (第1面: 13層)
- △ 漆椀木 (遺物包含層: 15層)
- ★ 漆碗 (第1面: 13層)
- ☆ 漆碗 (遺物包含層: 15層)
- ▲ 漆物 (第1面: 13層)





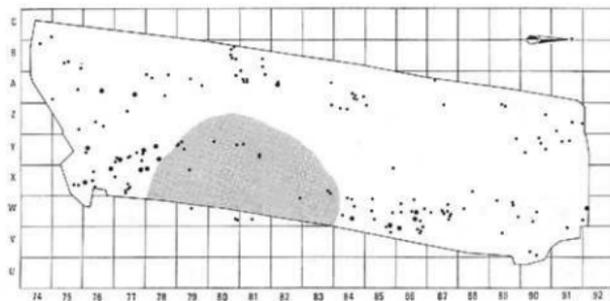
木製品(炭化材) 用途不明具:棒状類

- ・炭化材: 端部が検出している (第1面: 13層)
- 炭化材: 端部が検出している (遺物包含層: 15層)
- 用途不明具: 端部が検出していない (第1面: 13層)
- 用途不明具: 端部が検出していない (遺物包含層: 15層)



木製品(用途不明具:板材・角材類)

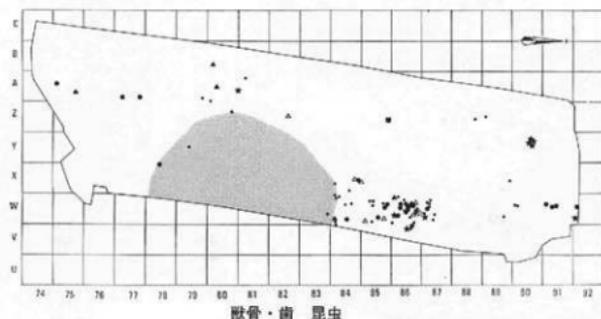
- ・第1面 (13層)
- 遺物包含層 (15層)



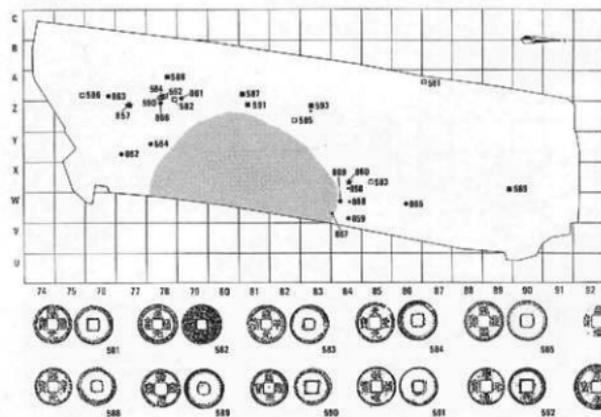
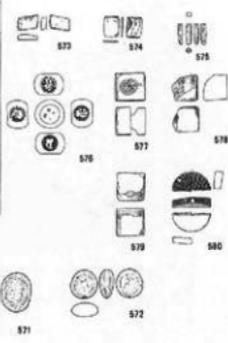
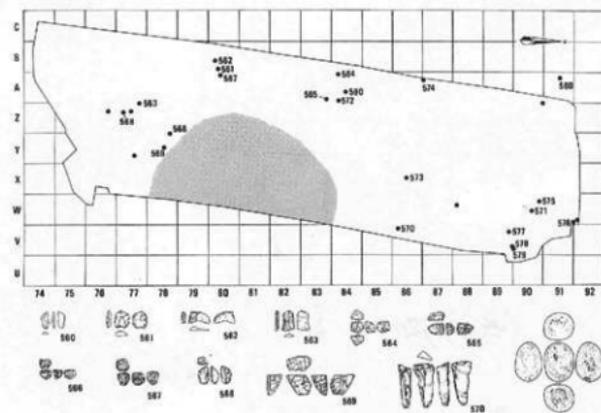
木製品(炭化物)

- ・第1面 (13層)
- 遺物包含層 (15層)

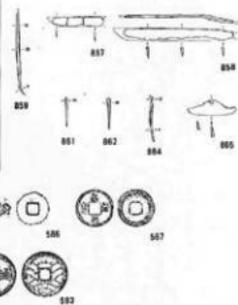
別表IV 遺物分布図7



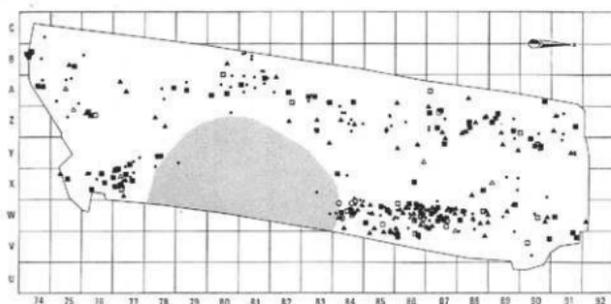
- 獸骨 (第1面: 13層)
- 獸骨 (遺物包含層: 15層)
- ▲ 獸骨 (第3面: 28層)
- ▲ 獸骨 (第1面: 13層)
- △ 獸骨 (遺物包含層: 15層)
- ★ 昆虫 (第1面: 13層)
- ☆ 昆虫 (遺物包含層: 15層)



- 金屬製品 (第1面: 13層)
- 金屬製品 (遺物包含層: 15層)
- ★ 金屬製品 (第2面: 17層)
- 錢貨 (第1面: 13層)
- 錢貨 (遺物包含層: 15層)

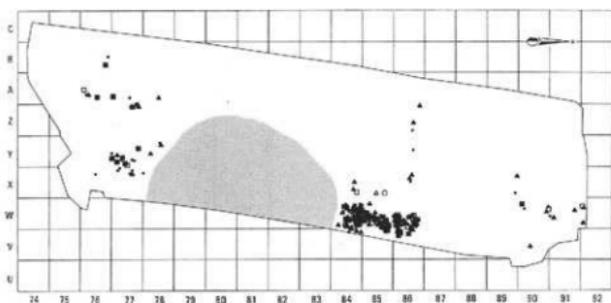


別表IV 遺物分布図8



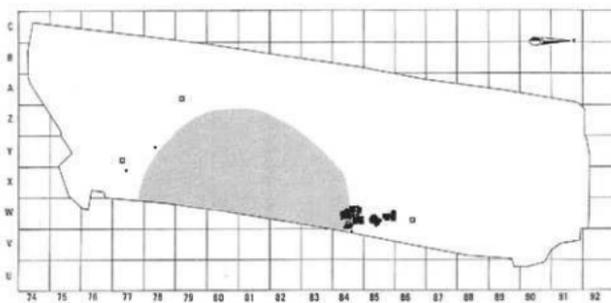
種子(第1面:13層)

- (大型)
 A: 長さ3.0cm以上、幅2.5cm以上
 B: 長さ3.0cm以上、幅2.0~2.5cm未満
 (中型)
 C: 長さ2.5~3.0cm未満、幅2.0~2.5cm未満
 D: 長さ2.5~3.0cm未満、幅2.0cm未満
 (小型)
 E: 長さ2.5cm未満、幅2.0cm未満
 F: 長さ2.5cm未満、幅2.0~2.5cm未満



種子(遺物包含層:15層)

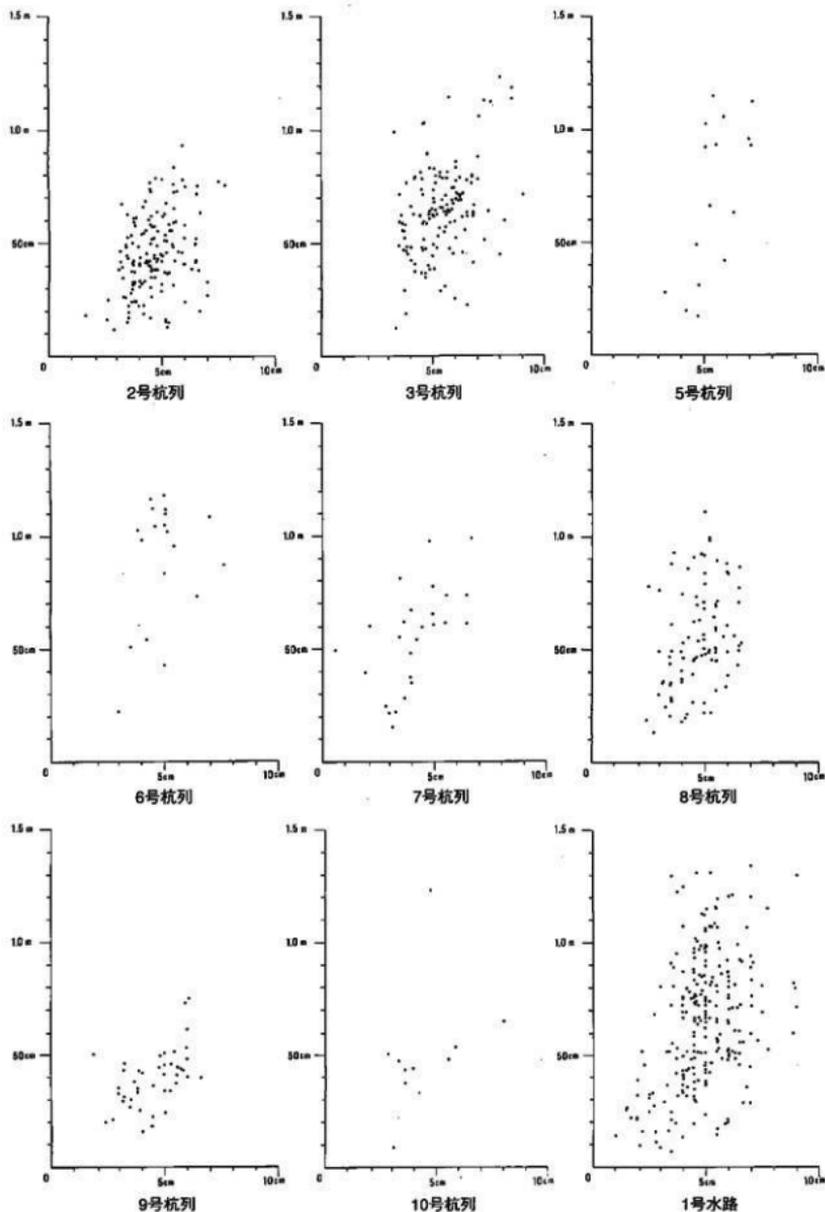
- (大型)
 A: 長さ3.0cm以上、幅2.5cm以上
 B: 長さ3.0cm以上、幅2.0~2.5cm未満
 (中型)
 C: 長さ2.5~3.0cm未満、幅2.0~2.5cm未満
 D: 長さ2.5~3.0cm未満、幅2.0cm未満
 (小型)
 E: 長さ2.5cm未満、幅2.0cm未満
 F: 長さ2.5cm未満、幅2.0~2.5cm未満



種子(第2面:17層)

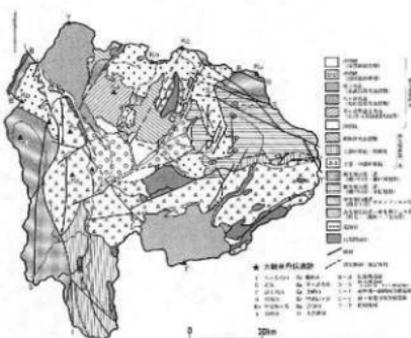
- (大型)
 A: 長さ3.0cm以上、幅2.5cm以上
 B: 長さ3.0cm以上、幅2.0~2.5cm未満
 (中型)
 C: 長さ2.5~3.0cm未満、幅2.0~2.5cm未満
 D: 長さ2.5~3.0cm未満、幅2.0cm未満
 (小型)
 E: 長さ2.5cm未満、幅2.0cm未満

別表V 杭計測表

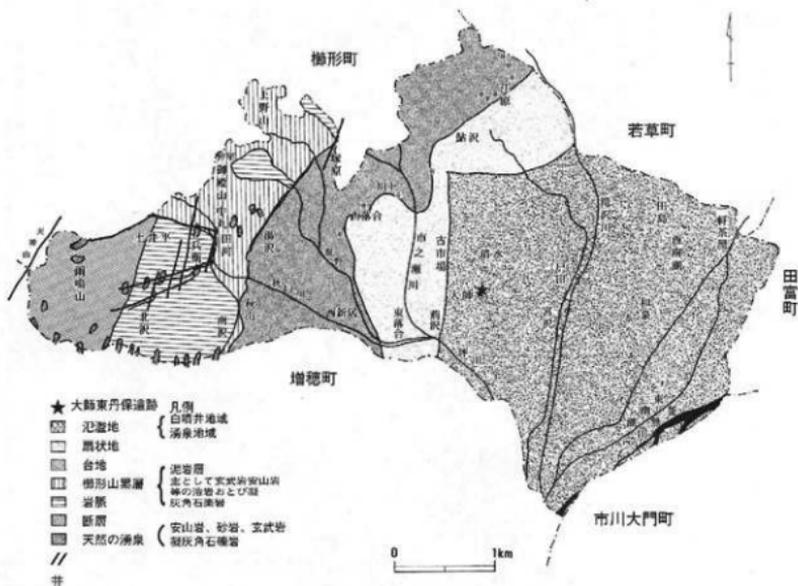




山梨県地形区分図

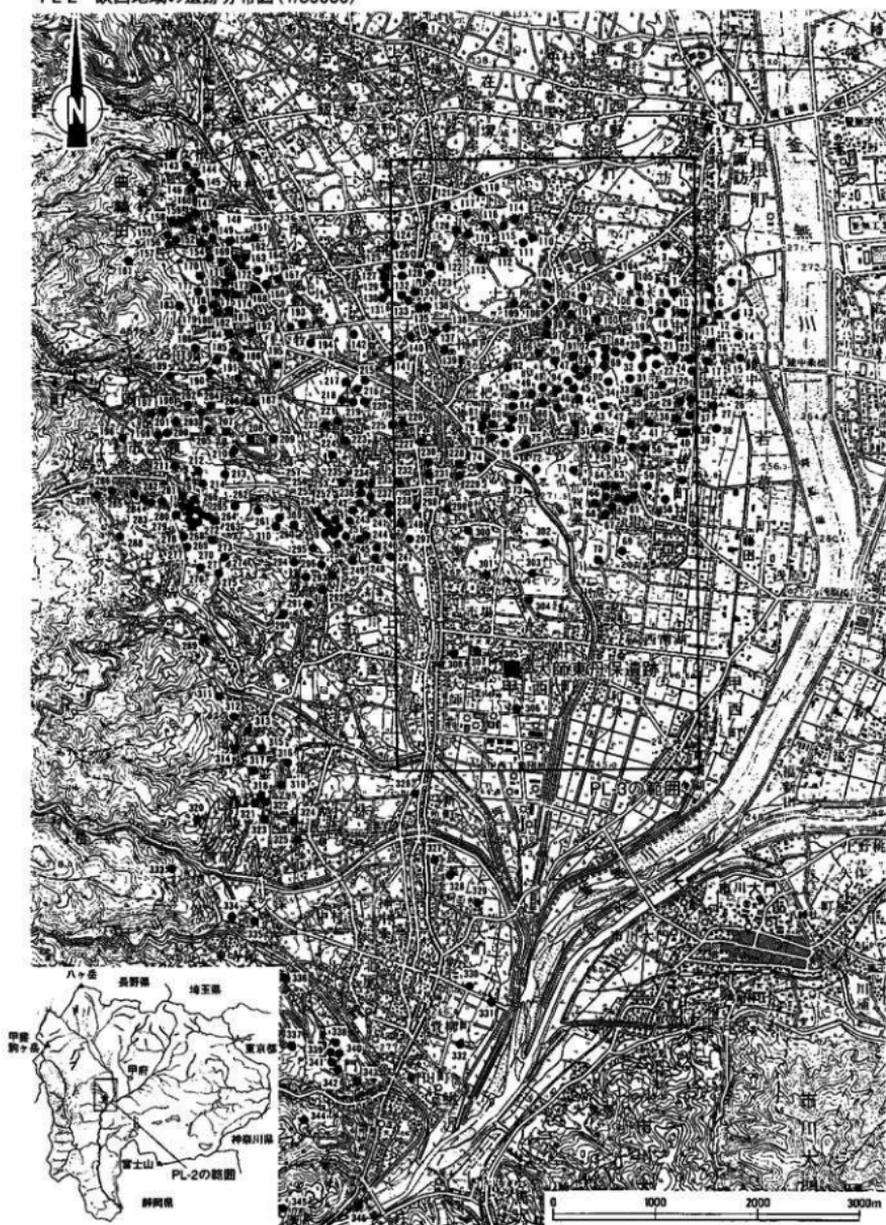


山梨県地質図



甲西町地質図

PL-2 峡西地域の遺跡分布図(1/50000)

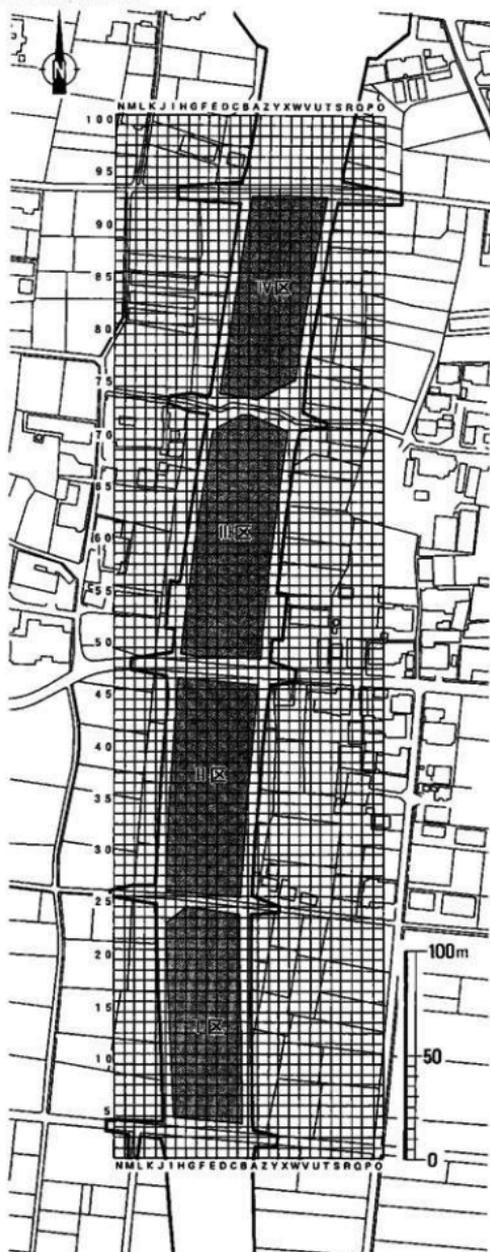




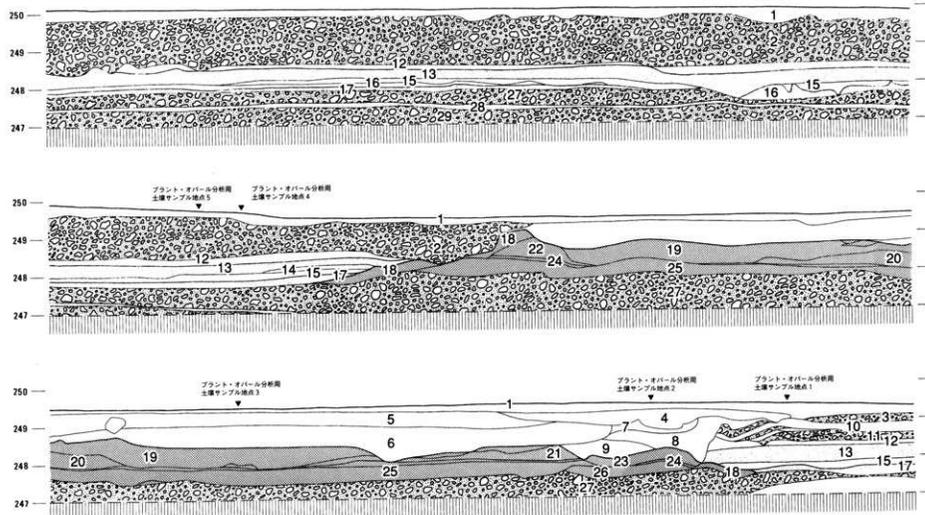
〈一般国道52号改築・中部横断自動車道建設に伴い発見された遺跡〉

- 51 新居道下遺跡
- 71 二本柳遺跡
- 95 村前東A遺跡
- 108 十五所遺跡
- 114 セツ打C遺跡
- 302 向河原遺跡
- 303 油田遺跡
- 304 中川田遺跡
- 305 大師東丹保遺跡
- 306 宮沢中村遺跡

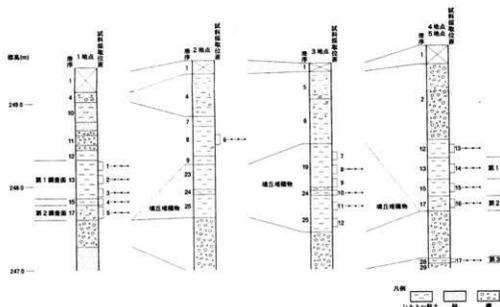
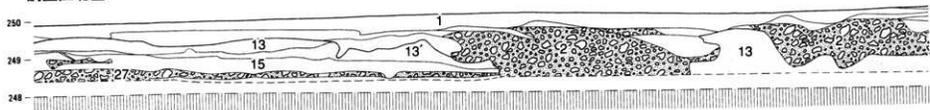
PL-4 大師東丹保遺跡発掘区 (1/2500)



一調査区東壁一

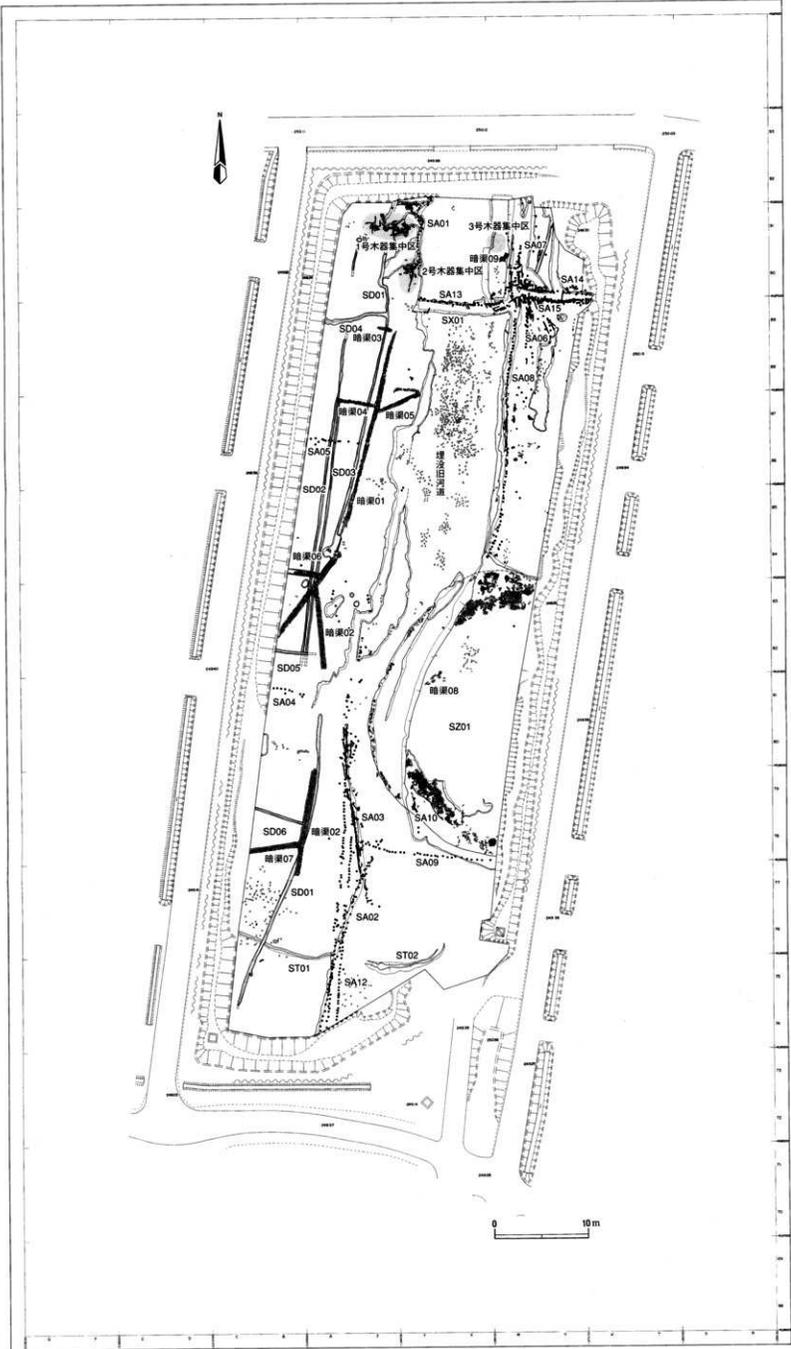


一調査区北壁一

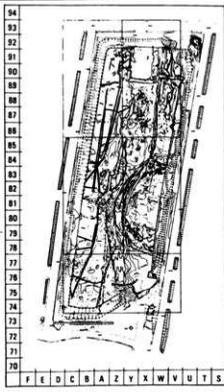


層別	砂粒区分	色調	特色	調査面/年代	備考
1	シルト+小礫	暗灰	鉄分		
2	砂礫	暗灰			
3	砂礫	暗灰			
4	シルト+細砂	暗褐			
5	シルト+細砂	暗褐			
6	シルト+細砂	茶褐			
7	シルト	暗褐		6	第1層面
8	シルト	黒褐			第2層面
9	シルト	暗茶褐	鉄分		第3層面
10	シルト+細砂	暗灰			第4層面
11	細砂	暗灰	鉄分		
12	シルト	暗灰		13	
13	シルト	黒褐		1-3	
14	シルト+細砂	暗灰		14	
15	砂礫	暗灰		4	
16	シルト	黒褐		15	

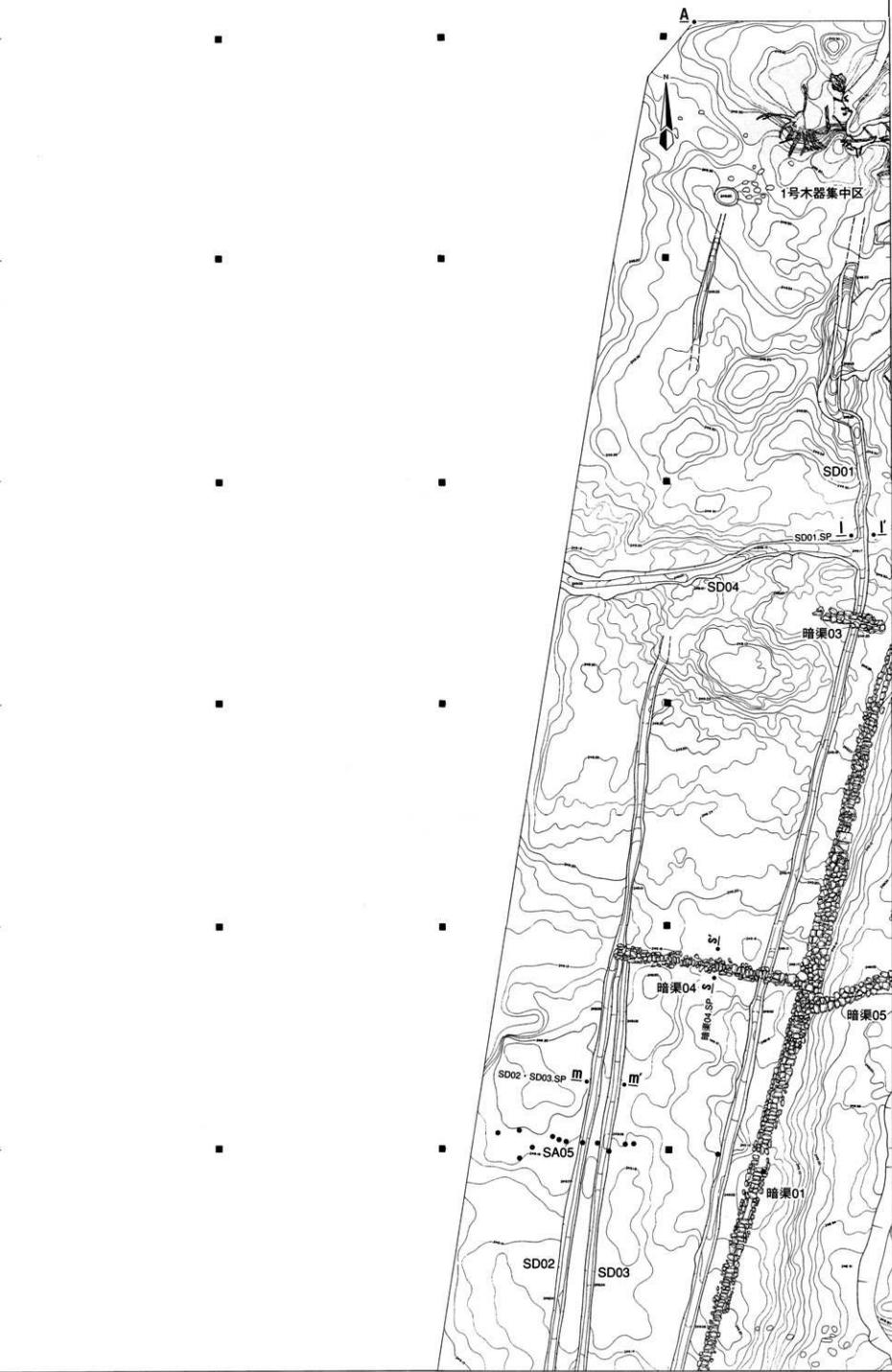
層別	砂粒区分	色調	特色	調査面/年代	備考
16	シルト+砂礫	青灰			
17	シルト+砂礫	黒褐		5, 16	
18	シルト	黒褐	珪石部		
19	シルト	青灰		7-9	
20	シルト	暗青灰	占		
21	シルト	青灰	積		
22	シルト	暗青灰	積		
23	シルト	青灰	丘		
24	シルト	黒褐	厚	10	
25	シルト	青灰		11	
26	シルト	青灰			
27	砂礫	暗灰			
28	シルト	黒褐			
29	砂礫	暗灰		17	



C B A Z

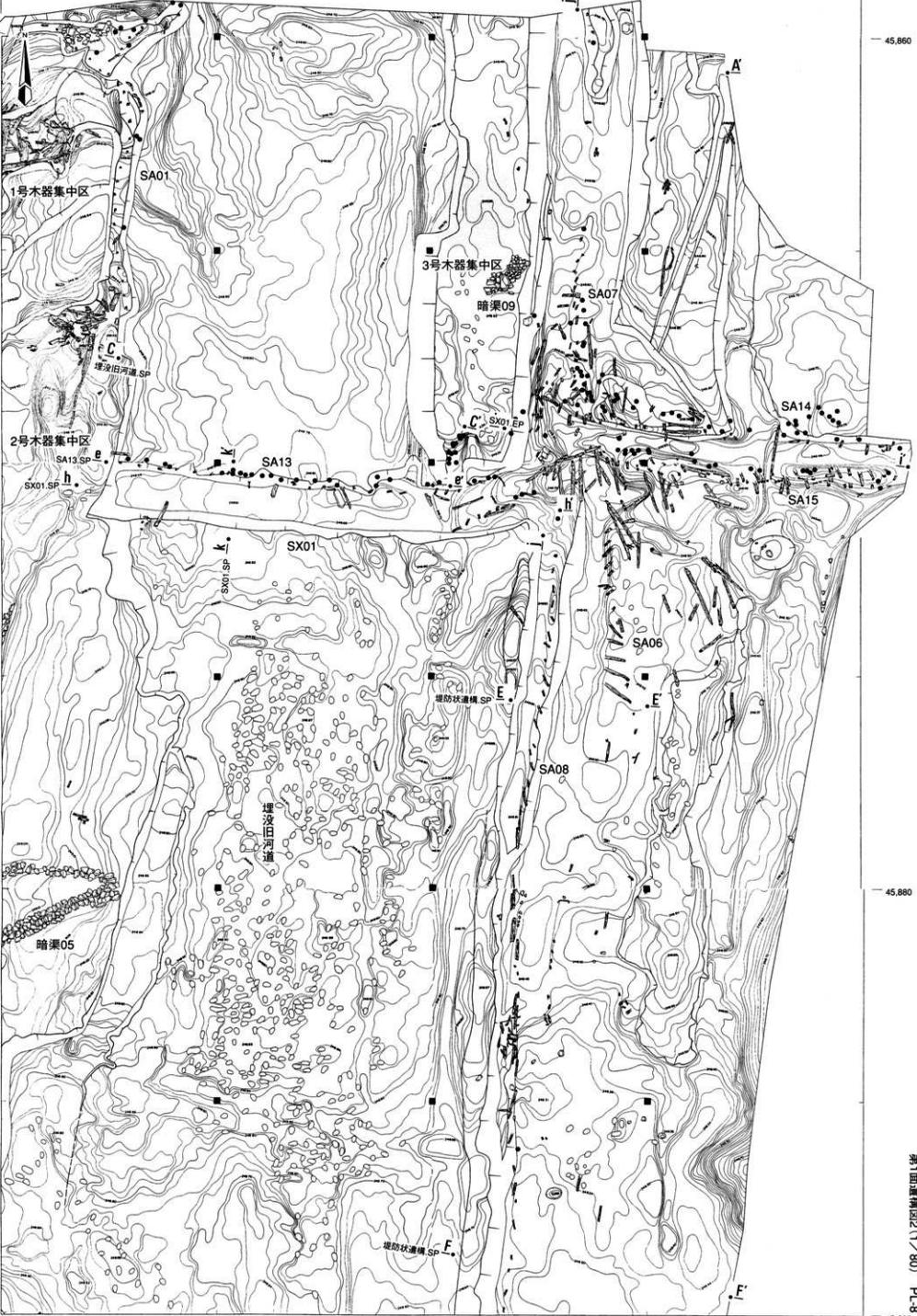
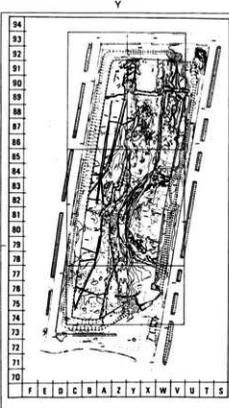


93
92
91
90
89
88
87
86
85
84
83
82
81
80
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70

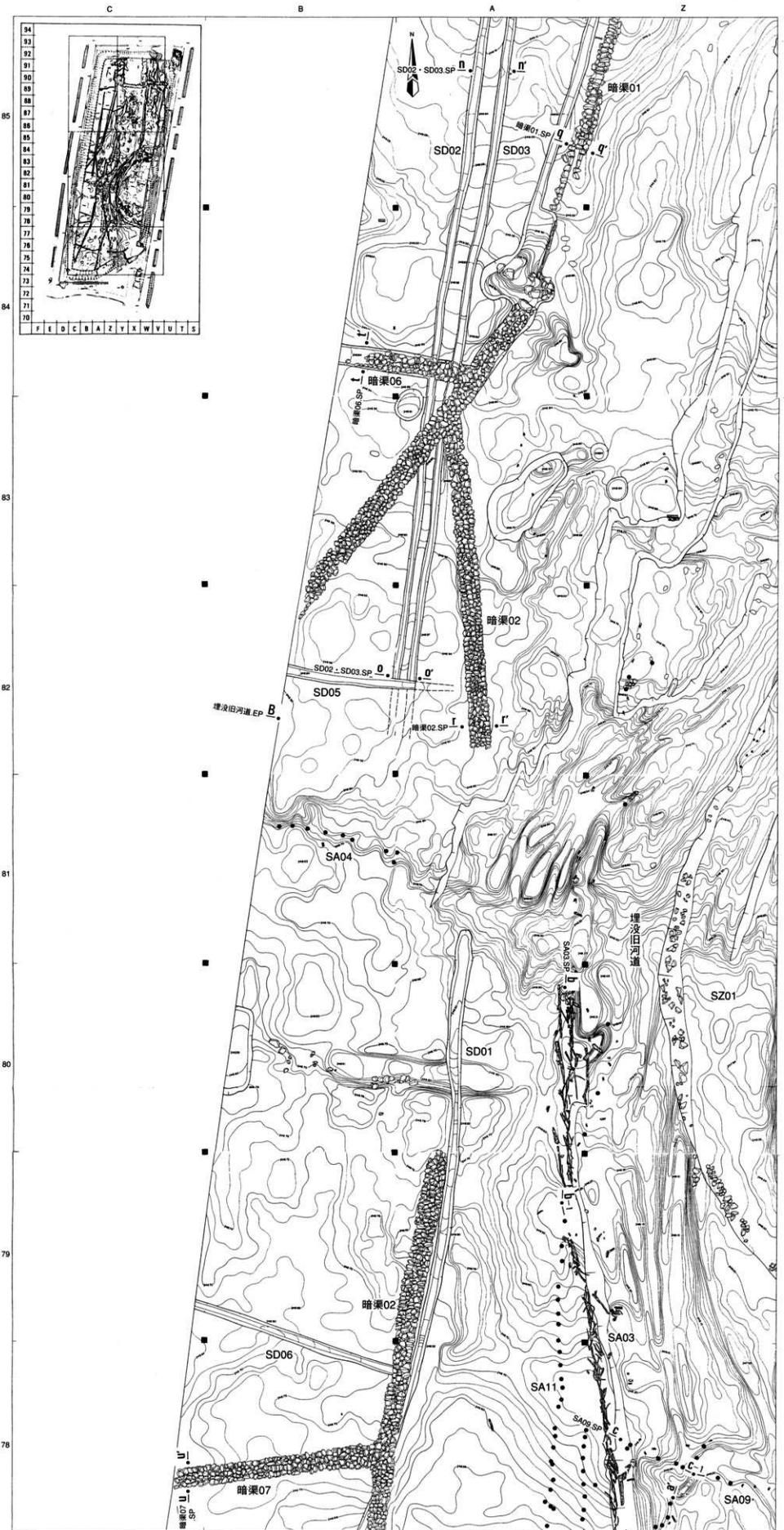


45.860
45.870
45.880
45.890

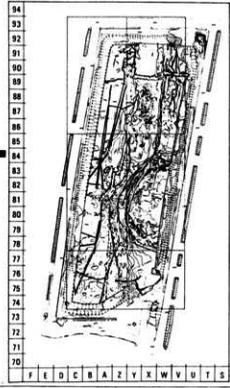
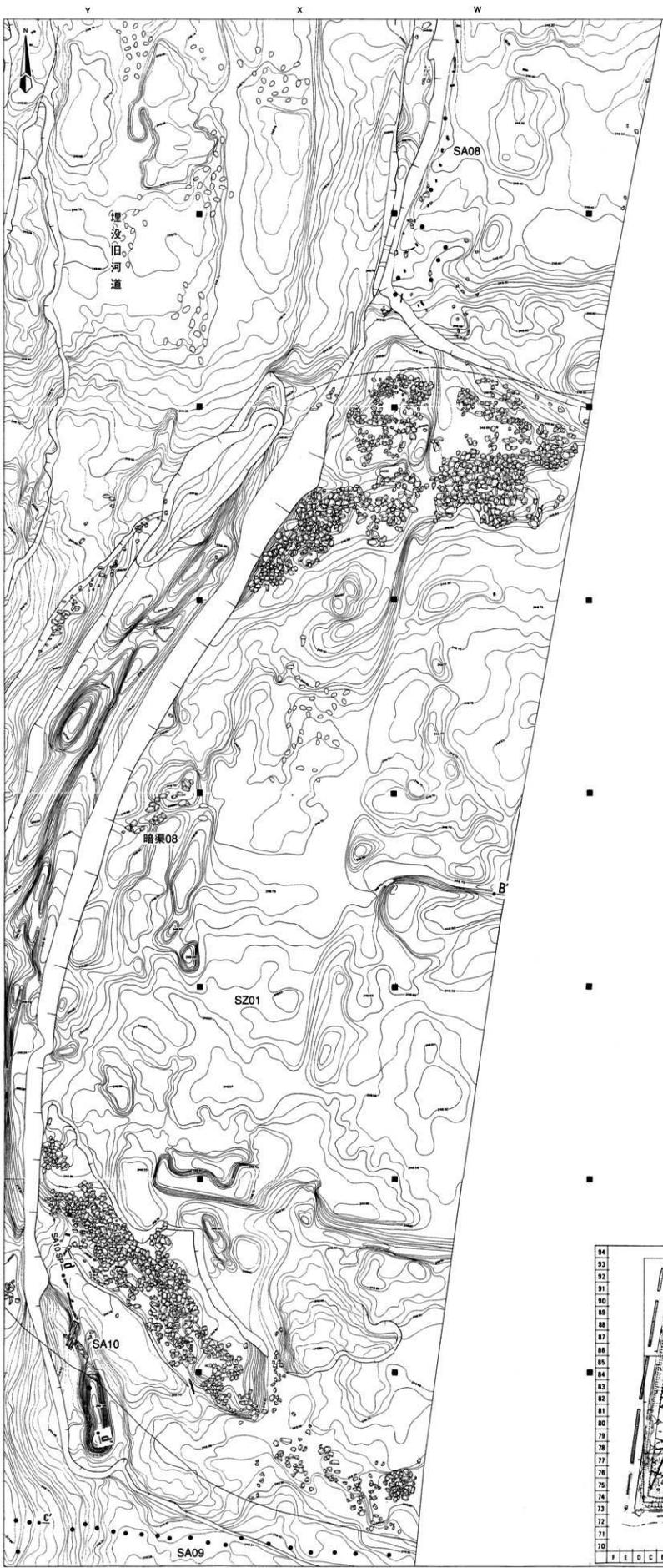
- 852-86 -



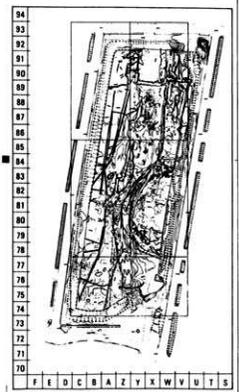
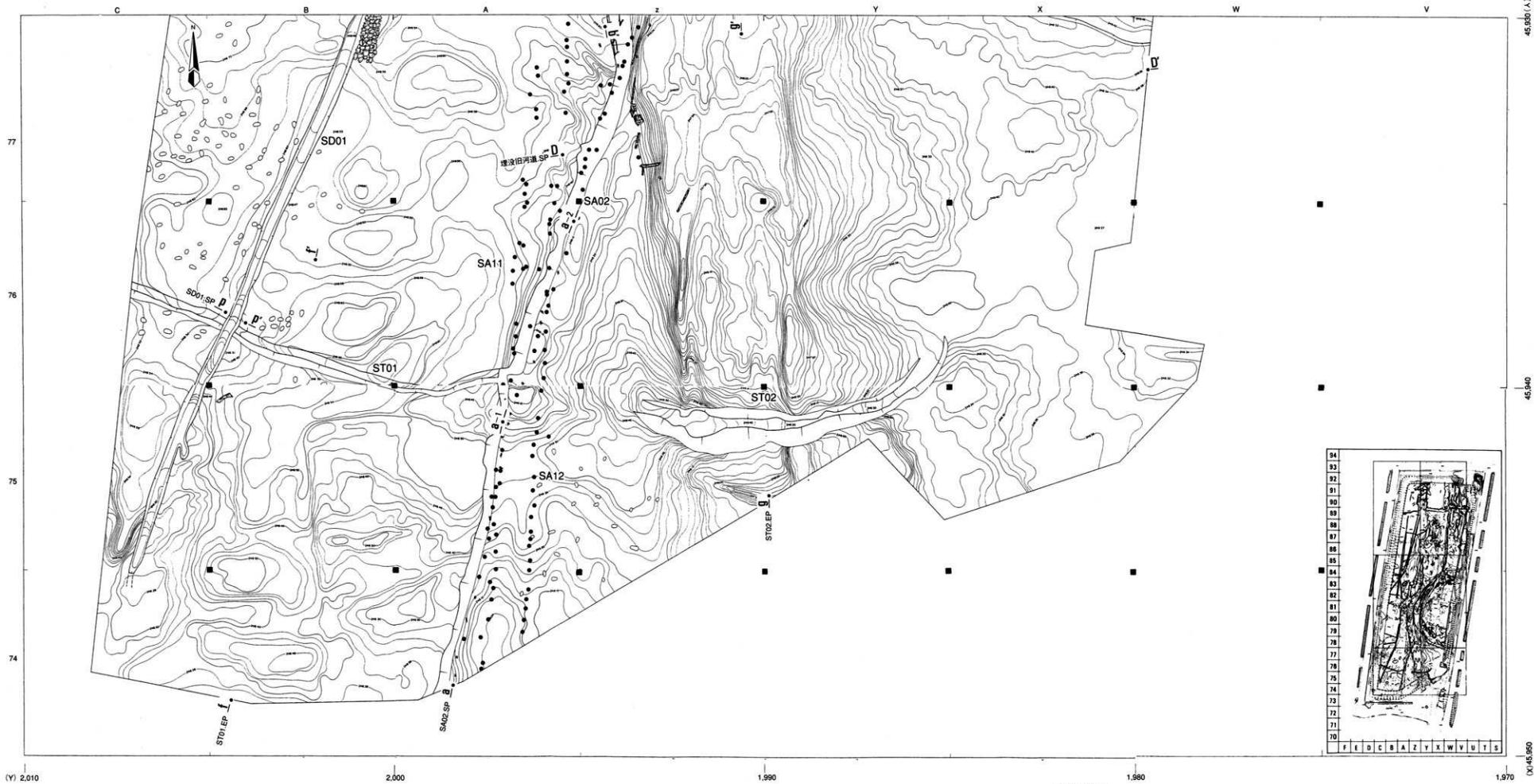
-57-88-

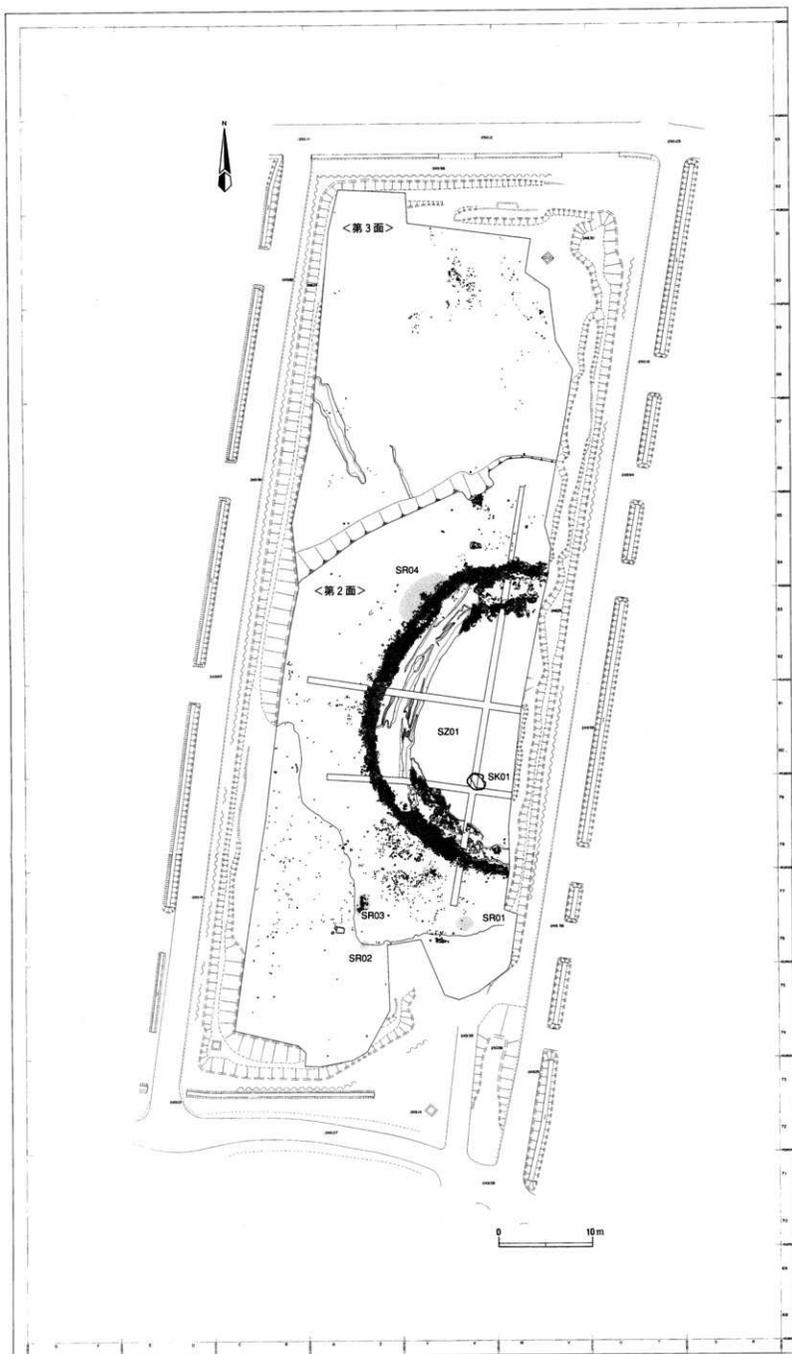


00-00

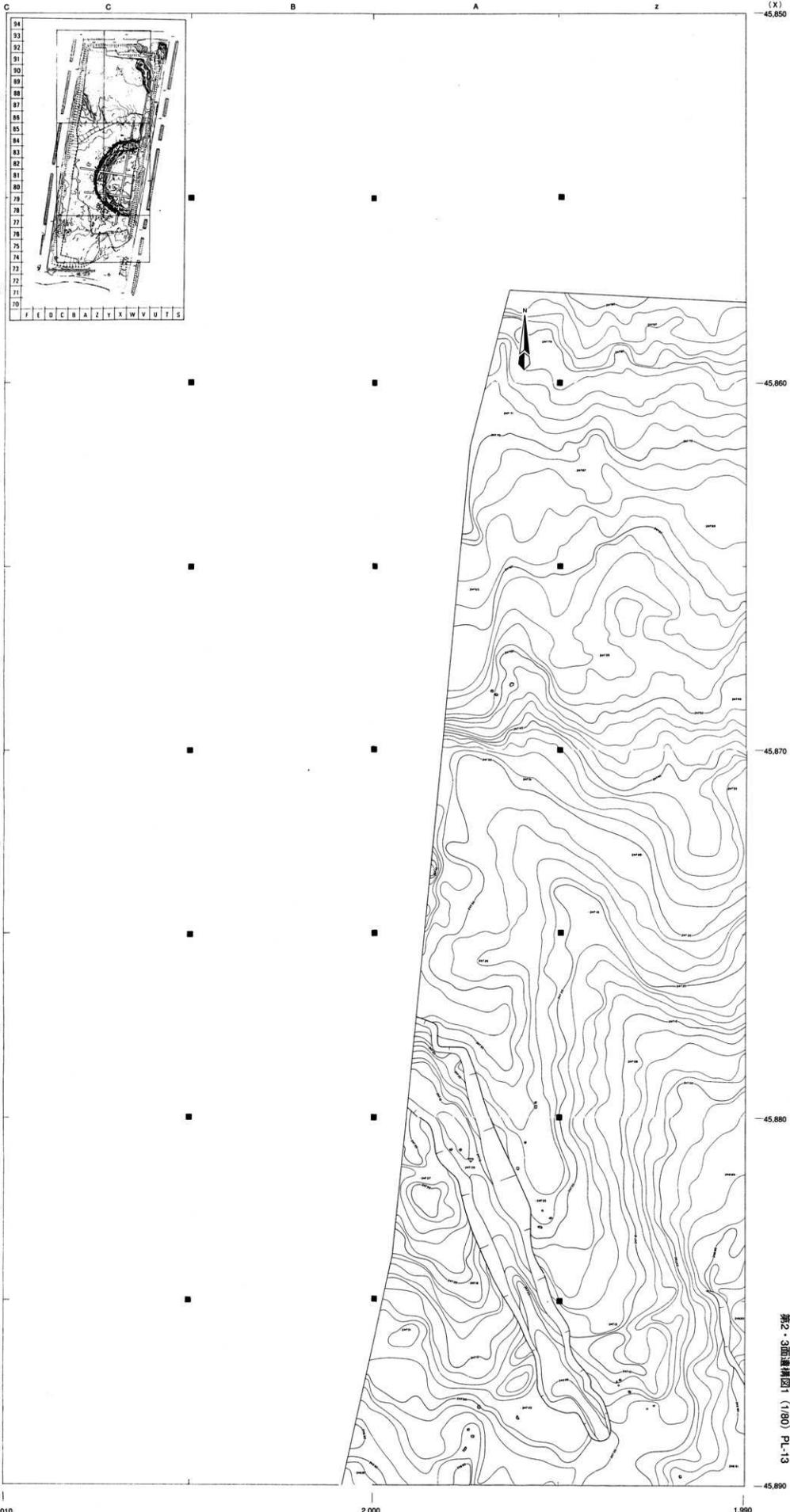


- 91 ~ 92 -





- 97 ~ 98 -



(X)

45,850

45,860

45,870

45,880

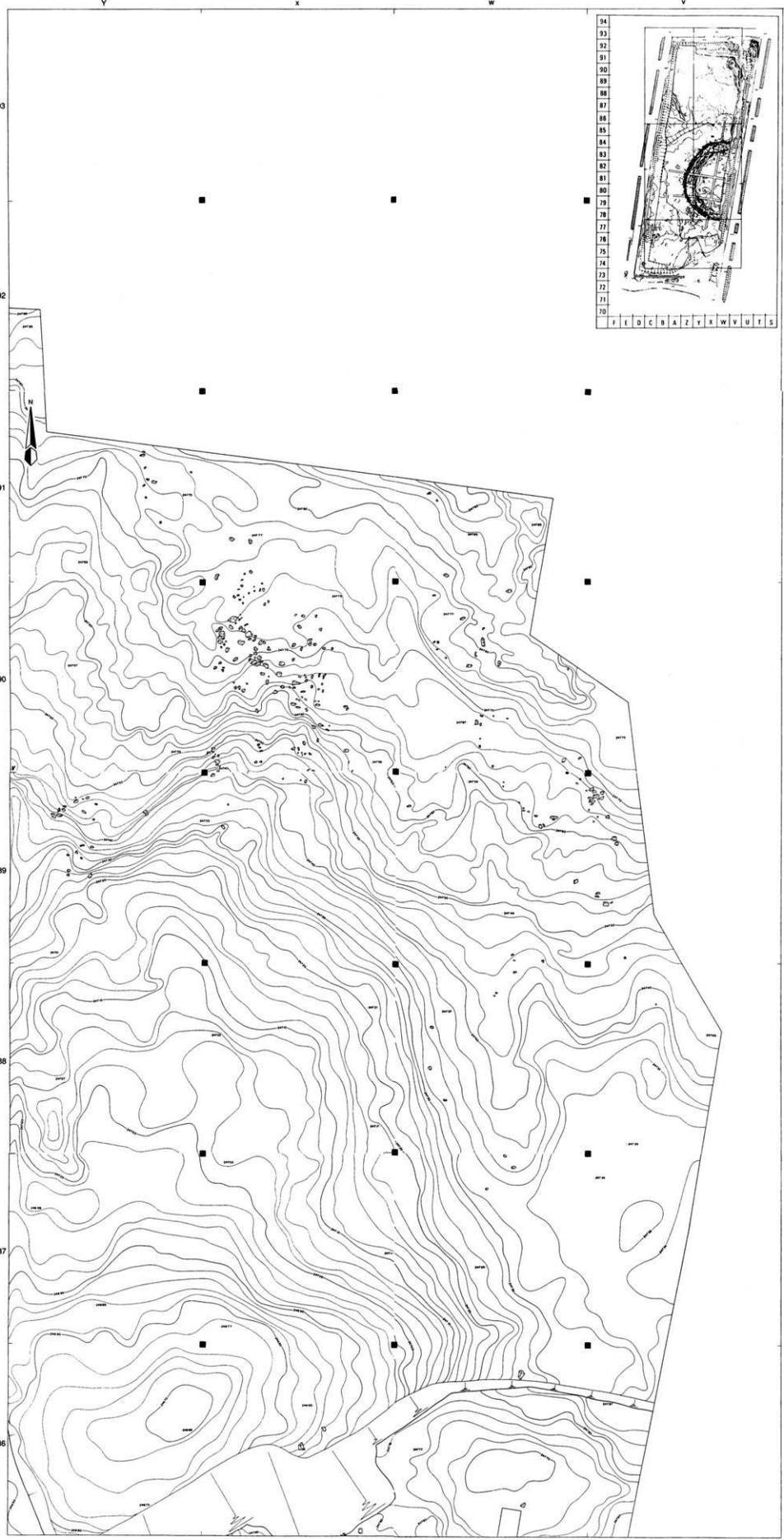
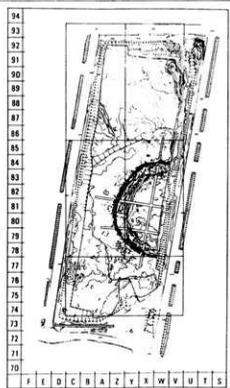
45,890

(Y) 2,010

2,000

1,990

第2 - 3面建構圖1 (1/80) PL-13



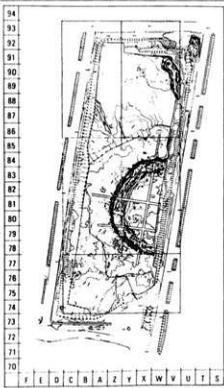
-99-100-

C

B

A

Z



85
84
83
82
81
80
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70

83

82

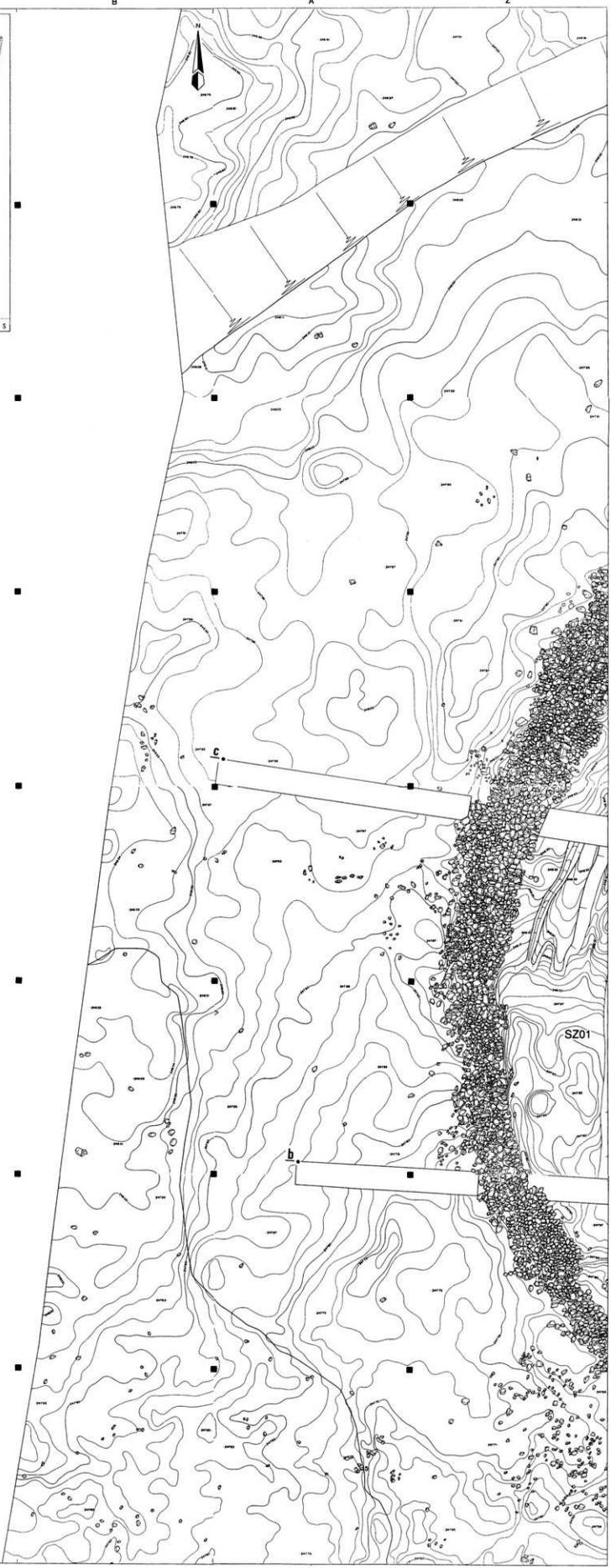
81

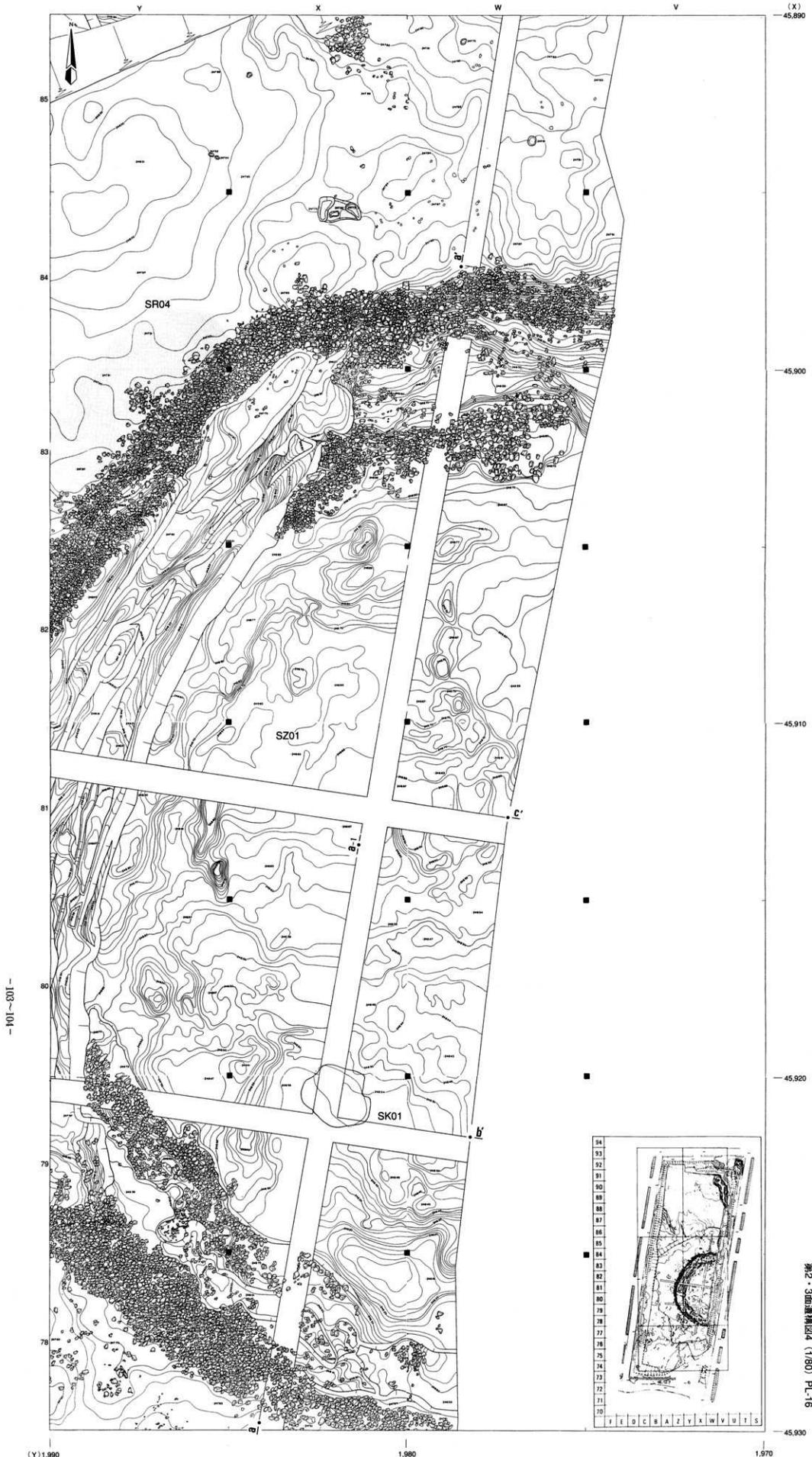
80

79

78

- 101 - 102 -





- 103 ~ 104 -

(X) 45,890

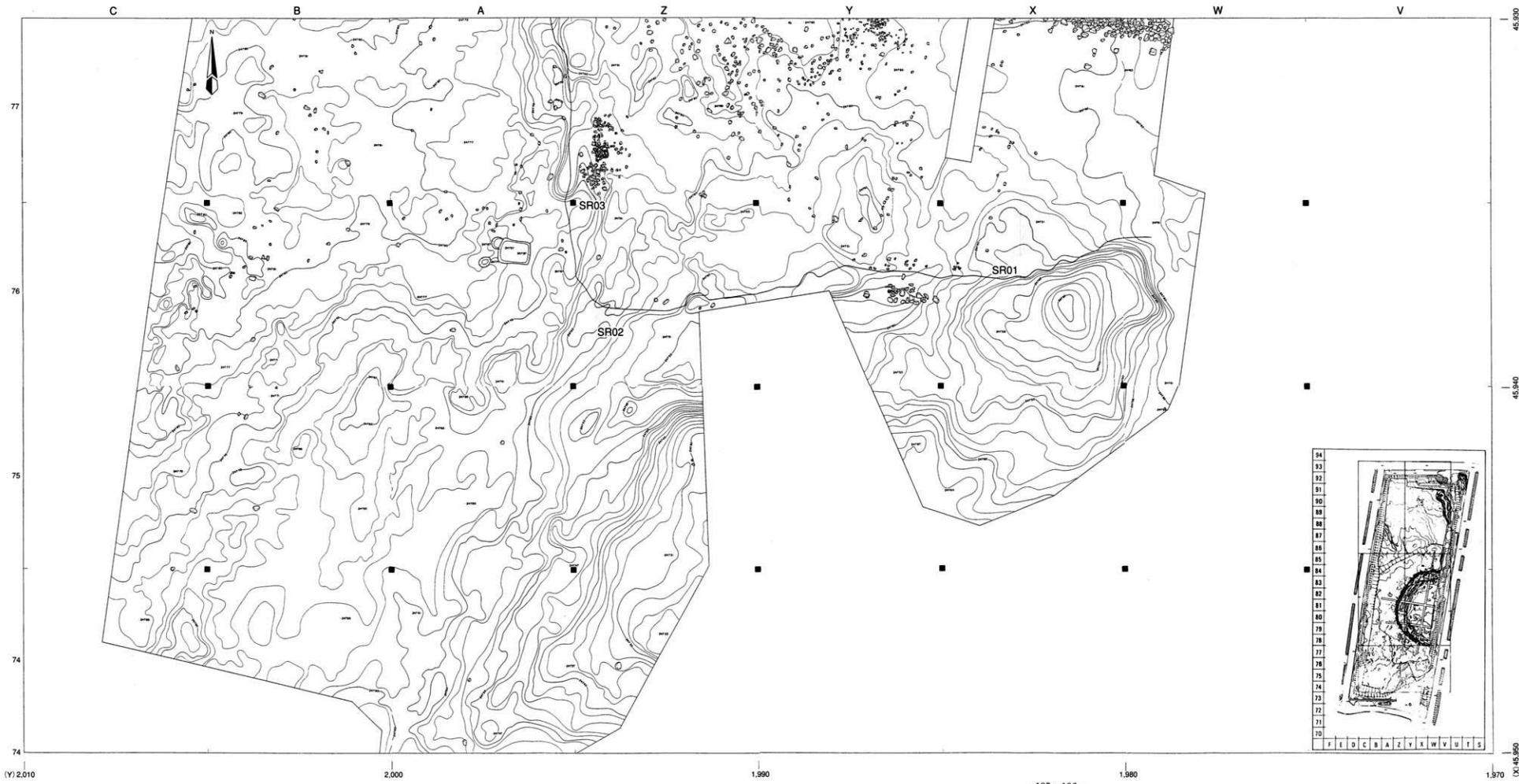
45,900

45,910

45,920

45,930

第2・3面植林図4 (1/80) PL-16



(Y) 2,010

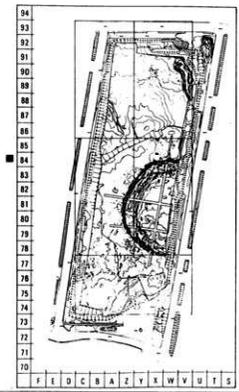
2,000

1,990

-105~106-

1,980

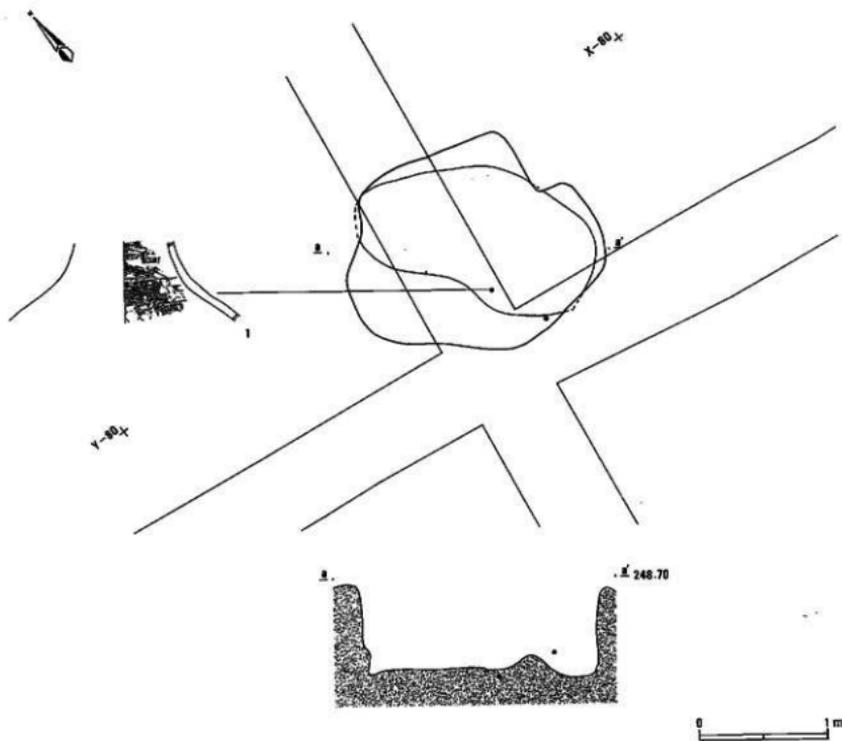
1,370

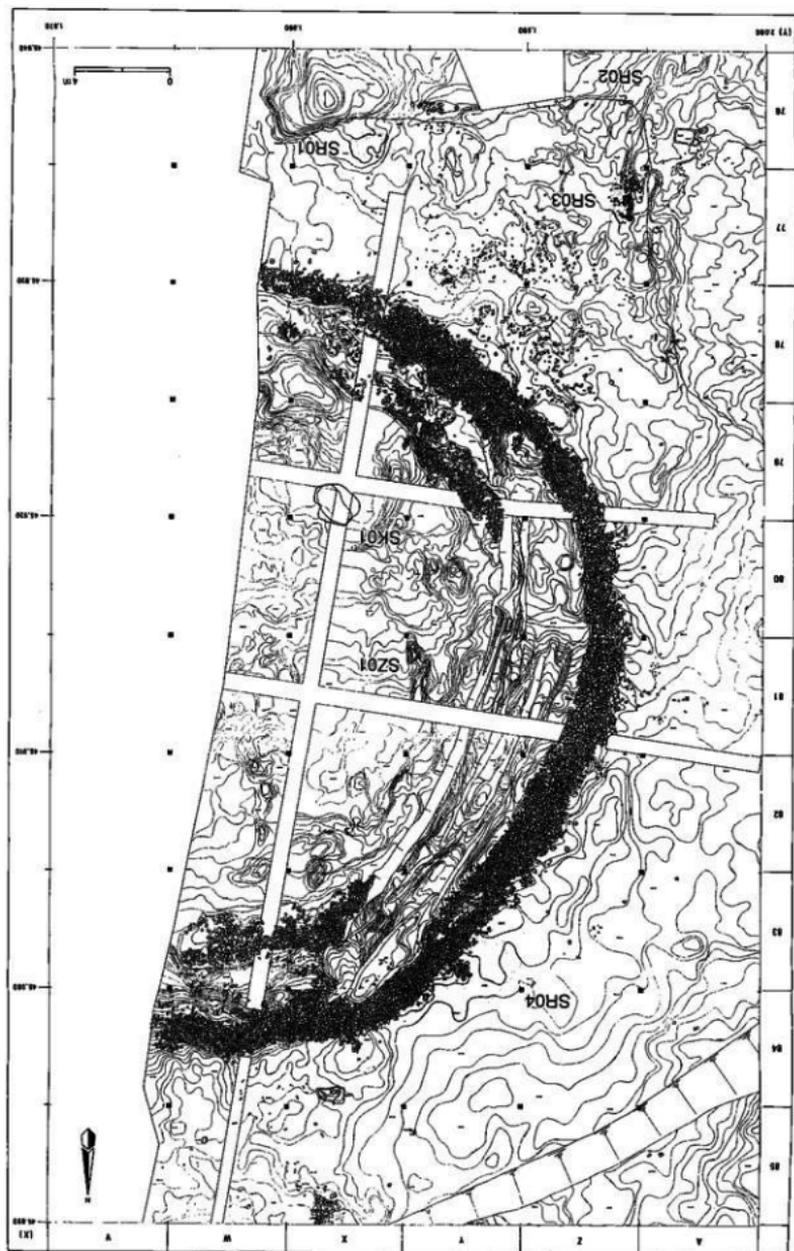


45,800

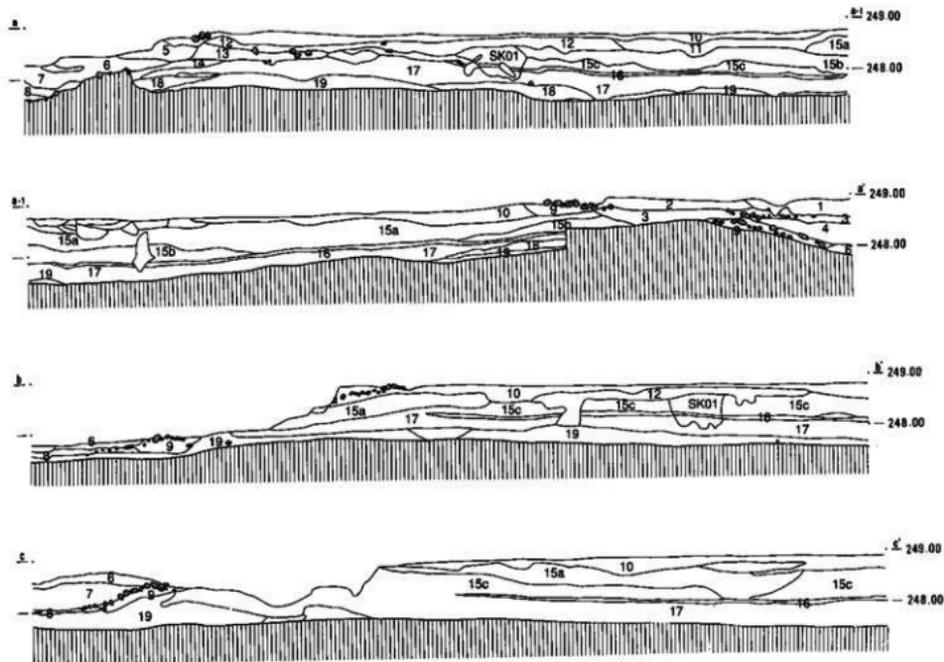
45,840

45,880



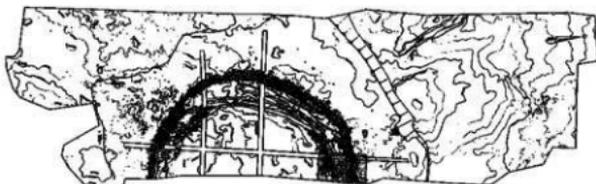


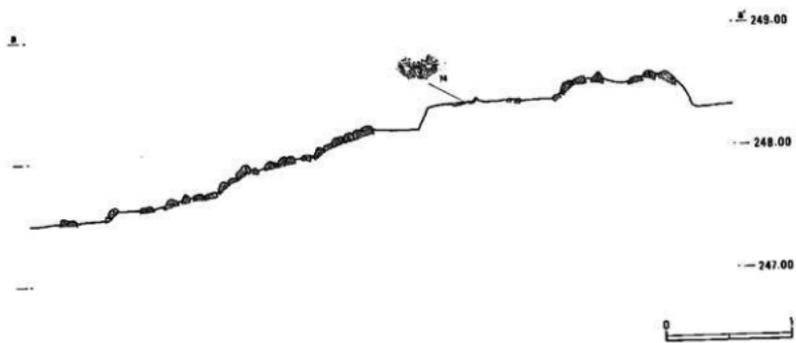
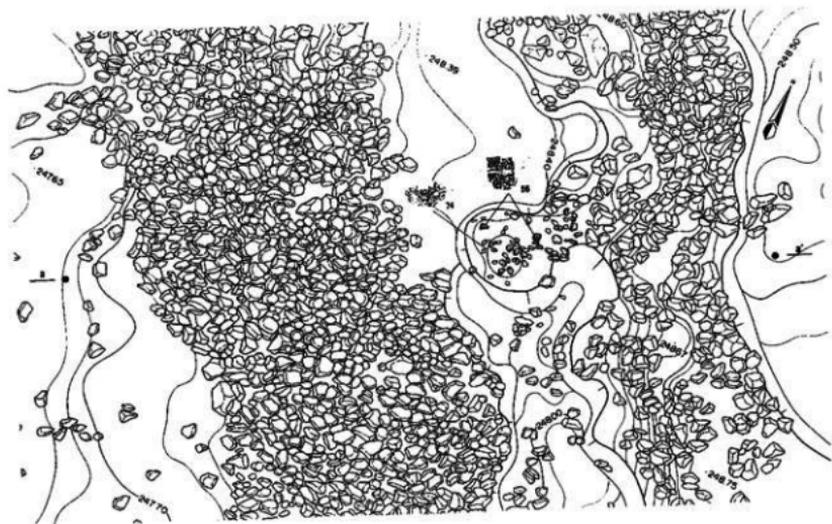
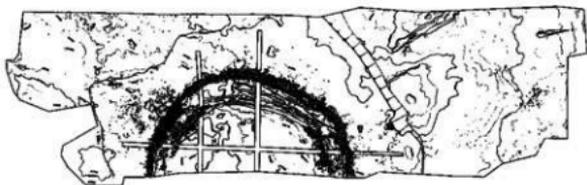
PL-19 大廟東丹保古墳SZ01 墳丘測量圖 (1/200)

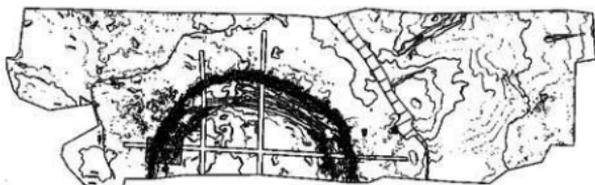


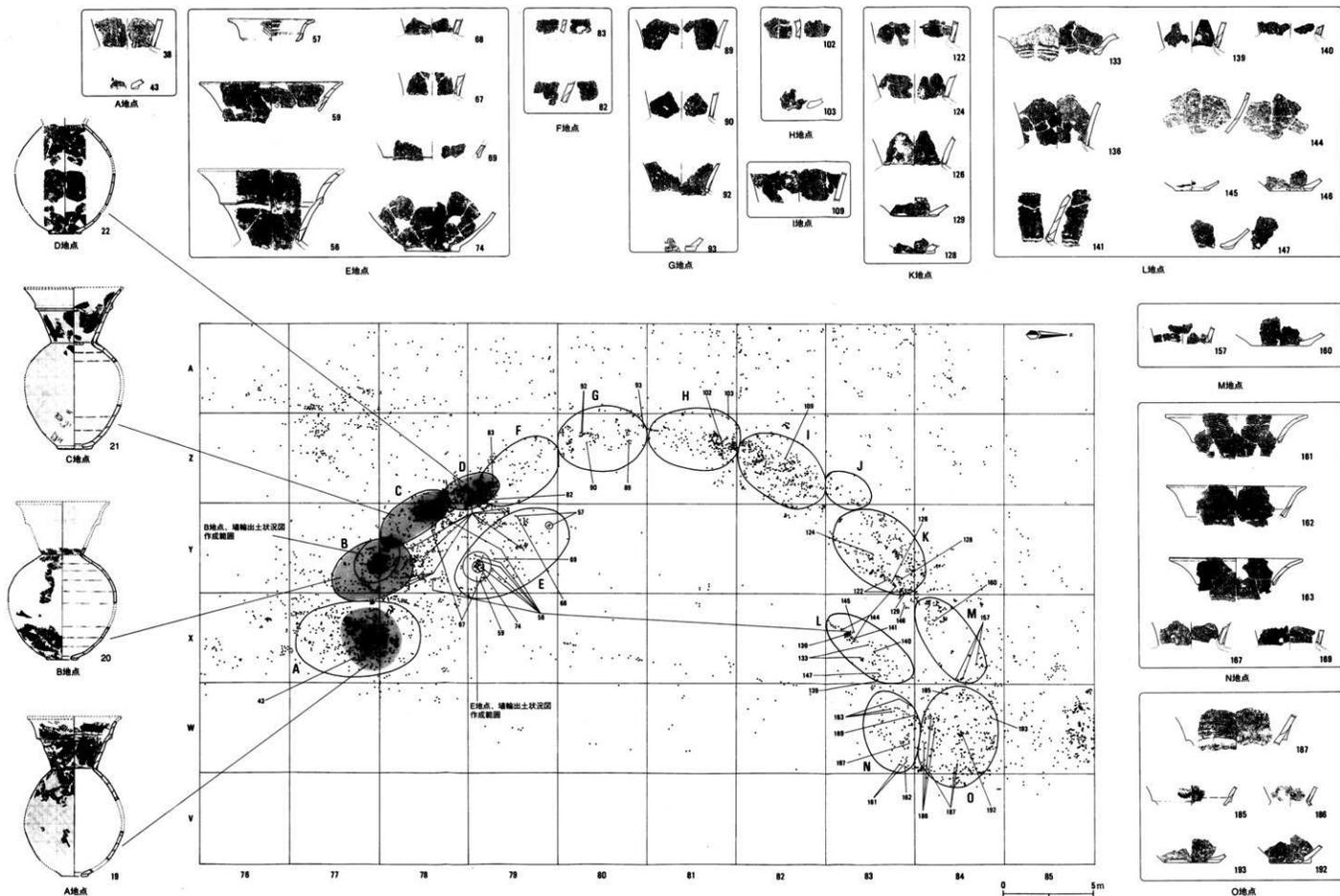
- | | |
|------------------------|--------------|
| 1: 青灰色粘質土層 | 12: 茶褐色砂質土層 |
| 2: 暗褐色土層 | 13: 暗茶褐色土層 |
| 3: 暗褐色土層 | 14: 暗青灰色砂質土層 |
| 4: 黑褐色粘質土層 | 15a: 青灰色粘質土層 |
| 5: 茶褐色土層 | 15b: 青灰色粘質土層 |
| 6: 黑褐色粘質土層 (第1面: 鎌倉時代) | 15c: 青灰色粘質土層 |
| 7: 暗灰色砂質土層 | 16: 黑色粘質土層 |
| 8: 黑褐色粘質土層 (第2面: 古墳時代) | 17: 青灰色粘質土層 |
| 9: 黑褐色粘質土層 | 18: 青灰色粘質土層 |
| 10: 茶褐色土層 | 19: 砂礫層 |
| 11: 茶褐色砂質土層 | |

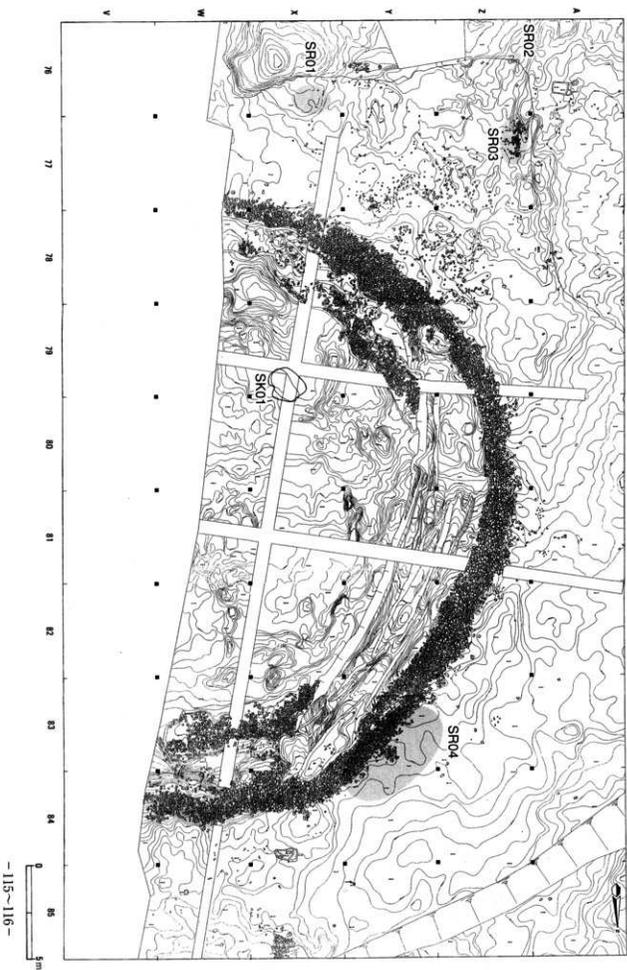


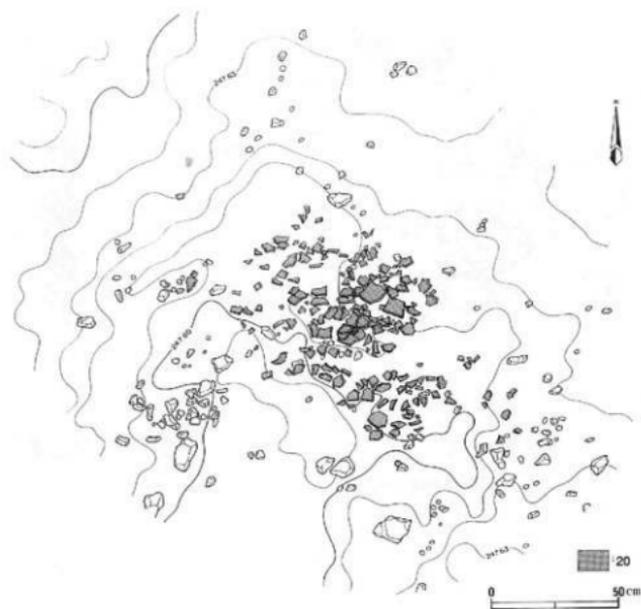




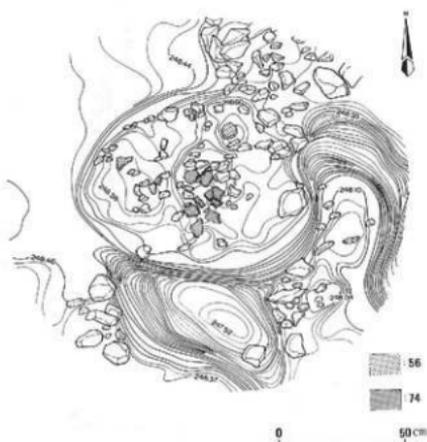




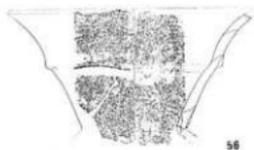




B地点 壺形埴輪出土状況



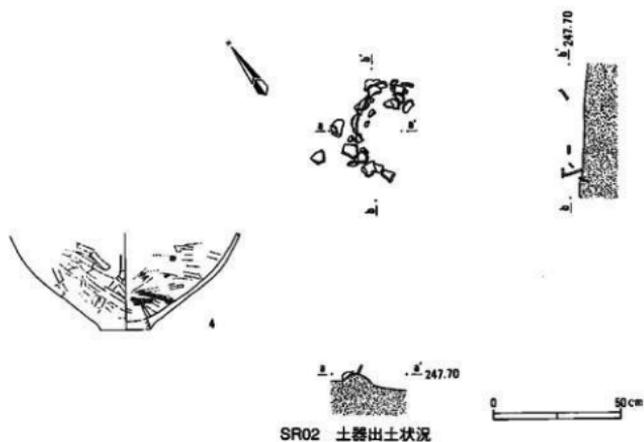
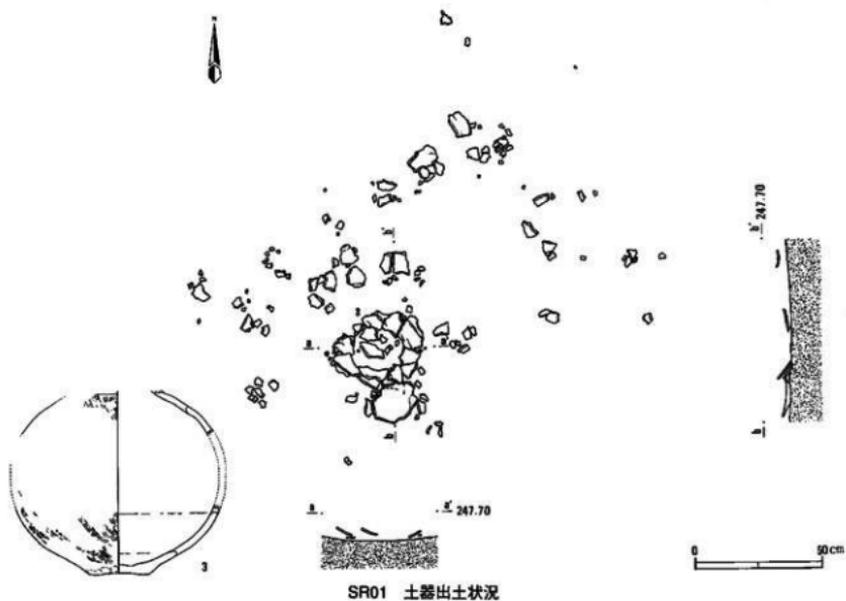
E地点 壺形埴輪出土状況

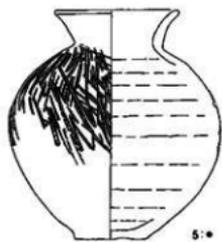
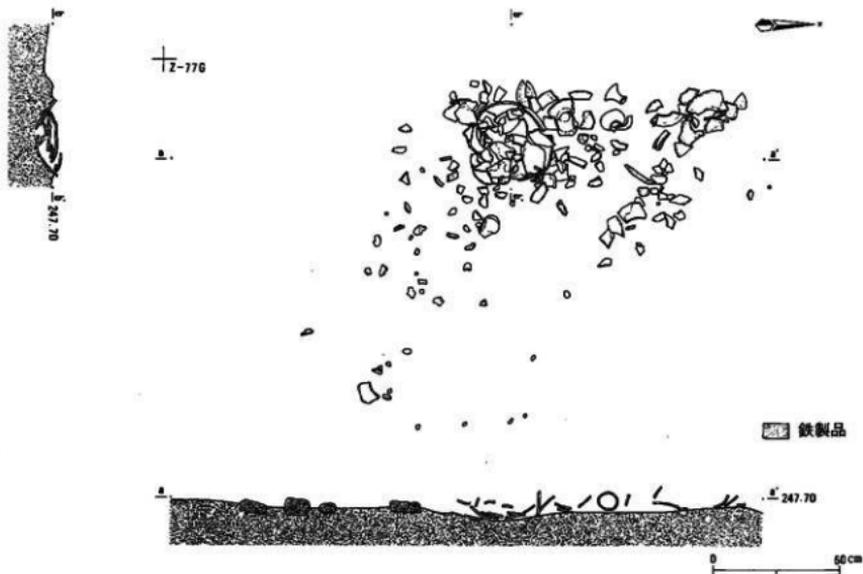


56

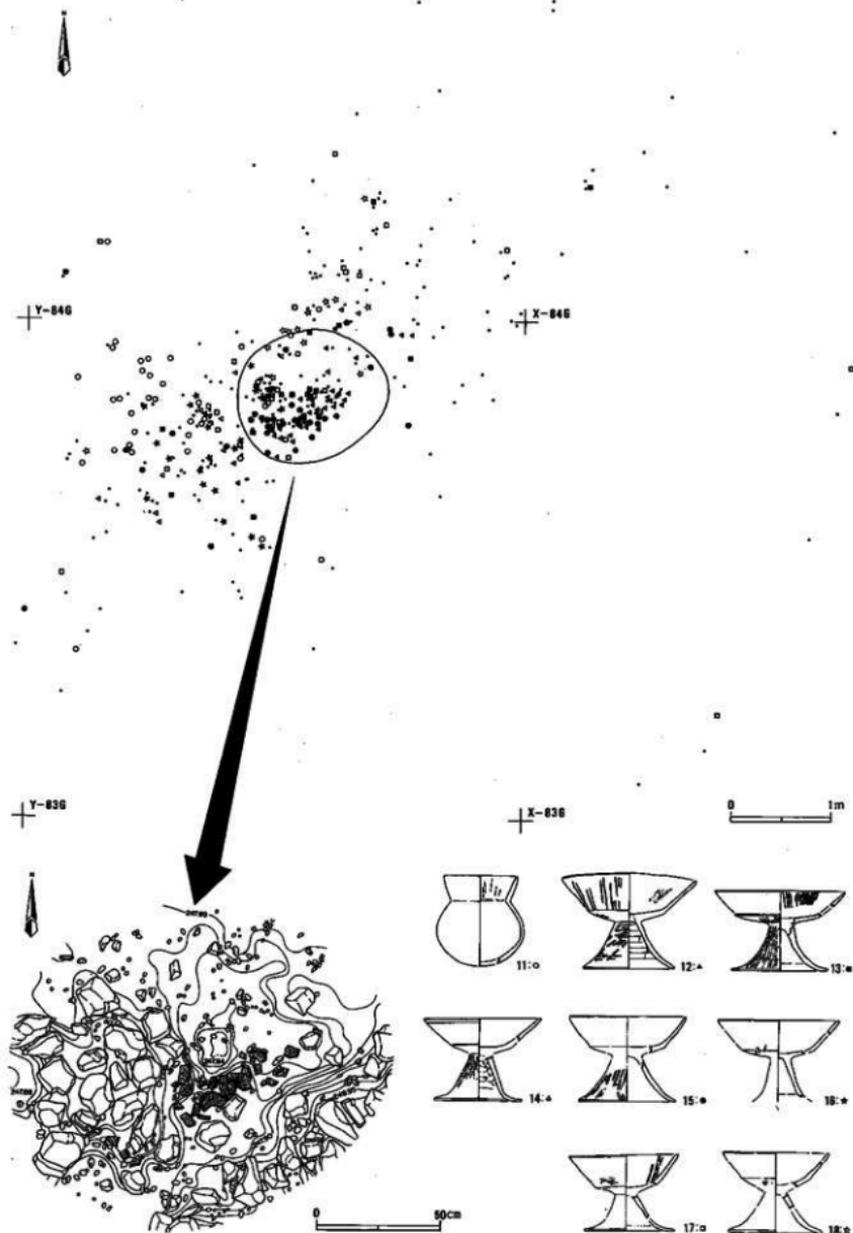


74





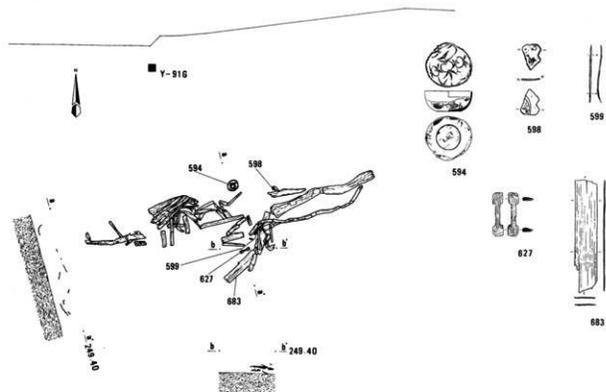
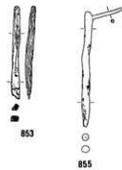
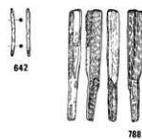
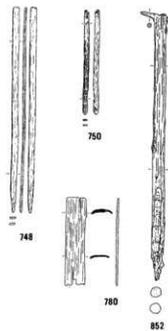
SR03 土器出土状況



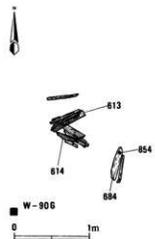
SR04 土器出土状況



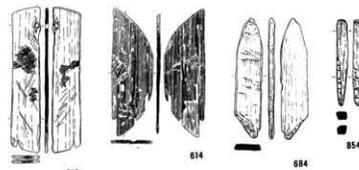
1·2号木器集中区 遗物出土状况 (上面)

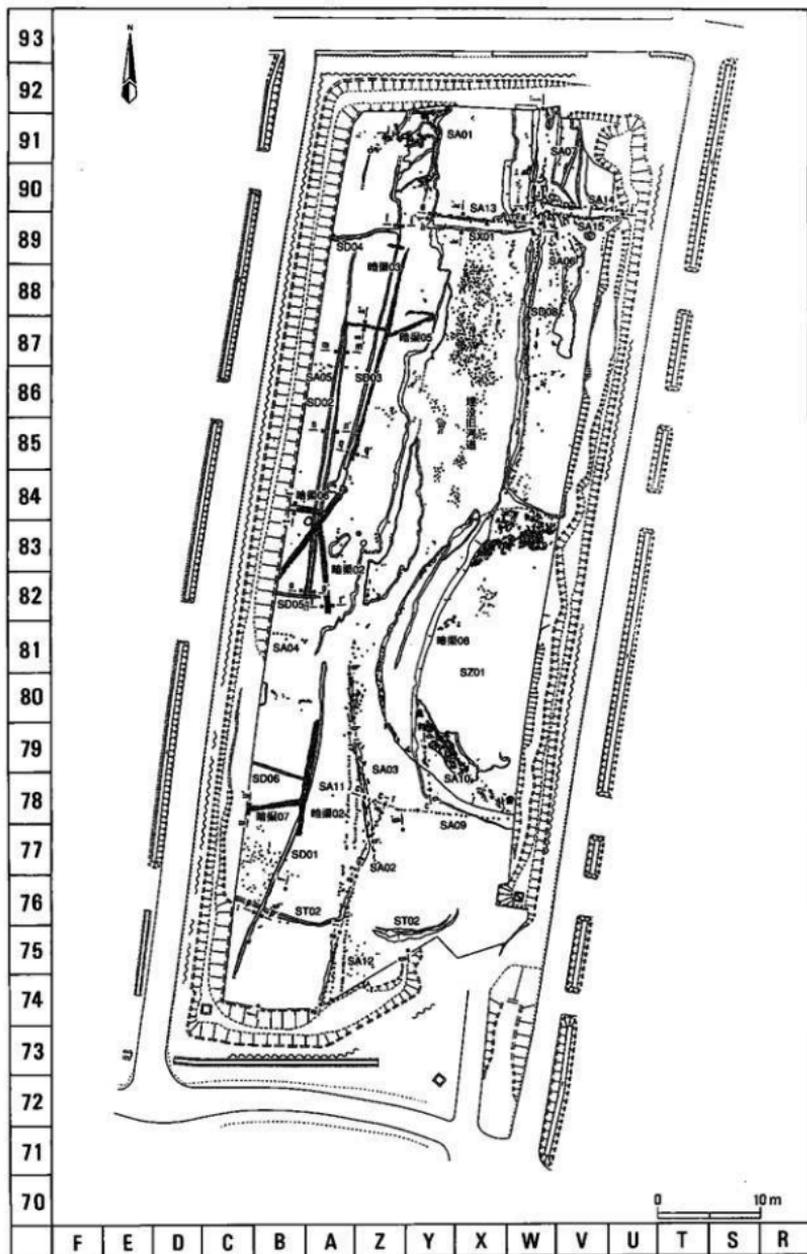


1·2号木器集中区 遗物出土状况 (下面)

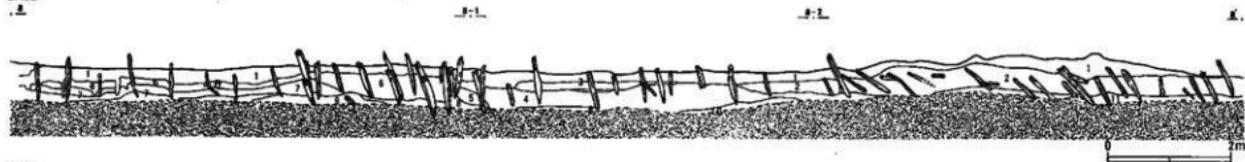


3号木器集中区 遗物出土状况

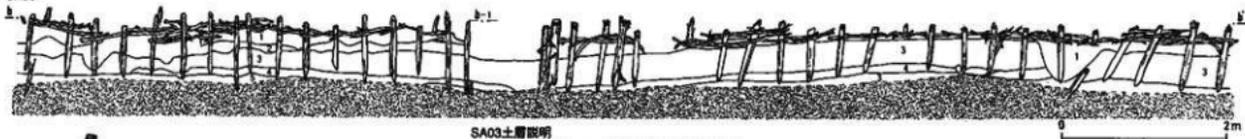




SA02



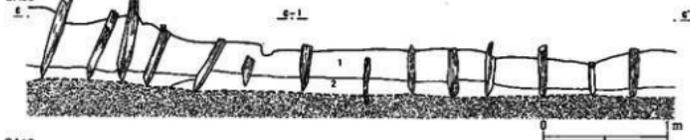
SA03



SA03土層説明

- 1: 青灰色砂質土 4: 黒色粘質土層 (第1面)
 2: 青灰色粘質土 5: 黒色粘質土層 (小石を含む)
 3: 黒色粘質土

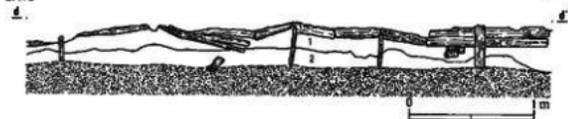
SA09



SA02土層説明

- 1: 黒色粘質土層 (第1面) 7: 暗青灰色土層 (小石を含む)
 2: 暗青灰色粘質土層 8: 暗青灰色砂質土層
 3: 黒色土層 (小石を含む) 9: 暗青灰色土層
 4: 青灰色粘質土層 10: 青灰色砂質土層
 5: 暗青灰色土層 (小石を含む) 11: 黒色粘質土層 (第2面)
 6: 暗青灰色土層

SA10



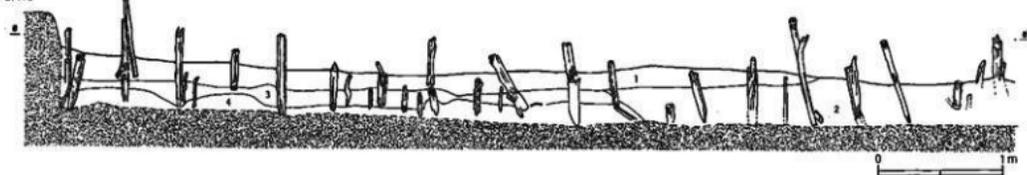
SA10土層説明

- 1: 砂層
 2: 細砂層
 3: 黒褐色粘質土層 (第1面)

SA09土層説明

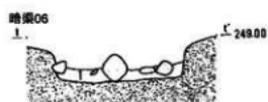
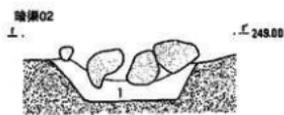
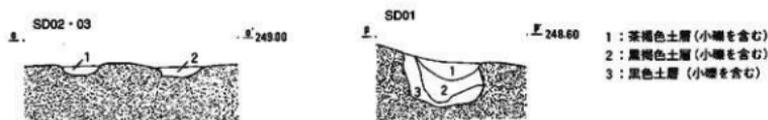
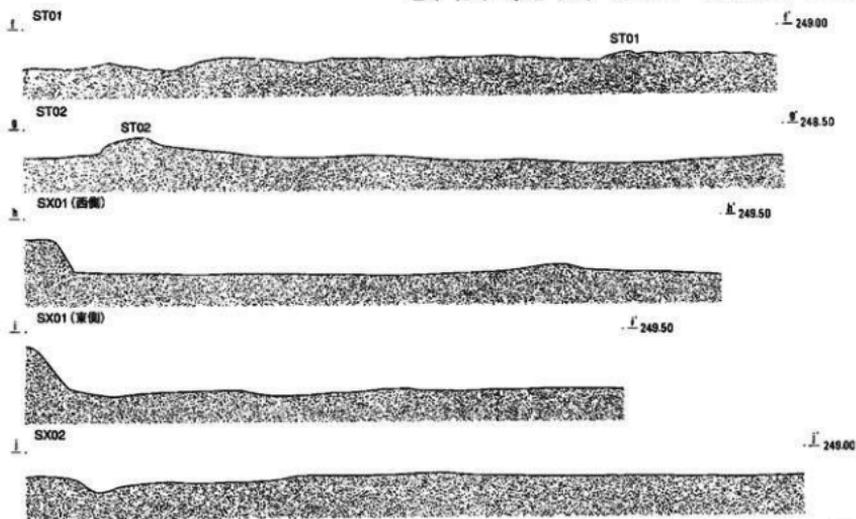
- 1: 暗青灰色粘質土層
 2: 黒色粘質土層 (遺物を含む)

SA13



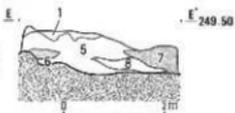
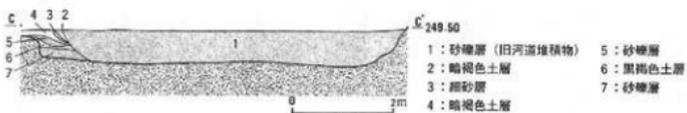
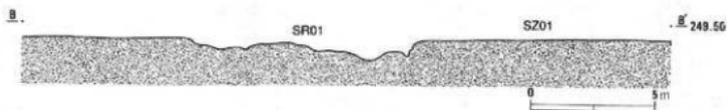
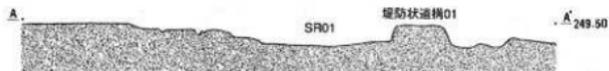
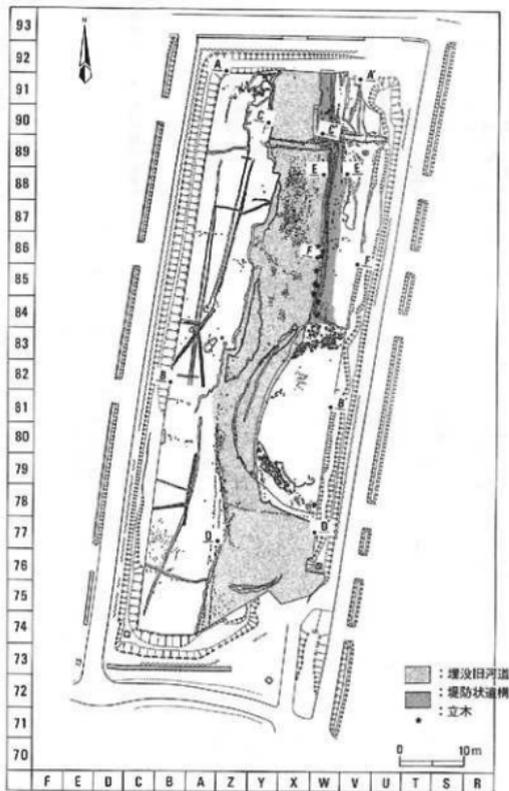
SA13土層説明

- 1: 黒色粘質土層 (第1面)
 2: 暗褐色粘質土層 (小石を含む)
 3: 暗青灰色粘質土層
 4: 暗青灰色粘質土層 (小石を含む)



1 : 茶褐色土層 (しまり弱く、粘性強い)

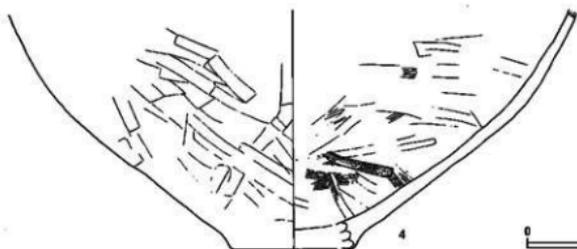
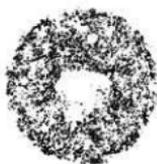
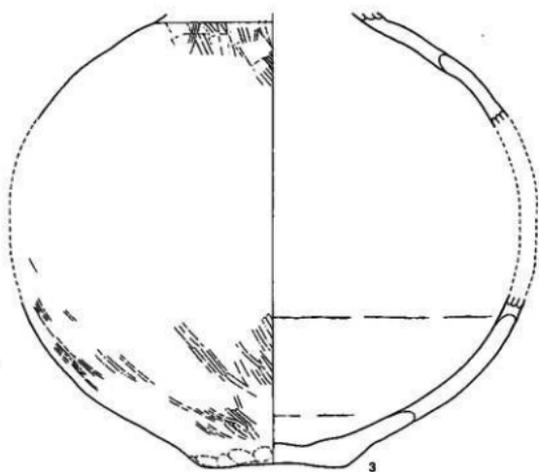
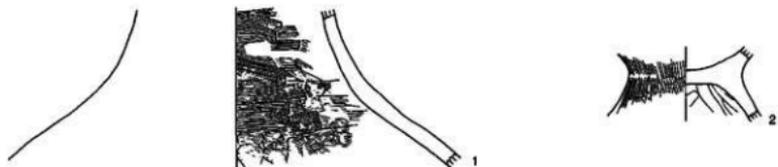




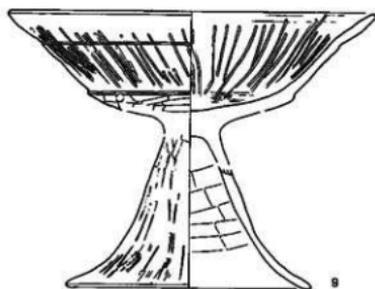
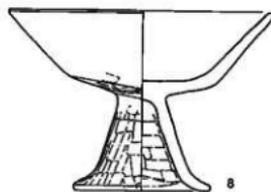
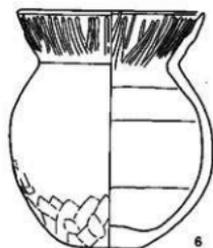
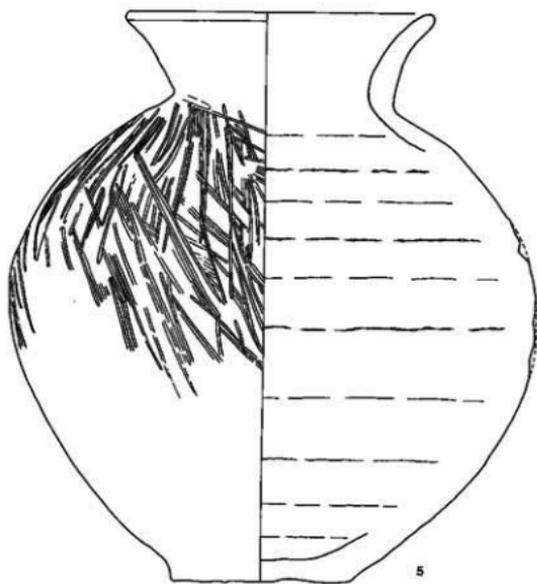
- 1: 暗褐色土層 7: 砂礫層
 5: 黒色土層+細砂層 8: 礫砂層
 6: 砂礫層

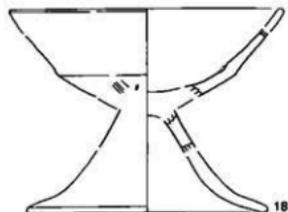
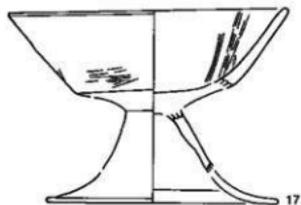
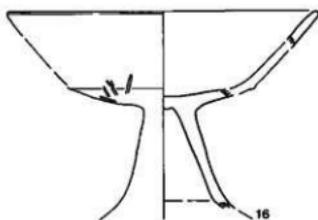
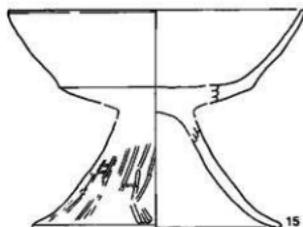
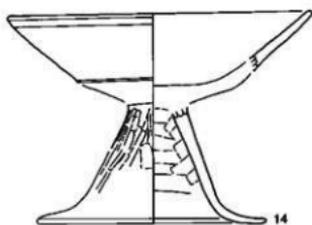
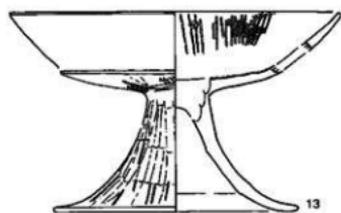
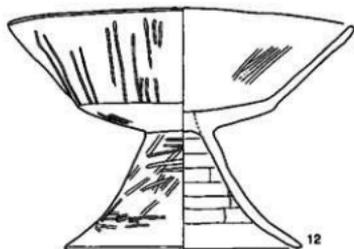
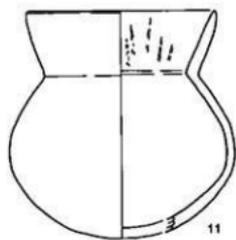


- 1: 暗茶褐色土層 4: 黒褐色土層
 2: 黒褐色土層 5: 黒色土層+細砂層
 3: 黒褐色砂質土層

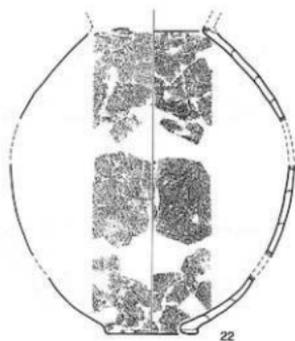
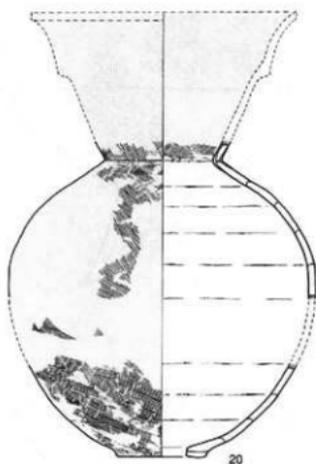
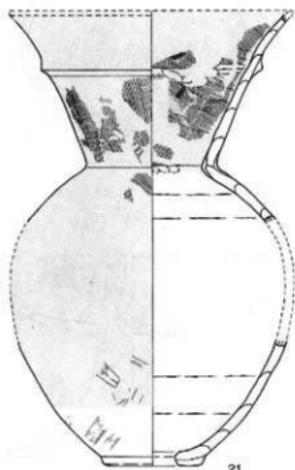
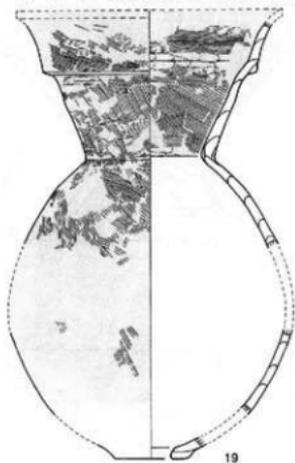


SK01:1.2 SR01:3 SR02:4



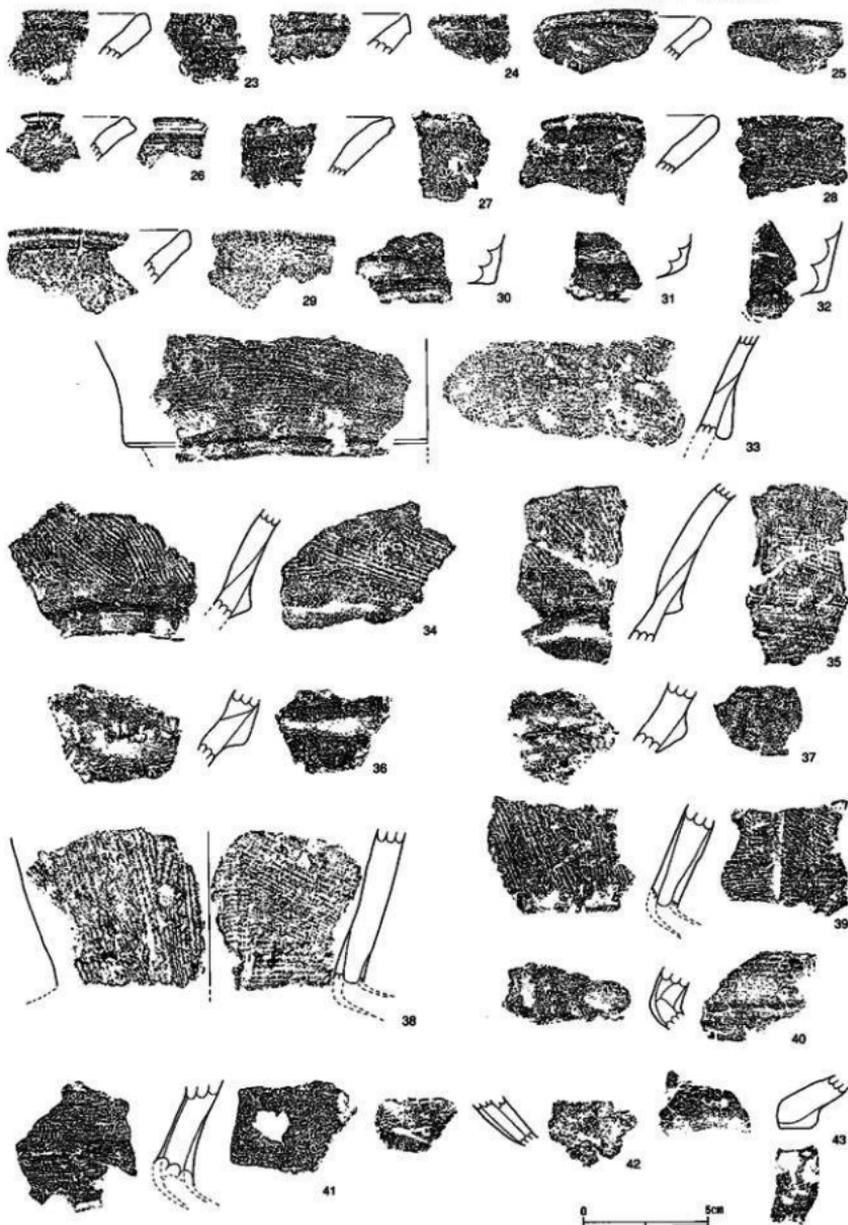


PL-38 大師東丹保古墳 SZ01
A・B・C・D地点出土 壺形埴輪



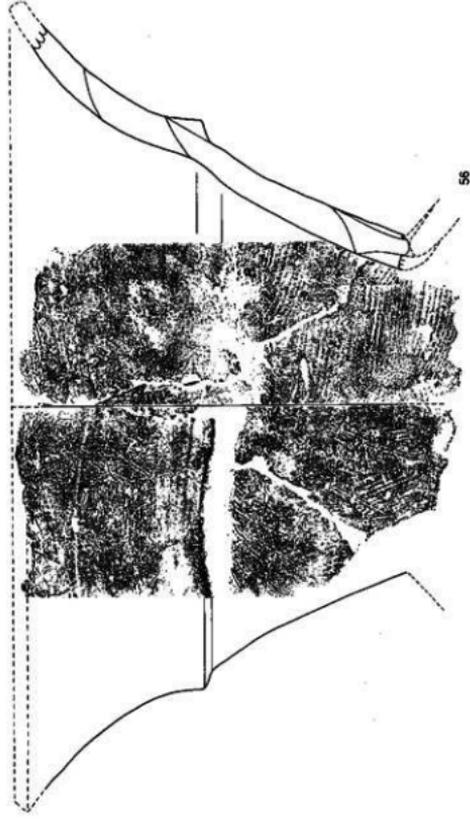
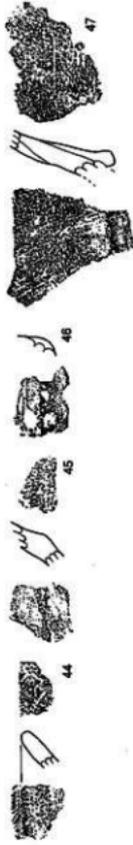
A地点:19 B地点:20 C地点:21 D地点:22



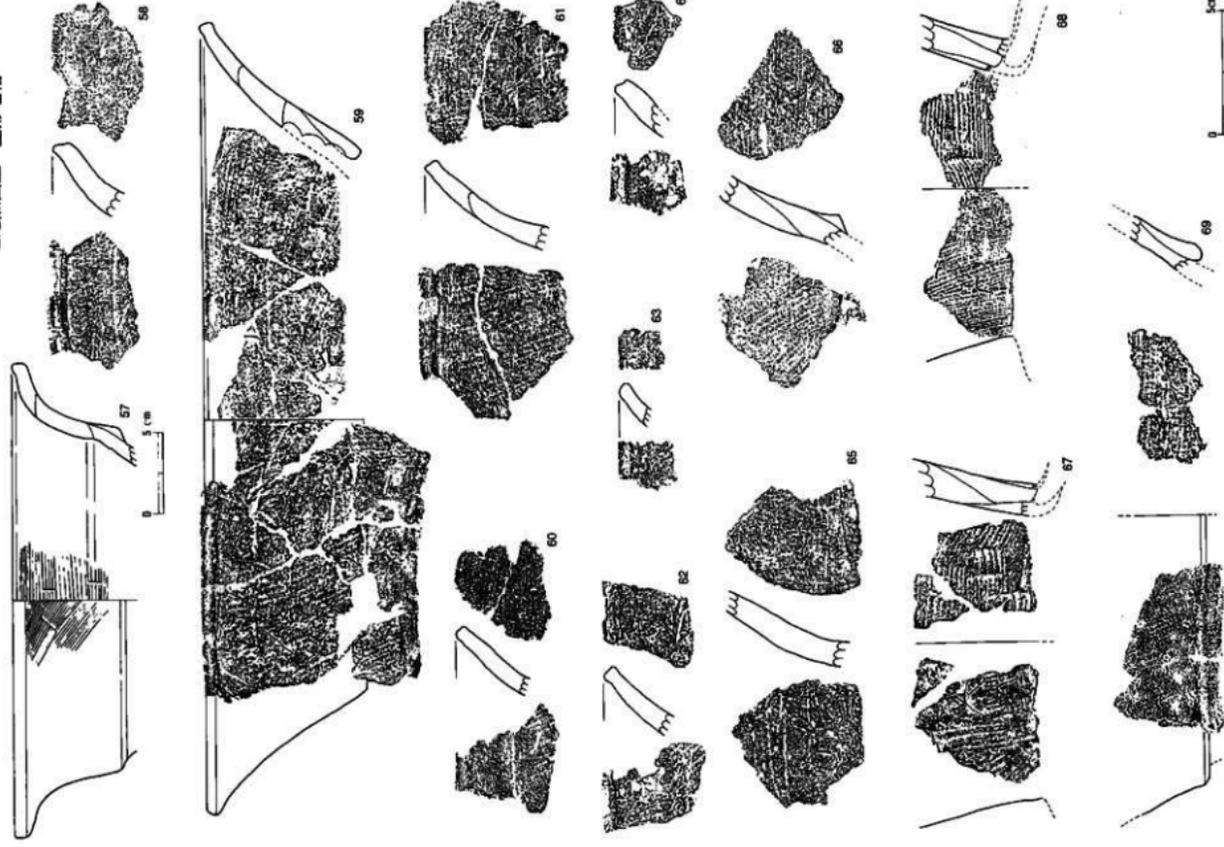


PL-40 大師東丹保古墳 SZ01

B・C・D・E地点出土 壺形運輪

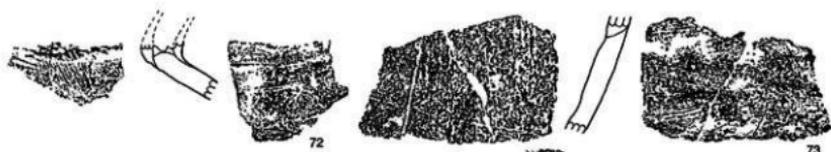


B地点:44~50 C地点:51~54 D地点:55 E地点:56

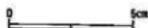


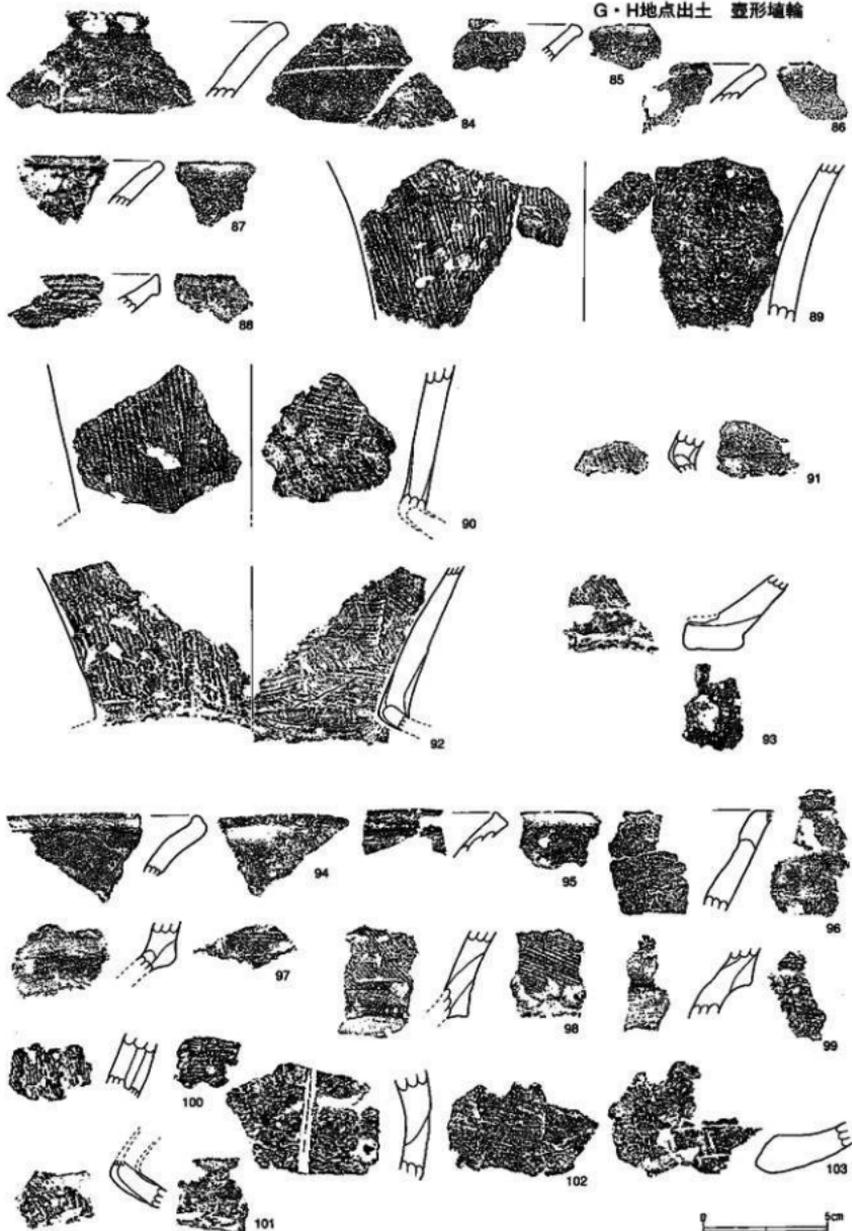
PL-42 大師東丹保古墳 SZ01

E・F地点出土 壺形埴輪



E地点:70~74 F地点:75~83

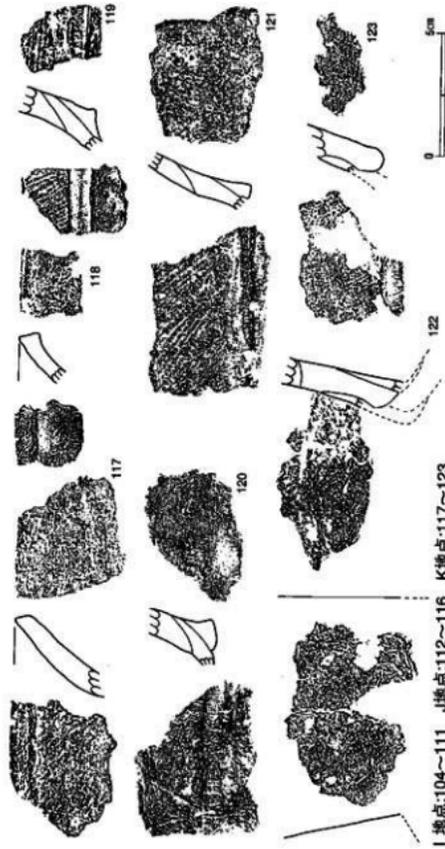
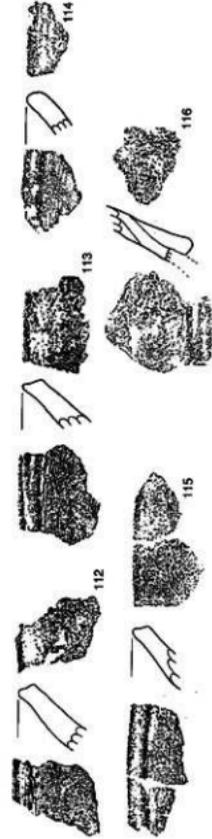
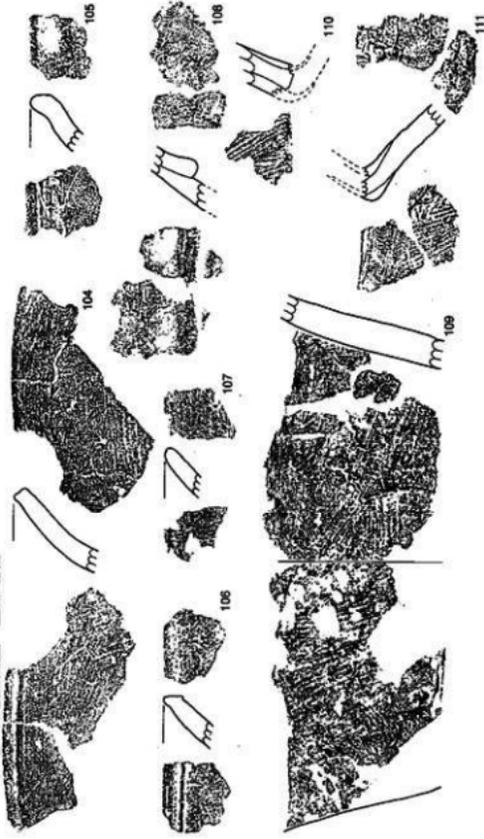




G地点:84~93 H地点:94~103

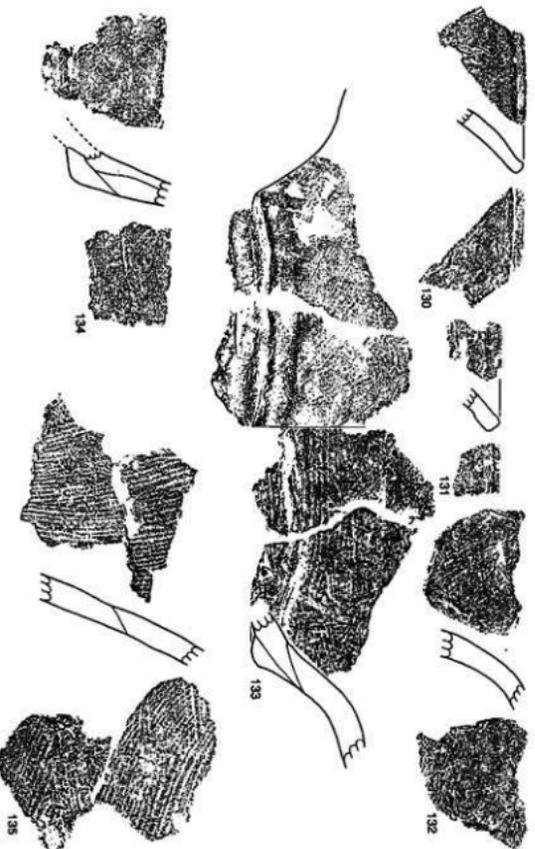
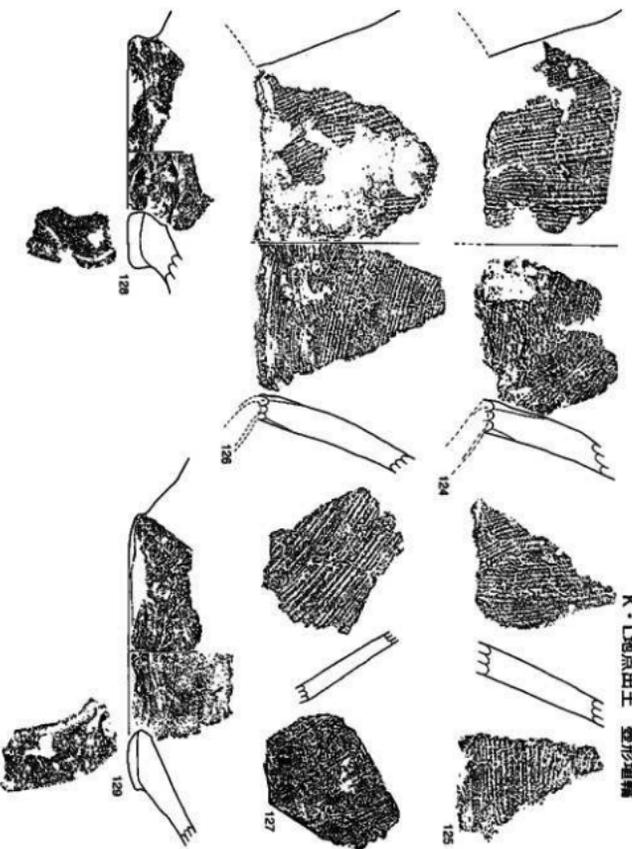
PL-44 大師東丹保古墳 SZ01

I・J・K地点出土 型形埴輪

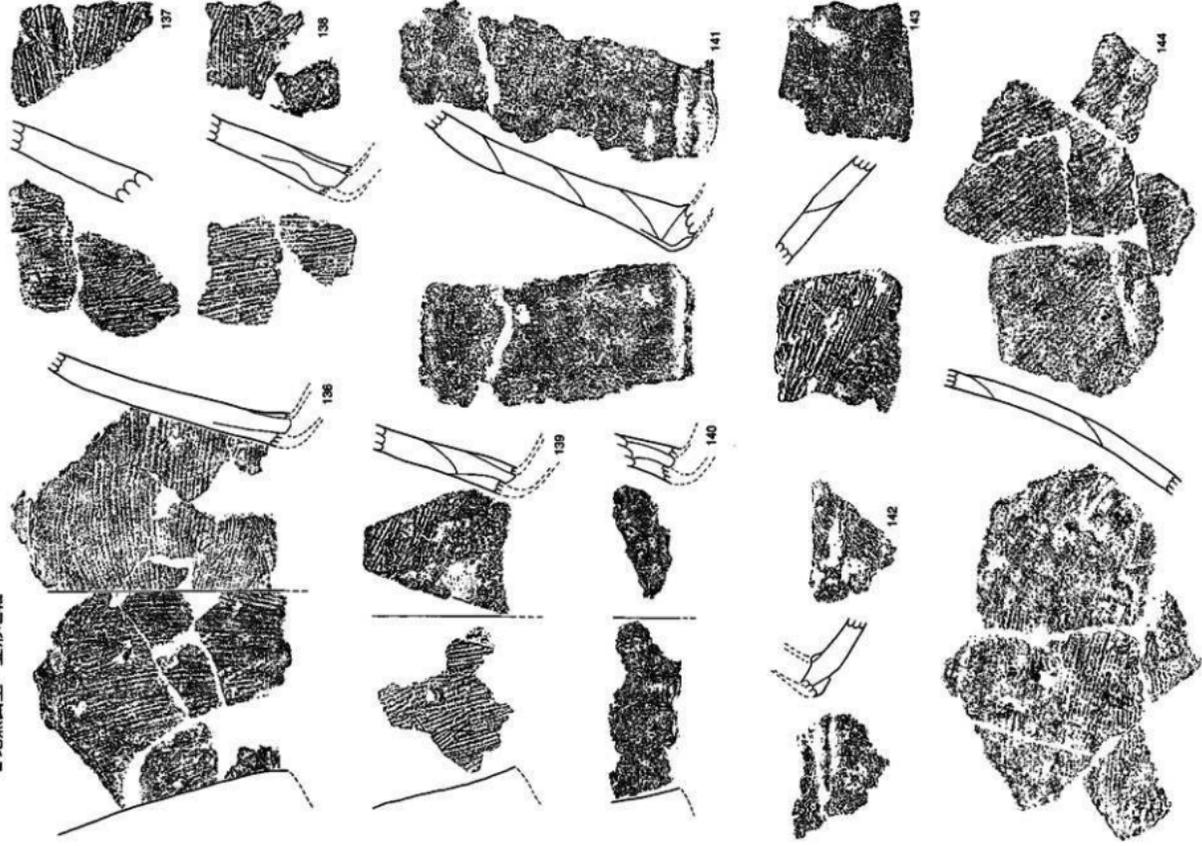


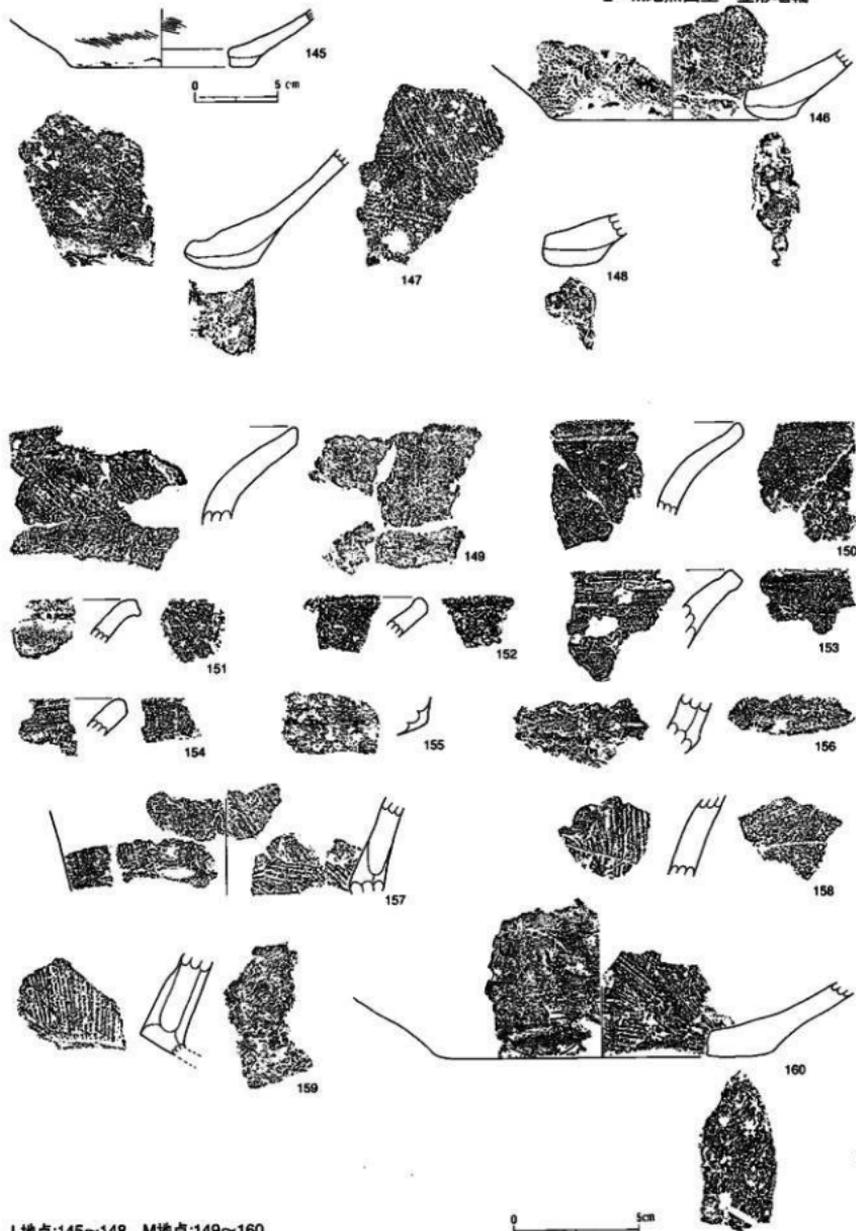
I 地点:104~111 J地点:112~116 K地点:117~123

大館東丹保古墳 SZ01 PL-45
 K・L地点出土 壺形埴輪

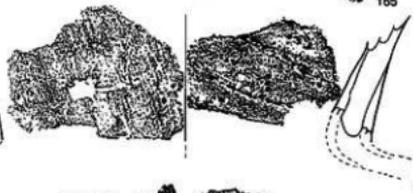
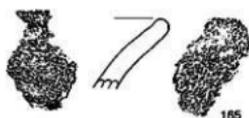
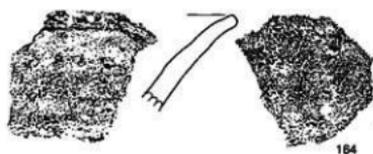
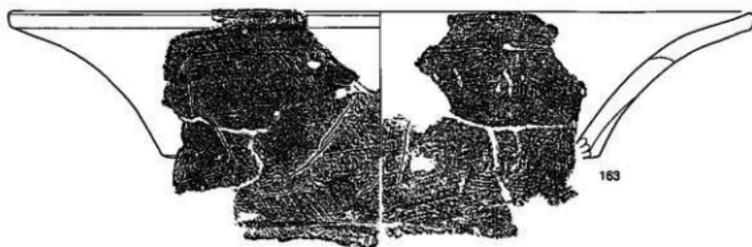
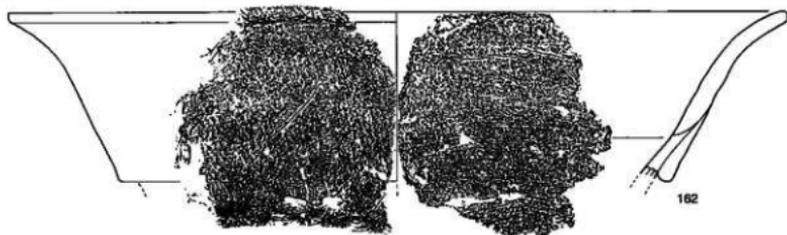


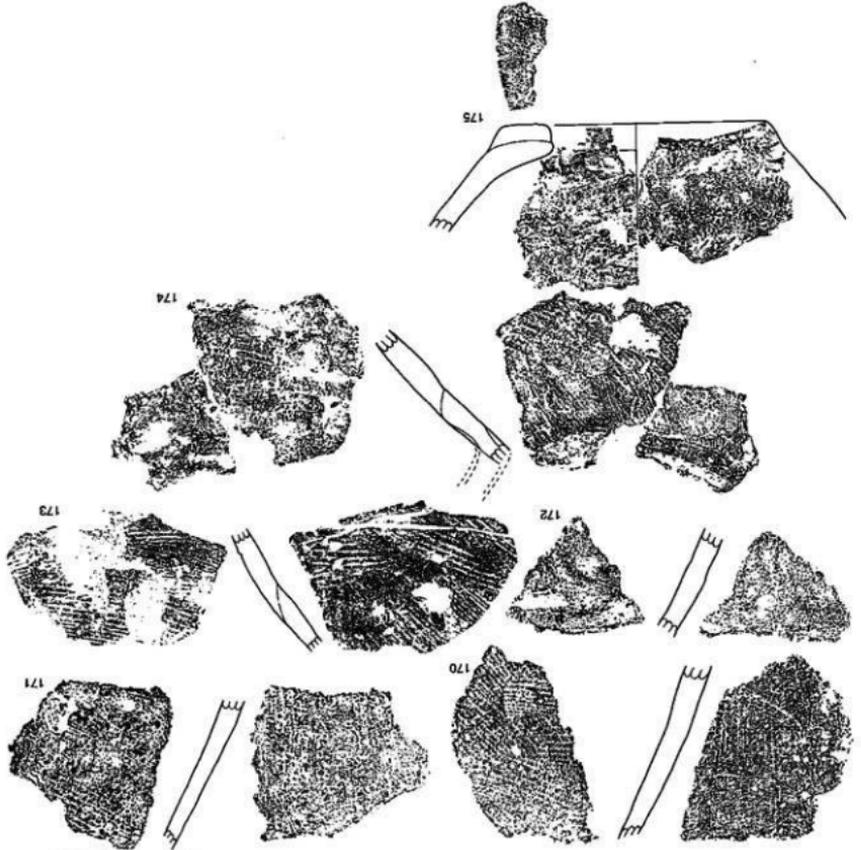
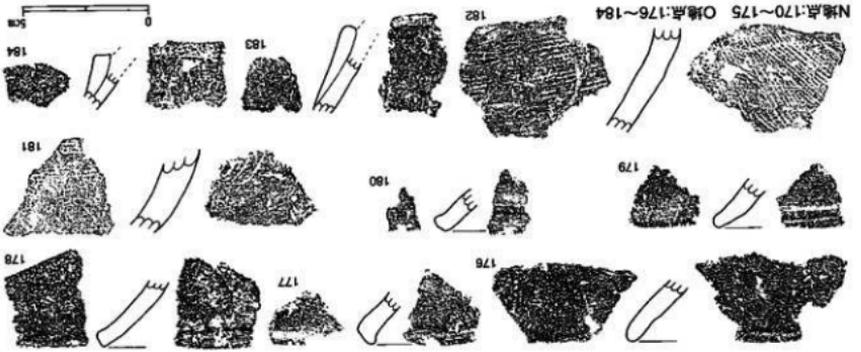
K地点:124~129 L地点:130~135



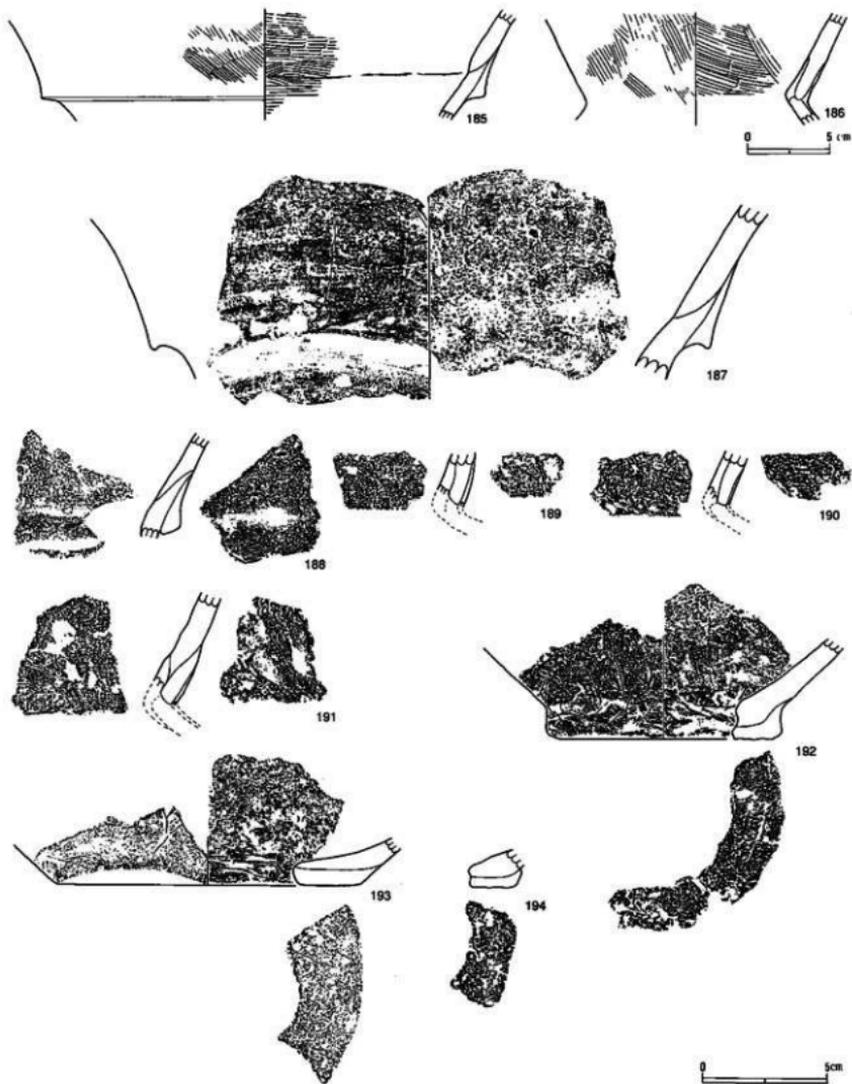


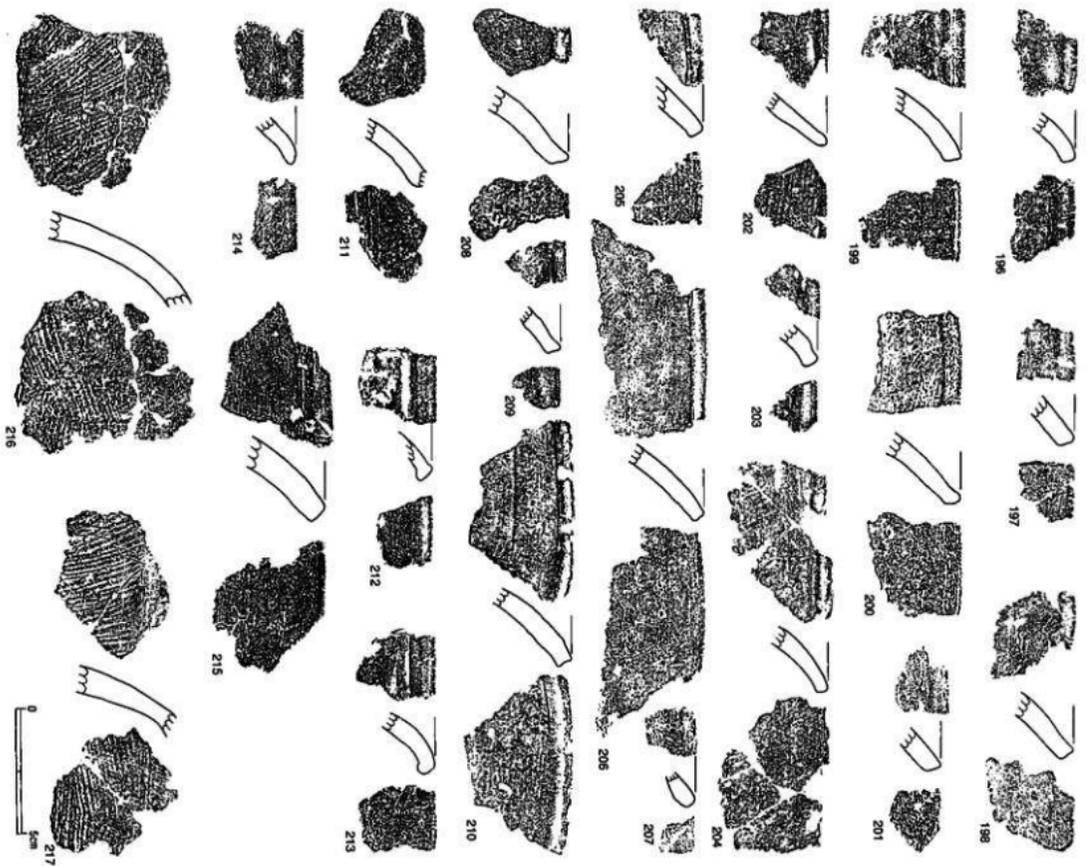
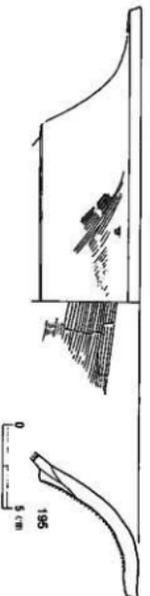
L地点:145~148 M地点:149~160



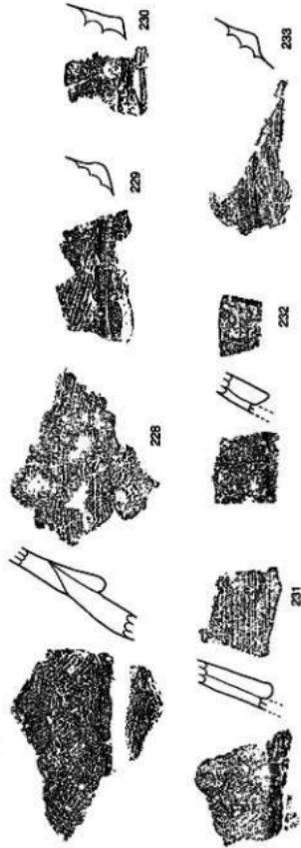
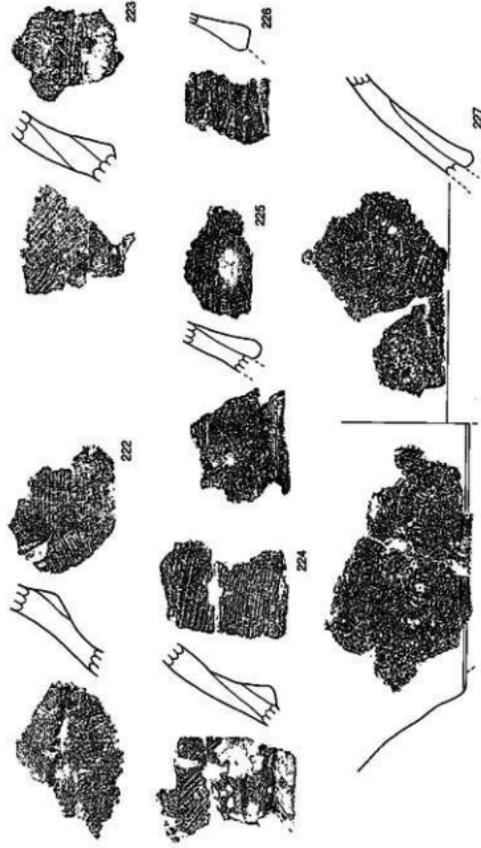


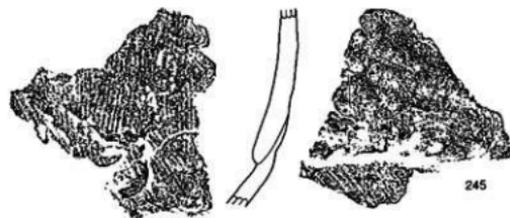
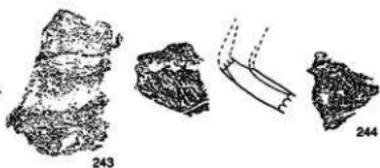
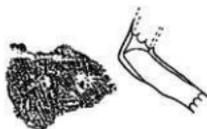
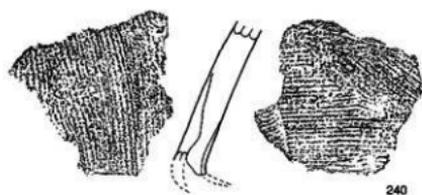
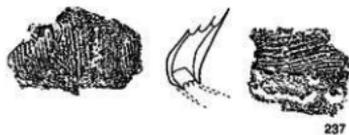
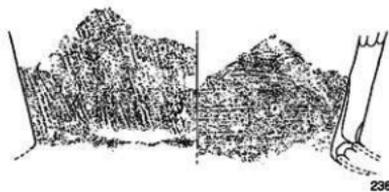
大師東丹保古墳 SZ01 PL.49
N・O地点出土 壺形壺片

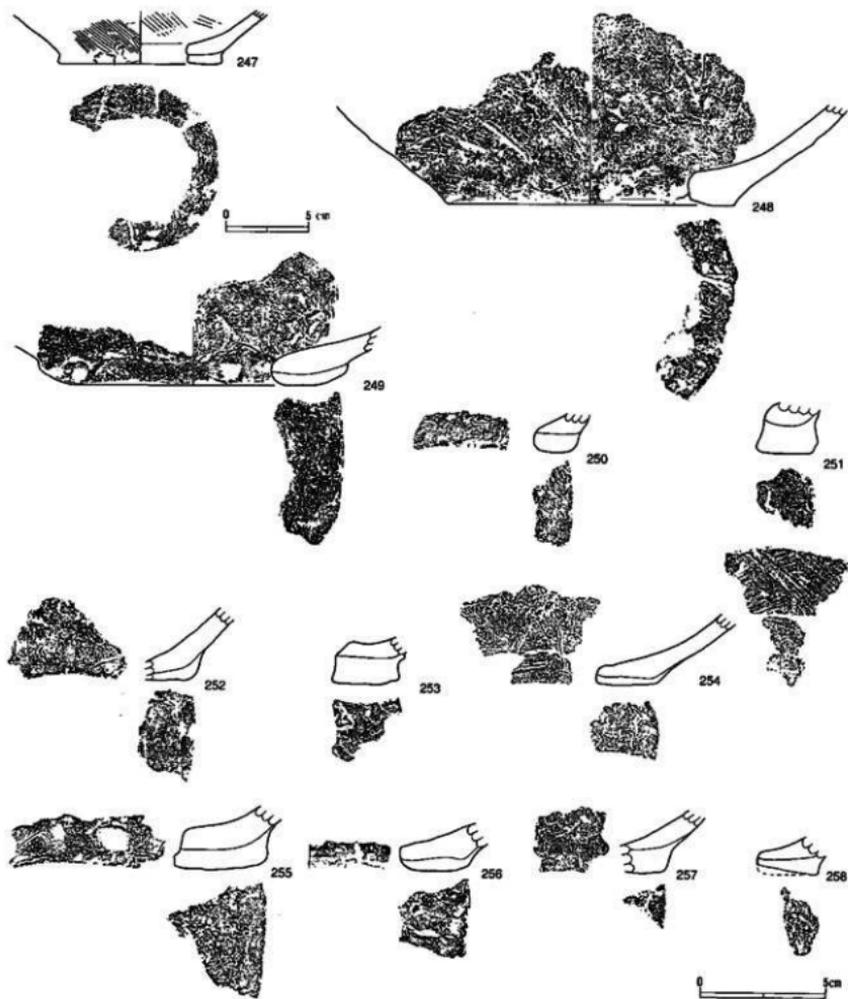


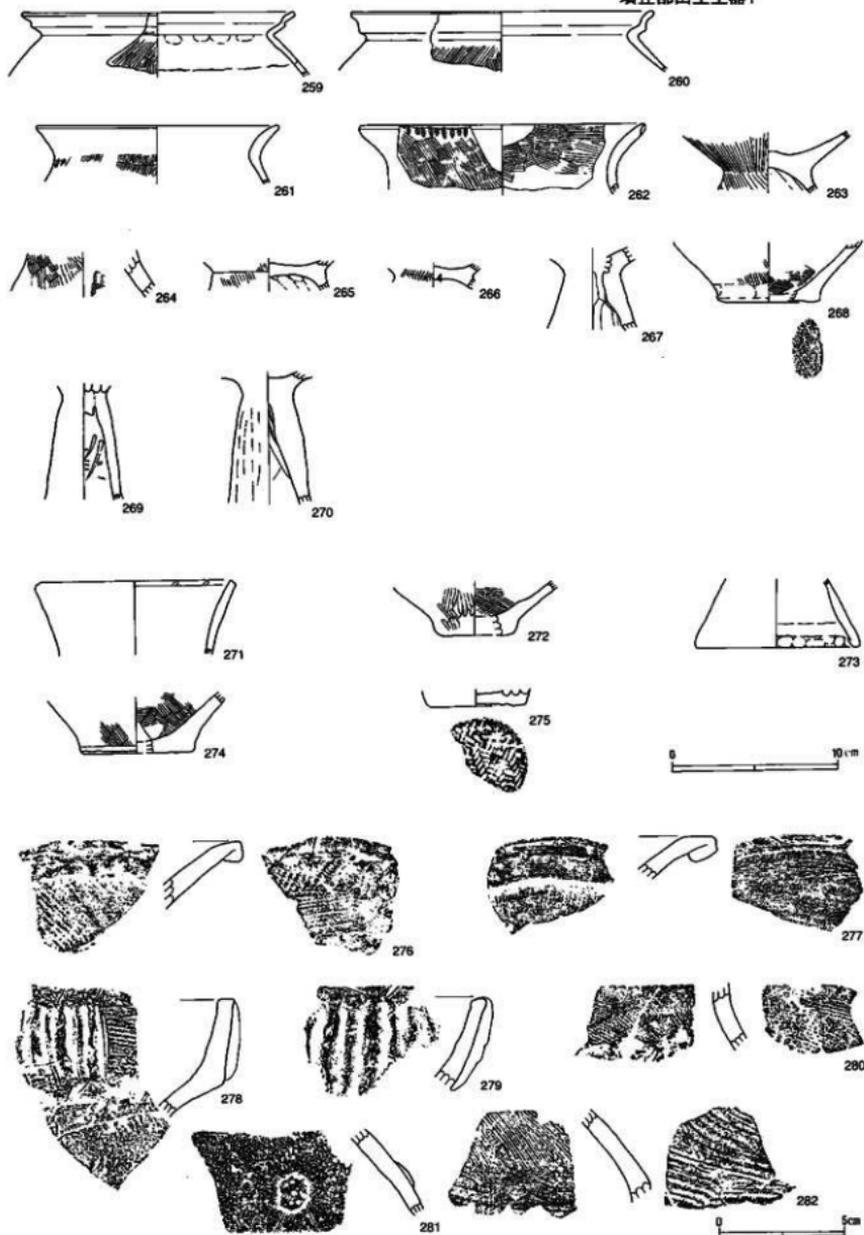


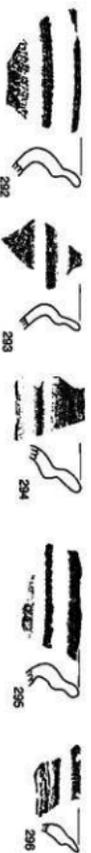
PL-52 第2面透繡外出土 豎形透繡2



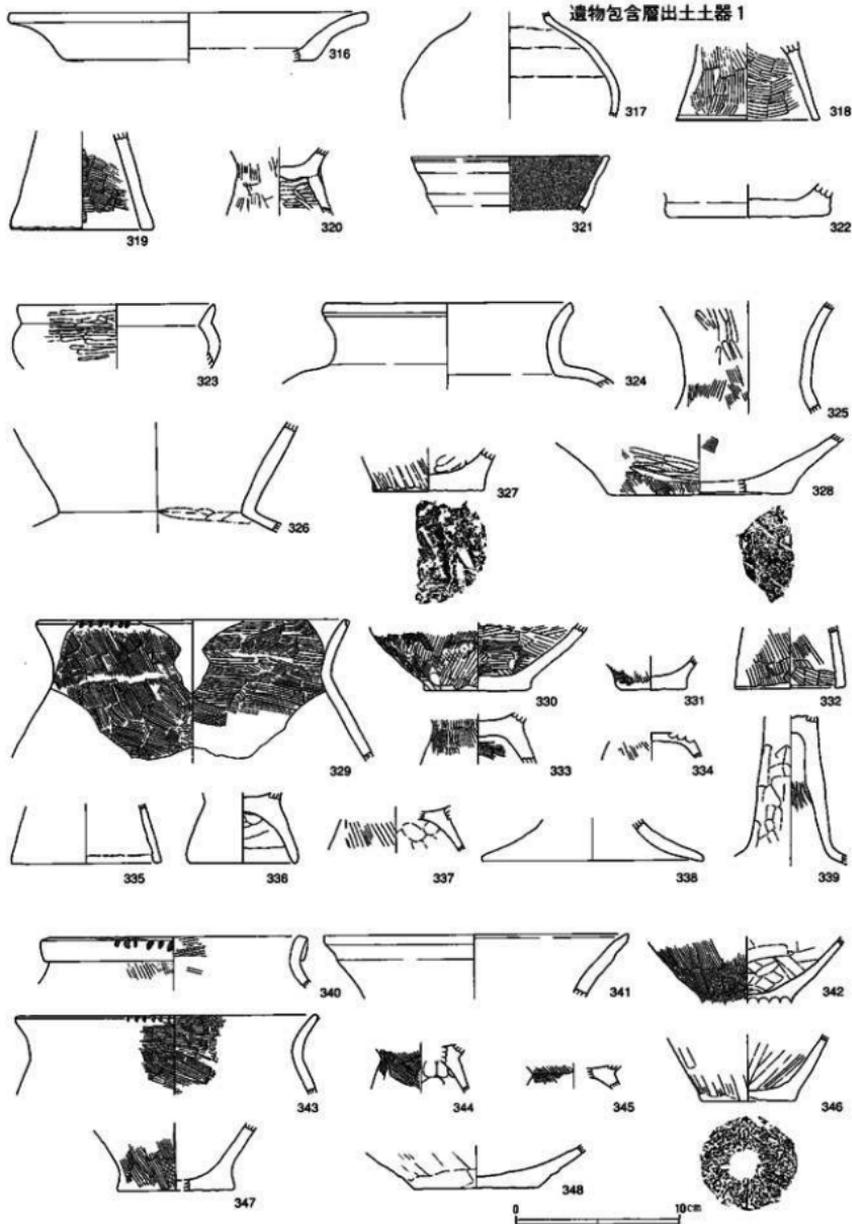








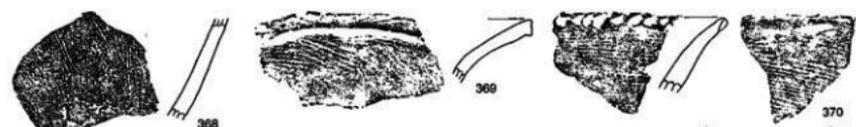
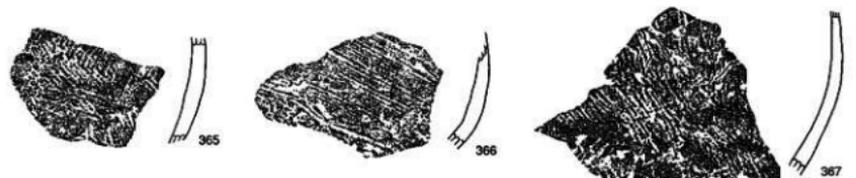
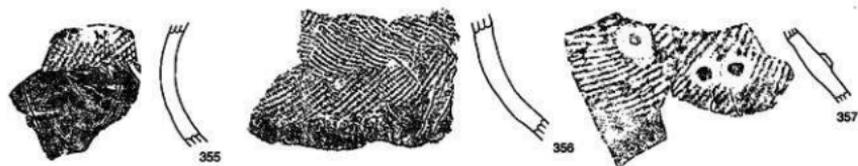
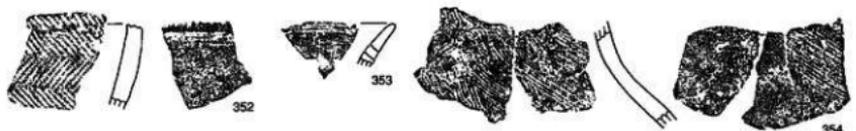
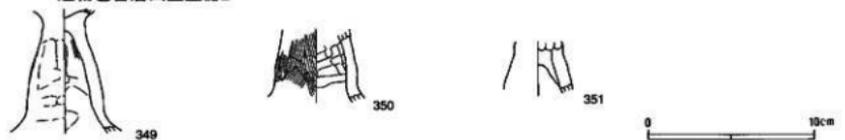
第1・2面遺構外出土土器1 PL-57
遺物包含層出土土器1



第1面遺構外出土：316～322 遺物包含層：323～339 第2面遺構外出土：340～348

PL-58 第2面遺構外出土土器2

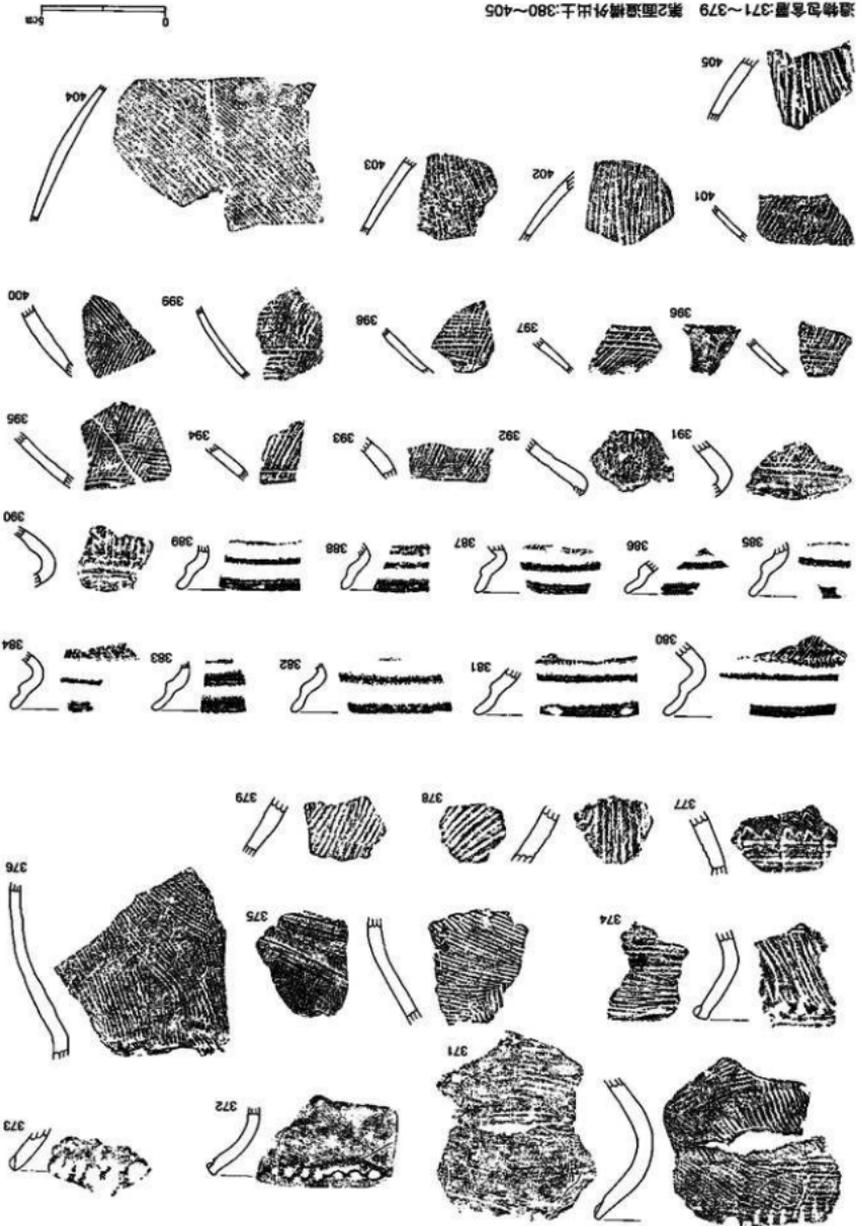
遺物包含層出土土器2



第2面遺構外出土：349～351 遺物包含層：352～370

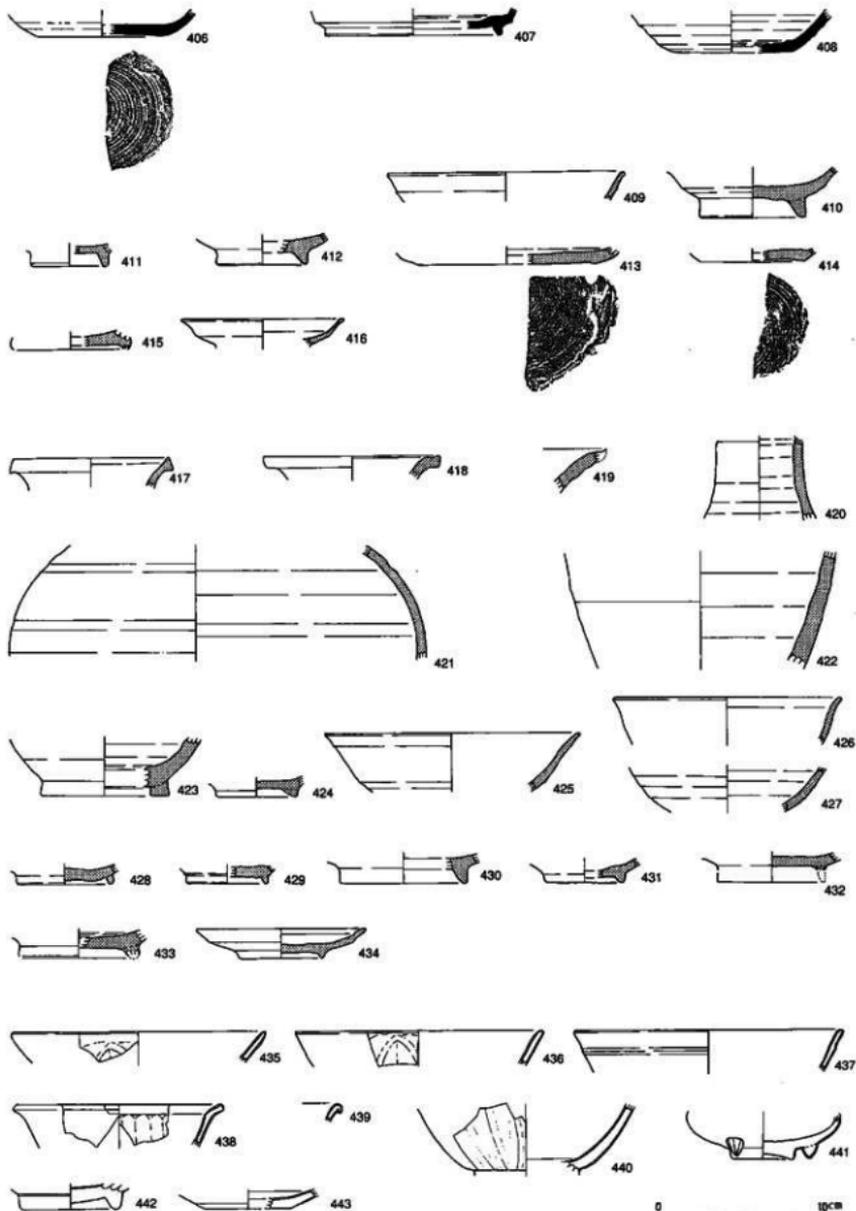


遺物包含層:371~379 第2面遺構外出土:380~405



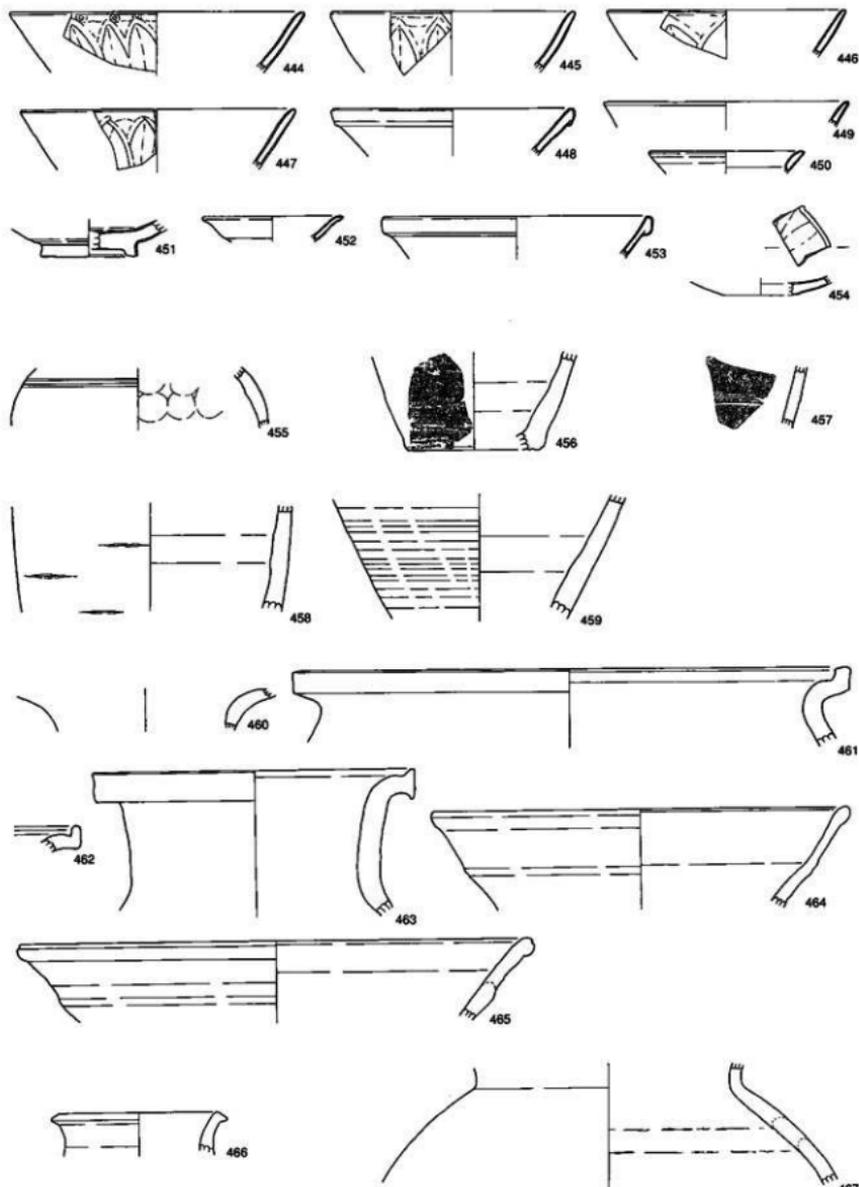
遺物包含層出土器3 PL-59 第2面遺構外出土器3

PL-60 須惠器1 灰釉陶器 舶載陶磁器1



須惠器:406~408 灰釉陶器:409~434 舶載陶磁器:435~443 (青磁:435~441 白磁:442~443)

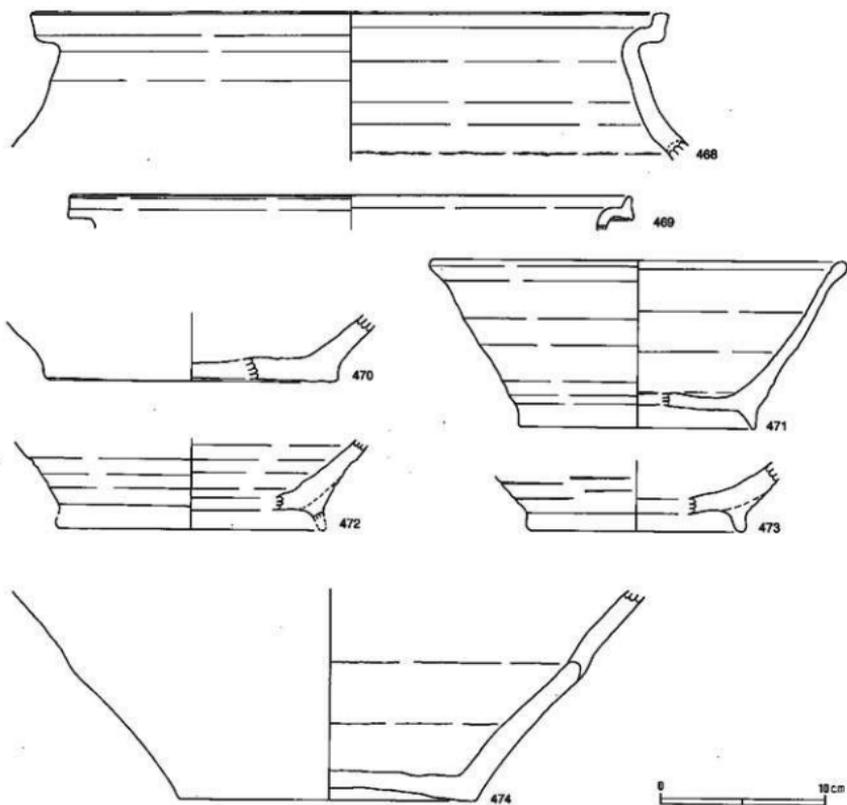
船載陶磁器 2 PL-61
 国産陶器 1 (猿投・常滑)



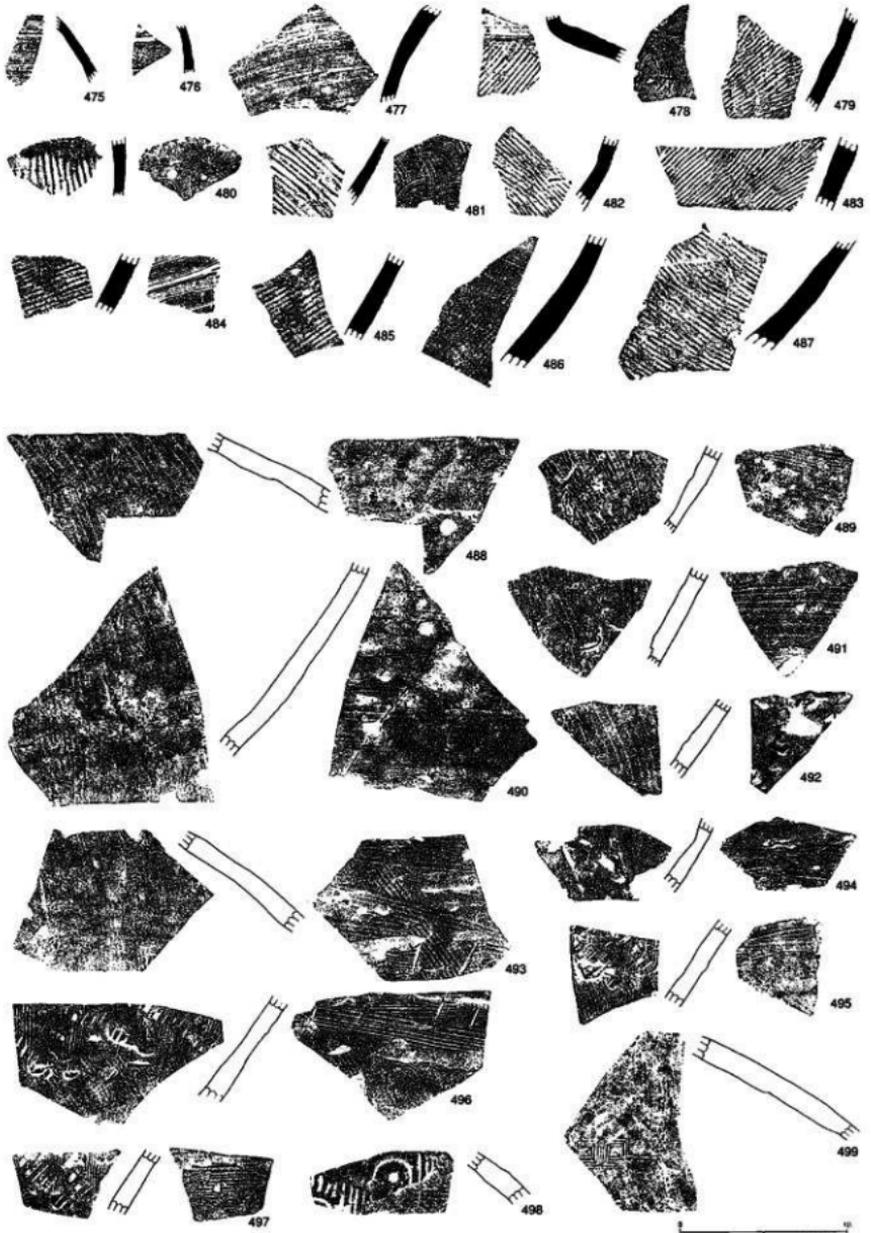
船載陶磁器：(青磁:444~451 白磁:452~454) 猿投:455~459 常滑:460~469



PL-62 国産陶器 2 (常滑・産地不明)

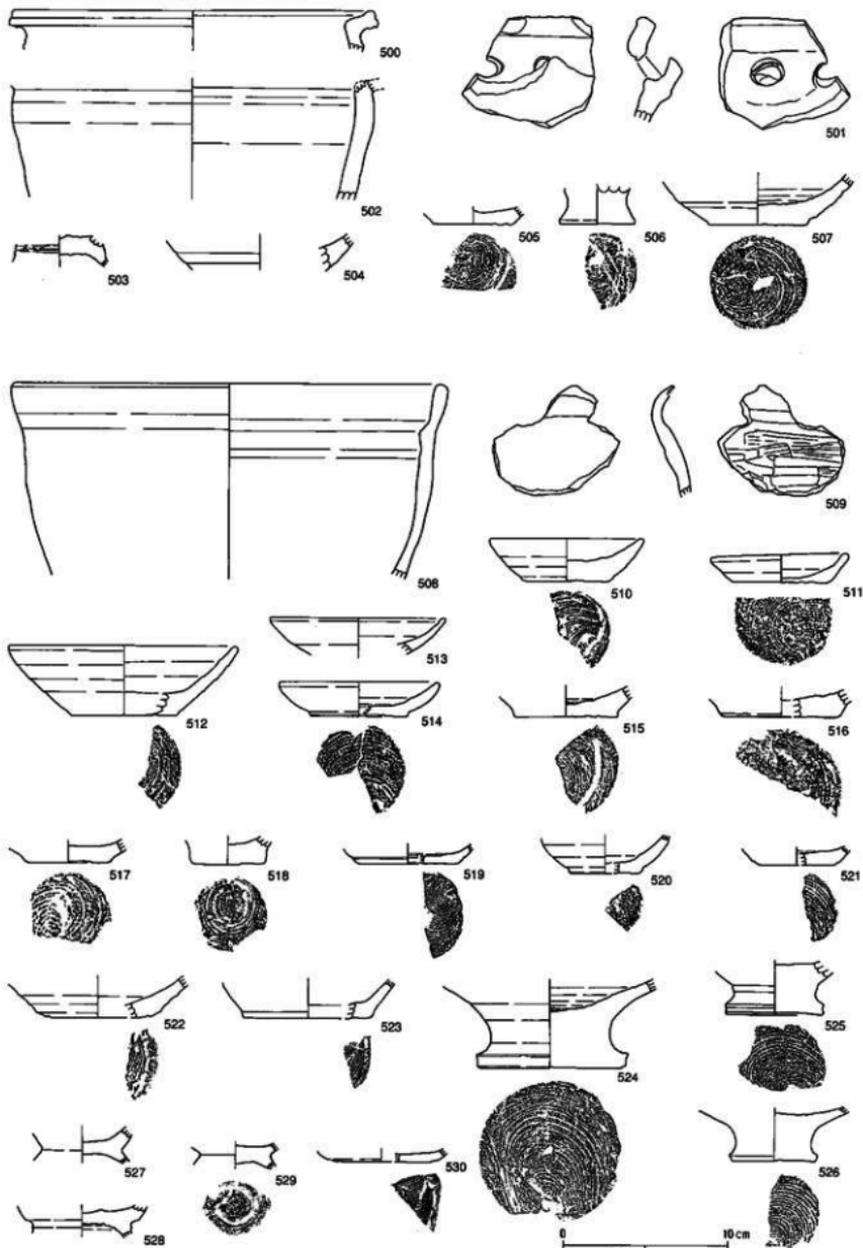


常滑:468~473 産地不明:474

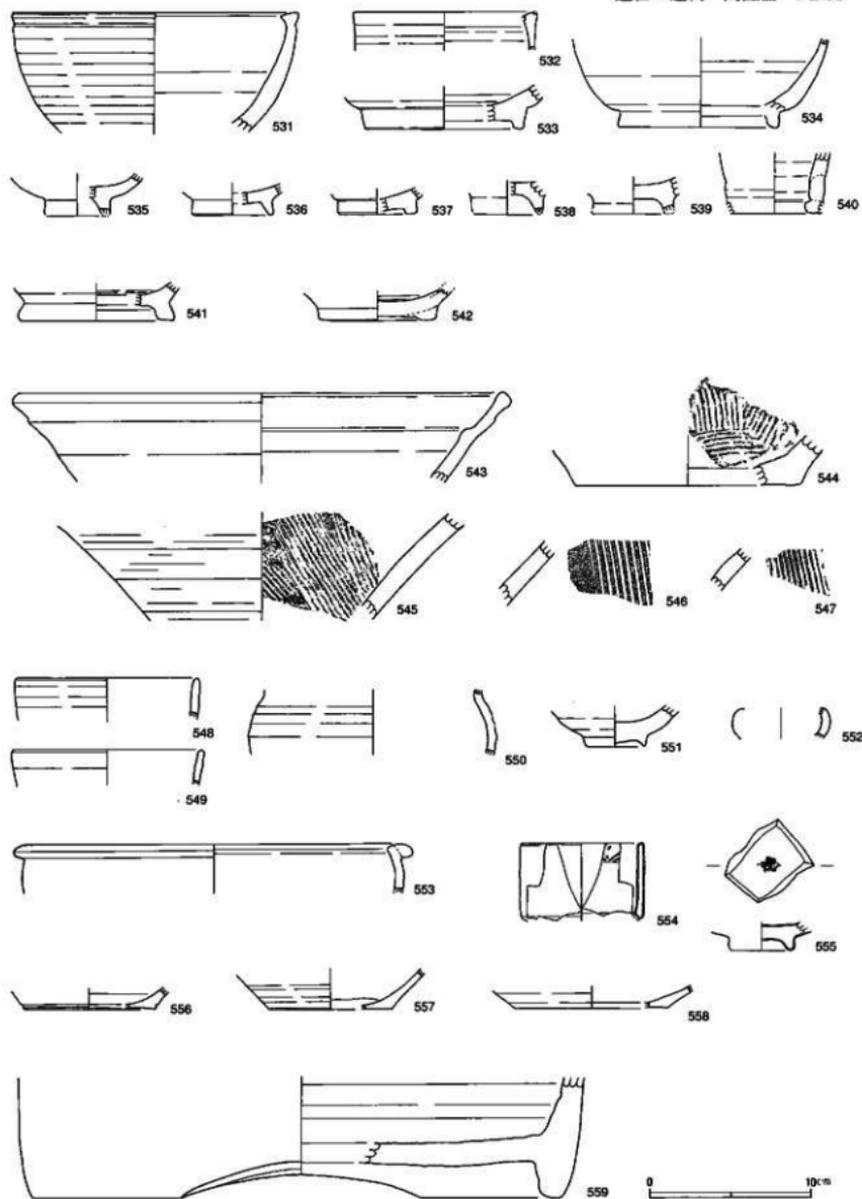


須恵器：475～487 常滑：488～499

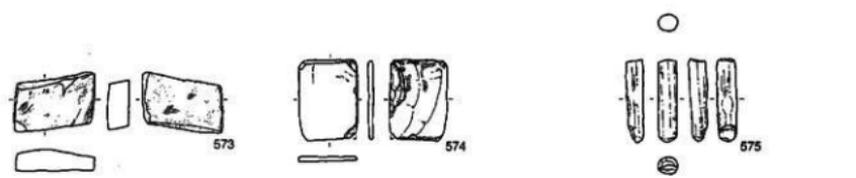
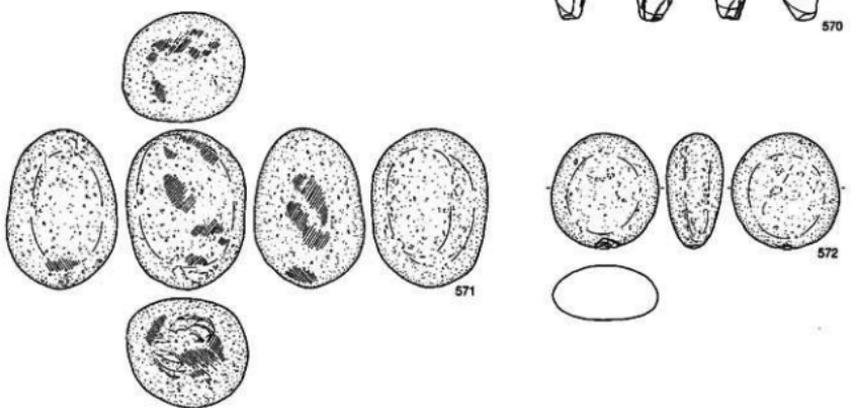
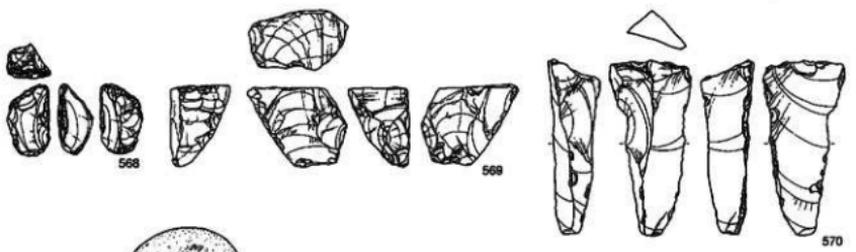
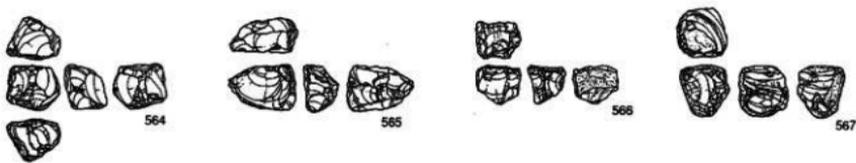
PL-64 鎌倉時代 土師質土器 瓦器



土師質土器：500～529 瓦器：530

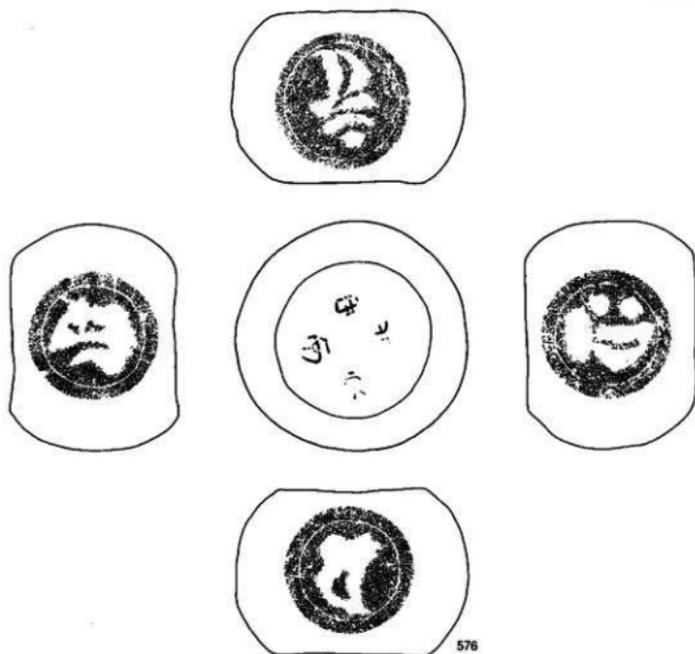


黄瀬戸：531～542 瀬戸：543～547 茶碗：548～551 仏具：552 本業：553
肥前：554～555 産地不明：556～558 火鉢：559

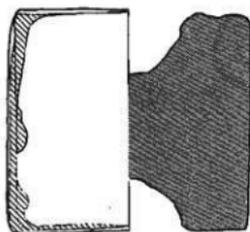
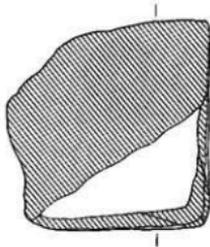
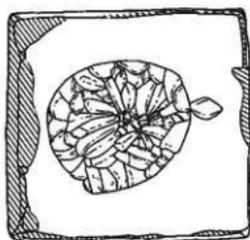


0 10 cm
(571~574)

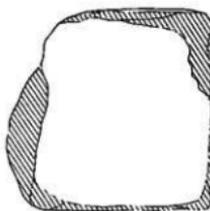
0 5 cm
(560~570・575)



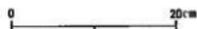
576

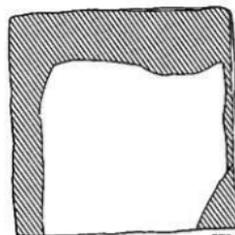
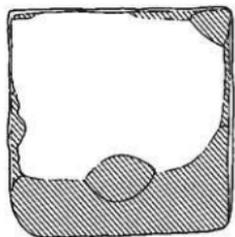


577

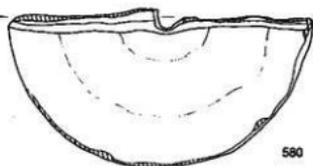
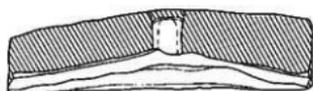
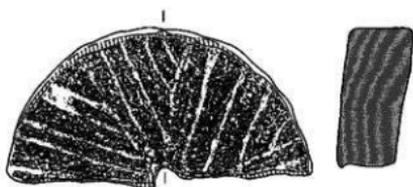


578





579



580



581



582



583



584



585



586



587



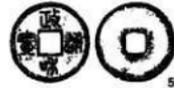
588



589



590



591

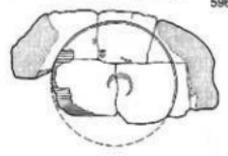
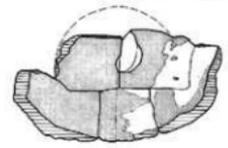
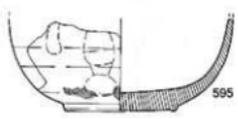
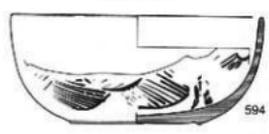


592

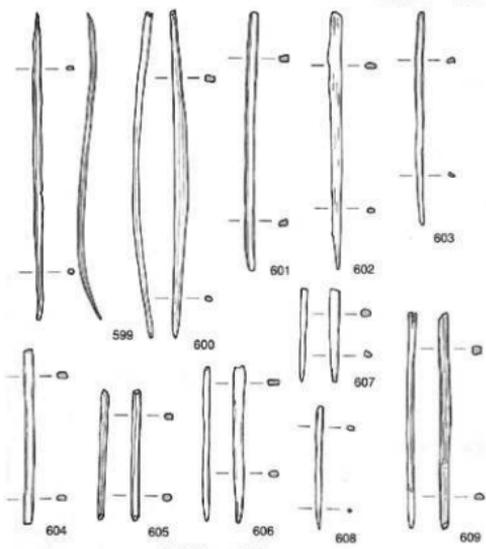


593

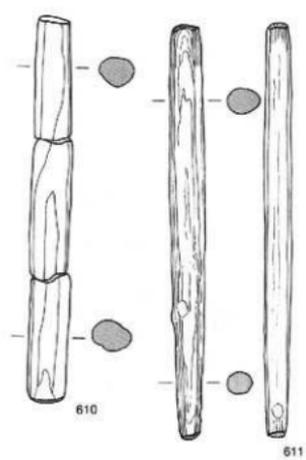




飲食器1 (漆椀・皿)

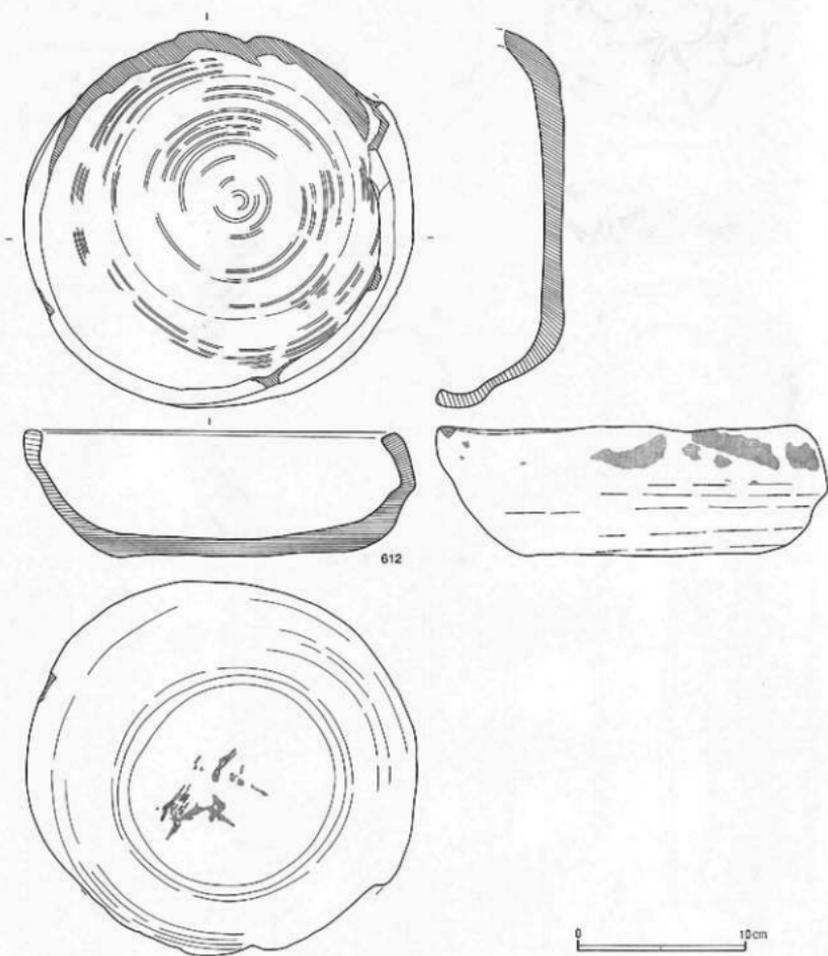


飲食器2 (箸)



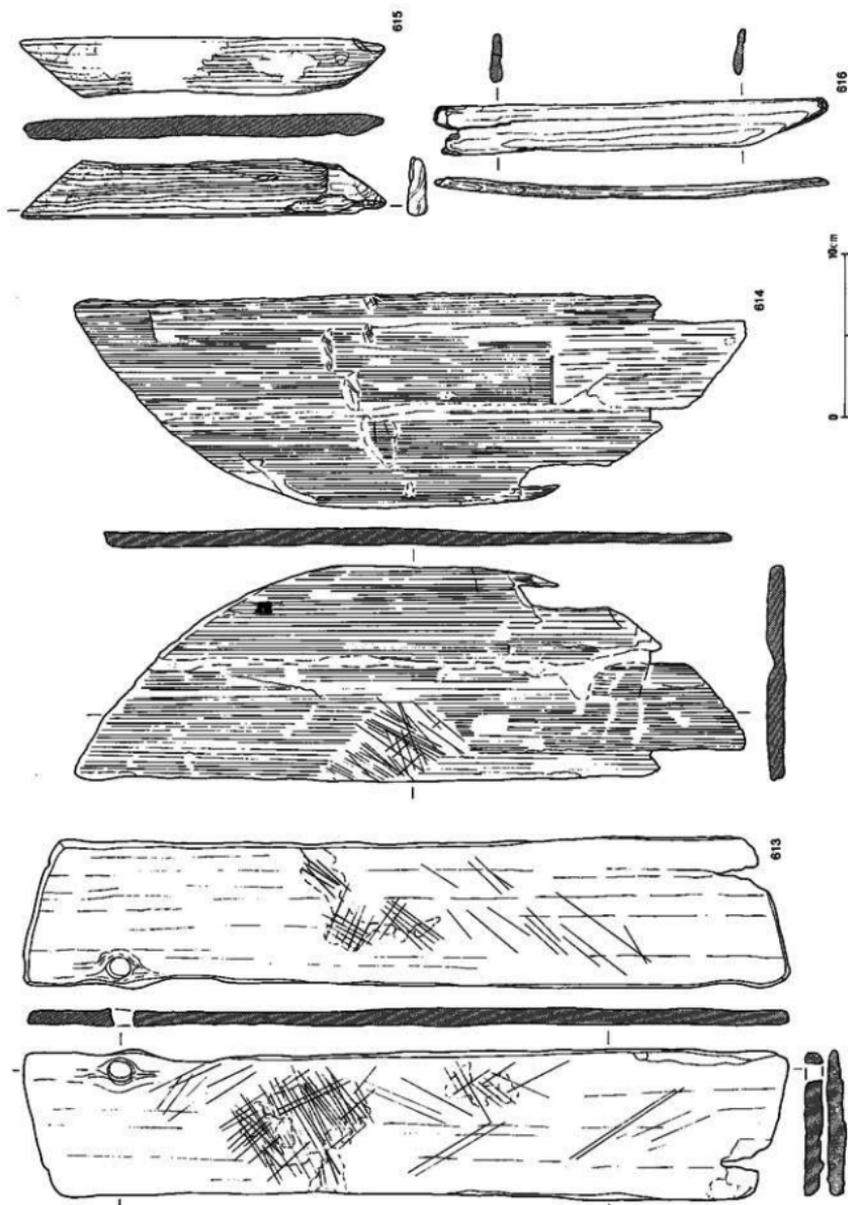
調理具 (搗粉木)

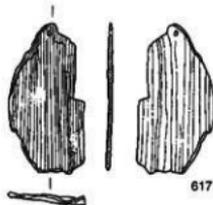




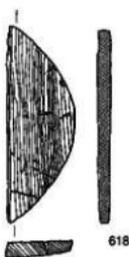
612

容器1 (制物)

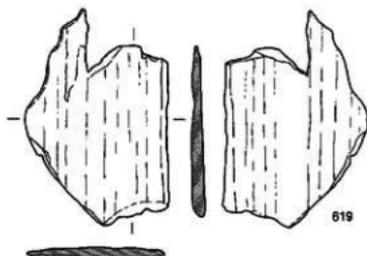




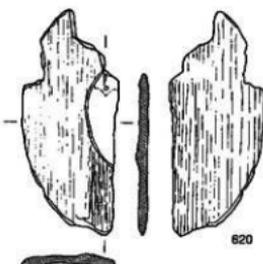
617



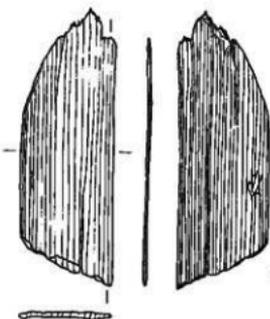
618



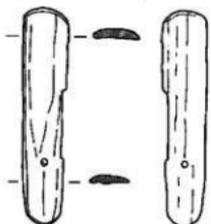
619



620



621



622

装身具 (扇子)

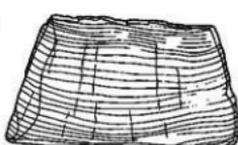
容器 3 (曲物)



623

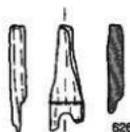


624

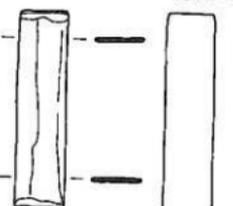


625

服物 (下駄)



626



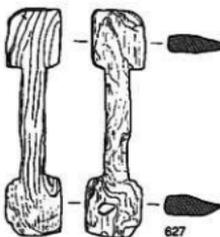
628



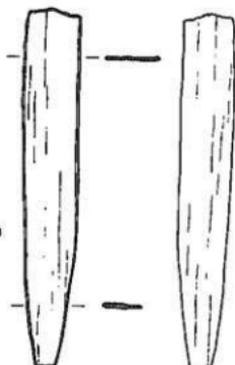
629

漆工具 (篋)

運搬具 (荷札)

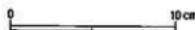


627

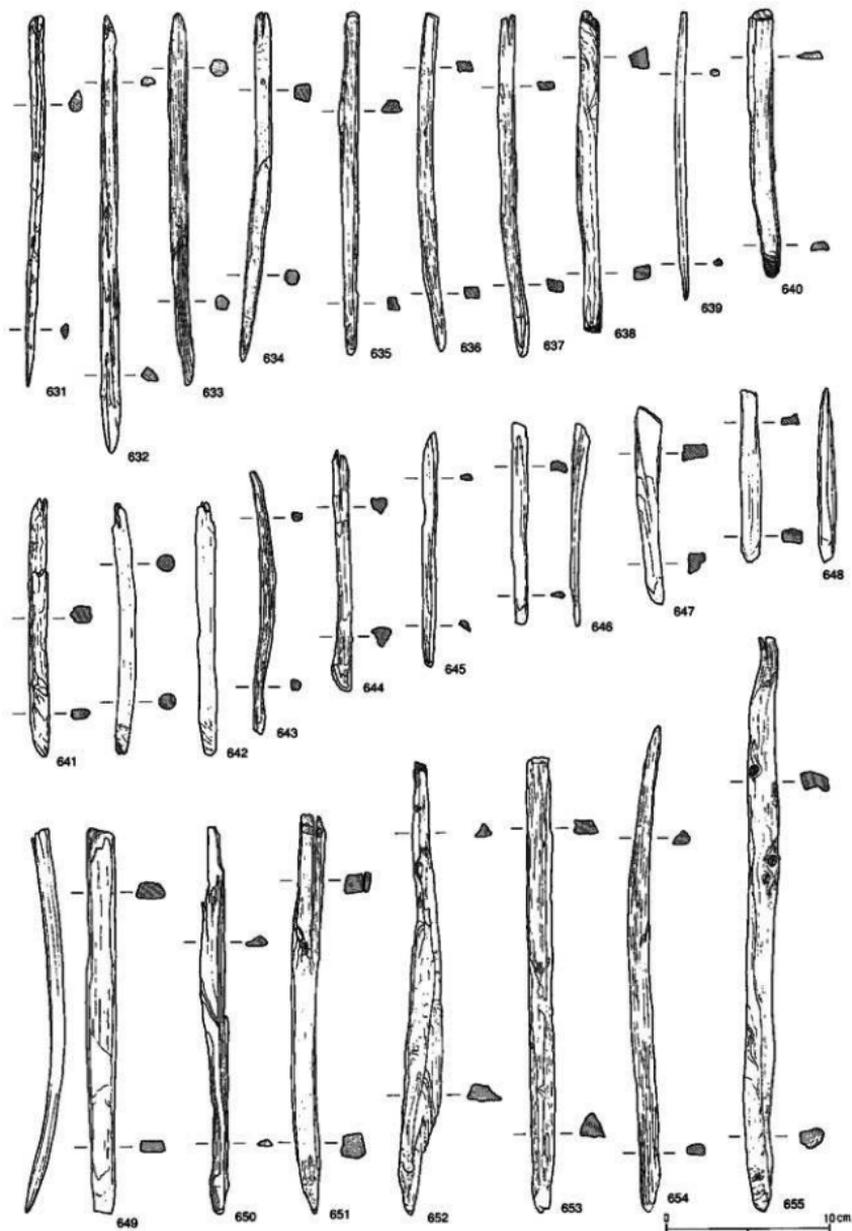


630

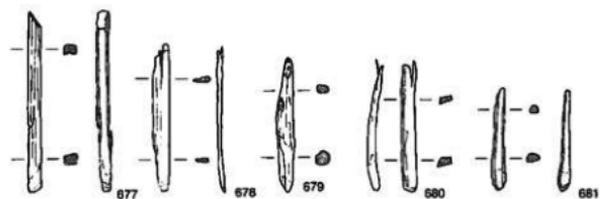
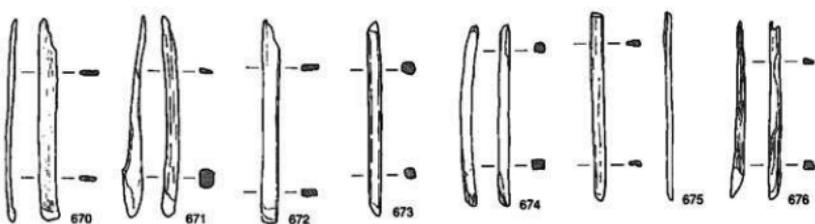
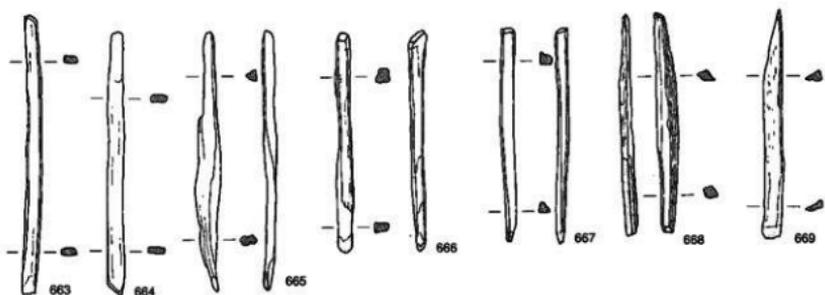
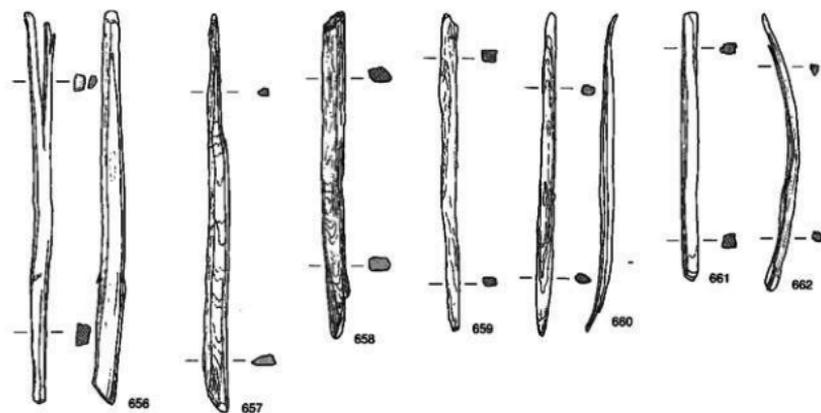
形代



織具 (織機部材)

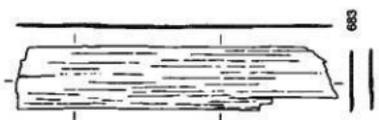
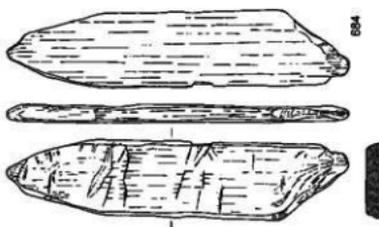
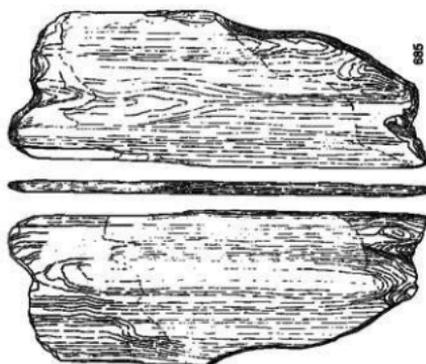


呪術具 1 (斎串)

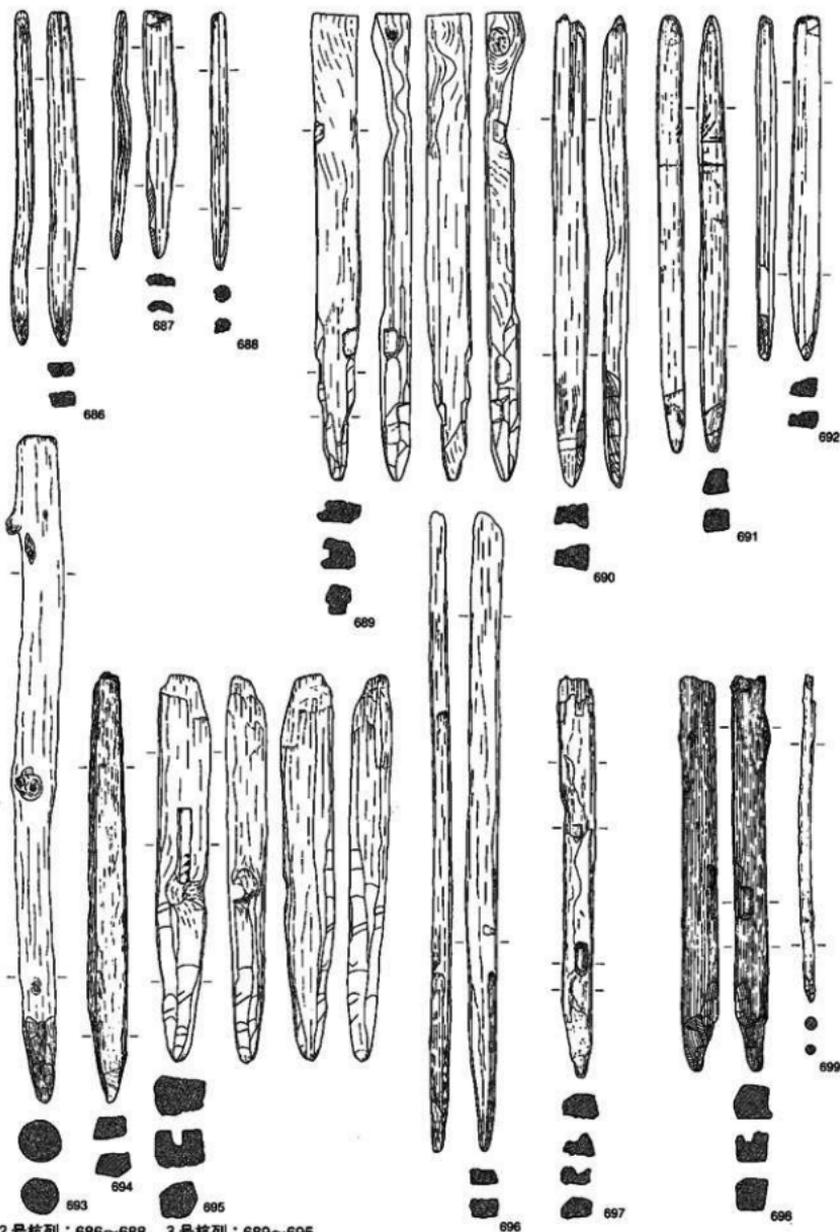


呪術具 2 (斎串)



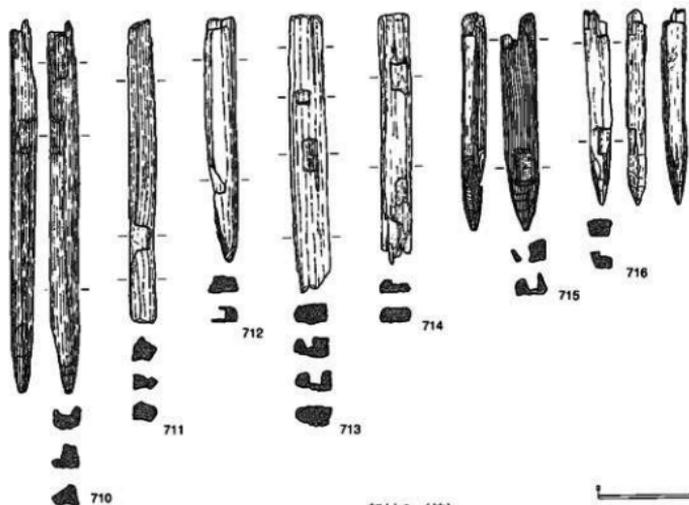
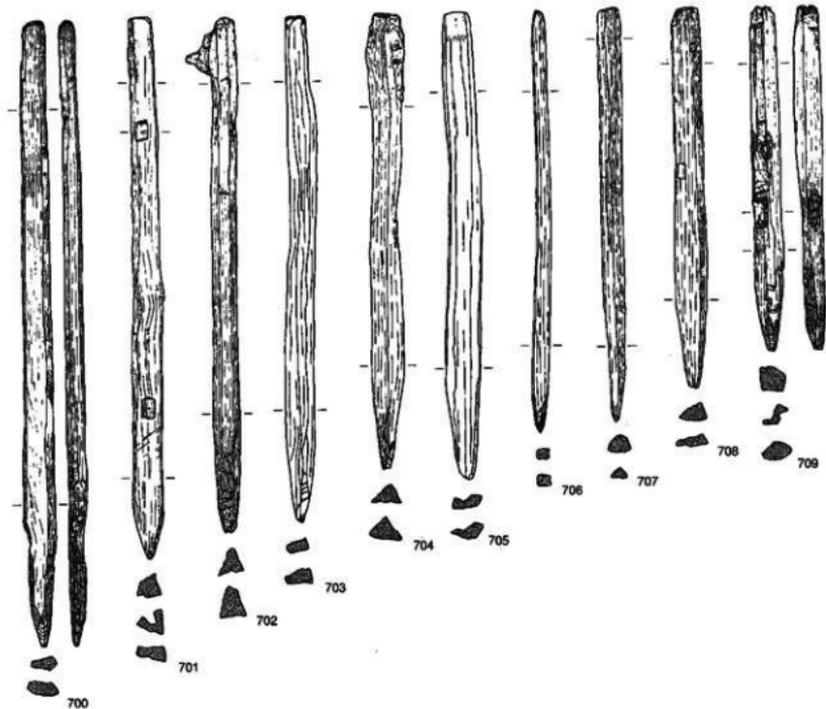


部材 1 (矢板)



2号杭列：686~688 3号杭列：689~695
 5号杭列：696 6号杭列：697 7号杭列：698、699

部材2 (杭)

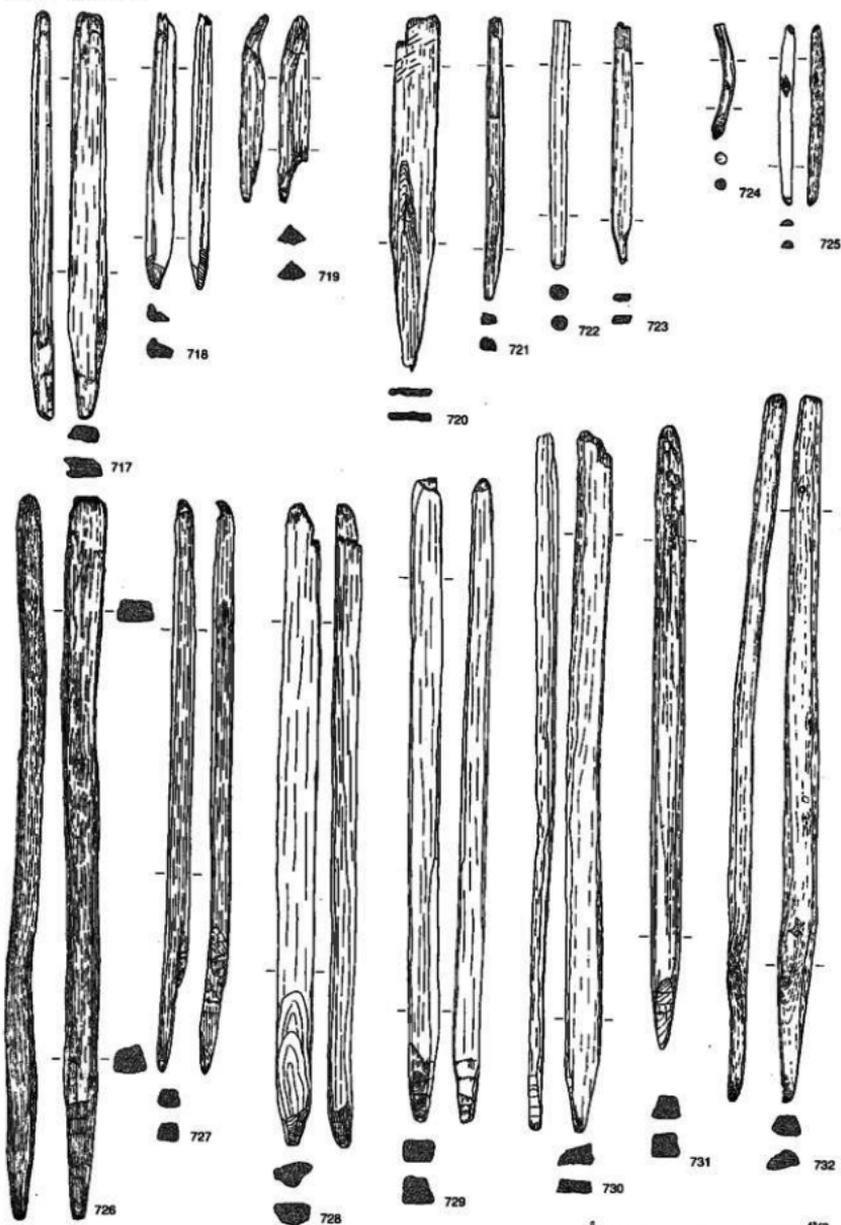


8号杭列：700～716

部材3 (枕)



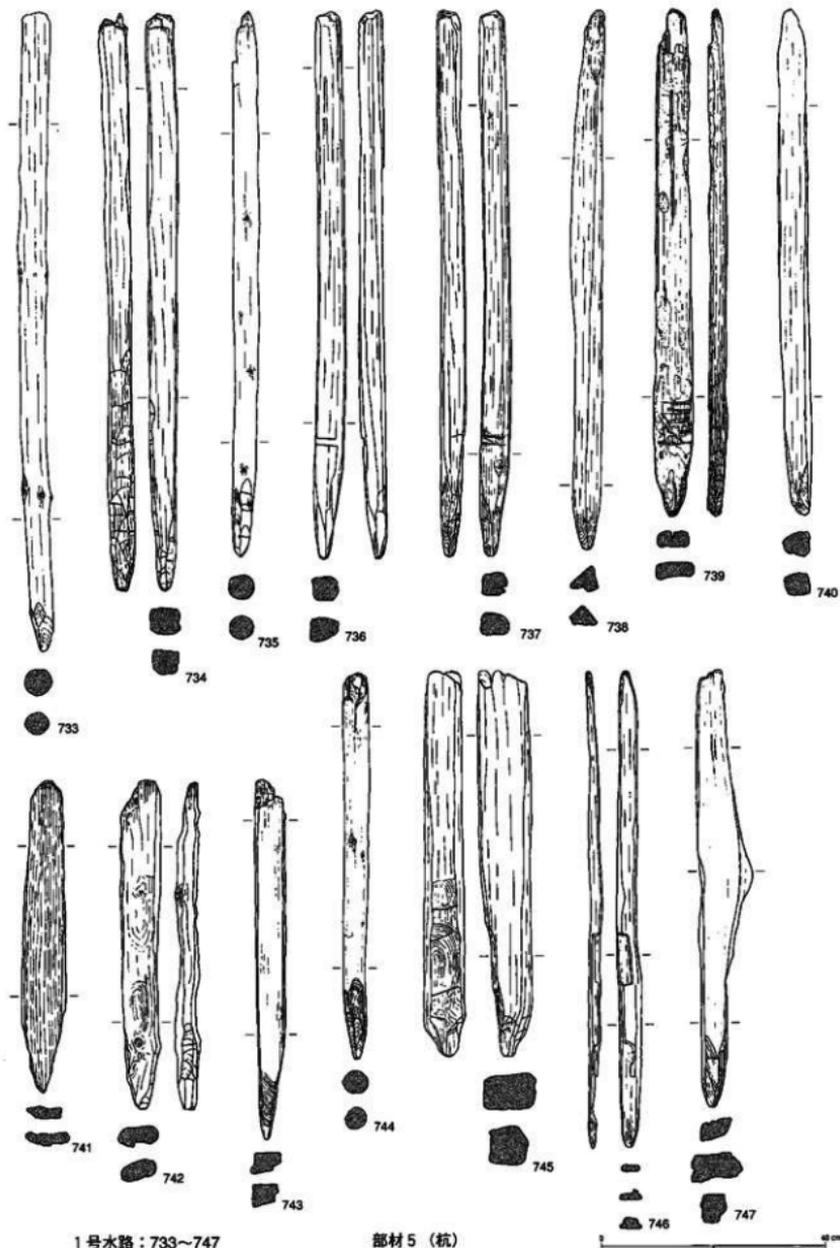
PL-78 木製品10

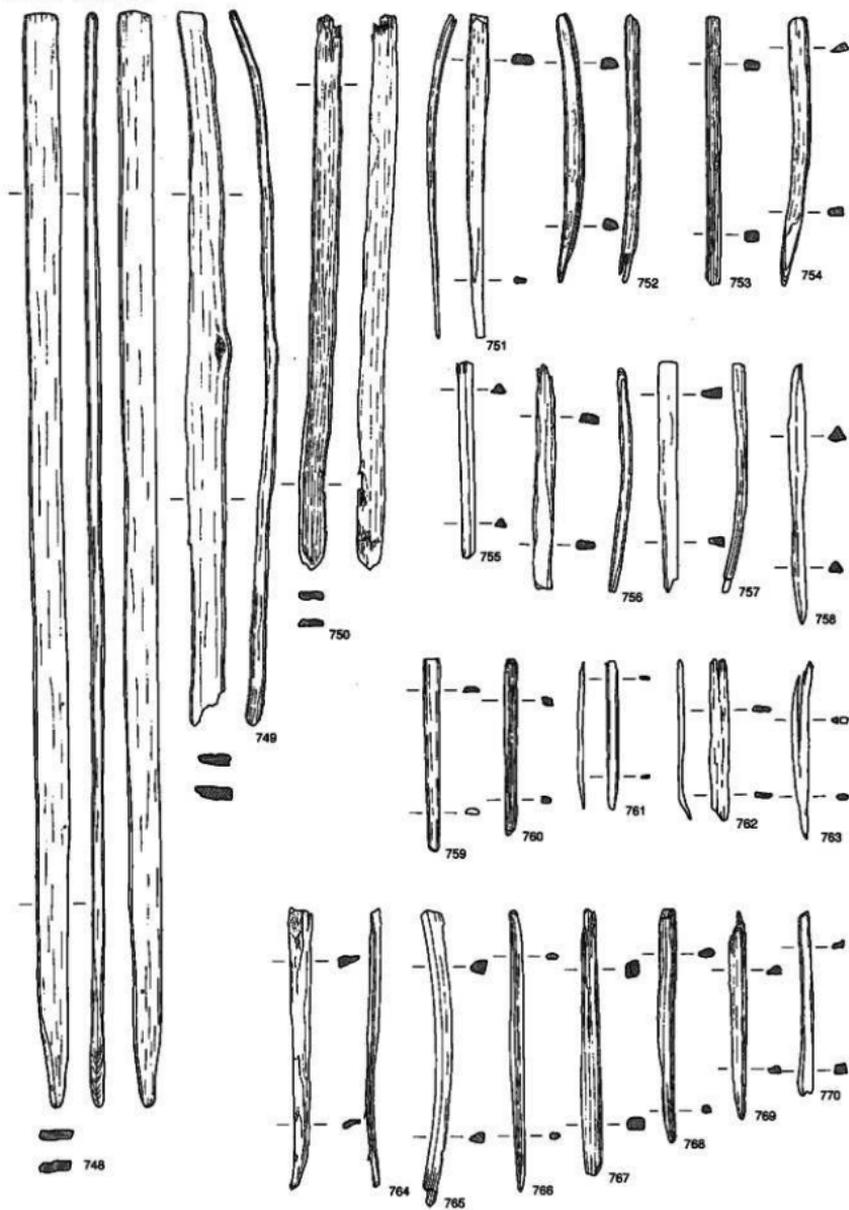


9号杭列：717～719
1号水路：724～732

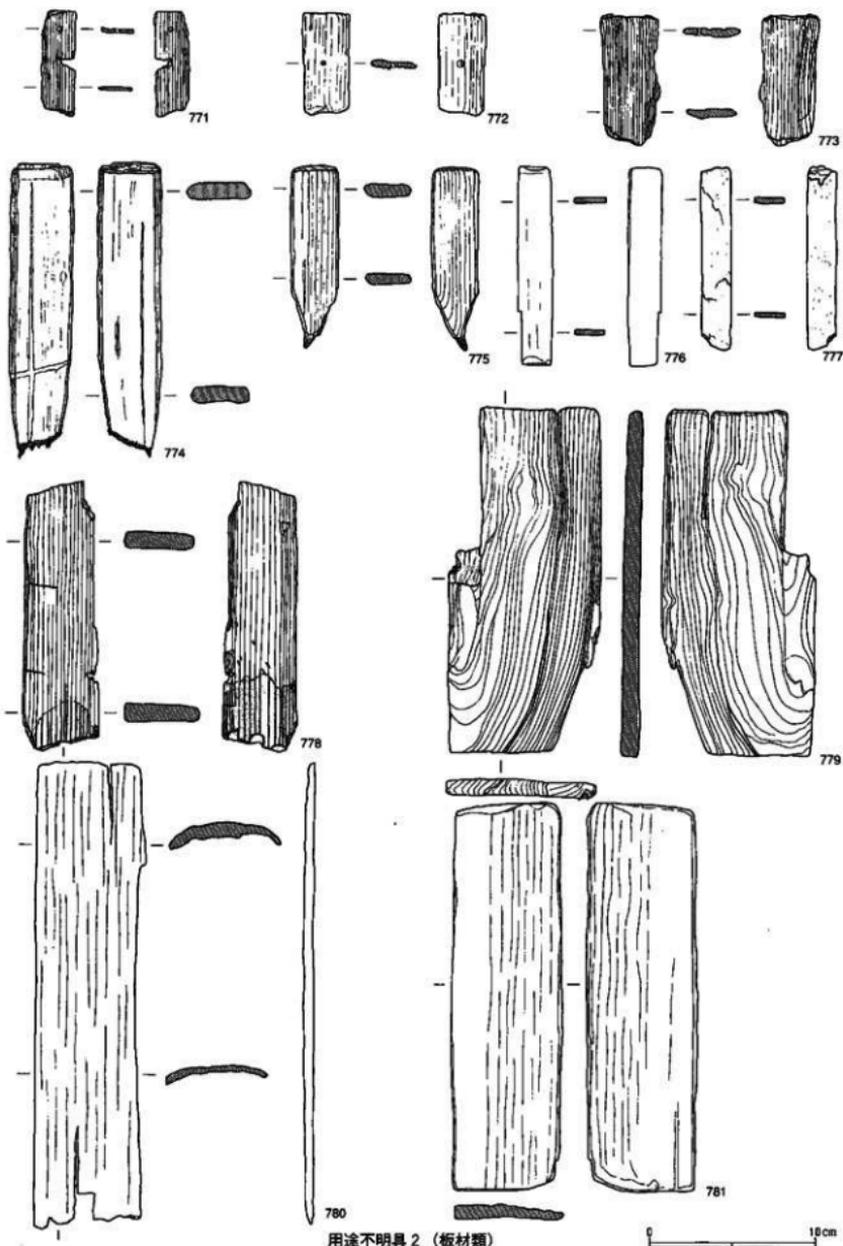
10号杭列：720～723

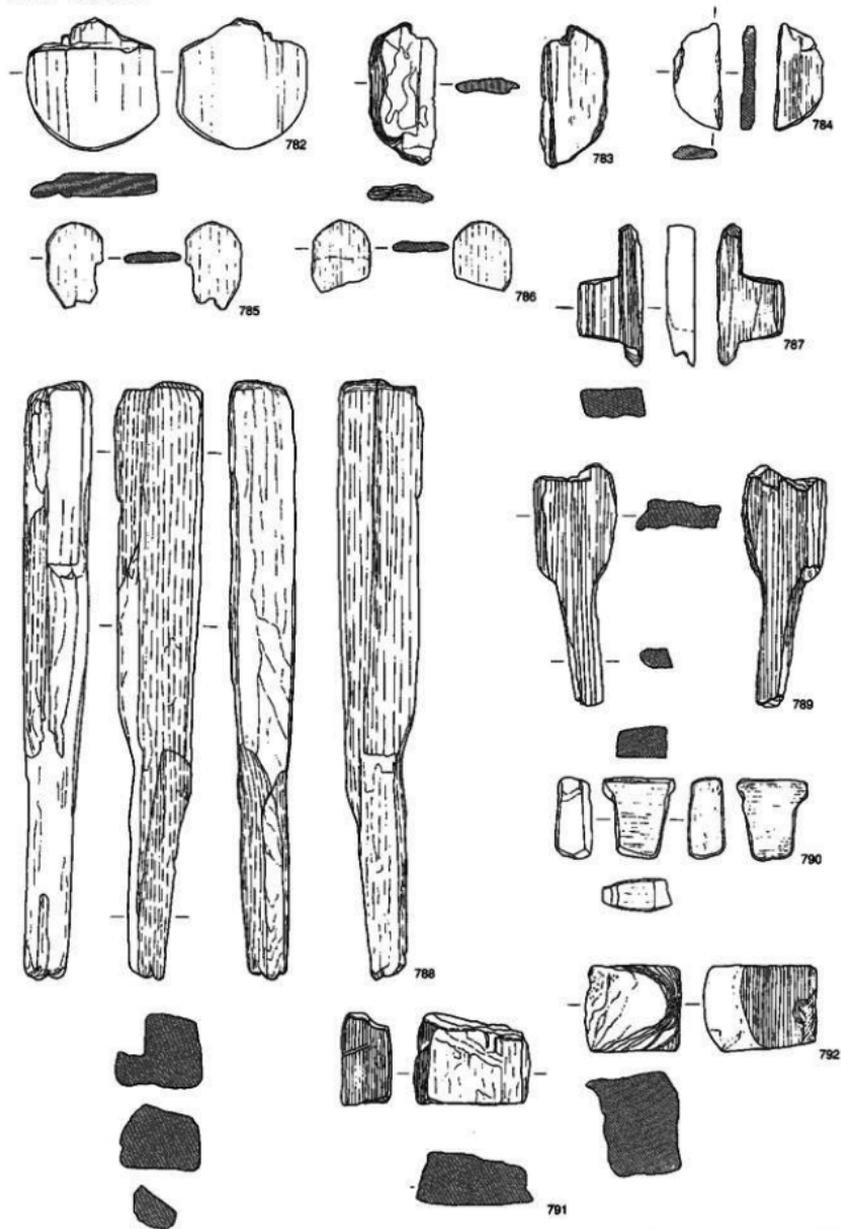
部材4 (杭)





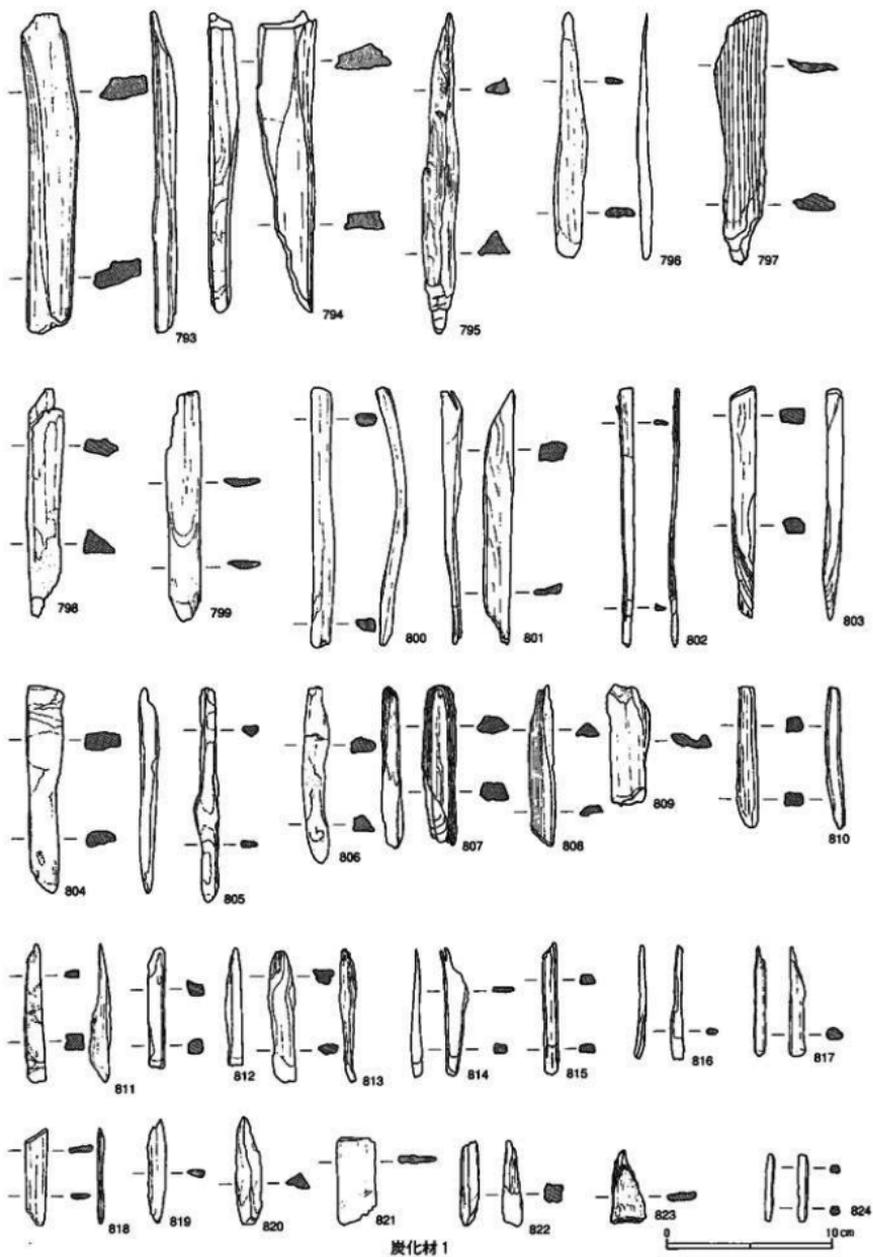
用途不明具 1 (棒状類)

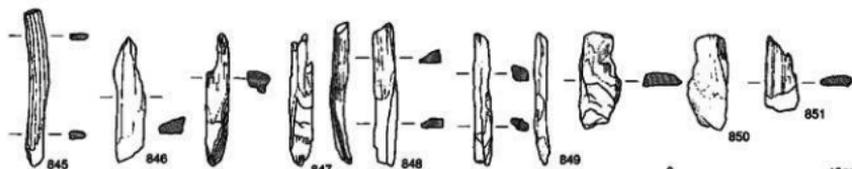
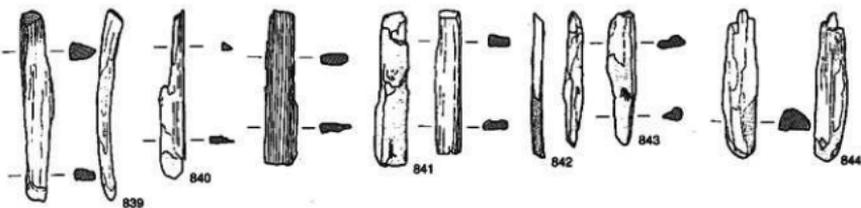
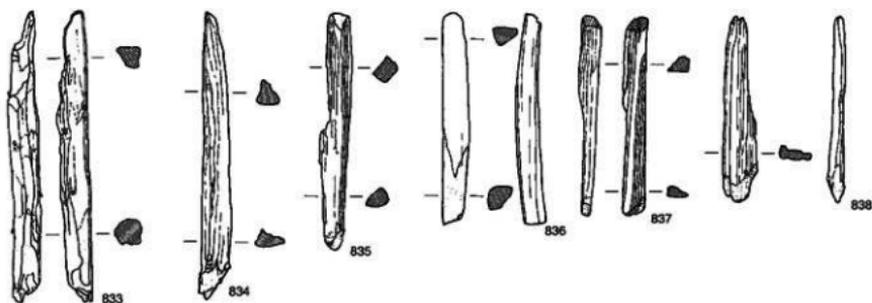
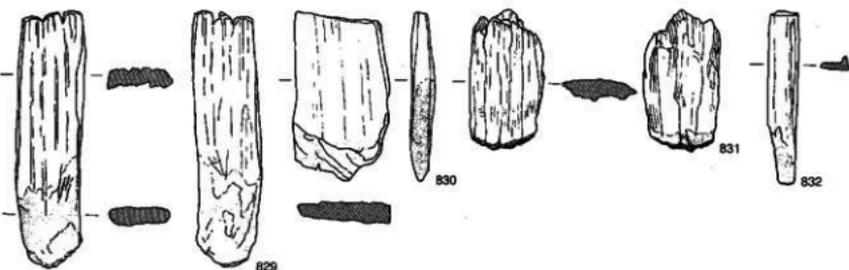
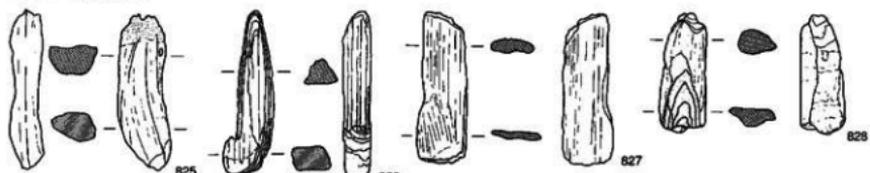




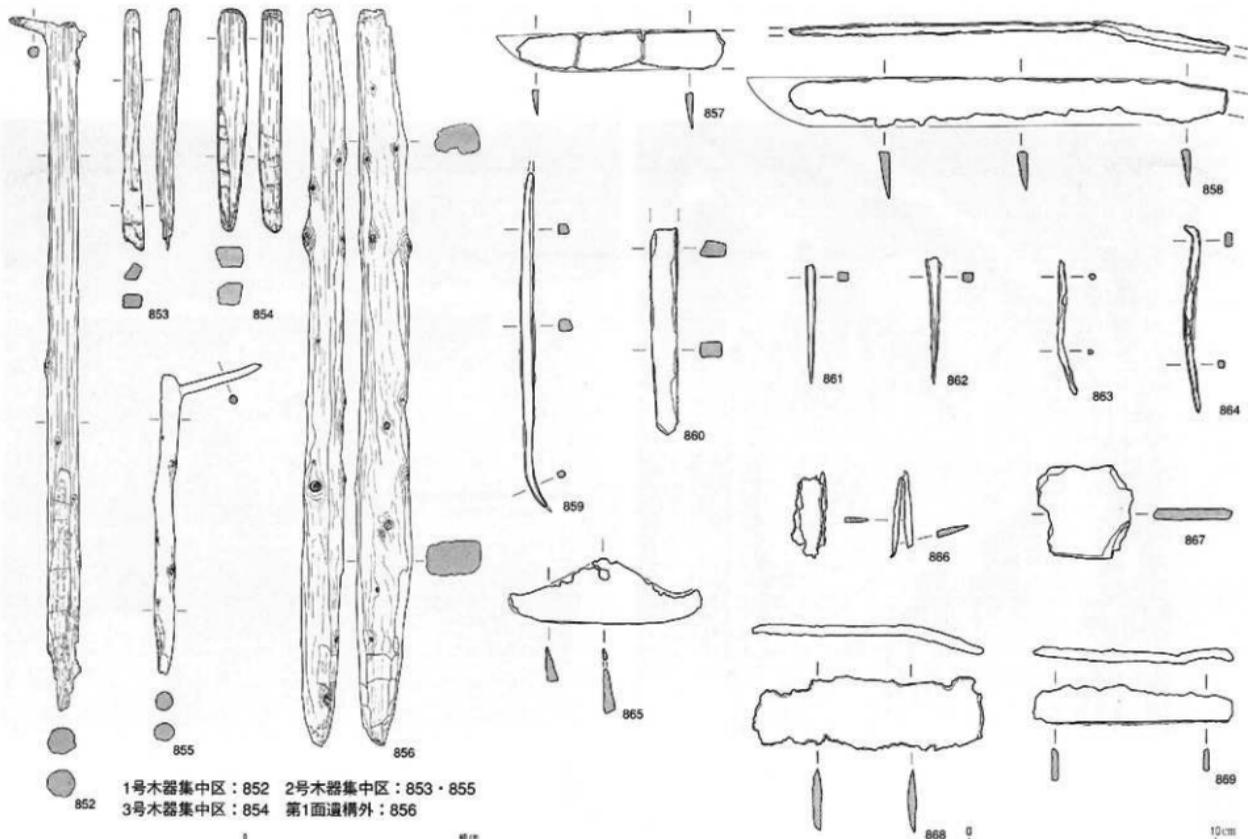
用途不明具3 (板材・角材類)

0 10 cm





炭化材 2



1号木器集中区: 852 2号木器集中区: 853・855
 3号木器集中区: 854 第1面遺構外: 856

部材6 (杭)

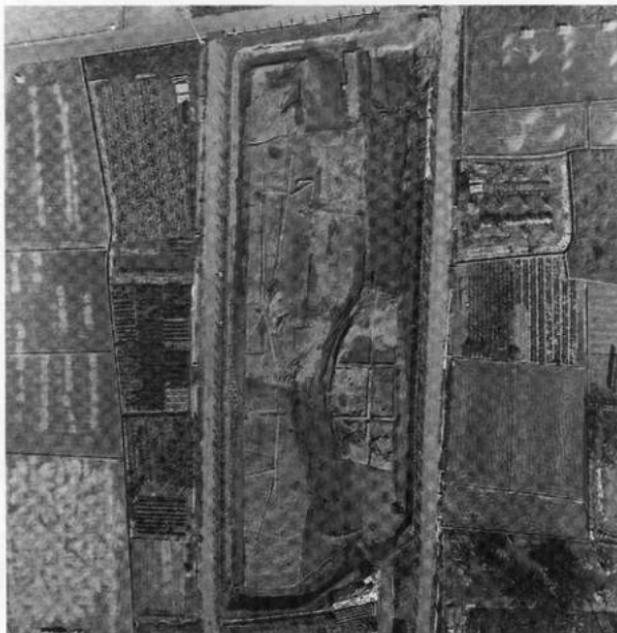
金属製品

PL-86 第1面 遺跡全景

1 遺跡全景
(南から)



2 同上
(上が北方向)





3 調査区東側(北から)



4 調査区西側(北から)



5 1号木器集中区(上面)(東から)



8 2号木器集中区(上面)(北から)



6 1号木器集中区(下面)(東から)



9 2号木器集中区(下面)(北から)



7 1号木器集中区出土漆塗椀



10 3号木器集中区(北から)

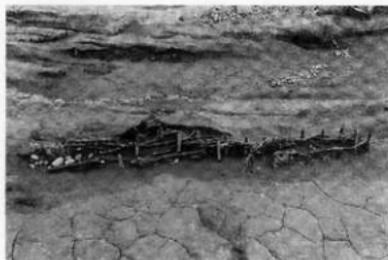
PL-88 第1面 検出遺構



11 SA01断面 (南東から)



12 SA02断面 (西から)



13 SA02断面 (西から)



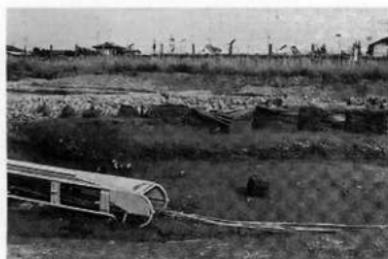
14 SA02断面 (西から)



15 SA02断面 (北から)



16 SA08断面 (東から)



17 SA10断面 (西から)



18 SA10断面 (西から)



19 SA11・12 (南東から)



20 SX01 (北東から)



21 SX01 (東から)



22 SX01 (東から)



23 SX01 (西から)



24 SX01 (北から)



25 SX01 (南から)



26 堤防状遺構 (南から)

PL-90 第1面 検出遺構



27 調査区中央部 埋没旧河道(北から)



28 調査区中央部 埋没旧河道(西から)



29 SD01 暗渠01-04-05(北から)



30 SD03-04 暗渠01-02-06(北から)



31 SD01 暗渠01



32 暗渠04断面(西から)



33 SD02-03(北から)



34 馬骨検出状況(W-84グリッド)



35 第1面 五輪塔(水輪)



36 第1面 土師質土器



37 第1面 陶器



38 第1面 柱状高台



39 第1面 漆塗椀



40 第1面 形代



41 第1面 獸骨



42 第3面 獸骨

43 遺跡全景
(南から)



44 同上
(上が北方向)





45 SK01 (南から)



46 SZ01



47 SZ01 (北西から)



48 SZ01 (南から)



49 SZ01北側墳丘断面 (西から)



51 SZ01葦石検出状況 (北から)



50 SZ01西側墳丘断面 (南から)



52 SZ01壺形埴輪出土状況



53 B地点壺形埴輪出土状況(北西から)



54 E地点壺形埴輪出土状況(南から)



55 SR01(東から)



56 SR03(東から)



57 SR03(東から)



58 SR03(西から)



59 SR03(東から)



60 SR04(北から)



3

SR01



5



6



7



8



9



10

SR03



12



13



15

SR04



16



19

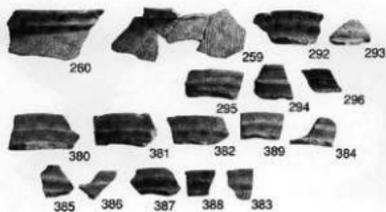


20



21

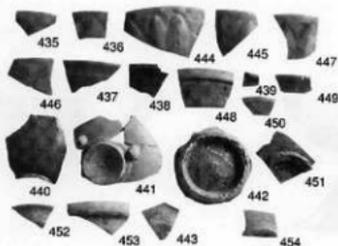
SZ01 壺形埴輪



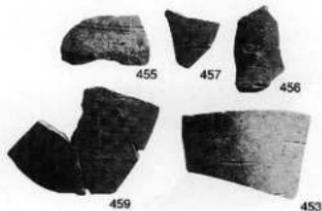
S字状口縁台付甕



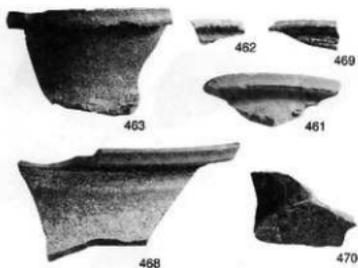
灰釉陶器



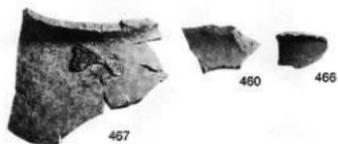
舶載陶磁器(青磁・白磁)



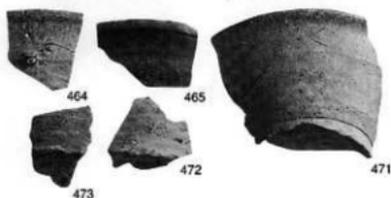
国産陶器(猿投)



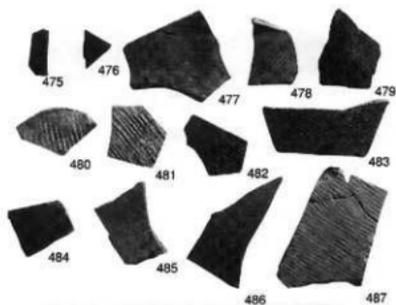
国産陶器 (常滑壺)



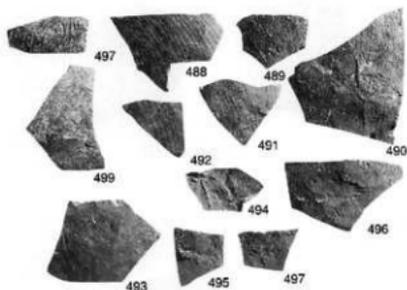
国産陶器 (常滑壺)



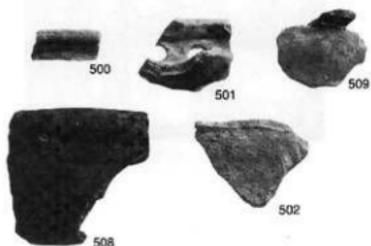
国産陶器 (常滑片口鉢)



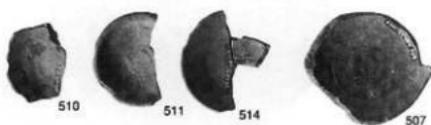
須恵器



国産陶器 (常滑壺)



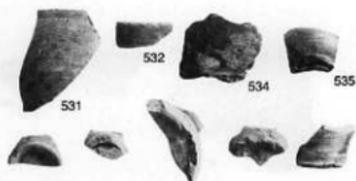
土師質土器 (土鍋類)



土師質土器 (かわらけ)



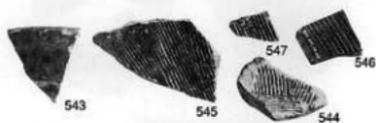
土師質土器 (柱状高台)



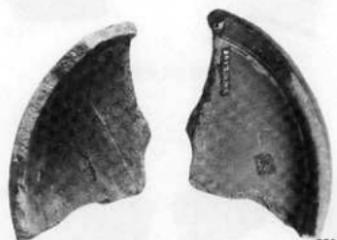
陶器 (碗類)



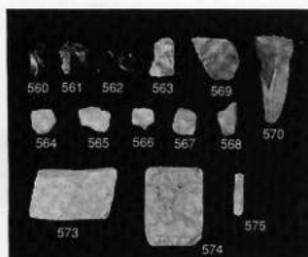
陶磁器 (碗類)



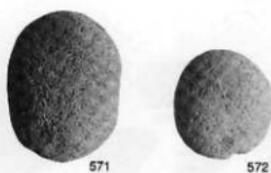
陶器 (搗鉢)



陶器 (火鉢)



石製品1 (小型石器他)



石製品2 (磨石)



石製品3 (五輪塔：水輪)



576-1 (下面)



576-2 (東面)



576-3 (西面)



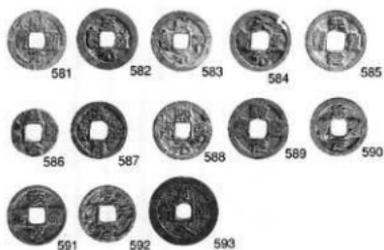
577

石製品4 (五輪塔：地輪)

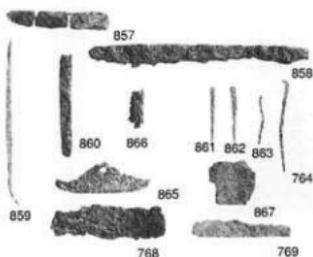


580

石製品5 (石臼)



錢貨



金屬製品



594

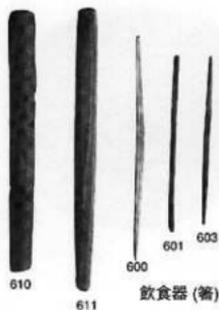


595

木製品 (漆椀・鉢)

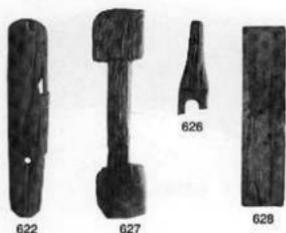


612



飲食器 (箸)

調理具 (搗粉木)



装身具 (扇子)

織具 (機織部材)

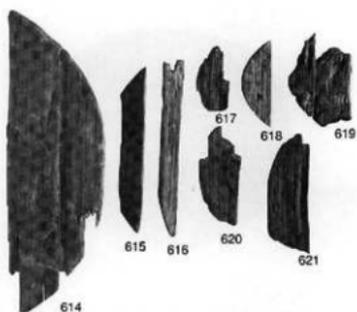
漆工具 (筵)



運搬具 (荷札)



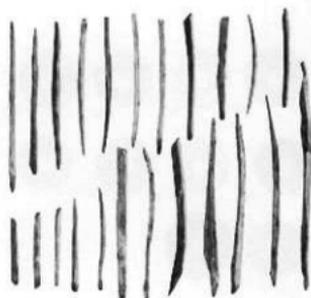
形代



容器 (曲物)



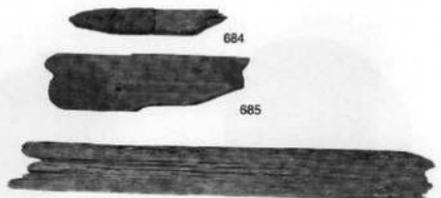
履物 (下駄)



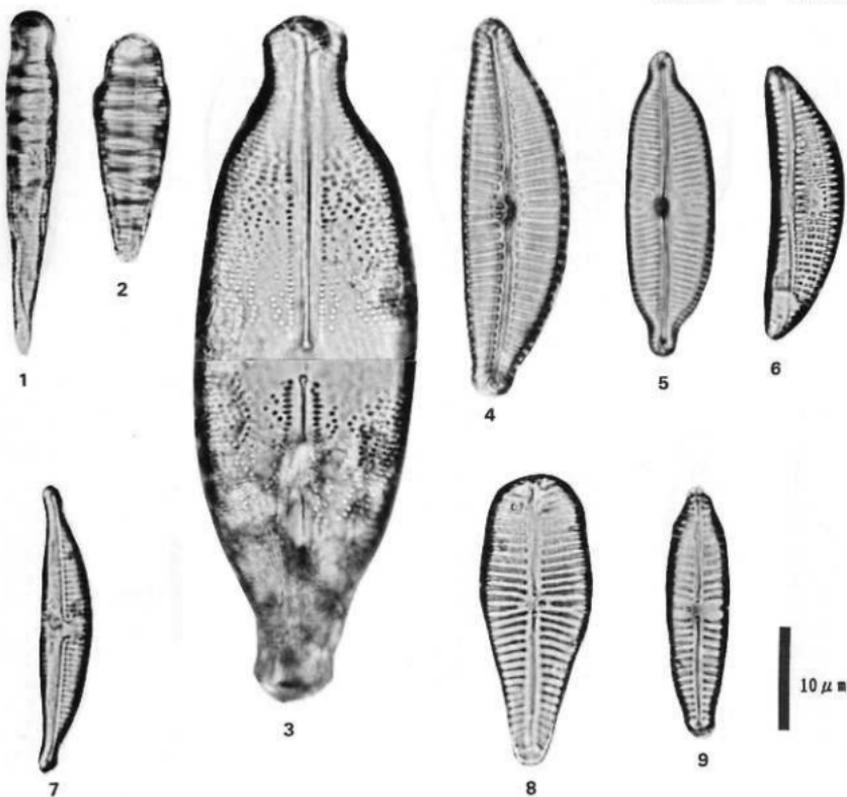
呪術具 (斎串)



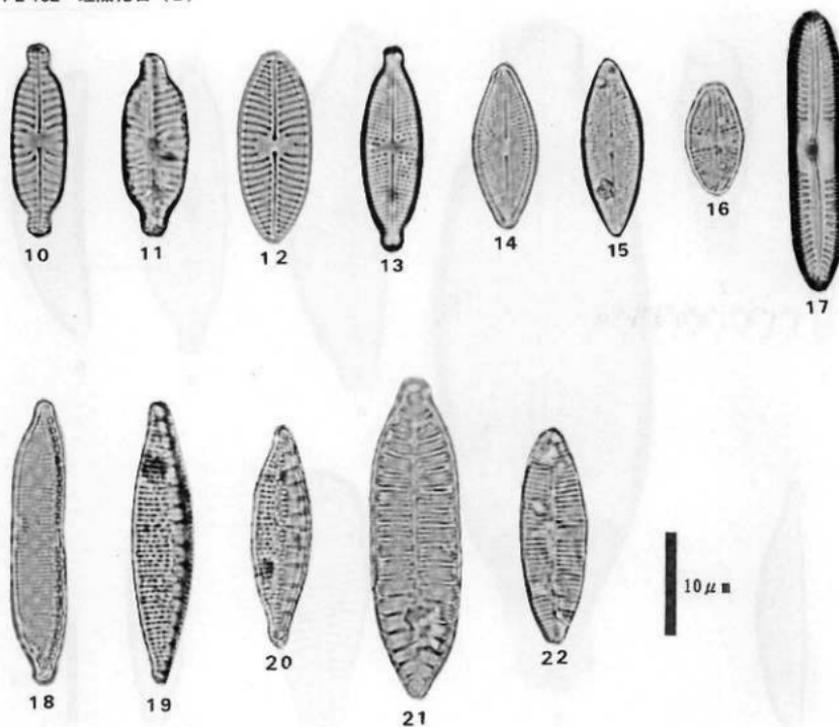
部材 (机)



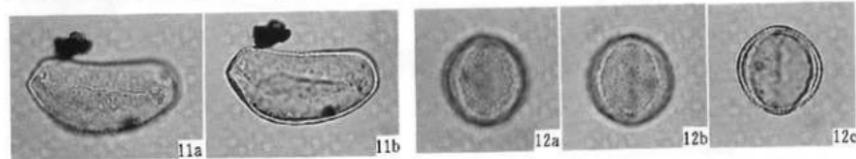
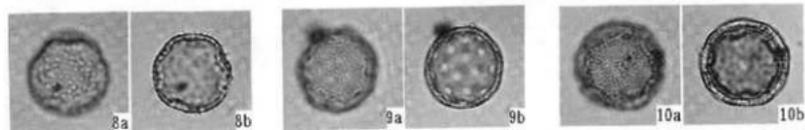
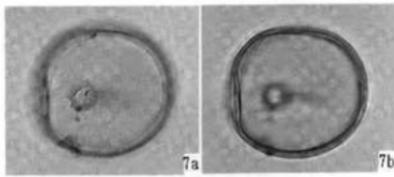
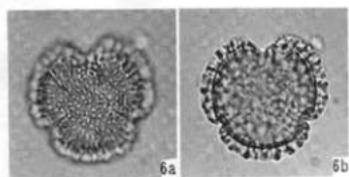
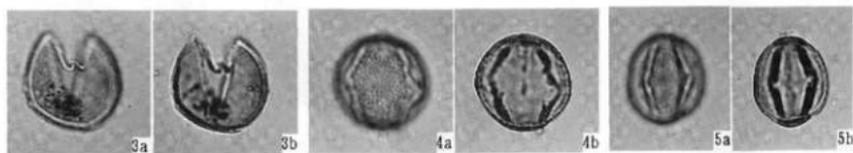
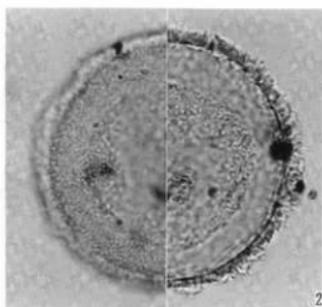
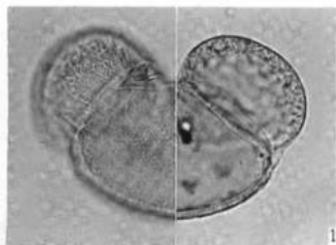
部材 (矢板)



1. *Meridion circularae* var. *constrictum* (Ralfs) V. Heurck (試料番号4)
2. *Meridion circularae* var. *constrictum* (Ralfs) V. Heurck (試料番号16)
3. *Anomoeoneis sphaerophora* (Kuetz.) Pfitzer (試料番号16)
4. *Cymbella turgidula* Grunow (試料番号3)
5. *Cymbella naviculiformis* Auerswald (試料番号17)
6. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) V. Heurck (試料番号2)
7. *Amphora normanii* Rabenhorst (試料番号17)
8. *Gomphonema tergestinum* (Grun.) Fricke (試料番号2)
9. *Gomphonema angustatum* (Kuetz.) Rabenhorst (試料番号1)



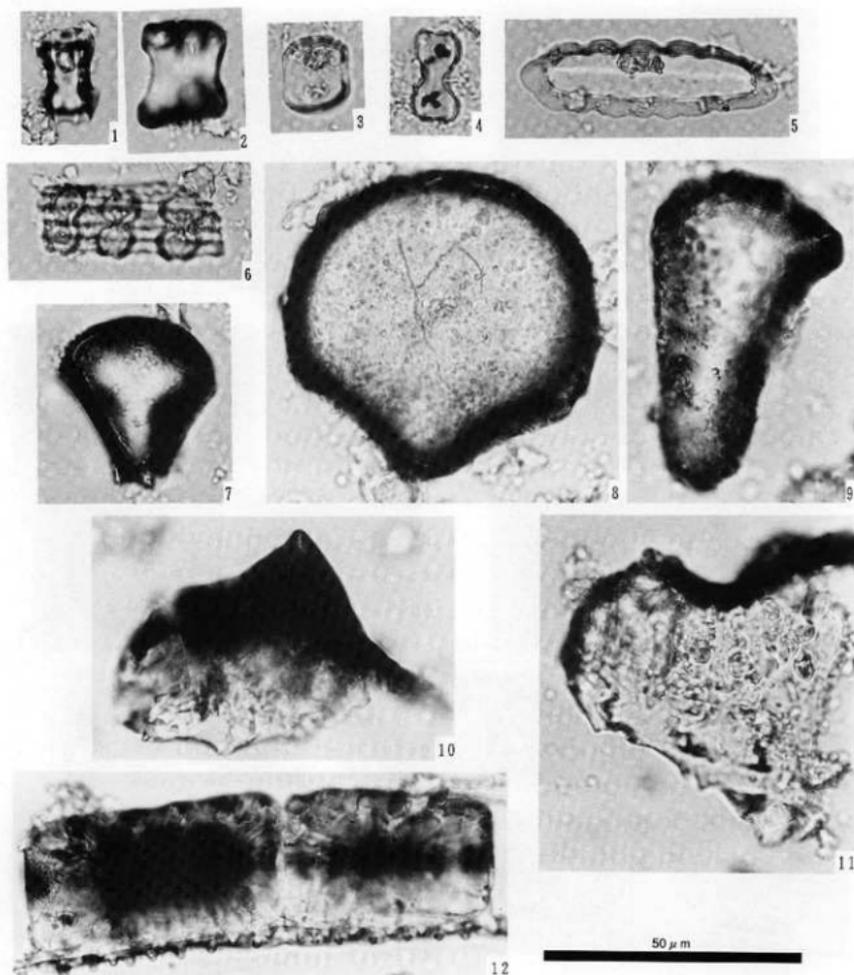
10. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (試料番号17)
 11. *Navicula elginensis* var. *neglecta* (Krass.) Patrick (試料番号14)
 12. *Navicula elginensis* var. *cuneata* H. Kobayasi (試料番号17)
 13. *Navicula kotschy* Grunow (試料番号14)
 14. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (試料番号2)
 15. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (試料番号1)
 16. *Navicula mutica* Kuetzing (試料番号1)
 17. *Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer (試料番号3)
 18. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (試料番号2)
 19. *Nitzschia sinuata* var. *delognei* (Grun) Lange-Bertalot (試料番号15)
 20. *Nitzschia sinuata* var. *delognei* (Grun) Lange-Bertalot (試料番号14)
 21. *Surirella zingusta* Kuetzing (試料番号17)
 22. *Achnanthes hungarica* Grunow (試料番号1)



50 μ m

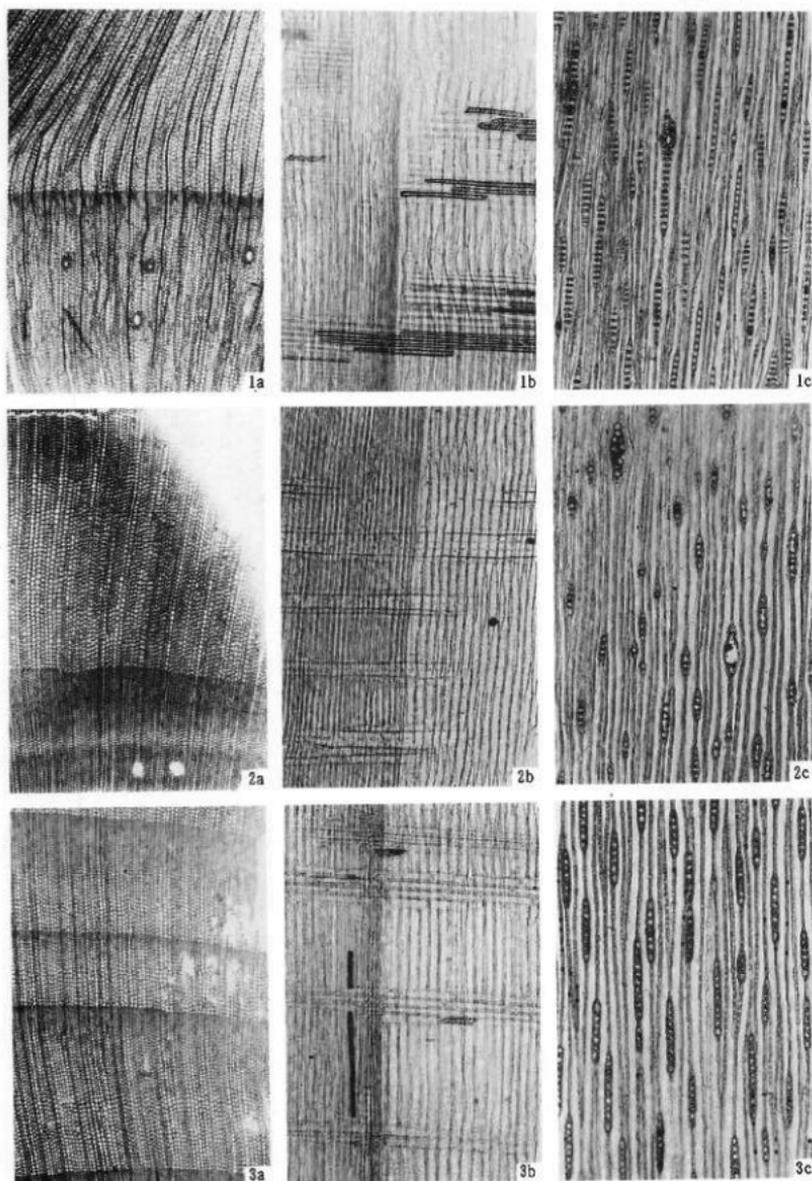
1. マツ属 (試料番号14)
3. スギ属 (試料番号14)
5. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号14)
7. イネ科 (試料番号14)
9. アカザ科 (試料番号14)
11. ミズアオイ属 (試料番号14)

2. ツガ属 (試料番号14)
4. コナラ属コナラ亜属 (試料番号14)
6. イボタノキ属 (試料番号14)
8. オモダカ属 (試料番号14)
10. ナデシコ科 (試料番号14)
12. キンボウゲ科 (試料番号14)



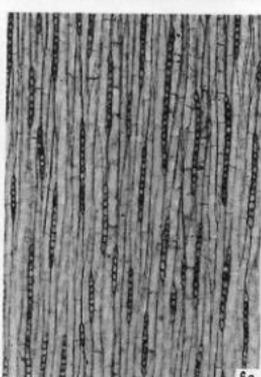
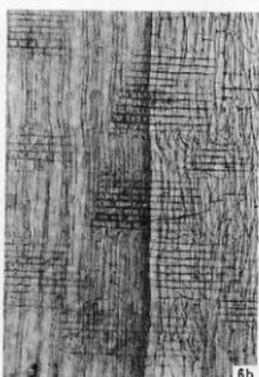
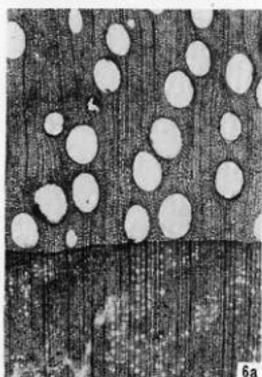
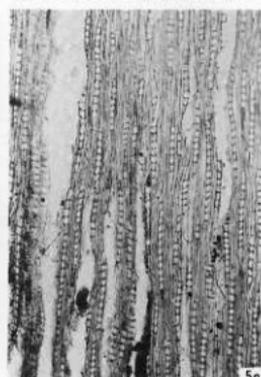
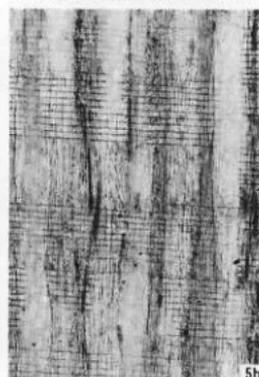
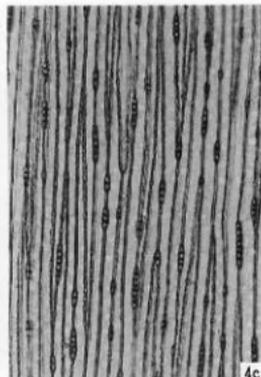
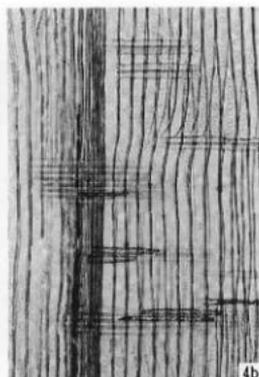
1. コブナグサ属短細胞珪酸体 (試料番号1)
3. ヨシ属短細胞珪酸体 (試料番号5)
5. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (試料番号1)
7. イネ属機動細胞珪酸体 (試料番号1)
9. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (試料番号5)
11. イネ属類珪酸体 (試料番号1)

2. タケ亜科短細胞珪酸体 (試料番号13)
4. ススキ属短細胞珪酸体 (試料番号5)
6. イネ属短細胞列 (試料番号1)
8. ヨシ属機動細胞珪酸体 (試料番号5)
10. イネ属類珪酸体 (試料番号13)
12. イネ属機動細胞 (試料番号13)



1.カラマツ (試料番号18)
 2.マツ属複雑管束亜属 (試料番号33)
 3.モミ属 (試料番号59)
 a : 木口, b : 柎目, c : 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b, c



4. ヒノキ属 (試料番号3)

5. ヤナギ属 (試料番号63)

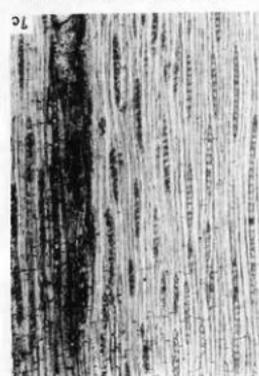
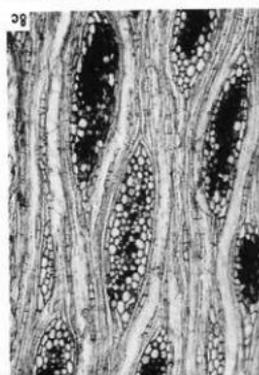
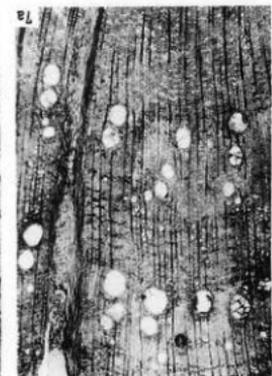
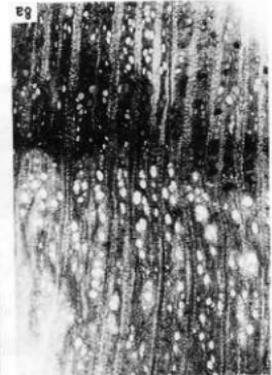
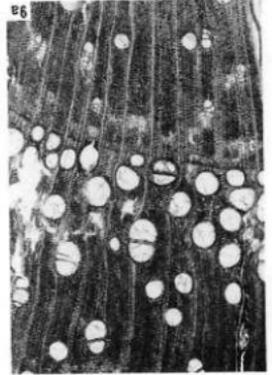
6. クリ (試料番号21)

a : 木口、b : 柎目、c : 板目

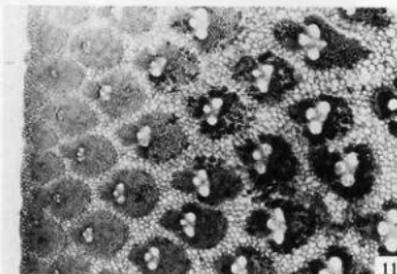
200 μ m : a

200 μ m : b, c

7. シイノキ属 (試料番号53)
8. ヌメ (試料番号39)
9. ヌルデ (試料番号51)
a: 木口, b: 柀目, c: 板目



200 μm: a
200 μm: b, c

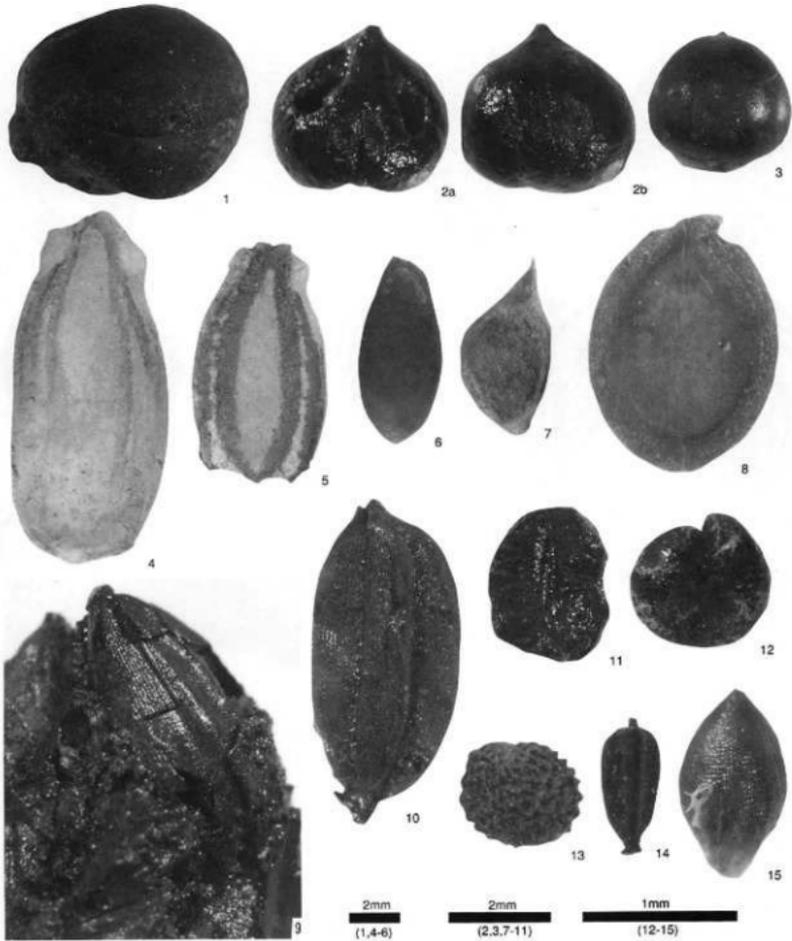


10.ニワトコ (試料番号34)

11.イネ科タケ亜科 (試料番号54)

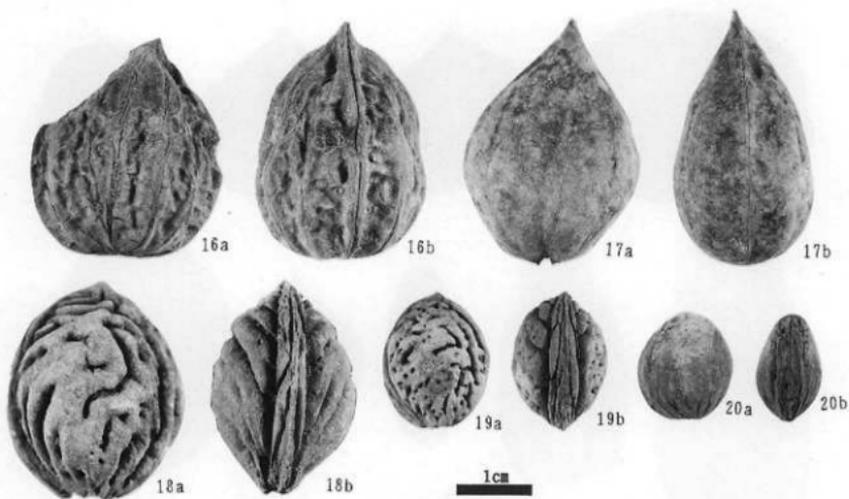
a : 木口、b : 柀目、c : 板目、11 : 横断面

200 μ m : a, 11
200 μ m : b, c



1. トチノキ幼果 (Z-87; 28層)
3. 不明種子B (W-91; 13層)
5. ヒョウタン類種子 (W-86; 15層)
7. ヒルムシロ属果実 (W-85; 13層)
9. イネ類 (炭化)
11. イボクサ種子 (W-89; 15層)
13. ナデシコ科種子 (W-85; 13層)
15. タデ科果実 (W-91; 13層)

2. ノブドウ種子 (W-91; 13層)
4. ヒョウタン類種子 (W-91; 13層)
6. メロン類種子 (W-91; 13層)
8. スズメウリ近似種種子 (W-91; 13層)
10. イネ類 (2MSK; 0層)
12. アカザ科-ヒス科種子 (W-85; 13層)
14. カヤツリグサ科果実 (W-85; 13層)



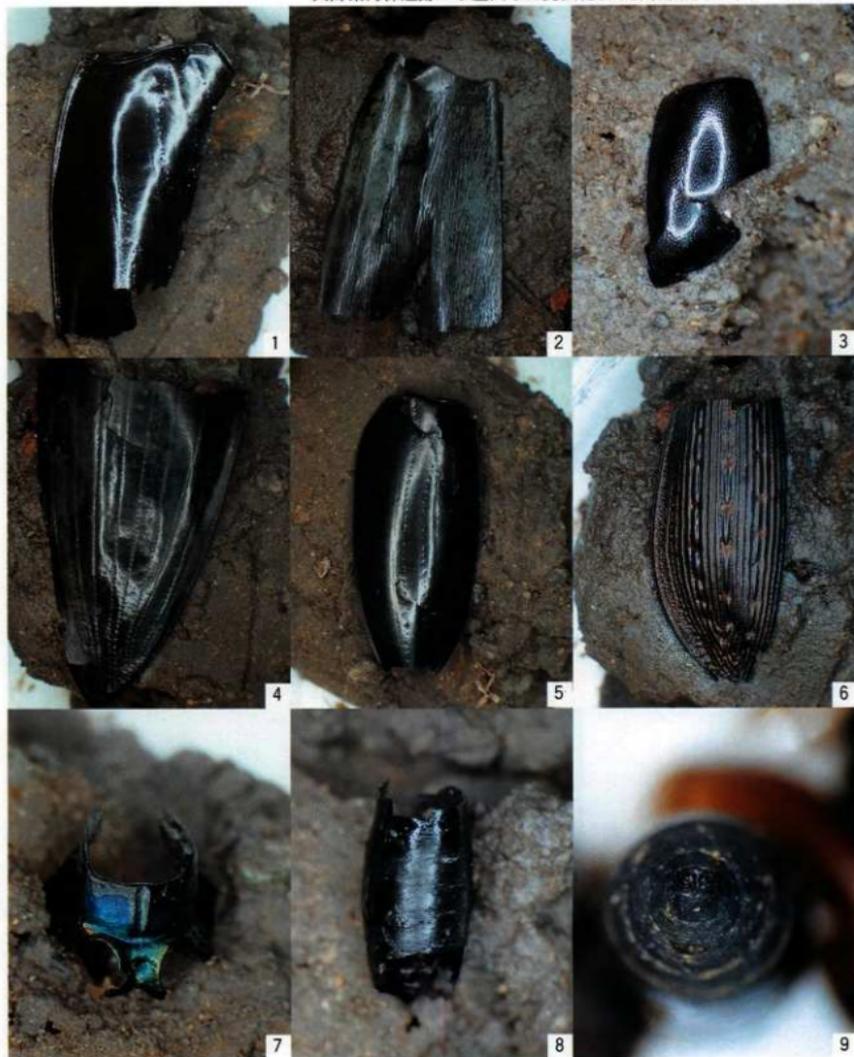
16.オニグルミ核 (W-91; 13層)

18.モモ核 (Y-86; 13層)

20.スモモ核 (W-86; 13層)

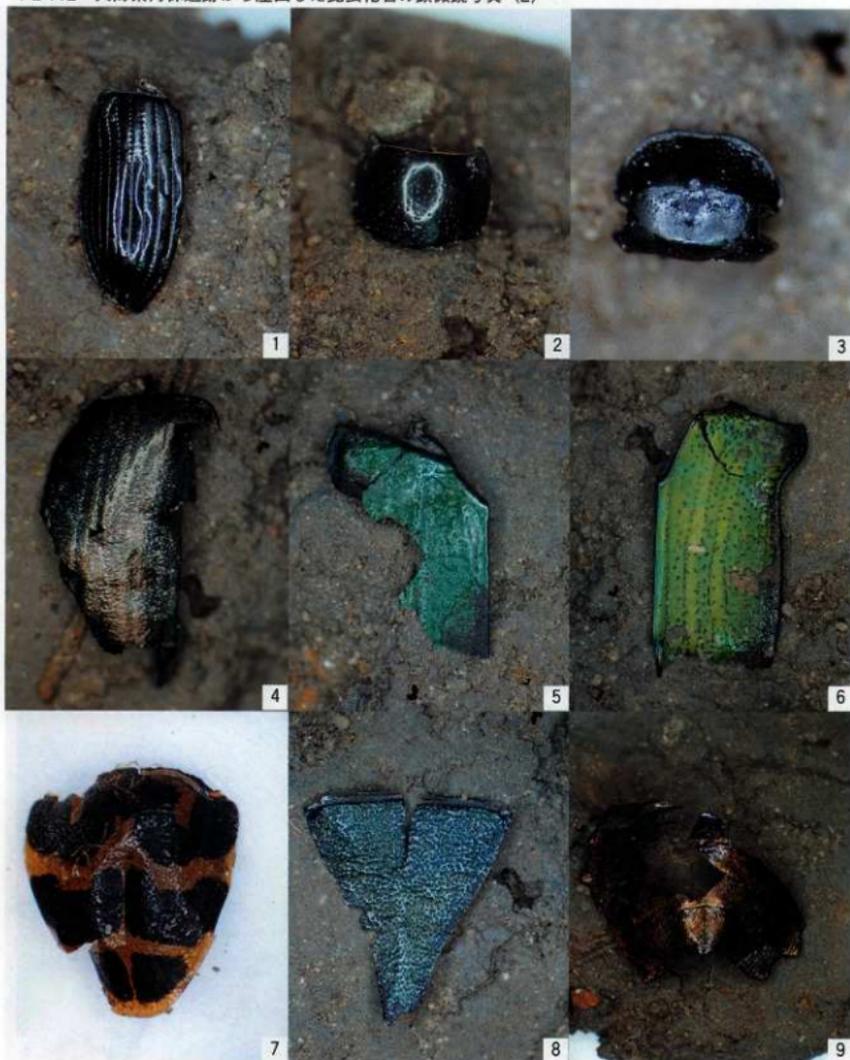
17.ヒメグルミ核 (V-91; 13層)

19.モモ核 (X-86; 17層)



1. ガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky
 左上翅上半部 長さ12.5mm (試料1; 弥生中期)
3. セマルガムシ *Coelostoma orbiculare* (Fabricius)
 右上翅 長さ3.0mm (試料1; 弥生中期)
5. コガムシ *Hydrochara libera* (Sharp)
 左上翅 長さ14.0mm (試料1; 弥生中期)
7. ハンミョウ *Cicindela chinensis japonica* Thunberg
 前胸腹板 最大幅4.2mm (試料2; 中世)
9. イエバエ科 *Muscidae*
 圓蛹 (後气门) 最大幅2.5mm (試料3; 中世土坑)

2. ゲンゴロウ *Cybister japonicus* Sharp
 上翅片 長さ12.5mm (試料2; 中世)
4. ガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky
 右上翅下半部 長さ18.0mm (試料2; 中世)
6. ホソアカガネオサムシ *Carabus vanvolxemi* Putzeys
 左上翅 長さ13.0mm (試料1; 弥生中期)
8. クロバエ科 *Calliphoridae*
 圓蛹 長さ4.7mm (試料3; 中世土坑)



1. マグソコガネ *Aphodius rectus* Motschlsky

左上翅 長さ3.6mm (試料3; 中世土坑)

3. マグソコガネ属 *Aphodius* sp

頭部 最大幅1.3mm (試料3; 中世土坑)

5. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschlsky

右上翅 長さ6.1mm (試料2; 中世)

7. アカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi* Distant

小楯板 長さ13.5mm (試料1; 弥生中期)

9. カメムシ目 Hemiptera

腹部腹板 最大幅11.0mm (試料1; 弥生中期)

2. マグソコガネ *Aphodius rectus* Motschlsky

前胸背板 最大幅2.6mm (試料3; 中世土坑)

4. ドウガネブイブイ *Anomara cuprea* Hope

右上翅片 長さ8.0mm (試料2; 中世)

6. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* Faldermann

右上翅 長さ8.2mm (試料1; 弥生中期)

8. ツノアオカメムシ *Pentatoma japonica* Distant

小楯板 長さ13.5mm (試料1; 弥生中期)

報告書概要

フリガナ	ダイシヒガシタンボイセキ		
書名	大師東丹保遺跡Ⅳ区		
副題	国道52号改築・中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第133集		
著者名	保坂和博		
発行者	山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公園東京第二建設局		
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター		
住所・電話	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL055-266-3881		
印刷所	株式会社映南堂印刷所		
印刷日・発行日	平成9年3月21日・平成9年3月28日		
大 師 東 丹 保 遺 跡 Ⅳ 区	所在地		山梨県中巨摩郡甲西町清水字川原田227-1他
	25,000分の1地名・位置・標高	小笠原	小笠原 北緯35° 35' 09" 東経138° 29' 41" 標高245m
概 要	主な時代	弥生時代、古墳時代、鎌倉時代、明治時代	
	主な遺構	古墳時代前期末葉の古墳、鎌倉時代の水田跡・水路・溝状遺構・枕列、明治時代の暗渠	
	主な遺物	弥生時代の土器・動植物遺存体、古墳時代の土器・動植物遺存体、鎌倉時代の土器・中国製磁器・木製品・動植物遺存体	
	特殊遺物	古墳時代前期末葉の壘形埴輪、鎌倉時代の木簡	
	特殊遺構	なし	
調査期間	平成6年5月11日～12月27日		

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第133集

1997年3月21日 印刷

1997年3月28日 発行

大師東丹保遺跡Ⅳ区

編集 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根293
TEL 055-266-3016

発行 山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局

印刷所 株式会社峽南堂印刷所

